

「楽塾」報告書 '10

2010 Class Observation of 'Rakujuku'
(Joyful Cram School)

「楽塾」編集委員会 / 西成プラザ 編

Rakujuku Editorial Committee and Nishinari Plaza, edited,

あそびを学び まなびを遊ぶ 新しい学校の冒険

楽塾 '10 授業参観



楽塾

あそびを学び
まなびを遊ぶ
新しい学校の冒険



「楽塾」報告書'10 の刊行にあたって

URP のレポートシリーズとして、変則的ではあるが、2009 年度分が第 10 号として、2008 年度分が第 12 号として刊行されたが、本 15 号は、2010 年度分の楽塾活動を紹介したものである。

再度になるが、12 号の冒頭でも述べられていることであるが、西成区にある楽塾は、都市研究プラザの最大の売りである現場プラザである西成プラザを構成する一大拠点である。この楽塾には数多くの若手研究者が参画し、まさしく現場との往還をスリリングに行える社会実験道場としての役割を果たしてきてくれた。

2010 年度も数多くの都市研究プラザの関係者が、授業や企画に参画することになった。授業提供者同士の広がりも新たなネットワークづくりに資するという相乗効果も生まれている。その観点から、研究者の枠内にとどまりがちな若手研究者のフィールドや人的ネットワークの広がりを生み出す楽塾には、感謝しなくてはならない。

さまざまな包摂型の社会の仕組づくりがこの 1, 2 年で急速に進み始めた。来年度はパーソナルサポート事業も楽塾との関係を有し始め、場所も西成区からさらに地理的に広がる楽塾の企画が行われると聞いている。今後の展開に、都市研究プラザも包摂型社会の仕組づくりという観点から、実践面で協力していく所存である。

このレポートは、平成 22 年度科学研究費（新学術領域課題提案型）「ITACO による新しい地誌学の創生と地域の人縁生成に関する試行研究」を使用し、編集、出版されたものである。

2011 年 3 月

都市研究プラザ 水内俊雄

楽塾のあゆみ '10

| 回数 | 月間テーマ | 日時 | 講師 | 所属 | タイトル | 学友 | 学友 |
|----------|---------------------|----------|--------------------|------------------------------|------------------------------------|----|----|
| 10年度第1回 | 仕事って一体何なの | 4月3日 | 堀江 尚子 | 大阪市立大学都市研究プラザ | 自分の考え方の癖を知ろう - 交流分析を使って - | 9 | 3 |
| 10年度第2回 | | 4月10日 | 野本 哲平 | ホテルプラザ神戸 シニア・ディレクター | ホテルマンになる | 11 | 10 |
| 10年度第3回 | | 4月17日 | 佐々木 妙月 | 情報の輪サービス株式会社代表 僧侶 | 私にできること！私ができること！ 私が見たいこと！ | 11 | 15 |
| 10年度第4回 | | 4月24日 | 高見 一夫 | ㈱ワーク21企画代表 Aワーク創造館館長 | わたしとしごと | 11 | 20 |
| 10年度第5回 | エンターテイメント 心を開放する | 5月1日 | 高市 里美 | ヘレンケラー財団 今池平和寮ソーシャルワーカー | 元気の旗を振って | 18 | 24 |
| 10年度第6回 | | 5月8日 | 加藤 信貴 | (株)美交工業部長 D.J. KATOH | サタデイ・ナイト・クラブ | 11 | 28 |
| 10年度第7回 | | 5月15日 | 熊谷 美香 | 大阪市立大学都市研究プラザ研究員 | 日本民謡へのいざない | 14 | 33 |
| 10年度第8回 | | 5月29日 | 稲田 七海 | 大阪市立大学都市研究プラザ研究員 | 旅-究極のエンターテインメント- | 11 | 39 |
| 10年度第9回 | アートをつくらしに | 6月5日 | 佐々木 敏明 | 塾長 | 存在証明 - 君のロゴタイプ・マーク・ キャラクターを作る - | 11 | 43 |
| 10年度第10回 | | 6月12～13日 | 南垣内 貞史 | 大柳生農場主 | 大柳生で田植え | 17 | 47 |
| 10年度第11回 | | 6月19日 | 小林 寛明 若松 司 | 西成製靴塾塾長 大阪市立大学都市研究プラザ研究員 | 私だけのベルトをつくる | 12 | 52 |
| 10年度第12回 | | 6月26日 | 田村 博文 | 工芸家 | 作家のスプリッツをもらう | 12 | 56 |
| 10年度第13回 | 自分とは何が違うのか 異文化とは | 7月3日 | ヒェラルド・コルナトゥスキ(ジェイ) | SI協会スタッフ 大阪市立大学都市研究プラザ研究員 | 僕のふるさとベルギーの炭鉱町 - 労働者住宅地区の変容 - | 13 | 60 |
| 10年度第14回 | | 7月10日 | 河村 武明 小牧 めぐみ | 表現画房たけ主宰 アシスタント | ありがとうプロジェクト | 12 | 64 |
| 10年度第15回 | | 7月17日 | 川崎 那恵 | 大学職員 | 喜怒哀楽の異文化交流体験記 | 12 | 69 |
| 10年度第16回 | | 7月24日 | 神崎 佐智代 | モントリオール大学東アジア研究所 研究員 | カナダからスカイプで授業 | 8 | 74 |
| 10年度第17回 | | 8月8日 | 南垣内 貞史 | 大柳生農場主 | 奈良大柳生で農作業 | 8 | 80 |

夏季休暇

| | | | | | | | |
|----------|----------|----------|----------------|--------------------------------|----------------------------------|-----|-----|
| 10年度第18回 | 基礎科目のお勉強 | 9月4日 | 山崎 安敦 | 近畿大学生 | 楽しく遊んで算数塾 | 9 | 83 |
| 10年度第19回 | | 9月11日 | 本田 真大 | 近畿大学生 | 理科もいろいろ、地学でいかが | 10 | 87 |
| 10年度第20回 | | 9月18日 | 大谷 浩子 | ライター | 日本語の迷路へようこそ - 怪しい "ことのは" 探検 - | 9 | 92 |
| 10年度第21回 | | 9月25日 | 和久 貴子 | NPOワークレッシュ 代表 | 言葉の遊び・オンパレード | 9 | 99 |
| 10年度第22回 | 皮を使って遊ぼう | 10月2日 | 小林 寛明 若松 司 | 西成製靴塾 アドバイザー | マイスリッパをつくる 1 | 11 | 104 |
| 10年度第23回 | | 10月9日 | 北村 貴之 | アシスタント | マイスリッパをつくる 2 | 11 | 107 |
| 10年度第24回 | | 10月10日 | 南垣内 貞史 | 大柳生農場主 | 大柳生大収穫祭 | 14 | 110 |
| 10年度第25回 | | 10月16日 | 小林 寛明 若松 司 | 西成製靴塾 アドバイザー | マイスリッパをつくる 3 | 11 | 113 |
| 10年度第26回 | 10月23日 | 北村 貴之 | アシスタント | マイスリッパをつくる 4 | 10 | 116 | |
| 10年度第27回 | 生老病死 | 11月6日 | 藤原 敦子 | 空手サークル長橋育友会 代表 | メタボ追放5 | 7 | 119 |
| 10年度第28回 | | 11月13日 | みゆきちちゃん | 調理師 | 天高く馬肥ゆる | 12 | 122 |
| 10年度第29回 | | 11月20日 | 岩山 春夫 柴田 剛 | 施術師・市立大学創造都市研究科 コミュニティハウス在住 | 身体のメンテナンス | 13 | 126 |
| 10年度第30回 | | 11月27日 | 弘田 洋二 | 大阪市立大学創造都市研究科教授 | こころのメンテナンス | 10 | 130 |
| 10年度第31回 | 貧しさと豊かさ | 12月4日 | 森口 誠 | わらしべ会 職員 生活園芸家 | わたしはこんなふう生きるVol. 1 | 10 | 136 |
| 10年度第32回 | | 12月11日 | 山口 明香 三島 宏之 | アーティスト・りぶらスタッフ 写真家 | わたしはこんなふう生きるVol. 2 | 11 | 141 |
| 10年度第33回 | | 12月18日 | 森田 智保 | りぶら店長 | わたしはこんなふう生きるVol. 3 | 9 | 146 |
| 10年度第34回 | | 12月25日 | 塾生・教官・楽塾応援団 | | ～さようなら2010年 楽塾謝恩会～ | 29 | 150 |
| 10年度第35回 | 旅へのイメージ | 1月8日 | 佐々木 敏明 | 塾長 | 広島と映画 | 10 | 155 |
| 10年度第36回 | | 1月15日 | 前山 村雄 | 僧侶 | 神の祈り、広島のこと | 10 | 160 |
| 10年度第37回 | | 1月22日 | 横山 佳代子 | 宝塚市立子ども館館長 | グアテマラ紀行 | 10 | 164 |
| 10年度第38回 | | 1月29日 | 平川 隆啓 | 大阪市立大学都市研究プラザ | 安芸の宮島と尾道のまちなみ | 10 | 169 |
| 10年度第39回 | | 2月5日 | 水内 俊雄 | 大阪市立大学地理学教授 | 広島町の、広島の子ン電 | 13 | 173 |
| 10年度第40回 | | 2月12～13日 | 塾生・教官・楽塾応援団 | | 楽塾修了記念旅行 ～巡礼の旅/広島～ | 25 | 177 |
| 10年度第41回 | | 2月19日 | 前山 弘萬 | 大阪市営地下鉄職員 | 地下鉄に乗って | 20 | 187 |
| 09年度第43回 | | 2月26日 | 塾生・教官・楽塾応援団 | | 旅の終わり 2010 修了式 | 10 | 192 |

第1回目の授業が終わりました（通算71回）

10年度の授業が始まりました

塾生、応援団の諸氏諸君こんにちは！ お元気ですか。1ヶ月間のご無沙汰です。

天候が定まらず、毎日着用する衣服の選択も大変ですね。黄砂や花粉症ももうお手上げという方も多いはず。とはいえ、まったく影響を受けることのない人たちもたくさんいるわけですから世の中は不条理です。賢治の雨にも風にも負けずの気概で乗り切るにしかずと覚悟しましょうか。

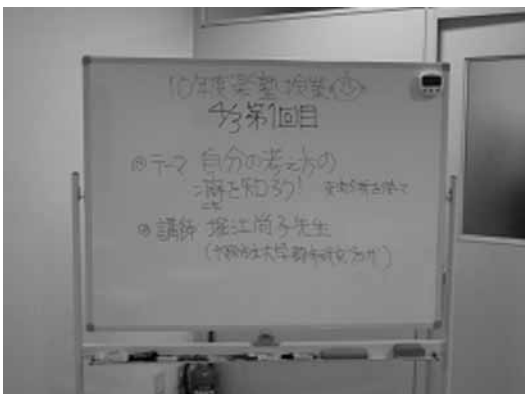
いよいよ10年度楽塾の授業が始まりました。あっという間の2年間を振り返り、いくつかの課題を積み残してきたように思います。今期の授業では、これまで手つかずにしてきた単科学習などを通し、基礎学力授業の拡充に力を注ぎたいと考えています。とくに応援団の皆さんのうちで、国語、算数などの得意技をお持ちの方は授業にご協力をお願いしたいと考えています。

2010年4月5日 塾長

☆4月のテーマ／仕事って一体何なの？☆

4月3日（土）の授業

- テーマ：自分の考え方の癖を知ろう —交流分析を使って—
- 講師：堀江尚子氏（大阪市立大学都市研究プラザ）
- 時間：4月3日（土）18：30～21：30
- 場所：三星温泉地階交流室
- 参加者：8名



<前半——TAとは>

交流分析

堀江さんとは、古くから様々な活動や調査で一緒しました。大阪市大都市研究プラザの研究補佐員として、また大淀寮で参与観察もされています。まずは堀江さんご自身の自己紹介から授業がスタートしました。

「塾長とは色々な調査に行ったり、野宿地へ『なにわ路情』を配達にも行きました。2005年からは自立支援センターそして大淀寮に移り、寮利用者たちの生活を見聞き研究しています。これを参与観察と言い、グループ・ダイナミックスを研究テーマにしています」。

『交流分析』とは聞きなれない言葉です。Transactional Analysisの頭文字をとり一般にTAといい、精神科医Eric Berne（1910－1970）が創始した自己分析理論で、個人が成長し変化するための体系的な心理療法の一つであるといえます。

ここで堀江さんは、比較的なじみのある白黒絵を3点投影し、一体何に見えるのかをみんなに言ってもらいました。少女に見えたり老女にも見え、抽象形体がアルファベットに変化し、ある文様では無いものがあるように見えたり。

「人は生まれながらにして親や社会の影響を受け、同時にものを見る視点や認知にゆがみを生じることもあります。

絵を見る視点を変えることで全然違ったものに見えてしまう。視点を変えることでこれらの絵の中身も変わります」。

「今回『仕事とは何か』というのがテーマですが、まずは皆さんが考える＜仕事とはこういうもの＞というイメージをカードに書いてください。何枚書いてもいいです。カード1枚につきメッセージ1点。このカードは最後まで残しておいてください」。ということで後半のお楽しみとなりました。



自分の中の三つの私

「交流分析では心の働きを親の自我 (Parent), 大人の自我 (Adult), 子供の自我 (Child) の三つに分け P, A, C と記号化します。自己のパーソナリティーの構造を、この P, A, C を用いて理解するのが『構造分析』といいます。1人の人間のなかに3人の自我があり、このなかの1人が時々人格全体を統制しているように見えます。この構造分析ではどれが正しいというものはありません」と堀江さん。

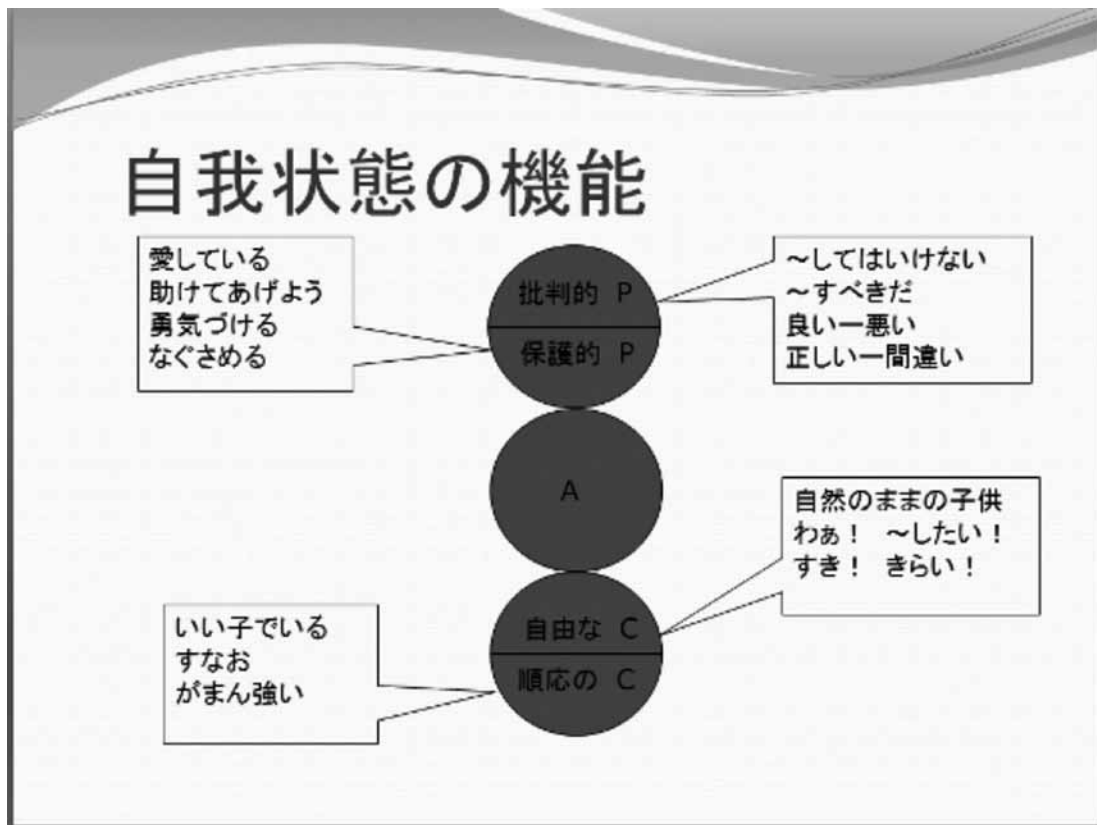
さらに自分の中の五つの私

P：理想や良心をつかさどる「親の自我」を表し、交流分析ではこのPをさらに批判的なP (Critical Parent = CP) と養育的なP (Nurturing Parent = NP) に分けて考える。CPは、間違っただけに対して批判、叱責、処罰を行なって厳格な教育を行う。それに対してNPは、周囲に対する思いやりや人の苦しみに共感しようとする働きである。

A：主体的、現実的に生きる「大人の自我」である。

C：自分の中には「子どもの自我」がある。これは本能的な欲求や感情で成立。このCには生まれながらのC (Free・Child = FC) と、順応したC (Adapted Child = AC) の二つがある。FCは、自他への甘えや依存が強調され否定的に見られやすいが、幼児の無垢な関心や思いやり、そして行動は貴重なもの。ACは、後天的に身に付けた幼児なりの処世術。これは他者の期待に添うために生まれつきのFCを押さえていることが特徴であり、過剰になるとよい子を演じ、主体性を抑圧してニセの大人のふりをして問題行動になることもある。これらの自我構造を分析した結果をグラフで示したものが、エゴグラム (Egogram) である。

ここで図表を使ってセルフテストを行いました。50の質問が並んでいます。それぞれの答えをA欄に記入し、それらの答えの点数をB欄に記入します。B欄の点数欄にはそれぞれCP, NP, A, FC, ACと分類され、B欄での点数が先ほどの「五つの私」として表されることになります。



自我のよいもの?わるいもの?

たとえば以下の項目が高い人の自我傾向です

C Pの高い人

長所: 規則や規律を重んじ、理想や目標に向かって進む

短所: 自分にも他人にも厳しすぎて、他人に対して支配的、威圧的になりやすい傾向がある

A Cの高い人

長所: 協調性が高く他人を信頼する人

短所: 他人に依存しすぎたり、自分を過小評価する面もある

「以上、自己分析をすることによって、自分の人とのやり取りの癖を知り、他人との人間関係を自分でコントロールできるように学習していく方法です。T Aの目標は、①自分自身を知ること。②自分と他人とがどのように関わるかを知ること」と、堀江さんは話します。「でもちょっと注意です。T Aは自分を変えることに役立つもので、他人を代えるためのものではないのです」。

やりとり分析

会話のやり取りの種類が話されます (パワーポイントでの解説)。

やり取り分析 1

やりとりが平行な時は話題は果てしなく続く。

●平行交流 1

A (いま何時ですか?) ⇔ A (3時です)

●平行交流 2

A (3時からの会議の資料はどこにありますか?) ⇔ A (会議室に準備してあります)

●平行交流 3

C (<心配そうに> 3時からの会議の資料はどこにありますか) ⇔ P (心配しなくとも会議室にありますよ)

●平行交流4

C (<腹立たしように>資料はどこ?) ⇔ C (そんなの知らないわ、どこかにあるでしょ)

やり取り分析2

やりとりが絡まっている状態。敵意を持ち合ってしまう原因になることが、しばしばあります。

●交差交流1

P (今、何時?) ⇔ C (自分の時計を見てください)

●交差交流2

P (<授業のプリントどこにあるか知らない?) ⇔ C (私に聞かないでよ。知らないよ。)

やりとり分析3

表面の会話の裏に別のメッセージが隠されている。隠された本音からのメッセージです。その人の言わんとするところです。多くの場合"のっておいで"とか"わかっているね"とか"もうこれ以上しゃべるなどかなどの意味を持っています。

●裏面交流

P (表面の会話=今、何時?) ⇔ C (表面の会話=3時です)

P (別のメッセージ=お前の時計は正確かな) ⇔ C (別のメッセージ=又、聞くの?嫌だなあ)

というように、会話のやりとりがタイプごとに図式化され堀江さんの解説が続きます。そして先ほどセルフチェックした回答数をもとに、別紙エゴグラムに棒グラフとして表記していきます。こうして各自のCP、NP、A、FC、ACの高さの差異を見ます。



<後半——あなたはどんな自我バランス?>

エゴグラム

塾生が表記したエゴグラムをカメラにとり、SDからプロジェクターで投影してみました。エゴグラムはそれぞれ高さの差に注目することが重要なのです。

堀江さんは「時間とともにエゴグラムも変化するので、昔の自分はどうかであったかとか、現在どんな人間になりたいとかを考えながら、シミュレーションする道具として活用するのも興味深いです」と話します。「エゴグラムを手がかりに、自分の弱点に気づく。また、低い自我状態を高める。そして習うより慣れること。注意して自分がなりたくなる。エゴグラムは自我状態を高める言葉の処方箋です」と話してくれました。

これがTAのポイントだ!

I am OK. You are OK.

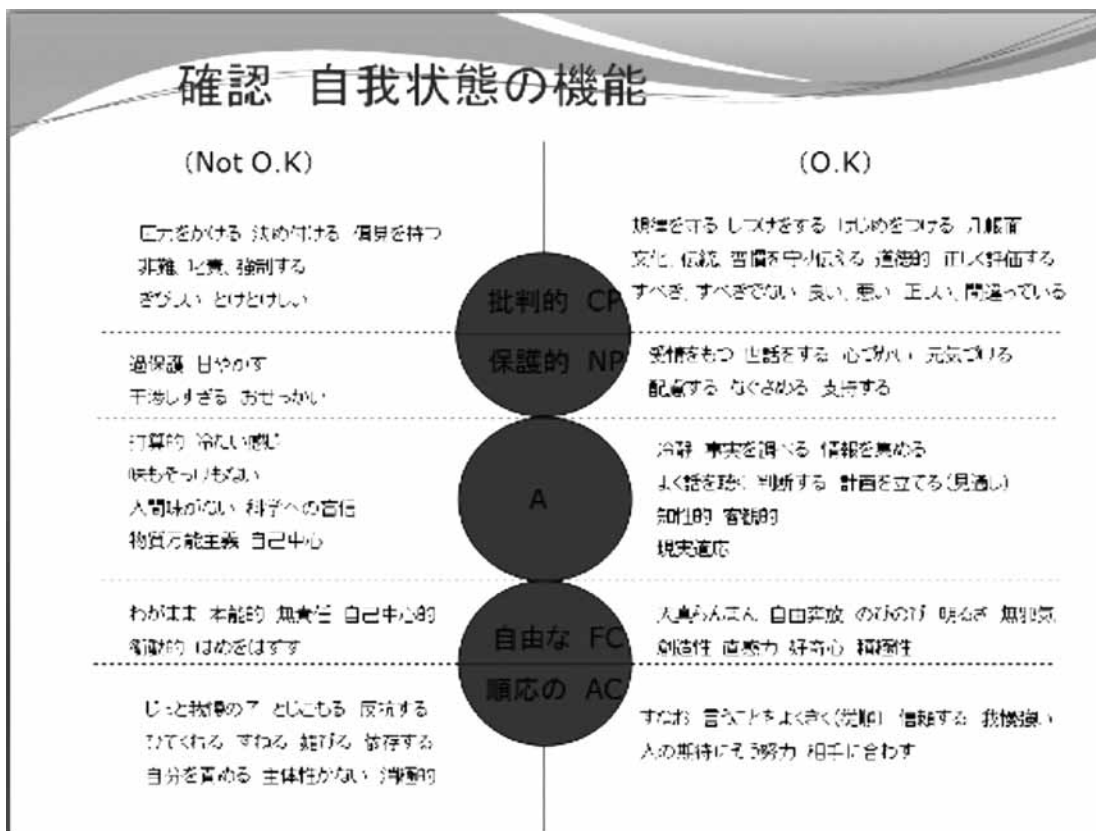
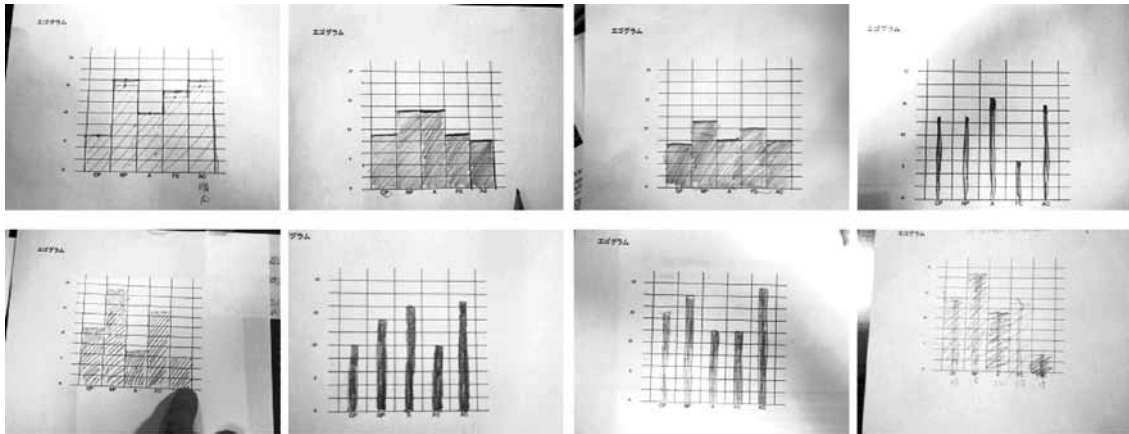
× I am OK. You are not OK.

× I am not OK. You are OK.

× I am not OK. You are not OK.

人はなぜゲームを行うのか

ゲームとは私たちが通常考えるゲームではなく、「自らの評価（高低に関わらず）や何らかの関心を得るために、無意識に行われる行為」だそうです。マイナスの展開になりやすく、「そのゲームをやめるためには逃げること、距離を置くことが必要」だといいます。関連ネットで検索すると「補完的（相互的）、裏面的、さらに方向が予測された結果に向かう一連の交流のことである。ゲームは、しばしば終わりに向かう参加者の役割の切り替えによって表される」という説明がありました。



そして「仕事とは何か？」

前半で「仕事とは何かカード」を書きました。2班に分かれ1人平均3～4枚の仕事カードがハトロン紙全紙に添付されていきます。その中で、内容が比較的似たカードが分類され5つぐらいのグループに分けられました。

●Aグループ〈4名〉のカード分類例

カードのメッセージ1 = 「生活」「生活のため」「生活費を得る手段」 → **お金**

カードのメッセージ2 = 「自らを遊ばせるもの」「楽しい」「あそび」 → **遊び**

カードのメッセージ3 = 「苦痛&喜び」 → 苦楽／悲しい → **悲しみ**

カードのメッセージ4 = 「自分を生かす」「自己実現」「学び」 → **学び**

カードのメッセージ5 = 「主張することができる」「生きるため」「生きざま」 → **人生**

カードのメッセージ6 = 「人との関係」「阻害された私」 → **社会**

* IさんがAグループの仕事への考え方をまとめて発表したもの。

「お金を稼ぐことで、生活を支えるもののだが、それは楽しいことでもあり、悲しみや苦しみを伴うこともある。しかし学びにもつながっていくものだ。それが人生であり、社会性、関係性のものでもあると考える」とまとめてくれました。



● Bグループ〈4名〉のカードの分類例

カードのメッセージ1 = 「生活のカテを得るもの」「お金を稼ぐこと」「生きていくためにはお金を稼がなくては
いけない」（関連＝時間ではなく働きで決まるもの／遊ぶお金） → **生活**

カードのメッセージ2 = 「遊び」「暇つぶし」「働ける間は働くこと」「大事なこと」「面白み、楽しみが大事」「自
分の好きなことをやること。やりたいことを見つけてそれを死ぬまでやること」 → **やりがい生きがい**

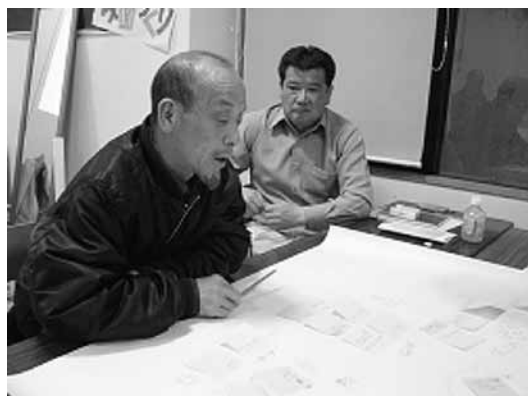
カードのメッセージ3 = 「大人になったらすること。生活のすべて」「忍耐」 → **義務**

カードのメッセージ4 = 「人間関係」 → **社会**

* T君がBグループの仕事への考え方をまとめて発表したもの。

大人になって働けるよう、やりたいことを見つけ納得するまでやる。飯が食べればなおよし。楽しければなおいい。死ぬまでやれたらもっとよい。

(注：このグループはそれぞれのメッセージにAC, NP, AC, CPなどとTAの記号を付記していてユニークだったのです)。



最後に堀江さんは「それぞれが仕事をする上で、今回の交流分析を参考にしてほしい」と話し、大いに盛り上がった講座を修了しました。予定の数人が来ず給食が余り気味でしたが、「おいしかった。ご馳走さま」とは堀江さんの言葉でした。ご苦労様でした。

<4月10日(土)の予定>

久しぶりに野本さんの登場です。ホテルマンの仕事がどんなに素晴らしく、どんなに縁の下の力持ちであるのかを、塾生みんなで体験してみようという授業です。ホテルマンのルールやマナーを学ぶことで、お客さんの態度が見えてくるという興味深い学びになりそうです。



☆4月のテーマ/仕事って一体何なの? ☆ 第2回目の授業予定

- テーマ: ホテルマンになる
- 講師: 野本 哲平 氏(ホテルプラザ神戸シニア・ディレクター)
- 時間: 4月10日(土) 18:30~21:00
- 場所: 三星温泉地階交流室
- 参加費: 1000円(給食費含む)

第2回目の授業が終わりました（通算72回）

刑務所から

「楽塾」が春休みだった3月19日、京都刑務所を尋ねました。刑余者救援を進める「よりそいネットおおさか」の友人たちの誘いがあり、また刑務所退所者への応援のための連携・協力を深めたい目的で参加をしたのでした。刑務官や看守らの私たちへの想像以上の心配りや対応は気持ちのよいもので、また、彼らの刑務所内で働く受刑者たちへの配慮や、彼らが働く工場の規模、施設の整備を見られたことは、予想以上に素敵な経験でした。そして、刑務所を出た人たちのアフターを刑務官たちも願っていて、そんなネットワークの実現を早急に望んでいることもよくわかりました。

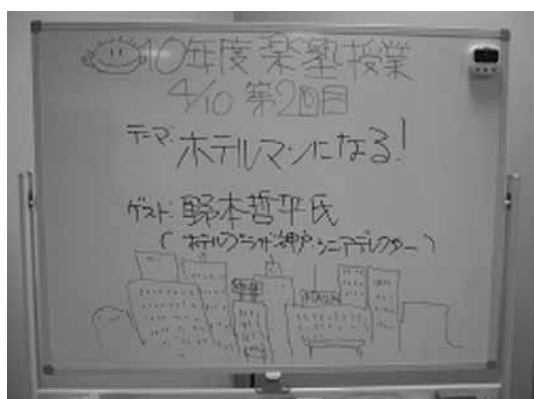
その後の26日、足利事件の再審が宇都宮地裁であり、裁判長の「菅谷氏が犯人でないことは誰の目にも明らか」と無罪判決を言い渡したニュースに遭遇します。虚偽の自白と非科学的鑑定の結果、人生の大切な時間を煉獄につながれ、強制された菅谷さんの無念は想像を絶します。古くは松川・帝銀・八海、そして狭山事件、最近無罪となった甲山事件など思い出すだけでも暗たんとなるえん罪事件が発生しています。人が人を認めるということが、実は取調室ではないがしろにされているということです。犯人と決め付けてしまう怖さは、司法・検察・警察などの権力構造によって決定されることであり、これまでの閉鎖的取調べから透明性を高める取調べへの論議が必要だと思いました。

2010年4月12日 塾長

☆4月のテーマ／仕事って一体何なの？☆

4月10日（土）の授業

- 主 題：ホテルマンになる
- 講 師：野本 哲平氏（ホテルプラザ神戸シニア・ディレクター）
- 時 間：4月3日（土）18：30～21：15
- 場 所：三星温泉地階交流室
- 参加者：11名



<前半——人とマナー>

「おはようございます」から始まる

いつものように、野本さんは「おはようございます！」と元気よく挨拶をしてくれました。この挨拶の語源は以前にも学びましたが、野本さんは「幕内言葉と言います」と説明します。江戸時代の歌舞伎開演時間は早朝が始まりで、それを基準にしてスタッフたちが「おはよう」と挨拶を交わした由縁だといいます。またホテルマンなどは、仕事の役割や時間的配分などによるシフトがあり、日頃同僚と会う機会が少ないとき、久しぶりに会えば「おはようございます」と挨拶をしようそうです。

さて今日は、塾生すべてがホテルマンの仕事をしします。

「〇〇マンは正義の味方」

これも以前話された「〇〇マン」のお話の続き。「ウルトラマン・ボイラーマン・ポストマン・ガードマンなどなど、集団に属さず額に汗するたった一人で社会の現場に立ち働く人々です。いわば正義の味方といえる存在ですね。ホテルマンも縁の下の力持ちで、お客さんのために汗をかいて仕事をする人たちです」。

「私はシニアディレクターですが、ホテルの仕事をしているとさまざまな事態に直面します。そんな時、経験不足や判断の難しい場面でホテルスタッフにアドバイスをします。それがシニアディレクターの役割です。私がこの仕事を務めているのは、この仕事が人生経験の大切な仕事であるという理由からなのです」。

言葉の伝え方

「鉄道などで相席する場合、『どこから来ましたか?』と言うような質問調ではなく、『いい天気ですね』と言うようにします。そうすると『そうですね』と言う共感や安心感を与えたいと思います。ホテルの中でスタッフが、お客さんにミスをしてしまうことがあります。そんなときは『すみません』ではなく、相手を立て、同意や共感を得てもらう方が大事なことです」といい、客に了解をしてもらい、客を味方にするのが大切だ」と話します。「ホテルのレストランでも、スタッフそれぞれの疲労や人間関係のストレスなどによって影響が現れてきます。その際、秩序が混乱することも出てきて、それに対しアドバイスをすることがあります」。また「身だしなみとファッションを勘違いしている新入社員がいます。勘違いの多くは独りよがりなファッションをモダンと感じているわけですが、お客さんの不愉快さの視線を意識しないのが問題なのです。私は若者たちにホテルマンとしての自覚を促すことをします」と話します。また「水洗トイレになって、日本の犯罪率が高まったといわれています。自分たちの汚物を水に流し、見せなくしたことで、これまでの恥を知る文化から恥知らずな国になったのではないかと考えます」とトイレ文化に波及しました。水洗トイレというのは西洋文化の賜物ですが、それらを無自覚に受け入れてきたこと、西洋思潮の礼賛は今もわが国では健在です。日本の伝統性とは何かを常に考えておきたいことだと思いました。



距離のとり方

人と人が会うとき、無意識のうちに程よい距離を保っているという話になりました。そこで、塾生たちが2人1組で、距離の取り合いを試みました。相互の距離は1メートル以内から45センチくらいで、野本さんは「塾生という間柄もあり、かなり親しい距離感と感じます。普通1メートル20センチあたりが心地よい距離だといわれ、親しい距離は45センチから1メートル20センチくらいだそうです」。塾生たちの距離感には割合近いものに見えました。「距離を測ってお付き合いしていくことを覚えておかれたらいいと思います」と野本さんの解説です。

マナーは思いやり

「マナーの“マ”の語源は手です〈注：man i。「手で扱う方法」というのが原義だと辞書にも書かれています〉。マネジメントもマニフェストもman iが語源。つまり手作業を基本にすることで、つまるところマナーとは他人に頼ったり、人に任せるものではなく、自らを律するものであり、根底では人に対する思いやりでありルールでもあると思います」と野本さん。そうですね。最近では、自己責任の回避や社会が悪いなどの言質がはやり病になっていて、

人間の耐性や持久性という免疫を軽んじさせる風潮を助けているように感じます。



<後半——ホテル・ワークショップ>

ホテルマンの心構え

後半はホテルマンになるために、いくつかのスキルを実践してみました。このワークショップのために、私はディスプレイをつくり準備しました。ホテルの看板とかクロークという表示台などでした。

「ホテルのカウンターは、一般に『レセプション』と書かれています。背の高い外国人に対応するために、外側と内側の段差が設けられています」とのこと。そしてホテルのフロント作業でのさまざまな事例を紹介してくれました。恫喝や無理難題、まやかし行為など。そんな時でも「できるだけお客とのコミュニケーションを密にし、あるいは協力を頼み、相手の合意を得るよう努力をすることがこの仕事であり大切さです」とホテルマンの心構えを説明します。



ホテルマンの立ち居振る舞い

受付でのトラブルの実践を行った後は、先ず4人1組で並んで立ってもらうことから始めます。ホテルマンとして、それぞれがどんな立ち姿がいいかということです。この部分をビデオにとっておきます〈使用前〉。

同様にあと4人一組もビデオ前に立ちます。このあと野本さんは「立ち姿としては、手を下ろしているより、丹田〈おなか〉に手を組むような姿勢のほうが楽です」とアドバイスをします。そのアドバイスを受け姿勢を変え再度4人1組になって2組がビデオ撮りをしました〈使用后〉。そしてその結果はやはり変化がありました。野本さんも「後半の方がかなり立ち姿勢がよくなりました」とほめてくれました。



次のプログラムは、主にボーイさんを想定した歩き方の実践です。全員が順番にファッションショーのように歩きます。意識して歩く人、硬くなっている人、足早な人などそれぞれが個性丸出しで歩行します。先ほどと同じようにビデオに納めそれを映像で見ってみました〈使用前〉。野本さんは歩き方について、「骨盤に意識をおいて歩いてみることに、小指を伸ばして歩くこと、視線を少し遠めに定めます」と解説し、かっこいい歩き方のスキルを教えてくださいました。そこで、全員がそれを念頭にし、もう一度順番に並びながら足を踏みしめて歩きます。これもビデオに収めて〈使用后〉、全員で鑑賞します。

最初の映像と比べ格段に姿勢がよくなっていることがわかりました。野本さんは「皆さんホテルマンになれますよ」とはリップサービス？ 塾生たちは自分の姿勢より他人の姿勢に茶々を入れています。



できそうでできないサーバースキル

そして最後は「サーバーゲーム」。野本さんが用意したフォークとスプーンをお箸のように操作し、お皿の中に入れた10個のチョコビンを空の皿に1個ずつ移し変える作業をします。飲食物を給仕する時のスキルを養う練習です。これは大半の塾生がうまく移し変えることができ、野本さんは「上手ですねえ」と感動していました。



これらのワークショップを終えたあと、野本さんは「毎週塾生の皆さんは、こうして楽塾に参加しておられること自体が凄いです。しかも70回以上の授業を浮けておられるのですから」との激励がありました。

今夜の給食に、前山僧侶が持参されたたくあんが加わり、おかずもご飯も残らず平らげてしまいました。



<4月17日(土)の予定>

友人と西区京町堀の素敵なレストランで食事をした際、その友人からオーナーの佐々木さんを紹介されたのが最初の出会いでした。その後本町のレストランにも行かせてもらい、おまけに女性たちのための就労支援会社まで経営していると聞き、すごい！と感動。すぐに友だちにさせていただきました。機会あるごとに「楽塾」への講師をお願いしてきましたが、今回やっと実現しました。女性として、僧籍を持つ佐々木さんの仕事への情熱を聞けることがとても楽しみです。

☆4月のテーマ／仕事って一体何なの？☆

第3回目の授業予定

- テーマ：私にできること！ 私ができること！ 私がしたいこと！
- 講師：佐々木 妙月 氏（情報の輪サービス株式会社代表・僧侶）
- 時間：4月17日（土）18：30～21：00
- 場所：三星温泉地階交流室
- 参加費：1000円（給食費含む）

第3回目の授業が終わりました（通算73回）

季節と言葉

菜の花が盛りを迎え繁茂する3、4月の頃、梅雨のような長雨が降ります。私たちは古くからこの時候を菜種梅雨（なたねづゆ）と呼んできました。5月にはいると竹の子梅雨などとも呼び、そうして6月の本格的入梅のシーズンを迎えるのです。季節の特性を独自の言葉で表現してきた伝統は、私たちにとって貴重な財産であると思います。それは四季の循環を可視化し、これから始まる新しい季節へのおそれや期待をあらわす言葉として機能してきたのでしょう。季節の移り変わりを、季語や歳時記として残してきたわれわれ祖先の知恵を生かしていきたいと思うのです。

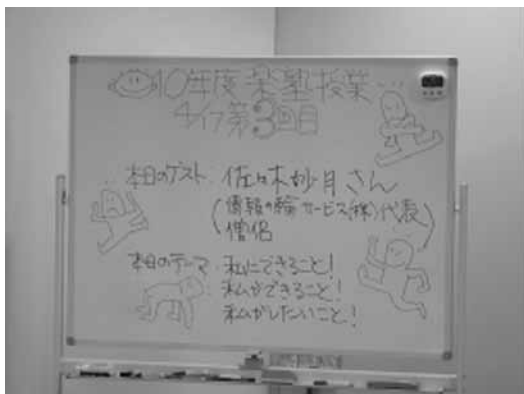
それにしても、今年の雨の多さは少し異常で、春先の椿事が気がかりでした。おりしもインドネシア・スマトラ沖の大地震、ブラジルの集中豪雨、中国の大地震、アイスランドの火山噴火活動と、世界気象に異変が重なり、地球規模の災害予兆を感じます。7000 万年前の白亜紀では恐竜をはじめほとんどの生物が絶滅しました。地球の全てを支配していると錯覚している私たち人類だって、絶滅の一步手前にいるかも知れないと想像してしまいます。

2010年4月20日 塾長

☆4月のテーマ／仕事って一体何なの？☆

4月17日（土）の授業

- テーマ：私にできること！私ができること！私がしたいこと！
- 講師：佐々木 妙月 氏（情報の輪サービス株式会社代表・僧侶）
- 日時：4月17日（土）18：30～21：00
- 場所：楽塾（三星温泉地下交流室）
- 参加者：11名



<前半——短所を個性として>

妙月さんの動機

妙月さんが作成したレジュメには、自身の自己紹介を以下のように書かれています。

「誰からも好かれなければとか、好かれたいと思っていました。でも、それって、しんどくて、じぶんらしくなく、とても無理をしていました。今は、あまり無理をしません。みんなに好かれるに越した事はないけれど、気の合わない人も必ずいるでしょうから…。気にしない！気にしない！と、そのままの私を出しています。だから…楽です。自然体でいたいと思っています」。妙月さんはそれを自分の生き方にしたいと話し始めました。

「27歳の時、西成の4畳半一間の安アパートで生活を始め会社設立の夢をかたち作り始めた。ナンバの焼鳥屋でアルバイトをしながら。共同トイレで住民は男たちばかり。中には立派な入墨のおっさんもいた。自分自身、仕事探しの苦労を経験してきたので、女性の仕事支援をしようと思っていた」と語り、就活時の悔しさが他者応援への大きな力になっていたと話します。「お金よりやりたいことをしたいと考えていた。収入は少なかったけれど、それはやり

たいことを心に秘めていたから」と話します。

妙月さんは、現在レストランを2軒経営しています。「赤字続きからやっとトントンの状態になってきた」という妙月さん（おめでとう！）。

「私は浄土宗の僧籍を持っている。島根県の石見銀山をご存知ですか？ 温泉津（ゆのつ）というところにある極楽寺に生まれた。現在姉が寺を引継いでいる。私は7人姉兄の一番下で育った。父は出稼ぎ同様にほとんど家にいず、母は子どもたちを育てながら、8年かけ65歳で僧籍の資格をとった」。

「私への心配をしてくれている母を安心させるため、彼女が死ぬ前に、私自身母から学んだ教えを実践しようと考え、僧籍をとることにした。それは『抜苦与楽』をめざすことでもあった」と言います。



実践「あそびを学び、まなびを遊ぶ」新しい学校の冒険
4月テーマ：仕事って一体何なの？ 2010年4月17日(土)

私にできること！私ができること！私がしたいこと！


はじめて！

佐々木 妙月（みょうげつ）自己紹介
昔からも身がなればとか、身がなれたいと思っていました。でも、それって、しんどくて、じぶんらしくなく、とても嫌悪していました。今は、あまり前向きではありません。みんなに身がなれるに励んだことはないけれど、気のきかない人もいますから・・・。氣にしない！氣にしない！と、そのままの私をだしています。だから・・・です。百歳までいたいと思っています。

- 私にできること！私ができること！を集めよう！
- 私がしたいこと！私がしてほしいこと！を発信しよう！

ワーク① 心の栄養補給
ワーク② 仕事はチームカ
ワーク③ 仕事を考える

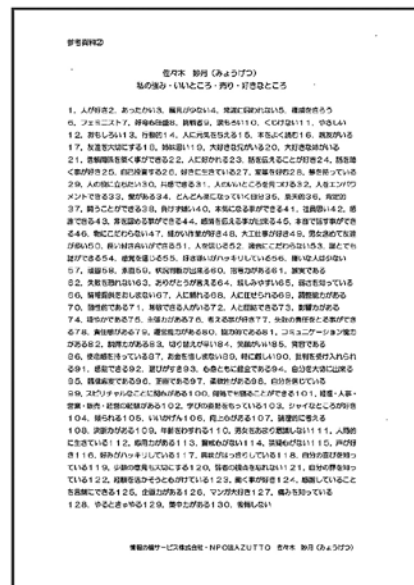
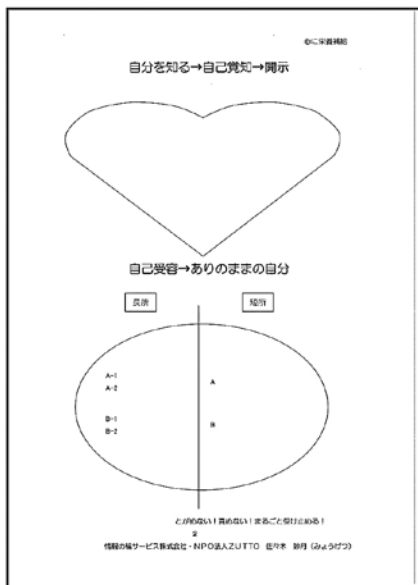
★コンピテンシー診断から
★ABC理論から

1

..... 情報補給サービス株式会社・NPO法人ZUIPO 佐々木 妙月

仕事への取組みとは

今回、妙月さんの作る資料はたくさんありました。2枚目のレジュメには「私の強み・いいところ・売り・好きなところ」と、彼女の長所が書かれたものでした。例えば「1. 人が好き 2. あったかい 3. 偏見が少ない 4. 常識に囚われない・・・など130個の長所が！（すごい。自分の長所をこれだけ発見できるのだ）。そこで心に栄養補給をということで4枚目の「自分を知る→自己覚知→開示」の実践に入ります。ハートマークの中に、自分の長所をいくつも書き込むことにします。3分間の制限時間内に、それぞれがどれだけ長所をかけるのかの競争です。この結果、最高21個の長所を書いた塾生は2人、続いて18・16・15・9・8・7・4個と続きます。最高点数の塾生には妙月さんからプレゼントが手渡されました。



妙月さんの感想です。「他の研修などでは、こんなにたくさんの自己評価は出てこない。行政関係では全く書かない人たちも多い。この塾では皆が自分のよさを出していて素晴らしい。自己開示をしている証しだ」とほめて頂きました。

ここで2人1組のペアで、互いの良さを話し合う時間を持ちます。それは自ら短所だと思ふ言葉を書いた後、もう一人がそれを長所という言葉で言い換ればどんな言葉になるのかを見せあうというゲームです。例えばAさん自身が書いた短所である「気をつかひすぎ」という言葉に対し、BさんはAさんの長所として「①優しい。②思慮深い」などと書いて遊ぶゲームでした。この後M君を標的に、全員が見たM君の良さをみんなで発見することにしました。

「人は人の短所を直そうとおせっかひします。自分の短所すら治すことも出来ないのにです。むしろ短所にエネルギーを使わず、長所に替えていくエネルギーとして考えていくことが大切です。短所は個性であると受け止め自己受容すること」。妙月さんは、「短所と長所はセットであり個性なのだから治す必要などない、でない個性が消える」と話しました。



<後半——能力ではなく行動や思考である>

漢字でビンゴ

さてレジュメの5枚目には「仕事はチーム力」(漢字でビンゴゲーム)と書かれています。その図形は25個に分割された正方形です。まずは3つのチームに別れ、制限時間内に25個のマス中に課題の漢字を埋めて競うというものです。課題漢字とは三水偏です。三水偏のつく漢字なら何でもよいという条件でした。それぞれのチームの知性を発揮する最大のチャンスです！ スタートし、それぞれのチームが三水偏の漢字を書き込んでいく歓声が聞こえます。全チームが25個の文字を書き終えると、妙月さんがイメージする三水偏の漢字を発表し始めました。その漢字が25

個のマスに書かれていて、しかもそれが上手く並んでいればリーチになり、ビンゴにもなるわけですね。妙月さんが発表する漢字は比較的易しいものばかりでしたが、塾長チームは難しい漢字を書いています、その結果1個のビンゴも得られず、散々な結果になりました。しかも、このゲームは仕事を進めるチーム力を試すもので、チーム力も3チーム中最低という結果になってしまったのです（ああ無情！）。



コンピテンシー

6枚目のレジュメは「コンピテンシー」というちょっと聞きなれない言葉からスタート。邦訳すると「能力」という意味になるらしいのです。アメリカからの輸入概念で、「ビジネスで、高い成果を安定的に上げるために必要な能力」を養う研修する際の趣旨であるらしい。

同じような能力を持つはずなのに、人によって成果の安定性が全く違う。何故そうなるのかを分析すると、結局、成果の安定性、大きさを決めるのは能力の差ではなく、その人の「行動特性」や「思考特性」そのものにあるという考えです。そこで7枚目に準備された「コンピテンシー診断テストカード」が現れました。この診断テストは20個の設問があり、それぞれ3つの回答が用意されています。設問の回答は「正しいと思うもの」ではなく、「自分ならこうすると思うもの」をA、B、Cの中から選ぶものでした。これらは「主張力」「影響力」「分析力」「自己管理」「自信」など10の能力を問うもので、レベル1から5までの評価がありました。

ABC理論

この後10枚目のレジュメ「アルバートエリス博士の理論」の解説に入ります。「～しなければならない」「～するべき」という信じ方こそが非合理的な思い込みであり、人生の悩みや問題を作り出すそうです。人生では思い通りにならない

ことや、多くの人にも出会うけれど、問題の解決を「～であるべき」という対応で処理しようとする、パニックになったりストレスを抑えきれないようになるといいます。A・B・C理論では、これらをコントロールする要素を学んでいく方法のようでした。

妙月流応援

当事者応援の動機には、社会的慈善や正義（宗教・組合・NPO団体）に発する動機にあたるものと、私的恨みや社会的孤立を背景とした個人的体験が、結果として応援活動の動機に結びつくものに大きく分けられると思います。妙月さんは後者に当たります。貧しさや苦勞を安易な社会的責任に転化させず、自らの辛さや苦勞を自己の人力に変え、結果的に社会的困難層に仕事を作り上げてきました。それは彼らへの共感と想像力という、柔らかい視線を保持していたからだと思います。過去に講師で参加してくれた和久、前山、藤木さんらも同じでした。前者と比べ教条主義に陥らない柔軟さが強みで、しかも頼りになるかっこよさと人間性を感じるのです。

妙月さんのゆったりした講義に、塾生たちは同化され穏やかな雰囲気です。給食は、授業の余韻を残し、色々な話題をさかんに賑やかでした。消化のよいディナーとなりました。

Tさんが授業90分前ぐらいにやってきて、「今日は約束があり、残念だが出席出来ない」と話してきました。そして給食のデザートをお土産に置いて帰って行きます。阪神金本選手の連続出場が途絶えましたが、塾勤のTさんの欠席はそんな無念さをちよっぴり感じたことでした。「でも来週くるよ」と元気に答えてくれたので安心です。

<4月24日(土)の予定>

高見さんは、真摯な人格と高い仕事力を持った人で、私の信頼する1人です。青年たちへの就労訓練環境の創造と、仕事に対する適切な助言が、多くの人たちの雇用につながる実績を築いてこられたのだと思います。直接に仕事を一緒にしたことはないのですが、私たちグループの一人として、高見さんの仕事の残像を常に確かめることができます。今回は、<しごとの神様>に降臨してもらい、まだ見ぬ高見さんのアナザーサイドを発見してみたいと考えました。



☆4月のテーマ／仕事って一体何なの？☆

第4回目授業予定

- テーマ：私にできること！私ができること！私がしたいこと！
- 講師：高見一夫氏（ワーク21企画代表・A'ワーク創造館長）
- 日時：4月24日（土）18：30～21：00
- 場所：楽塾（三星温泉地下交流室）

第4回目の授業が終わりました（通算74回）

夢と仕事

数年前のこと、N駅近くのイベント会場で演奏しているジャズオルガニストであるKさんの演奏を聞きに行ったことがあります。静かな演奏スタイルとオーソドックスな選曲は、ジャズへの親近感を優しく伝えてくれました。ジャズのほかボサノバなどのスタンダードも聞けました。その後、無理を言って何度か私たちの主催する演奏会などに参加してもらいましたが、Kさんの職場の関係で東京に転勤せざるをえず、関東が生活拠点になるというメールが届きます。ところが今年の初め、Kさんが勤める東京の事務所が閉鎖され再び大阪に戻り、これまでどおり演奏を続けるというメッセージが届いたのです。しかも自らライブし、食事も出来るオルガンバーを経営したいという決意でした。そのため2ヶ月間ほどを北摂の友人のお店を借り実践するので来てほしいということで、先日行ってきました。Kさんは「地域で音楽を聞いてもらえる場、ジャズに親しんでもらう場がほしい。そのためには自分の生活をかけながら、本物の音楽を聴ける場を提供したい」と話していました。彼の音楽を聴きながら、自らの夢を音楽の好きな人たちに伝播させていきたいという志を感じました。3年後にKさんのお店が完成し、ライブハウスが誕生します。音楽と生活の稼ぎを両立するしんどさを想像すると大変だと思いますが、私も応援しながら、楽塾にも来てもらおうと考え楽しみにしています。

「夢と仕事」を育てることのできる人は幸せです。

2010年4月27日 塾長

☆4月のテーマ／仕事って一体何なの？☆

4月24日（土）の授業

- テーマ：わたしとしごと
- 講師：高見一夫氏（ワーク21企画代表・A'ワーク創造館長）
- 日時：4月24日（土）18：30～21：00
- 場所：楽塾（三星温泉地下交流室）
- 参加者：11名



<前半——高見さんの履歴>

ゴム乳首のスペシャリスト

高見さん自身の履歴から授業はスタートです。

「昭和28年、そうめんやしょう油の産地として有名な兵庫県龍野市で生まれた。家は百姓で、田植えの農繁期は学校がお休み。親の仕事を見て育った。それが仕事の原点。大学を卒業した後、ゴム工場の技術屋として勤務した。」

高見さんの衝撃の告白。「私が最初にした仕事は乳首です」。全員「ん…？なに？」実はピジョンというメーカーの哺乳瓶に装着されている乳首をゴム製品で完成させる仕事だったとか。珍しい仕事なんですねえ乳首作りって。

その後 27 歳で製造現場の工場長補佐という役職に移り、50 人ほどいた作業員からは可愛がられたといいます。「ゴムには炭素が入っているの、粉塵が飛んだり、高熱の中の作業の為やけども多かったが仕事は楽しかった。大企業が市販するゴム製品の多くは、うちの会社で製品化していた。大きくもなく小さくもなく、程ほどの規模の会社なので、中小企業として会社の中身がよく分った。この会社での経験の中で、下請けのおばさんたちのしたたかさ、近隣のバラック工場で、パンツ 1 ちょうで部品を作っているおっちゃんたちの風景を見て今思うのは、これらの人たちが日本の産業を支えていたんだなあと思う。大企業が完成させた製品にハイライトが浴びせられがちだが、それらを構成する部品は全てこんな小さな工場が作っていたのだ。そして当時の工場の風景は素晴らしい体験だった」。

九死に一生から「仕事」に出会うまで

その後、高見さんは無謀運転手による交通事故に遭遇し、九死に一生を得ます。この事故はたくさんの犠牲者が出て、新聞の一面にも大きく出たそうです。この事故で高見さんは、2 年間仕事が出来なくなり、会社も復帰を促してくれたけれど退社したそうです。「その後、30 歳を過ぎた頃、政治家の秘書として政策などをつくる仕事に就き、この頃が人生の転回をした時期だと思う。自分が望んだ仕事ではなく、どこか流れ流れていた自分を、友人知人たちが私を活かしてくれたのだと思っている。そして 42 歳の時に自分の仕事をしようと思って、中小企業診断の資格をとった。私のプロローグとなる始まりだった」。そう！ ここから高見さんのブレイクが始まるのです。

小さな事務所を借り、「ワーク 21 企画」を立ち上げた頃、高見さんはわが社(株)ナイスの富田社長に会ったそうです(注：私も社長に請われ、西成に来たのが高見さんと同時期でした)。「私は仕事イコール金を稼ぐ事だと思っていたが、彼が『仕事しようや』とってくれた時のニュアンスは、社会に残す仕事をしようという意味だった。ここから私が命名したエル・チャレンジの仕事が生まれていく」。

高見さんの仕事づくりの中で、「おしぼり工場」や「こうせつ清掃作業」が立ちあがっていきますが、私とつきあう多くのおっさんや青年たちがここで仕事をする事が出来たのです。私も一緒になって作業をしたことを思い出しました。これらの仕事は発注、受注が重要な問題になるのですが、私が中小企業診断士としての仕事をしている中で、これらの問題も上手く解決し、大きな授産仕事になって行った」。

コミュニティービジネス

「1995 年の阪神淡路大震災時、一定のボランティアが集中したが、収束してくると引き上げていく。しかし被災者へのケアは残る。そのケアを有償的ボランティアとして体系づけ、コミュニティービジネス(CB)という考え方が定着していく。私のCBはこの震災がきっかけとなっている。社会的な配食サービスや高齢者介助などが始まりつつあった。それらの事例やワークショップなど講座を企画していく中で、行政が参加しだした」ことが自分の仕事を大きくしていったようです。



「古着の魅力は好きなものがなんでもある。さまざまな色彩がある。種類も豊富。それが面白い。皆さんがご存知の『古着屋りぷら』はこんな発想で始まった。森田さんというスタッフもパートナーとして重要な存在だ。意気に感ずという感覚でやってくれている」。そうです。森田さんは楽塾にも貢献してくれています。

<後半——仕事>

ソーシャル・インクルージョン

「エル・チャレンジの受託事業として、障害者の工賃倍増計画のプロジェクトを立ち上げた」。実際、大阪府は障害者の作業所が全国で一番多いに関わらず、工賃は全国一低いのです。お金も大切だが、もっと社会的に囲い込んでいく事（ソーシャル・インクルージョン）ができないかと考え、いい仕事を確保し、工夫できる環境を作ろうという発想を持ったのだった。その結果、当時月額 7,990 円の工賃が 9,130 円に上がるようになった。人への役立ちをさせてもらえなかった人たちが、自分たちの頑張りを表すようになってきた。また A' ワークの運営を補助金無しで運営している。上手くマネジメントできるようになってきた」。高見さんは、自分の決意を持続させ、社会的にしんどくなった他者への想像を鋭くし、その責任を全うすべく奮闘してきました。



仕事って何だろう？

「最近では同窓会が多くなってきた。しかし、話の内容は地位がどうの、給料がどうのという話ばかりでおもしろくない、一体自分は何をしたいのか、生きる望みが何なのかが全く見られない。一方で、社会的にかかわり合いを持つ仕事として、正義を前面に出すという作業も最近はずらい。もっと自由な形で仕事をしたいと思うようになっている」。高見さんの述懐は、多くの仕事をこなし、たくさんの人たちとかかわりを持ち、さまざまな課題を見つけ、難問にぶち当たってきた人の実感だと思います。ある意味では私も同じ“一度死んだ人間”として、共感を表したいと思いました。

「地域の中でさまざまなサービスを作っていく事がこれからの課題かも。生きていく中でこんなものがあつたらいい、というようなニーズから人が集まり話題が出来てくるのではないかな。こんなテーマを今後の C B にしていきたいと考えている」といい、「診断士の仕事は面白いと話します。古着屋やおしぼり屋などなんでもするし、A' ワークに関わりながら、マルチに、しなやかに、しぶとく今後もやっていきます」と話します。

みんなでトーク

最後はなんでもトークタイムになりました。

S：C Bのニーズは、自分の出来ないことを、他人が代わって有償で関わっていくことだと思う。家の問題に関していえば、それは家族の喪失や、少子化や核家族で見えなくなってきた問題でもあり、それを補うわけである。それは人々が選んできた社会的結果でもあるわけで、しかし一方で家族というものがどういうものかを問う事も必要だと思う。既成の家族感ではない新しい家族像というか。そんな中から新しいかかわりや役割も生まれてビジネスにも発展するのだろう。

K：今の暮らしを刹那的に生きている人たちも多いわけで、その部分は人間のかかわりを必要ともしないだろうし、ますます孤立化は進んでいくと思う。

T：企業でいえば、一方的に企業の寡占化などと決めつけ非難するのも排除となる。市場に参加していくことが大切であり、市場を福祉化することが第一だと考える。

I：市場を独占する事が悪い事だと思う。

結局、仕事という途方もない問題はこのあたりで終わってしまいましたが、仕事から派生する、さまざまな課題を浮き彫りにさせる事は出来たと思いました。仕事は人にとって重要な問題ですが、生活をうるおわせるだけでない大事な問題を内包しているのですね。仕事をしないという選択肢もありますが、自分の人生に責任を持ちかねる若人を作らせてはいけないと思いました。



<5月1日(土)の予定>

私たちが長らく関わった青年を平和寮で預かっていただき、早や1年半を超えようとしています。おかげで青年も独立にむけ仕事に精いっぱいです。彼のケアを契機として、今池平和寮さんとのかかわりが出来ました。朝の時間帯に寮を尋ねると、寮内の健康訓練で大声を出しリズムカルに寮生と身体を動かしている高市さんに会えます。午後の楽器演奏グループ「十二楽坊」では、トーンチャイムのミュージック指導をしている高市さんを見かけます。これまで出会ったSWとしてはまれな、そして型にはまらない高市さんに講師をお願いしました。

☆5月のテーマ：心を開放するエンターテインメント☆

第5月回目の授業予定

- テーマ：元気の旗を振って
- 講師：高市里美氏（ヘレンケラー財団今池平和寮スタッフ）
- 日時：5月1日（土）18：30～21：00
- 場所：楽塾（三星温泉地下交流室）

第5回目の授業が終わりました（通算75回）

塾長の授業参観'09完成

いよいよ「楽塾」の授業記録が完成しました。大阪市立大学都市研究プラザが、「平成21年度新産業創生研究」の助成の一環として「楽塾」の記録を刊行してくれたのです。私が毎回ブログでレポートする授業参観記録を新編集したものです。190ページの大ボリューム版となりました。今回のものは、09年度の1年分が収められています。順不同ですが、08年度分が現在編集中で、近日中にプリントアウトされる予定になっています。こちらには楽塾メソッドなどを掲載しています。

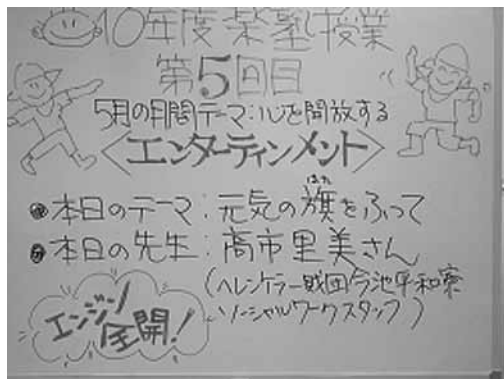
「08・09年度楽塾授業参観記録」に興味のある方は楽塾事務局、あるいは楽塾授業にご参加ください。楽塾では、これまで独自に楽塾記録を残す計画を立てていたのですが、その矢先に夢が実現しました。研究代表をされている大阪市立大学水内俊雄教授には大変お世話になりました。改めてお礼申し上げます。また都市研究プラザ研究員の諸君、そして㈱イリオスの大石信哉氏には編集作業でお世話になりました。感謝申し上げます。また事務局で頑張る田岡君にお礼を言います。君がいなければこの記録は出来なかったでしょう。

2010年5月3日 塾長

☆5月のテーマ：心を開放するエンターテインメント☆

5月1日（土）の授業

- テーマ：元気の旗を振って
- 講師：高市里美氏（ヘレンケラー財団今池平和寮ソーシャルワーカー）
- 日時：5月1日（土）18：30～21：30
- 場所：楽塾（三星温泉地下交流室）
- 参加者：18名



<前半——ミュージック・ケアでリズムカル>

ヨガで始まるミュージック・ケア

高市さんは今池平和寮の番長的存在です。寮生活者たちの元気を引っ張り出す力をもった人なのです。5月の月間テーマは「心を開放するエンターテインメント」として、楽塾の元気を発掘していきます。まずは高市さんにその先陣を切っていただきました。

「今池平和寮ではミュージック・ケアを催しています。ミュージック・ケアは、今池平和寮の午前中に行なう寮内の音楽的訓練で、参加者がリズムを取って身体を動かします。今夜の始めはこの楽塾で、ミュージック・ケアをやりたいと思います」と高市さん。

カセットから音楽が流れ始めました。「トトロ」の挿入曲です。息をゆっくりと吸ったり吐いたりするヨガ的な呼吸法で体操をします。2曲目では身体をゆったりと左右に傾け、腕を片方の手で引っ張ったり、身体を動かし首を回

しました。最後は深呼吸をして息を調えます

このあと曲は変わり、指や脳に刺激を与える運動に移ります。「今日の昼食に何を食べたか忘れてる人、昨夜何をしたのか忘れた人、こんな人はちょっと危ないね。身体に刺激を与えてみましょう」。高市さんのユーモアとパフォーマンスが教室に熱を吹き込んでいきました。両手で手を打ったり、腕を手でたたいたり、足や腰を打って段々リズムが取れるようになってくる。「さあお腹をたたきましょう！」高市さんの号令が延々続きます。

今度は親指、人差し指、中指、小指…と指を動かしながら、腕を上げたり降ろしたり、それぞれの指をマッサージしながら、ギュッギュッと握ったりして刺激を与えます。「引っ張って痛かったら病気で〜す」と高市さんはみんなを病気にさせながら、塾生の日頃のストレスを、ここで発散してもらうよう声をかけていました。

さて次はおじゃみが全員に渡されました。三味線演奏に乗っておじゃみでお手玉をします。右から左へおじゃみを投げ上げるのですが、この反対回しは大変難しい。つまり左から右に投げ上げるだけの事なのですが、大体の人は右から投げ上げる習慣のようなので、すぐに取りこぼしてしまうのです。そして最後は天井までおじゃみを投げ上げて仕上げをしました。

さてサポーターが全員に鳴子を手渡し始めました。「2班に別れます」と高市さんが指示を出し「エッチャラホ、エッチャラホ」と掛け声をかけ始めながら、1班が鳴子を鳴らしその後2班も続きます。この頃にはもう汗が出てきて、身体が柔らかくなってきました。「極楽ルンバ」をバックに鳴子が部屋中に鳴り響きます。全員の鳴らす鳴子の音が段々と一体になっていき、人との触れ合いが身近に感じられるような不思議な時間が過ぎていきました。

ノンストップこそミュージック・ケア？

このあとは鈴の楽器が手渡されます。「さて！ 皆さんお疲れモードなので、ちょっとゆったりとまずは鳴子でリズムを取り、次に鈴でリズムを取ります。そのあとは両方でリズムを取ります」。鳴子と鈴のリズム合奏は高市さんから「みんな音のとり方が大変上手！ 今まででこんなの初めてです」なんてリップサービスもいただきました。しかしこの最中、M君が気分を悪くしてしばらく休息に入ります。普段から病弱のM君は無理をしたのかも知れませんが、でも楽しかったので我を忘れたのかも。



これに懲りず、まだまだ続きます

30センチ位の上下にボールがついているスティックを手渡されました。このスティックに先ほどの鈴楽器を通し、それを上にあげ下にさげ、左右に振ったりとリズムを取ります。このあとは肩たたき棒を持ち「今日はメーデーです。

オーと言って声を上げてください」と言いながら、ダンスミュージックをバックに肩をたたき、足をたたいたりしてリズムを取り続けました。

前半の最後はタオルが回ってきました。このタオルに先ほどの鈴楽器を入れてこれを回したり振ったりして合間に「アッハーン、アッハーン」「ニャン、ニャン」「ワンワン、ワンワン」などと擬音や合いの手を入れながらリズムを取るのです。今から考えると、休憩なくノンストップのミュージック・ケアでしたが塾生諸君は精一杯頑張りました。M君こそ倒れてしまいましたが「高市さん、これケアになってるんかいな（笑）」。

ということで前半終了しクールダウン。



<後半——トーンチャイムで「楽塾楽坊」>

いろいろな人が奏でるいろいろな音色

平和寮では「十二楽坊」という音楽グループによる取組みを毎週2回されていて、出張演奏なども盛んです。このリーダーがやはり高市さんなのです。本日のメインイベントでありワークショップでは、「十二楽坊」ならぬ「楽塾楽坊」を楽塾に出現させようという、高市さんの魂胆でありました。

ドレミの音階ごとに長音短音などの音が、トーンチャイムという楽器のスイッチを押すごとに鳴る仕組みです。塾生は1つあるいは複数の音階番号を記したトーンチャイムを持ちます。音階番号を記した文字盤〔譜面〕を高市さんが指揮棒で押えながら指揮をすると、複数の番号ではきれいな和音となってトーンチャイムが響くのです。簡単な曲では譜面の面積は小さいのですが、複雑な曲になると譜面はすごく長いものになります。だから指揮をしながら、高市さんは調節しながらその譜面を繰り上げていくのです。

高市さんは「書かれている和音は、いろいろな人たちが奏でるのですが、それぞれの人生をもつ人たちが奏でるわけですから音色も変化します」と、同じ音階でも演奏者によっては音色にも違いが表れると話します。また「ピアノでは1人で弾いて満足だけれども、このトーンチャイムは皆で1つの音をつくりあげていき、協力した中でみんなが満足する音楽なのです」と語りました。それにしても第2の犠牲者（！）があらわれました。初めて参加のTさんがトーンチャイム途中でダウン。でも「楽しかったので来週も来ます」と言ってくれて安心しました。彼女は少しばかり人いきれに圧倒されたようです。



気付けばふり続けていた元気の旗

「ふるさと」の演奏を何度となく練習しました。指示された番号の音を持つ人がたまたま音を出さずに通り過ぎてしまうと、高市さんは「何番さん音がでてないよ！」と檄が飛んできます。チャイムを持つ塾生達は、自分の音を見逃さないよう必死で譜面を凝視していました。それにしても2時間あまり、高市さんの独り舞台というか、パフォーマンスが冴えわたった授業であったと思います。多くの塾生にとって、元気という旗をふり続けられた週末であったのです。いやあ給食が待ち遠しいくらいにお腹が凹んでいました。前山僧侶のいつもの沢庵と、北海道土産が上手かった食後でした。講師の高市さんご苦労様でした。



今回の授業では、高市さんのパートナーであるご主人の協力をいただきました。トーンチャイムの準備や、高市さんの演奏指揮でのサポートをしていただきました。ありがとうございました。同じく授業をサポートしてくれた中山さんと八山君に感謝します。

<5月8日(土)の予定>

失職者らの仕事づくりを始める契機となったのが(株)美交工業の就労支援でした。福田専務や加藤部長の協力がなければ、「くらし応援室」も違った方向に向かっていたかもしれません。加藤部長はアメリカ村のクラブシーンなどでDJをしていて、何度か彼のライブを見に行っていたことがあります。また私の定期的ライブDJを開催した折にはレコードを回してくれました。今回楽塾の授業では、2枚のアナログレコードをミックスします。塾生それぞれがDJとなり、「クラブ楽塾」でサタデイ・ナイト・フィーバーを楽しみます。

☆5月のテーマ：心を開放するエンターテインメント☆

第6回目の授業予定

- テーマ：サタデイ・ナイト・クラブ
- 講師：加藤 信貴 氏 (株)美交工業部長
- 日時：5月8日(土) 18:30～21:00
- 場所：楽塾 (三星温泉地下交流室)
- 費用：1,000円 (給食費500円を含む)

第6回目の授業が終わりました（通算76回）

呪縛

楽塾では月間テーマとして「心を開放する～エンターテインメント～」と題し、これまで二夜のお祭り騒ぎを体験してきました。音楽を介在し、あるいは身体を動かすことで、日常の不安や緊張、恐怖など、刺激的な生活やさまざまな呪縛からの逸脱を試みる授業の実践です。日常からの逸脱とは非日常を作り出すことで、芸術はその表現をつかさどる典型的な媒介役だと思えます。

私たちはなんらかの呪縛に影響され、精神的な苦痛に痛めつけられているのかもしれませんが。ある人を愛し恋の呪縛で身も世ももたぬ、なんていうのはまだ日常にいろどりを与えてくれ、悩ましくもちょっと嬉しい非日常ではありますが、携帯やインターネットなどを片時も離せず、情報やポイントカードなどの呪縛にはまり、企業のマーケット戦略に取り込まれたりして、精神的、経済的に搾取を受けたりします。過去には国を変え社会を変えるという妄想で、青年たちが人を殺しあったこともありました。政治や宗教への幻想が呪縛となって、いかに人間性を失うかという見本のようなものでした。

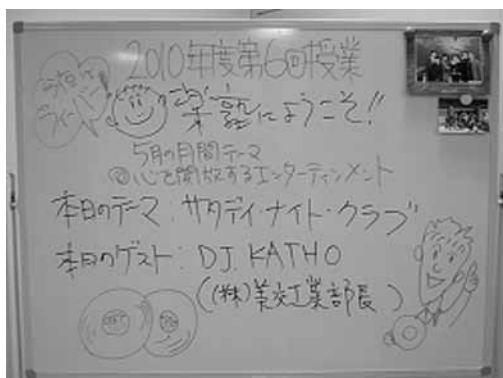
「心を開放する」ことは、幻想や呪縛を取り外す作業です。このテーマはあと2回続きます。そして、ひきつづき6月の月間テーマは「アートをくらしに」がテーマで、日常の非日常化を体験するプログラムにしたいのです。

5月10日 塾長

☆5月のテーマ：心を開放するエンターテインメント☆

5月8日（土）の授業

- テーマ：サタデイ・ナイト・クラブ
- 講師：加藤 信貴 氏 ((株)美交工業部長・DJ. KATOH)
- 日時：5月8日（土）18：30～21：30
- 場所：三星温泉地下交流室
- 参加者：11名



<前半——まるでメドレー・リレーのように>

曲をつなぐタイミング

ミキサーおよびスピーカー、ターンテーブル2台などを用意し、その上で私が所蔵するEPレコードおよびLPレコードを4つの机の上にディスプレイし、まずは準備を整えました。5時半ごろLPレコードを抱えDJ. KATHOが到着。機材調整に入ります。一番乗りの女性塾生Tさん・Aさんたちや、風呂上りのM君が並べられたレコードを眺める中、常連たちも集まってきていつもの楽塾が開いていきます。

冒頭、講師の加藤さんが得意のDJについて説明します。「皆さんの中には誤解をしておられる方もいるかもしれませんが、僕のDJは、レコードの回転を操作してオリジナルなリズムやメロディを作るスクラッチとは違います。スクラッチとは、ラップミュージックなどでレコードの回転を操作し、キュッキュッキュッと聞かせるあの摩擦音の

ことですね。

加藤さんのDJでは、2枚のレコードを2台のターンテーブルに乗せ、まずは最初のレコードを演奏していきます。基本は曲の終わりと次の曲の始まりをうまくつなぐことにあります。つまり、曲の頭だしのタイミングを見つける技術がジョッキーの腕なのです。2曲あるいはそれに続く複数の曲目たちが、リズム・和音・旋律（これを音楽の三要素だと中学校の時に習ったような…）のバランスをうまくつなげていくことが大切で、途切れることなく、すべての曲が一体となってミックスで演奏されていくのですね。まるでメドレー・リレーのように。

加藤さんが所蔵のレコードを引っ張り出し、まずは機材やレコードを調整しながらDJの見本を見せてくれます。そして「皆さんの気に入った2曲を選んでいただいて、今夜は皆さんにDJになっていただきます」。



歌謡曲でミックス

最初に2曲を選んでターンテーブルに乗せたのはM君でした。彼が選んだ曲は美空ひばりの「悲しい酒」とケンさんと高倉健の「網走番外地」でした。M君の操作も少し難しそうでしたが、1台のターンテーブルの調子がよくなく、回転にムラが生じてきました。それにしてもこれらの歌謡曲はリズム感がなく、あまりつなががよいとは思えなかったのです。結局機材の不調もあり、みんなの選曲したものを加藤さんが引き受けDJすることに決まりました。その前にレコードの選択も大切なので、加藤さんの選曲から始めました。スタイル・カウンスルからマイケル・ジャクソン、ハービー・ハンコックとつないでやはり洋楽の強みというか、リズム感がフィットしています。



塾生の選曲をつないでいく

ハービー・ハンコック（第1曲目加藤氏選曲）⇒黒いオルフェ⇒荒野の七人（以上T1さん）⇒ゴッド・ファーザー⇒夢は夜開く・園まり（以上M1君）—この選曲には調子が狂いっぱなしでみんな大爆笑— ⇒太陽は一人ぼっち（T2君）⇒赤色エレジー（M2さん）—これもつなぎ悪い〜！— ⇒鉄道員（I君）⇒大脱走（Aさん）⇒スター・ウォーズ（K君）⇒夏の日の恋⇒ひまわり（以上T3さん）。

比較的選曲にサウンドトラックが多く、その限りでは旋律・リズム的に違和感はなく自然に聞けましたが、あいだに歌謡曲やフォークが入るとリズム感が変化し、拍子抜けしてしまう場面がいくつかありました。



<後半——給食とフリーな音楽タイム>

ミックスは続く

休憩をはさんで、ピンク・レディーのU F O⇒およげ！たいやきくん（以上T4君）⇒ライク・ア・ローリング・ストーン（M3君）⇒黒く塗れ⇒ホテル・カリフォルニア（以上M2さん）⇒ジェルソミーナ（K君）⇒ローハイド（I君）。給食時間が迫ってきて、音楽ミックスはローハイドで終わりました。

それにしても、音楽を聴いている瞬間の塾生たちの気持ちよい顔から幸福感をもらいました。音楽は時間芸術です。あっという間に時は過ぎていきました。加藤さんは、瀕死のターンテーブルを何とか持たせてくれていましたが、マシーンはかなりヘタっていたようです。

給食後は好きな音楽をかけてミュージックタイムすることになりました。やはり自分の好きな曲を選び、1台のターンテーブルを使いお皿を回し続けました。

以下は今回の授業で各自が選んだ音楽のタイトルです。音楽を聴きながら、あちこちグループで四方山話が聞かれました。





自分の好きなレコードをまわして

春夏秋冬（泉谷しげる）・故郷へ帰りたい（J. デンバー）・22歳の別れ（風）・百万本のバラ（加藤登紀子）・サウンド・オブ・サイレンス（サイモン&ガーファンクル）・西暦2525年（ゼーガとエバンス）・ヘッドライト（サウンドトラック）・十番街の殺人（ベンチャーズ）・やさしく歌って（ロバータ・フラック）。甘い囁き（アラン・ドロン&ダリダ）・悲しき天使（メリー・ホプキンス）。

アナログレコードは一定の時代までに生産が終わりました。特にアナログを知らない世代の人たちには珍しくもあり、親しみのない場合もあるので、CDレコードによる音楽タイムを考えてみたいとも考えました。それでも、今夜も時間を超過してしまう授業になりました。



<5月15日（土）の予定>

熊谷さんは、たくさんの資格を持つドクターコースの院生です。たとえば大型免許・玉がけ資格・水泳指導員、そのほか何でも。そのうえ河内音頭の名取りでもあるのです。河内音頭の名取の家庭で生まれ育ち、世襲として跡取りとなった熊谷さんですが、華々しいイメージの中にもずいぶん苦勞をした経験を聞かせてもらったことがあります。第7回目の授業は、博士を目指す河内音頭の名取りという、ユニークな経歴を持つ熊谷美香さんに登壇していただき、興味深い河内音頭を、塾生とともにエンターテインメントな“料理”を作ってもらいます。

☆5月のテーマ：心を開放するエンターテインメント☆

第7回目の授業予定

- テーマ：日本民謡へのいざない
- 講師：熊谷美香氏
- 日時：5月15日（土）18：30～21：00
- 場所：三星温泉B1F交流室
- 費用：1000円（給食費500円を含む）

<授業日変更のお知らせ>

5月22日（土）に予定していました稲田七海先生の授業日が変更されます。変更日は5月29日（土）となり22日はお休みです。楽塾の授業は週4回で5週目がお休みですが、今回のみ29日の休校代行日を授業実施日とさせていただきます。

来週22日は楽塾の休校日です。ご迷惑をおかけしますがご注意をお願いいたします。

第7回目の授業が終わりました（通算77回）

映画の上映会

「一根も葉もない噂話に悩まされたことってないですか。あらぬ疑いをかけられ、困ってしまった経験は？自分にとっては濡れ衣にもかかわらず、無実の罪をきせられ「えん罪」として今も監獄から叫び続ける人たちがいます。こんな書き出しで映画上映会のチラシ告知を作りました。足利事件の完全無罪は決定したものの、犯人の行方はようとして知れず、また、いまだ煉獄につながれる人たちの叫び声が地の底から湧きあがってくるのです。

えん罪をテーマに映画上映会を企画したのは3月後半でした。人間の存在への否定が国家や警察権力の手によって白昼堂々まかり通る現実、私たち市井のメッセージをこめようと、えん罪をテーマとする作品上映を企画しました。主催は「大阪市立市民交流センターにしなり運営共同体」です。私たちの「にしなりシネマアクション」が共催します。第1回目の5月28日（金）は、63年に起きた狭山事件をテーマにした「狭山の黒い雨」のフィルム上映（モノクロ）です。この映画は映画評論家である故淀川長治氏が絶賛したといわれている作品でもあります。

これを契機に月1度、えん罪をテーマにした作品の上映会を続けます。私たちの身に降りかかる可能性がこれからもないとはいきれない問題を、映画をヒントに考えてみませんか。詳細は以下の記事を参考にどうぞ。

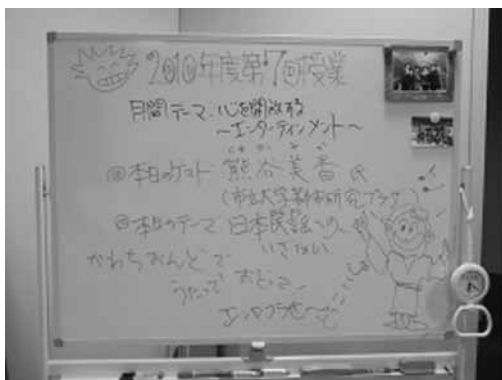
5月17日 塾長

「にしなりシネマアクション」狭山の黒い雨ご案内（別添）

☆5月のテーマ：心を開放するエンターテインメント☆

5月15日（土）の授業

- テーマ：日本民謡へのいざない
- 講師：熊谷美香氏（大阪市立大学都市研究プラザ）
- 日時：5月15日（土）18：30～21：30
- 場所：三星温泉地下交流室
- 参加者：14名



<前半——よおっ！二代目>

民謡漬けの幼少時代

三味線、尺八、たくさんの楽譜集、称号をあらゆる看板類などなどたくさんの荷物をたずさえ熊谷さんが登場しました。彼女は、「日本民謡青山会」の二代目として10年前、この会の会主を引き継ぎました。もともと熊谷千鶴である祖母から、熊谷百鶴という名前をいただいていた二代目だということでした。

「幼いころ、気がついたら歌っていました。初舞台は3歳の時でした。でも私は好きでやっていたわけではなかった。遊びたい盛りに稽古をしなければならず、とくに小・中学生の頃、日曜日は祖母に連れられ舞台に連れて行かれた」。物心のついた反抗期の頃もあったそうですがとにかく続けてきたそうです。

「中・高校生の頃になると、TVにも出演するようになって来ました。北海道・東北など日本民謡の全国大会で優

勝もしてきました。自分の気持ちとしては、あまり人に知られたいくなかった」が、TVやラジオなどメディアで露出しはじめていき、徐々に学校で友人たちに知られていくようになっていったと話します。

「日本民謡青山会」は、昭和43年、先代である祖母が長唄の経験をいかし、民謡の魅力に惹かれて創設したといっています。中国のことわざ「人間万事青山に伏す」の故事に習い、その「青山」が会名称の由来となったのです。熊谷さんにとって、祖母は絶大な師匠であったわけです。



日本民謡の類型と分類

「民謡とは生活の喜びや、仕事のつらさを歌に代え、拍子をとる掛け声と素朴な節をつけたところに特色がある」といいます。「民謡の多くは農村から発生し、これらのほとんどが踊りを伴い、農民の慰安に貢献した」と熊谷さんのレジュメにも書かれていました。民謡の類型としては、大きく分けて①大勢で歌う唄。これは集団で手拍子や踊りを伴い、2拍子の曲が多いそうで、代表的な民謡では山形県の「花笠音頭」が有名。②一人で歌う唄は手拍子がとれない複雑な節回しを持つ歌で、馬子が馬をひき一人のんびり歩きながら歌う長野県の民謡「小諸馬子唄」などが有名。

民謡の発生による分類では、労働歌（仕事の辛さを紛らわす）、斉太郎節（漁師たちの船こぎ歌）、祝い歌（さまざまな祝儀に歌われる）、踊り歌（盆踊り、大漁唄など。河内音頭はその典型）、宗教歌（神楽などの元になるもの。コキリコ踊りが有名）、子守唄（子どもを眠らせるための唄）など多岐にわたるのですね。

日本民謡の構成要素

熊谷さんが演奏する楽器は尺八、三味線、太鼓だそうです。「尺八の場合は音を鳴らすだけで3年、舞台に立つまでに約10年近くかかる」といわれているそうです。ここで2本の尺八が塾生の間に回ってきました。しかし、必死に吹いてもなかなか音が出ません。ところが初めて来塾したOさんの尺八から音が出ました。「ほう〜」と教室がどよめきました。尺八は湿度があるほうがよく聞こえるといい、尺と寸で語られ、尺が長ければ音が低く短ければ音が高くなるということらしい。（佐々木注：尺は1メートルの33分の1、寸はその10分の1のこと）。後から来た前山僧正も音を鳴らしていました。

「三味線は太棹（ふとざお）、中棹、細棹に分けられ音色や音量に差異が出ます。皮の部分は2〜3年で張り替えなければならないが高価なものです」と熊谷さんは説明します。三味線は大変感覚的な楽器のようで、ギターとは違い押さえるツボをその時の気分に任せて演奏するようです。三味線もそのときの湿度や温度で音色が変化するようです。





調弦について

尺八なら一寸刻みで音が変わります。三味線はギター同様に弦を調弦します。三味線は三弦が基本で、本調子、二上り、三上りなど和音の調弦法があり音調を変化させます。熊谷さんは調子笛を使って、自分の音域を確認し調弦し始めました。「音感が重要な要素です」と熊谷さん。次にパチの使い方に移りました。パチには白パチと黒パチがあり、白パチは落ち着いた曲に、黒パチは賑やかな曲に使うそうです。音曲によって素材が違うパチを使うのですね。またパチの弦への接し方によっても音が変わります。弦を引っかいたり、スツたりと多様な技術があるようです。



<後半——民謡を楽しむ>

三味線で合唱♪♪

映像を使って奉納コキリコの舞を見ながら後半の授業が始まりました。各人に楽譜を配りながら、五線譜ではない三線楽譜の説明を聞きました。そして熊谷さんは、民謡の中でも知っている曲、聞きたい曲、歌いたい曲をみんなに尋ねます。リクエストしてもらいながら、熊谷さんが演奏する三味線をバックに一緒に歌うことになったのです。

まずは鳥取県の貝殻節がリクエストされました。これを合唱します。♪何の因果で 貝殻節漕ぎなるた（カワイヤノーカワイヤノー）色は黒なる 身はやせる（以下略）。漁師の悲哀を歌ったものです。

そして山形県の花笠音頭で掛け声をかけます。♪めでためでたの若松様よ 枝も栄えて 葉も茂る（以下略）。

熊谷さんは民謡の要諦は「守破離」だといいます。守は基本を守ること。破は基本を離れて自由さを取り入れること。離は自分の芸を確立すること。自らのオリジナリティーを創造するまでには時間がかかります。





補導された！

先代師匠がなくなり会主となった熊谷さん。活動の苦勞が付きまといます。お金になるのはTVやイベントだが自治体などの盆踊りなどはあまり期待できない。過去大きな舞台としてはサンケイ、厚生年金ホール、東京の日比谷文化や武道館あたりで歌ったそうです。華やかな芸歴なんですね。しかし「舞台上は華麗ですが、舞台裏はしっちゃかめっちゃか。汗びっしょりですすごい状態なんです。舞台衣装は華やかで、非日常的な姿で歌うのです」と話してくれます。

いやいやだが生活の一部になりつつあり、中学校時代は伝統芸能という日常の呪縛から自らを開放することもあったらしい。「いちばん遊びたい盛りに民謡の家元の家に生まれ、言われたことをしてはいたが、いやでそこから逃げるばかり考えていた。バイクを盗んで補導されたり、やんちゃをしていたこともありました。4人姉弟全員が祖母の指導を受けていたが、最後は私一人が続けていたのです」。

「そんな子ども時代のトラウマがあったのですが、これまで、このように前に立ってこんな話をしたことはなかった。楽塾でこんな機会を与えられ、これが出来て自分が開放されました」。熊谷さんは今までこんな話を人前で喋ったことがなかったという。喋ることで自分をさらけ出してしまったといいます。まさに5月の月間テーマ「心を開放する」にフィットしました。塾生だけではなく、講師である熊谷さんも回復を実感したのですから。彼女は「こんな家に生まれたくなかったと考えていました。でも芸は身を助けるといいます。今はハッピーです！」とのこと。

こうして最後は三味線をバックに、北海道のソーラン節を全員で合唱。この曲はたいていの塾生が歌いました。♪
 ヤーレン ソーラン ソーラン ソーランー ソーラン ソーラン (ハイハイ) 鯨 (にしん) きたかと鵜に問えば
 わたしゃ立つ鳥 波に聞けチョイ (以下略)。

熊谷会主お疲れ様でした。





<5月29日(土)の予定>

稲田さんには、楽塾開校以来3度目の授業をお願いすることになりました。「端っこの人々」「端っこの暮らし」が大好きという稲田さんは、とくに辺境や離島を旅することが大好きです。過去2度の授業は、トカラ列島南端に位置する悪石島の生活、風習、そしてそこに暮らす人々の話を聞きました。「とにかく閉鎖的、島国根性といわれるけれど、海に開かれ交易や流通を育み、文化を受け入れてきた日本は、実は開放的な民族性を持つ」とは(株)ナイス富田社長の説ですが、稲田さんのお話は、まさにその裏づけを確認できた印象でした。ワクワク感がつのる稲田さんの授業は、まさに一級のエンターテインメントだと思います。

☆5月のテーマ：心を開放するエンターテインメント☆

第8回目の授業予定

- テーマ：旅—究極のエンターテインメント—
- 講師：稲田七海氏
- 時間：5月29日(土) 18:30～21:00
- 場所：三星温泉B 1F交流室
- 費用：1000円(給食費500円を含む)

<22日はお休みです…授業日変更のお知らせ>

5月22日(土)に予定している稲田七海さんの授業日が変更されます。変更日は5月29日(土)で22日はお休みになりました。楽塾の授業は週4回で5週目がお休みですが、今回のみ29日の休校代行日を授業実施日とさせていただきます。ご迷惑をおかけしますがよろしくお願いいたします。



にしなりシネマアクション

根も葉もない噂話に悩まされたことってないですか。あらぬ疑いをかけられ、困ってしまった経験は？ 自分にとっては濡れ衣にもかかわらず、無実の罪をきせられ「えん罪」として今も監獄から叫び続ける人たちがいます。「えん罪」は、私たちの日常生活を根もとからくつがえし恐怖に落とし入れるものです。自分にとってはまったく無関係な日々を暗転させ、人生の大半を獄舎で過ごさざるを得ない結果を負わされることもあるのです。検察・警察権力に加え、閉ざされた取調室での孤立、孤独の中で自白の強要と人間性を奪われ、きびしく追及され続けます。私たちは、あってはならない「えん罪」という作られた犯罪を想像し、被疑者とされる人々がどんな経過で犯罪者にされていくのかを、「えん罪」をテーマにした映像作品をヒントに考えてみたいと思います。月に1度の上映会「にしなりシネマアクション」にご期待ください。

第1回<にしなりシネマアクション>

狭山の黒い雨

(1973年 / 106分 白黒 / 製作: 部落解放同盟大阪府連)

監督: 須藤 久・美術: 木村威夫・キャスト: 桜井弘史 / 田中春雄

1963年5月1日。埼玉県狭山市で女子高生が拉致され、脅迫状が届けられる事件が発生した。身代金を取りに現れた犯人を、40人もの警官を張り込ませながら取り逃がし、2日後女子高生の遺体が発見された。警察の失態に非難が集まっていくなか、捜査に行き詰った警察は、予断的に同和地区の石川一雄を別件逮捕し、うその自白を作成して彼を犯人にでっち上げていく。まったく犯行には身に覚えの無い青年が、検察、警察権力の横暴により犯人にされていく。社会的な関心に加え、部落解放同盟の地道な闘いが始まっていく。世に言う狭山事件の発端である。

●入場料: 無料

●と き: 2010年5月28日(金)

14時・18時30分の2回上映

●ところ: 市民交流センター(2Fホール) 06-6561-0007

*市民交流センターは、旧青少年会館(西成区長橋2-5-33)の新しい呼称です。

第2回<にしなりシネマアクション>のおしらせ

松川事件 監督: 山本薩夫 / キャスト: 宇野重吉・信 欣三

1949年8月17日午前3時9分。福島県の国鉄東北本線松川駅北で、上野行き旅客列車が脱線転覆し、機関士3名が死亡するという事故が起きた。左翼勢力の犯行とされ、国鉄東芝松川工場の労働組合員たち20名が逮捕され、主犯格には死刑を求刑。えん罪事件として発展する。1961年差し戻し審で全員が無罪となるのだが。(61年・新東宝作品)

●とき: 2010年6月25日(金) ●ところ: 市民交流センター ●入場料: 無料

主催: 市民交流センター(旧青少年会館)

シネマアクション上映実行委員会 協力: ㈱ナイス / くらし応援室

第8回目の授業が終わりました（通算78回）

3年目の楽塾

太陽暦で入梅は6月半ばということですが、昨年同様今年も雨が多く、すでに梅雨入りの様相です。衣替えの時期にもかかわらず、一日の寒暖の差が顕著でいまだ外出着の選択には苦勞をします。その点、サラリーマンの背広というものは、制服のようであまり好きではなかったのですが、しかし大変合理的だと思うようになりました。夏、冬服もあれば合服もある。その都度選択して着用できるし便利な道具です。スーツなど形式的なものへの反発から、ネクタイ一本持たなかった私ですが、カジュアルの対極としてのスーツ姿も魅力的でおしゃれにもいいかもです。衣替えならぬ宗旨替えもいいなあと考えている昨今です。

さて、楽塾の授業は今週から第2クールに突入します。6月の月間テーマは「アートをくらしに」と題し、美術や工芸を活動の核にする講師たちが登場し、日常の暮らしから価値の転換を試みます。7月は「異文化とは“自分”と何が違うのか？」というタイトルで、まさに人間一人ひとりが「異文化的存在」であるという理解に立ち、人の本質を確かめる授業にしたいと思うのです。

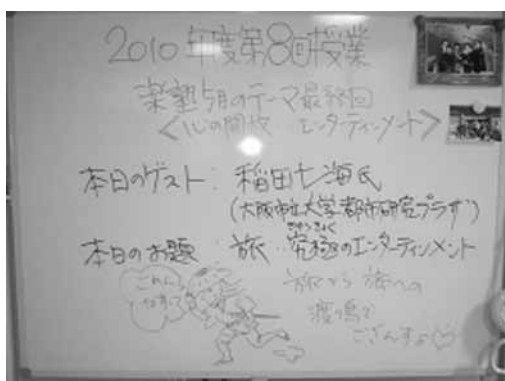
そして、本年7月で楽塾は3歳の誕生日を迎えます。これまで参加や応援していただいた塾生、楽塾講師、応援団の人たちには心から感謝の心をお伝えいたします。

5月31日 塾長

☆5月のテーマ：心を開放するエンターテインメント☆

5月29日（土）の授業

- テーマ：旅……究極のエンターテインメント……
- 講師：稲田七海氏（大阪市立大学都市研究プラザ）
- 日時：5月29日（土）18：30～22：00
- 場所：三星温泉地下交流室
- 参加者：11名



<前半——甕島（こしきじま）探訪>

甕島のあらまし

「日本列島から少し離れたマイナーな島、甕島についてのお話をします。この前はトカラ列島にある悪石島のお話しでしたが、そのトカラ列島から北上して東シナ海海上に甕島はあります」。稲田さんは、九州のトカラ列島、沖縄諸島など数ある島々の中でも甕島は、最も注目度が低い島であると話し始めました。地理学的には上甕島・中甕島・下甕島の三つの島からなる列島。三島の面積を合わせると約118平方km、総人口は6,206人ということです。

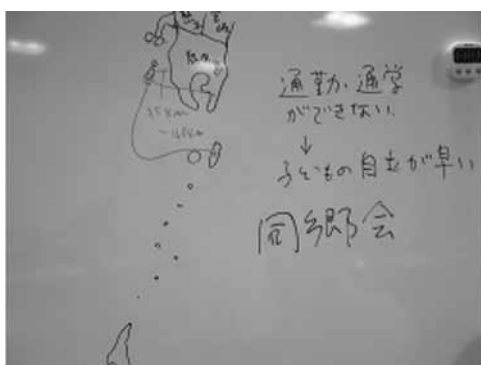
「甕島は、鹿児島県薩摩川内市いちき串木野港から西洋上にあり、甕島の下甕まで直線距離で約40kmの位置です。本土からの日帰りが不可能なくらい船便も中途半端で、本土への通勤や通学もできないのです。島には中学校しかなく15歳になれば島を出て進学をしたり、独自の暮らしを立てていく」といいます。「作物ができてくく、海も荒れやすい。

豊かになれず貧乏な島であり、親の子どもへの教育も熱心なため進学率も高く、子どもの自立心が早いのです」と稲田さん。

「甑島は離島への一般的なイメージ、例えば南国的リゾート感やトロピカル感が全く見えず、海がよく荒れ、海流や季節風の影響で波が高く、4mの高波が来ると船便も即運休」だそうです。

ドクターコトーと診療

マイナーな島とはいえ、唯一「ドクターコトー」というコミックのモデルになったことがあります。そのモデルになったお医者さんは現在70歳を超えいまだ現役で、その役割の重要さから60歳の診療所定年をどんどん更新しているようです。島には高齢者が増えていき、島内にある診療所の役割には大きな期待がかけられているといいます。「下甑島出身者は同郷会を組織し、尼崎市内には下甑島同郷会がある」そうで、「島で行われていた行事や祭りを本島で開催して、甑島よりも盛んになっている」らしいです。



稲田さんにとってなぜ甑島なのか

実家にあった「トカラ海と人と」という本を読み、離島に興味を持った稲田さん。これまで構想していた修士論文研究テーマを離島に変更したそうです。しかも「地域介護力」日本一の村が上甑島ということでもあったので、2000年4月に旅立ったのでした。稲田さんにとっては、離島のホスピタリティや福祉という特色が、個人的関心に結びついたようです。だからここ数年はご無沙汰だといいますが、毎年甑島には通っていたといいます。これらの具体的なお話は後半のお楽しみになります。

甑島の生態系・地形・民俗・信仰

「生態系については、私も鹿児島県出身で、大学入学以降、関西や関東で暮らしていますが、鹿児島を離れたときは、関東の山がきれいだと実感しました。1本1本の木のシルエットがちゃんと見えるのです。九州の山々は、木と木の間にかずら（つる草の総称）が木と木に絡み合い、生態系がすごいので山が荒れたように見えます」。

「地形の特色として、『トンボロ地形』というのがあります。海を隔てた陸と島の上に現れ砂州によって陸続きになる現象です。沿岸流や波の作用でできます。上甑島ではこのトンボロ地形の上に住宅地が密集しています。函館や男鹿半島、江ノ島、潮岬などはこの地形と同じです。『海跡湖』というのは、島を代表する景勝地「長目の浜」にある、4kmにわたる地形の崩落あとにできた湖のことで、ここには巨大うなぎがいたり、甑島とバルト海にしかいないというクロマチウムという原始的微生物が生息しているといいます」。謎の多い場所といわれているそうです。

「『かずら立て』というお祭りがあります。島民は、木に絡みつかずらを取ってきてそれを編み大蛇に見立てる」というのです。「完成後、男は顔を白塗りし、女はさまざまな衣装を着飾りながら、80から100mもある長さの大蛇を担ぎ、島中にある集落から集落へと練り歩きます。見物する人たちはその行列に水をかけるのが習いだが、その由来は分からない」らしい。最後は村の広場に集まり、かずらでできた大蛇をとぐる巻きにし、その上に若者たちが上って踊るといいます。「また『トシドン』という仮面をかぶる儀式があります。日本での仮面形式の舞踏は、沖縄・甑島・悪石島の三つ」だそうです。戦前、種子島に移った島民が「トシドン」を種子島で広めたといわれているようです。



「甌島のトシドン」がユネスコ無形文化遺産に登録！！

→ <http://www.city.satsumasendai.lg.jp/www/contents/1217548357166/>

『隠れ山』は、薩摩藩の一向宗弾圧によって信徒たちがひそかに仏像や経文を隠したといわれる場所。隠れ念仏の里として島民の信仰を支えたようです。またもう一つ『隠れキリシタン伝説（クロ宗）』といわれる土着の宗教があります。死の近づいた人の生き血を飲み、生肝を取り出して食べるという儀式で、なんともおぞましい伝説です。クロ宗のクロとはクロス（十字架）のことで、キリスト教弾圧に対し、信者たちが生き延びるために恐ろしい伝説を作り、人を寄せ付けないバリアにしたのではないかと稲田さんは解釈します。

『万里ヶ島（まんりがしま）』という沈没島伝説があります。沈没伝説のある島は高麗島と万里ヶ島の2つあり、どちらも伝説が似ているらしい。甌島は、古来中国と密貿易を行っていたといわれ、あわび・キビナゴが豊富に取れ、島の経済を潤していたといわれている。『万里ヶ島に行ってくる』という言い回しは、薩摩藩をかく乱させる隠語ではなかったのか」と稲田さんは話します。



<後半——甌島は「地域介護力」日本一の村……だった>

介護保険制度は何をもたらしたか

甌村に興味をもった稲田さんの動機は、島のホスピタリティでした。島へ出立したのは2004年4月でした。しかしこの年、介護保険制度が開始しました。この制度によって、甌島は大きな影響を受けてしまいます。「介護保険制度ができる前までは、高齢者施設は65歳以上なら誰でも利用できた。だから施設は地域の社交場になっていた。また島には特別養護老人ホームがないので、その代わりに在宅で介護するための地域ボランティアや近隣の手を借り介護サービスを提供できた。それはお金を介在しない、元気な高齢者のボランティアであったり、さまざまな工夫や知恵で生きがい作りにもつながっていた。いわば住民総動員の介護サービスが甌島の特色になり、日本一の介護サービスを誇っていたといえるでしょう。1980年代、島に医者がやって来て以来、ボランティアの機運が高まってきました。ボランティア世代は高齢者が主体だから後続部隊を育てようと動き始めたのです。この島を観光の島ではなく、初めての福祉の島として認識を新たにしたのでした」。

「ところが介護保険制度後は月々の保険料を支払わなければならないし、サービスを受けるにはすべてお金がかかる。これは貧しい島人にとっては大きな負担にもなった。なによりも制度の縛りが厳しく、介護サービスにボランテ

ィアや地域住民が参加することを禁止したことがダメージとなったのです」。島が大切にしてきた人間のかかわりあいを、制度が希薄にしてしまった結果ではないのでしょうか。



給食は遅くまで延々続きました

給食時間も授業の一部が割り込んでしまいました。稲田さんは、自らのパソコンでトシドンの画像を投影し、旅の解説のため、自分の給食を食べる時間が遅くなってしまったのです。給食22時まで全員がおしゃべりに熱中しました。稲田さんご苦労様。



<6月5日(土)の予定>

本年2月初旬の修了記念旅行直前、「吉野から熊野へ part 2」を前山僧侶とコラボレーションして以来、4ヶ月ぶりに塾長自身が講師役となります。往時グラフィックデザインを職業としていた経験から、企業ポリシーを表現する手法としてのロゴタイプや、シンボルマーク、キャラクターなどを手がけたことがあります。企業という特定組織のための政策や方針を視覚的に支えたものなのですが、楽塾では個人の「存在証明」としてこれらの表現手段を利用できればと考えました。ワークショップを取り入れたプログラムにしてみたいと思っています。

☆6月のテーマ：アートをくらしに☆

第9回目の予定

- テーマ：君の存在証明……ロゴタイプ、マーク。キャラクターをつくる……
- 講師：佐々木敏明（塾長）
- 時間：6月5日（土）18：30～21：00
- 場所：三星温泉B1F交流室
- 費用：1000円（給食費500円を含む）

第9回目の授業が終わりました（通産79回）

鳩山さんのキャラ

民主党の鳩山さんが辞任しました。マスコミの批判が、世間の付和雷同をたきつけ、そのうえ同党議員までが選挙目当てに叩きまくった結果でした。歴代において退陣を余儀なくされた多くの政治家たちは、おそらく鳩山さん同様の苦渋、怨念、後悔、やり残した政務への心残りに悲嘆を禁じえなかったことでしょう。ひょっとすると世間への不信感も溜まっているかも。私は鳩山さんというキャラクターは好きだったのでちょっと残念な気持ちもあります。好きな理由のひとつは、これまでの首相にはない視線でした。社会的困難におかれたものたち、寄る辺なき人たちへの一定の理解と寄り添いへの意思を感じたのでした。もうひとつは品格です。政治家というのは、国内外をフィールドにし国の象徴的存在となる役割を担います。鳩山さんにはそれがありませんでした。失礼ながら、かつて私たちは気品というか品格ある政治家を首相に持つことなど稀ではなかったか。「金持ち、ボンボン」というような言質を弄し、世間はいかにも貧乏や庶民的感觉を盾にして首相の世間知らずをあげつらいますが、その貧乏や社会的困難者を排除するのも残念ながら世間です。政治とは平均値を開示し成果を問う仕事なので、世間は早々に結果のみを求めます。目先ばかりを考えずじっくり政治を考えてみたいものです。

6月6日 塾長

☆6月のテーマ：アートをくらしに☆

6月5日（土）の授業

- テーマ：存在証明 一君のロゴタイプ・マーク・キャラクターを作るー
- 講師：佐々木敏明（楽塾）
- 日時：6月5日（土）18：30～21：00
- 場所：三星温泉地下交流室
- 参加者：11名

<前半——存在証明の数々>

国家的な存在証明

「世界には200近くの国家がある。さまざまな政治や経済、文化的なスタイルを主張しながら存在している。そして世界に向かって象徴的にその国をアピールする道具が国旗ではないだろうか。国旗はその国が存在する証明のようなもので、シンボルマークといえる」。佐々木は国旗をその国の象徴として捉え、世界の代表的国旗をプロジェクターで画像を見ながら、資料も回覧して紹介していきます。

●ユニオンジャック

まずはスクリーンにユニオンジャックが現れました。「イングランド・スコットランド・アイルランド各国旗の統合されたデザインが英国の国旗を形成している。三国の旗は色彩は違うけれどそれぞれ十字が図案化され、これら3つを組み合わせると現在のユニークな大英帝国旗となる。しかし英国にはアイルランド紛争などがあり、国家的安定感を損ねている」と解説。

●日章旗

「次はご存知わが日の丸です。日章旗ともいい古来太陽信仰ということから真っ赤な色で太陽を表現してきたという。平安朝以降の文献には日の丸が見えるが、室町時代の勘合貿易、豊臣・江戸幕府前期などの朱印船貿易など、船舶での海外渡航時には船籍を明示する目的で日の丸が使われていたようだ。しかし国家として完成した明治期に、初めて日本国旗として制定された」。佐々木は、世界大戦に敗れるまで国旗というより、天皇制の象徴旗として利用され続けた側面が強いと強調しました。この中でA塾生が日章旗とは別の旗を見たと話しました。そこで画像を開くと旭日旗が現れA塾生もそれだと確認しました。「これは帝国日本の海軍旗で、実は現在も朝日新聞の社旗に利用されている」と佐々木はつけ加えます。

●星条旗

「アメリカ国旗は赤と白の横縞が13本並ぶ。旗の左上部には青色の地に50個の白い星があしらわれている。英国との独立戦争時アメリカは13州で構成され、その後、州が増えるに従い星が加算されていく。慣例として州が加入した日時は常に7月4日に制定されている」。これはアメリカ独立記念日が7月4日だということを塾生諸君は知っていました。このあとアメリカ国旗に影響された国の国旗なども見てみました。チリ、ウルグアイ、リベリア、エルサルバドル、キューバなどはアメリカ国旗のデザインに影響されているようです。「50個の星のあとにもう1個つけ加えるべきで、その国は日本だ」という塾生もいました。

都市の存在証明

日本の都市の証しとしてデザイン化されたシンボルマークがあります。「都道府県とは、市町村や郡などを持つ地方公共団体で、1道1都2府43県で構成されている。多くの都市や町で自治体としての市章や町章としてのシンボルを持つが、持たない自治体などは一般公募することが多い。大阪府の府章も一般公募であった。また、大阪市章は『みおつくし』といわれ、古くから大阪湾には船舶の往来が賑やかだったことから、海面に標識を浮かせ海路の交通標識にしたそうだ。その浮かせた標識のデザインをそのままシンボル化したのが『みおつくし』であったのです。

家の存在証明

「家をあらわすシンボルとして家紋が有名。日本古来からのデザインだが、定紋（じょうもん）、紋所（紋処＝もんどころ）、ともいわれる。代々から引き継いできたその家の存在証明のようなものである。紋章は武士階級を中心に歌舞伎役者、能狂言家系、実業家などに幅広く見かけられる」。私が子どものころは、まだ和服が普及していたので、胸や袖に紋処のある着物を着た男たちが冠婚葬祭などで普通に見られた記憶があります。ここでスクリーンに家紋の画像を映し出します。歴史上ちょっと変わった集団に所属していた人たちの家紋です。幕末の「新撰組隊士」たちそれぞれの家紋なのです。

近藤勇局長は、有名な丸に三つ引き紋をはじめ5つの家紋を所持していたり、山南敬介や沖田総司なども2つの家紋を持っていました。芹沢鴨も2つで1つは華麗なアゲハチョウ、もうひとつは丸に扇というデザインでちょっとおめでたいというか噺家風の家紋でした。たくさん隊士たちの家紋の中には、塾生の家紋と同じものもあるらしく、「あっ、それうちと同じ！」という声も聞こえました。そのほか、私蔵である紋典を回覧し見てもらいながら、塾生たちは家紋に興味を抱いていました。

<後半——自分で存在証明を作る>

企業の存在証明

「私たちの暮らしの中ではさまざまな印刷物、たとえば新聞、雑誌、ポスターやチラシが発行されている。またTVやパソコンのインターネットなどでもいろいろな映像、画像が見られる。その中でもよく見かけるのが、企業や団体などの広告宣伝類がにぎやかに踊っている。これらの宣伝文とか写真の中に、企業のロゴタイプ（会社や商品文字を独自のデザインで構成し作成したもの）やシンボルマーク、時にはキャラクターなどがイラストで表現されレイアウトされている。これらは競合企業や関連会社、消費者に対し強い視覚効果で自社アピールを行うものであり、これこそ存在証明でもある」と佐々木は言い、この日の朝刊を広げながら企業広告を一つ一つ検証することにしました。「これらはC I（コーポレート・アイデンティティ）と呼ばれ、企業のイメージアップを実現する上で欠く事のできない政策戦略」であると話します。「これらのC Iは時代とともにリデザインされ、数十年もたつとその変遷が際立って顕著に見えるデザインも多い」のです。ここでは企業のロゴタイプ、シンボルマーク、さまざまなキャラクターを画像や資料を回覧しながら視覚的に眺めてみました。

君の存在証明そして実践

「ところで私という存在とは何だろう。私を存在証明するものってあるの?」。するとM君が「住民基本台帳」と手

を上げます。「自動車免許証」という声もあがりました。確かに存在証明ではあるのです。しかしそれには個人の個性や、特色などは示されていない無機的な情報です。いわばその証明書を見る側が、当人を管理しやすいために使う道具とはいえないでしょうか。警察とか役所とかの。

「今夜の楽塾では、先ほどいろいろな存在証明を見てきたり、ロゴタイプやシンボルなどを学んだので、自分という存在に、広告表現などを利用してつくってみたらどうでしょう」と提案しました。自分という存在を仲間や他人にアピールすることができる個性豊かな作品を作ってみようということで、ワークショップが始まりました。画材は自由。カラーを使ってもOK。ところがもうブーイングです。「せっかく面白い講義を期待しているのにこんなことするんかいな」というT2さん。「まあそう言わんと描いてみよ」と佐々木。しかし作業しだすとみんな寡黙に描き始めます。T2さんは自画像を描き始めてそれが大変似ていて塾生から絶賛されています。

品評会

全員の作品が完成しました。自分の作品を自分で解説してもらうことにしました。

Oさん：イニシャルを基本ロゴタイプとしてデザイン。その中に飛行機がイラスト化されていました。「飛行機のイラストは、私がスチュワーデスになりたかったから」。

M僧侶：白い紙に黒色でなにやらシンボルマークが描かれています。「超愚という言葉は愚を超えて生きること。愚という言葉シンボル化して表現しました」。

Yさん：本日初めて来塾のYさんはシンボルマークとロゴが描かれていました。「カッパは私のキャラ。前から使っていたカッパのシンボルをリデザインした」。

Mさん：カラスのイラストが書かれているが、資料の中によく似たキャラクターがあるのだが……。 「少年鑑別所にいた時、カラスが居とった。そのカラスを描いてみた」。

T1君：4つのキャラクターが描かれている。ラビット、蛙、アラン・ドロン、ダンサー。「アラン・ドロンはあここがいたスターだった」。ドロンはよく似ていた！

I君：4つのうち1つはシンボルマーク。ほかは熊、鹿、猿のキャラクターが描かれている。「別に何かを意図して書いたものではありません。マークを描いてみた」

T2君：用紙いっぱい大胆に顔が描かれ、それが本人の顔にそっくりなのだ。笑いながら「自画像を描いてみました。以上」。愛想のない解説ではありました。

Aさん：猫のキャラクターが2匹。1匹は後ろ向きの猫がカラーで描かれ、もう1匹は鉛筆でデッサン風。「私は猫に助けられた。後ろ向きの絵が今回のメインです」。

Rさん：キュビちやんとリコロラムというキャラクターが描かれている。「私を可愛がってくれたおじいちゃんに買ってもらったぬいぐるみです。ずっと私と一緒にです」。

塾長も描きましたが文字の制約もありカットしました。塾生たちはなんだかんだ言いながら、すばらしい自らの存在証明を作り上げました

<6月12日(土)の予定>

毎週授業後においしくいただく給食は、楽塾塾生による田植え作業の賜物です。食事の大切な要件はお米だと思います。そして楽塾給食の大きな喜びは、大柳生のお米のおいしさにあります。今週は、いよいよ奈良大柳生にある南垣内さんの農場に行き、田植えを楽しめます。南垣内さんとの交流は5年以上で、楽塾の援農体験を受け入れていただき3年目になりました。田植えもさることながらサツマイモの作付けもなかなか楽しい作業です。青少年野外センターで夕食を作り、食後は真っ暗闇の中のホタル見物です。応援団の中でリラックスを体験されたい方はぜひご参加を！

☆6月のテーマ：アートをくらしに☆

第10回目の予定

●テーマ：田植えに行こう！

●講師：南垣内貞史氏（農場主）

●時間：12日（土）8：30 ビアン前発／10：00 大柳生着・
田植え作業およびサツマイモ苗植え・
17：00 夕食準備・19：00／蛍見物

13日（日）8：30 大柳生探索

●場所：奈良市大柳生

]

第10回目の授業が終わりました（通算80回）

田植えが終わりました

今年も、恒例の田植え作業を大柳生で行って来ました。快晴の土曜日に出発し、すべての作業をその日のうちに済ませました。日曜日は入梅のはじまりでしかも大雨にたたられました。奈良市内をドライブで探索し、ちょっと遠出気分を味わってきたのです。参加者もたくさん賑わいました。塾生諸君ご苦労さま。大柳生の南垣内さんお世話になりました。

6月14日 塾長

☆6月のテーマ：アートをくらしに☆

6月12（土）～13日（日）の授業

- テーマ：大柳生で田植え

- 講師：南垣内貞史氏（大柳生農場主）

- 日時：6月12日（土）8：30 ビアン前スタート／10：30 青少年野外活動センター着／11：00 サツマイモの作付け／13：00 田植え作業／17：00 夕食準備／19：00 ホタル見物

- 6月13日（日）7：30 起床／8：00 朝食／9：00 ミーティング／

- 10：00 柳生しょうぶ園／10：30 布目ダム／11：00 通所授産施設「設水間ワークス」／12：00 若草山ドライブウェイ／14：30 帰阪

- 場所：奈良市大柳生および周辺探索

- 参加者：17名（日帰り者10名）



<1日目——快晴の柳生路へ>

サツマイモの作付け

8時30分、「(株)サンアイ」さんから借用の軽自動車に、運転者の私と塾生4人が乗り込み、ビアン前を出発しました。車に乗り切れない塾生はJRを利用し、奈良駅で田岡事務局長と合流後、田岡号に同乗し大柳生に向かいます。平城宮遷都1300年の記念イベントでにぎわう奈良は、道路事情もきっと厳しいものと予測していましたが、案に相違し予定通り大柳生を10時ちょうどに到着しました。

これまで官が経営の宿泊施設「青少年野外活動センター」は、昨年、大柳生の南垣内さんを理事とするNPOが指定管理で事業を引き継ぎました。職員のサービスも格段とよくなり、館内の諸施設もリニューアルされました。敷地内には新たに畑や馬の放牧場などが作られつつあります。

センター玄関口で南垣内さんがお出迎え。「まずはセンター内に作った畑でサツマイモの作付けをしましょう」ということで、われわれの準備が終わればスタートすることになりました。チェック・インし部屋で野良着に着がえしていると、田岡君たちや、(株)ナイスの沖田君ファミリーも到着しました。暑いぐらいの快晴で、センターには、宿泊中の学生たちが食事の支度や野外活動の準備で忙しそうにしていました。

サツマイモ畑の畝にはすでにマルチが張られている上、昨年に比べると作付面積も少なくなりました。まずはサツマイモのつるを畑に植えるため、ビニールのマルチに穴を開けていかなければなりません。昨年迄はナイフなどで等間隔にバツ印をカットしていったのですが、今回は丸い穴があけられる簡易なカッティング機が導入され、沖田君ファミリーの子どもたちがそれを使って、興味深そうに穴あけを楽しんでいました。穴あけがすむと各自サツマイモのつるを植えていきます。植え付けが終わると水をやりサツマイモの作付け作業は終了です。正直なところ今年は植える面積が少ないところに加え、すでにマルチが覆われていてこの作業もなく、あっという間の完了という印象でした。お昼も近くなったので、田岡君が買ってきてくれたお弁当をみんなでほおぼりながら、腹ごしらえをします。食事後、いつもの農場へ田植えをするため移動を開始しました。

はだしで田植え

水田には膝がつかるほどの水量がたたえられていました。5、6足の長靴を持参していたのですが、水が入ってしまいそうなので、長靴を履いた塾生たちはみんなはだしになって作業することにします。もちろん子どもたちも一緒です。「はだしでええねん」といていたM君の言うとおりになりました。ただ、時折瓦れきなどがあるので注意が肝心です。私も数年前にひどく足を切ったことがあります（この時はドクダミの葉をこすりつけすぐに完治し、野草の力にびっくりしたことがありました）。

田岡君ファミリー（奥さんやお母さん、姉さんらに加えてその子どもたち）が到着し、参加者は一挙に増えました。ただ、南垣内さんの田植え機によって、約1反ある畑の半分はすでに稲が植えつけられており、作業は楽に終わりはしましたが、もう少し田植えの時間があってもよかったなあとと思っています。南垣内さん、今度はもう少し残しておいてください！



ちびっこハンター

田んぼにはおびたしいカエルたちがいて、子どもたちの標的になり、カエルたちは逃げるのに必死でした。田植えが終わって清流で足を洗い、空気も涼しくなってセンターに帰る道すがら、大柳生の棚田を俯瞰すると、棚田の整然とした景観は、実は人の営みによってつくられたものだと実感し感動したのです。

16時にはセンター職員さんの配慮でお風呂に入ることができました。このお風呂も完全に立て替えられ、使い勝手よく清潔になっていました。気持ちよく汗を洗い流して、これからは夕食の準備です。



定番カレーに食材豊かな野菜サラダ

カレーは、大人用と子ども用の2種類を作るというのが、田岡事務局長の主張でした。広い厨房室ではどんな道具類も手に入るので、料理に関わるスタッフは、てんでにさまざまな調理器具、食器類などを使いまくっています。私は野菜類がたくさんあるのでグリーンサラダを盛り付けにかかりました。南垣内さんからレタスやからし菜などを頂き、購入野菜だけではないレシピをつくることができました。また、余った野菜類をミックスし浅漬けを完成させました。これはTさんやAさんなどから好評でした。

みんなはおなか一杯になり、ディナーは満足だったと思います。それでも残ったカレーやサラダ類を冷蔵庫に保管し明日に備えたのでした。全員で調理器具、食器類を洗い、ごみを収集します。ここセンターでは、ごみはすべて持ち帰りとなっているので、大きなごみ袋が2つも3つもまとめられて置かれました。しかしよくこんなにごみが出るものだと思います。自分たちが出したごみを厄介払いさえしてしまえば、後は他人事であり、誰かが処理をするものとおもいがちです。生態系や環境問題とかいいながら、本当は、自分たちにはそれほど重要な問題だとは誰も自覚していないのかも。



今年のホタルに期待した

19時ごろ白砂川に行きホタル見学をします。19時とはいえまだ陽の残光が山の端をくっきりと際立たせています。それから川にむかう道筋に、去年は無かったたくさんの街灯が立ち並び、余計にホタルの光を邪魔しているように思いました。しばらくは、橋の上から川岸や川に繁茂する葦をじっと眺めながら、ホタルの出現を待ちました。そのうち1匹、2匹が飛び交う姿が見えはじめますが、どちらかといえば見ているほうは少ない出現数に消化不良を起こしそうでした。それでも全体に暗闇が深くなってくるとあちこちで小さな光が見えはじめ、もちろん乱舞というほど闇が光り輝くことはありませんが、昨年よりホタルの数は多かったと思います。M君は何度もホタルを捕まえ、子どもたちに見せていました。私たちは満足して、ホタルのお祭りを飽きずに眺めていました。今夜は満足でした。帰館するのは7名で、そのほかの人たちとはここでお別れしました。

<2日目——大雨の中のドライブ>

朝食も豪華でした。食材やカレーも余っていて、新たにディッシュ1品2品を追加したりしました。昨日中にすべての作業が終わっていたので、ゆっくりブレイクファーストを楽しむことができたのです。食事後、これからは自由な

時間なので、みんなでどう過ごすかを検討しました。そして奈良周辺をドライブすることで一致し、奈良出身の田岡君号に先導してもらい、まずは「柳生花しょうぶ園」に行くことに。9時過ぎ、予報通りぽつぽつ降り出した雨の中を4キロ先の「花しょうぶ園」に向かいました。

しょうぶは7分咲きという感じで、全体的に咲き誇ればすばらしい景観になると思われました。しかし、しょうぶ園は山すそに沿ってかなり広いものでした。出口に降りてくるころには雨が本格的に降ってきました。私たちは、柳生から月ヶ瀬村に進路をとり「布目ダム」に向かいます。山間部を走る笠置山添線の車窓からは、雨に洗われた緑や車道の景色が鮮やかに見えました。「布目ダム」のダム幅は300メートルほどで、高さは約70メートルあり下を見ると怖いほどでした。淀川水系の治水を目的に1991年完成し、水資源機構が統括しています。見学者は私たちだけで、深閑とした趣でダムは雨の中にたたずんでいました。



車はその後山添村を通過し水間に出ます。田岡君が連れてきてくれたのは「ハーブクラブ」というログハウス風のレストラン。就労支援事業を目的とする社会福祉法人青葉仁会（おおはにかい）が経営するところ。この法人は更生施設を持ち、知的障害の通所事業など大規模に展開しているそうです。ここではレストランのほか「水間ワークス」という授産施設もあり、また地域特産品や雑貨店、アウトドアウェアなどを販売する「モンベル」が連携し店舗展開しています。「こんな山奥でもお客さんは来るんかいな」といらぬ詮索をしながらコーヒーを注文したのでした。それでも次から次へ車が駐車場に到着します。私たちはここから名張線に出て、まっすぐ奈良市街に向かいました。

若草山ドライブウェイの入口から頂上までは約20分ぐらい。ヘアピンコースでしかも雨にぬれスリップなどして緊張しました。駐車場からは徒歩で頂上へ。雨のなか鹿たちが数頭遊んでいました。ここからは大パノラマで奈良市街が一望できました。鹿を相手にしながら大雨に追われ、朝作ったおにぎりを車中で食べながら（ちょっとしょぼい）、さっき来たドライブウェイをくだります。田岡号とは近鉄奈良駅前で別れ、私たちの軽自動車はやはり大雨であろう大阪へと快走したのでした。



<6月19日(土)の予定>

地域で活躍してきた皮革産業の再興を目指し、10数年間、長橋小学校で教育事業として続けてきた「西成製靴塾」の小林寛明塾長を講師として、皮を使った作品作りに取り組みます。今回はベルトづくりですが、第3クール9月全4週を靴作りに挑戦してみたいと考えています。自分のものを自分でつくる楽しさを満喫したいと思います。今回の授業は、市大都市プラザの若松 司さんがコーディネートしてくれました。

☆6月のテーマ：アートをくらしに☆

第11回目の予定

- テーマ：私だけのベルトをつくる
- 講師：小林寛明氏（西成製靴塾塾長）
- 日時：6月19日（土） 18：30～21：00
- 場所：長橋小学校教室南裏門 18：30 集合
- 参加費：1,000円（給食費500円含む）

第11回目の授業が終わりました（通算81回）

お父さん

09年度25回目の授業は蓬莱梨乃さんが担当でした。授業テーマは「ちがうから面白い」と題し、自身のイタリ
ア滞在の経験に加え、異文化の楽しさを紀行的に語ってくれたのでした。この教室には、梨乃さんのスイス人である
フィアンセが参加。またどういわけか、小学生の少年もお母さんと同席していて、大人顔負けの質問をしていました。
まさに年齢、国籍が入り混じった面白い授業でした。

今日、梨乃さんは結婚を控えスイスへ旅立つため挨拶に来てくれましたが、彼女のお父さんを連れてきてくれたの
でした。以前から楽塾に興味があり一度塾長に会わせたいと言ってくれていたのが実現したのです。お父さんは高校
の教師であり、演劇活動もしているということで、お父さんと私は大いに話が盛り上がりました。これからの楽塾に
も協力していただけるそうだし、梨乃さんなき後（！）も強力なキャラクターが応援団として控えてくれる兆しを感
じた1日でもありました。

梨乃さんのスイスでの新しい生活にエールを送ります。1年に1度の里帰りには、楽塾塾長として里帰り授業を義
務としますので厳守してください。梨乃さん行ってらっしゃい。お父さんという面白いお土産をありがとう！

6月19日 塾長

☆6月のテーマ：アートをくらしに☆

6月19（土）の授業

- テーマ：私だけのベルトをつくる
- 講師：小林寛明氏（西成製靴塾塾長）
コーディネーター：若松 司氏（市立大学都市プラザ）
- 日時：6月19日（土）18：30～21：30
- 場所：長橋小学校2F「西成製靴塾」
- 参加者：12名



いざ西成製靴塾へ

10数年前、このまちに「西成製靴塾」が誕生し、伝統産業としての皮革、靴作りをもう一度地域に根ざす試みと
して活動が始められました。とくに若い人たちが靴職人として巣立っていきける拠点として期待されました。数年前に
塾生だった小林氏が、現在「西成製靴塾」の若きリーダーとして塾を任されています。

本年4月後半、小林氏と若松氏が「楽塾」と「西成製靴塾」の協働授業を提案のため訪ねてくれました。地域内の
資源を相互に活用しあうことは素晴らしいことなので、塾生たちが参加する場として、一緒にやらせていただくこと
になり今回の実現となったものです。最初のプランは、9月の全4週を靴作りの授業にする予定（決定）でしたが、
初めて皮革を触ってみる時間も作ろうということで、前哨戦のつもりで19日をベルト作りの授業にしたのです。

いつもは三星温泉での授業となりますが、皮革材料や、道具類などが揃う「西成製靴塾」（長橋小学校）での作業

のほうが便利だと考え、全員長橋小学校の南門に集合することに決まったのでした。ところが塾生のほとんどは18時ごろ「くらし応援室」に集結しだし、連れ立って長橋小に行くことになったのでした。



自分だけのベルトをつくる

長橋小学校の2F教室の一室に、「西成製靴塾」と書かれた表示板がかかっています。いくつかの作業台や机、道具類、そしてさまざまな色合いの皮革素材が置かれています。独特の靴屋さんのにおいがして臨場感がありました。製靴塾の塾生たちが製作したであろうたくさんの革靴が見本品として並べられていて、将来こんなのを作れたら面白いだろうと思いました。

小林さんは、現在「製靴塾」で講師をしていることなどを話し、「今夜はみんなでベルト作りをしてみます。まずは皆さんのウエストサイズを測ってください。そして、棚に置かれている素材（皮）を選んでいただきます。皮は表側と裏側の2色を選びます。ウエストサイズに10cmを加えた数をプラスし（たとえば私なら85cmなので95cmの長さに裁断する）。ベルトの幅はバックルにフィットしなければならないので、バックルよりも多少幅広めにサイズを決めます（4.5cm）くらい。これら裏表2枚の皮をそれらのサイズにカットするのです。あまり先々のことを言うややこしいので、まずはそれらの作業を始めましょう」と小林さんは工程を話してくれました。それを聞いた塾生それぞれが製作を開始しました。

製作台に上って、真っ先にカッティングを始めたのはM1さんでした。1枚はヒョウ柄で「下着用のパンツに合わせるつもりやっせん」とつまらぬことを言いながら、包丁（カットナイフのこと）をうまく使って作業しています。T君もMさんのあと製作台に上って皮を切り出していきます。カッティングを手伝ってもらいながら、2本の皮を仕上げていく人たちもいました。それから、気に入った皮を探しても自分のウエストサイズに届かない人も多くいました。その時は、2本をつないで1本にすることができました。すべての人に道具が行き渡らないこともあり、順番待ちをしながら自分の作業をしていきます。

早い人は、2枚の皮の各裏面にゴムのりをつけ、乾燥させてからぴったりと張り合わせをします。M2君は「自転車用のパンク直しに使う糊や」と言って、みんなは「なるほど」と納得をしています。M1さん、M2君、I君、T君らは先行組みでしょうか。かなり先を行っているようです。このころOさんが到着をし、まずは自分にあつた素材を選び、若松さんらにカットなどを手伝ってもらいながら、先行組みに追いつこうとしていました。





仕上げに向かって

小林さんは「2枚の皮を張り合わせたら、今度はバックルの幅に合うようにベルトの幅をきれいに裁断します」と説明します。この作業で再び包丁を使い、ベルトの仕上げとなるのです。そして、仕上げをされたベルトはミシンで縫製されるのです。実はミシン作業が難しいため、ここは小林さんにほとんどの人が縫製をお願いすることになります。しかしひとりIさんは、昔ミシンを使っていたことがあるというので、最後まで縫製のためにミシン掛けをしていました。見物する塾生は感心しています。

このころにはI君やM1さん、M2君は縫製も済み、もうバックルの作業に入りかけていて、作業の順番待ちをしている最後の人は、やっと糊付け作業を行っている状態でした。実際、この時点ではさまざまな工程を作業している塾生たちがいて、いろいろ忙しそうに作業をしながら、ウロウロあちこち動き回っているという状況だったのです。

そんな中、バックルをベルトにつける作業が始まりました。小林さんが選んだバックルは何種類もあり、作業の早い塾生から自分のお気に入りをお気に入りの次々にすばやく選んでいきます。バックルとベルトを結びつけるため、位置を定めて鋏で打ち付ける作業に入る人たち、またベルトに穴を開けるため、コンコンとパンチをあける音をさせる塾生もいました。もう数人は完成品のベルトを自分の腰に回し、出来上がりというような得意げな顔をしています。また微調整をしている人も。

予定の時間を少し過ぎただけで、全員のベルトが完成しました。塾生それぞれにユニークな作品が仕上がったので、全員記念写真を撮りあと片付けに入ります。小林さんにお礼を言って、今度は三星温泉に場所を代え給食の時間です。すでにご飯はおいしそうに炊けており、くらし食堂の料理をそれぞれが皿に取りながらいつもどおり「いただきます」から始まりました。小林さんは「9月のプログラムの調整をしなければ」と言っています。またまた楽しみです。

<6月26日(土)の予定>

本年1月、京都四条にある画廊で個展を開いている田村君に久しぶりに会いました。その時のテーマは「STONEーその不思議なる地球遺産」でした。石の表情が好きな田村君は、樹を素材にそれを切り、削り、磨きながら石(と想えるもの)をつくり続けています。画廊に並べられたたくさんの「石」たちを見ながら、こんな作品を楽塾で作ることができたらいいなあとイメージしていました。5月に京都山奥にある彼の工房を訪ね、楽塾の講師をお願いし快よく了解してくれました。中学校時代のクラスメートでもあり、京都美大(現芸大)出身の田村君の作家センスを存分に分けてもらおうと思っています。

☆6月のテーマ：アートをくらしに☆

第12回目の予定

- テーマ：作家のスピリッツをもらう
- 講師：田村博文氏(工芸家)
- 日時：6月26日(土) 18:30～21:00
- 場所：三星温泉
- 費用：1,000円(給食費500円を含む)



第12回目の授業が終わりました（通算82回）

異文化を考える

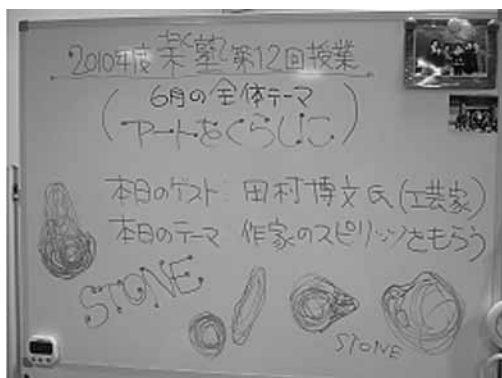
いよいよ6月も残り1日になり、今年もあと半年という月日となりました。楽塾では7月から第2クールの後半として、「異文化とは“自分”と何が違うのか？」という月間テーマで授業を進めます。その第1回の今週は、ジェイ君のベルギーという国の労働政策です。10日は重度の障害を糧に美術活動を続ける河村武明さん。17日には2度目の授業となる川崎那恵さんの被差別からのメッセージ。第2クール最終となる24日は、モントリオールからスカイプ通信で神崎佐智代さんが異文化を語ってくれます。中身の濃いテーマが揃っています。お誘いあわせの上ご参加ください。なお、このテーマでは複数の講師が手を上げていただいていたのですが、限られた日程のためあらためて11月以降の授業とさせていただきます。ご協力を感謝いたします。

6月29日 塾長

☆6月のテーマ：アートをくらしに☆

6月26日（土）の授業

- テーマ：作家のスピリッツをもらう
- 講師：田村博文氏（工芸家）
- 日時：6月26日（土）18：30～21：30
- 場所：三星温泉地階交流室
- 参加者：12名



木から石へ

自然の賜物

田村氏は、いくつかの自作品と本日製作する材料や道具類などを車に積み込んで、わざわざ京都から楽塾にやってきました。中学時の同窓でもあるよしみで、ため口を言い合いながら、いつもどおり塾生に授業前の講師紹介を行いました。

田村氏は「数年前からですが、木を使って作品をつくる時、どうしても小さな木の端材が残る。捨てるのももったいないし可哀想。木目が楽しく可愛いし、触ってあたたかく優しいのです。そんな中で自分の好きなものを作っていたが、自然界には好きなもの嫌いなものがいっぱいあります。木を介し自然に対して寛容な気持ちになっていきます」と自然への憧憬を話しました。

「人間がアートに近づくとき、それ（非日常な物）を自分の傍らに人為的に置いたのではないか。自分の周囲に並べたり、積んだり、初歩的な運動を続けることで、徐々にアートに関心を持ってきたのではないだろうか」。自らの創作の経験に加え芸術論の一端を解説しながら、田村氏のこれまでの作品を鑑賞することになりました。

2つ並べた机の上に作品群を置き、ここですべての電気を消しました。田村氏が持参のスポットライトを点灯し、並べられた作品群（それらはひとつの台上に一直線に並べられた木の石であったり、幾重に積み上げられた木の石、

無作為に並べられた木の石たちであったりします)に光を与えはじめました。スポットライトを浴びた石たちは、それぞれの形態、色彩、大きさなどによって個別に個性を持って光と影を得て現れてきます。そして、光と影が移動するごとにそれらもまた表情を変えていくのです。塾生たちはその変容に感動していました。



取材動画を見る

「今回、皆さんに作っていただくものは、見てもらった石です。木を素材とした石を作ってもらいます。木は乾燥させるのに時間がかかりますが、それらの木を切り、角を落とし、表面をならしながら面取りをしていくのです。こうして木をゆっくりと滑らかにしていくのです。これらの木の製作を始める前に、画廊で発表した時、取材をされた記録があるので、ちょっと参考に見てください。朝日放送とKBS取材の短いものです」。

これらの録画は、昨年暮れから本年1月初めまで、京都市内仏光寺下ルにあるBAMIギャラリーで開催された、田村博文個展「STONE—その不思議なる地球遺産」で取材されたものです（一部京都鷲峰山ふもとにある田村氏工房での取材もある）。今回の田村氏授業は、私がこの個展を見に行き、楽塾授業のヒントとしてお願いしたものでした。

田村さんの個展 Stone 展が紹介されているニュース（KBS 京都放送 動画）

http://www.dailymotion.com/video/xc6fe4_yy-yy-solo-exhibition-stone-yyyyyyy_creation/

木から石を作る

「それでは石を作ります。木の荒切りから始めるのが一番いいのです。これはやっていく中で、木目の出方や木と

のやり取りができるのですが、時間がかかりすぎて2時間の間には到底難しい」。そこでそれらの工程をはずし、すでに田村氏がその作業を済ませてくれたあとの面取りからやっていくことになりました。

「ここにケヤキ（櫟）とクスノキ（楠）の木片があります。まず2種類の気に入った木片を選んでください。その一つからサンドペーパーで磨き上げていくのです。出来上がれば次の1個も仕上げてください」。サンドペーパーは、粗い目から細かい目まで5種類がセットされていました。ちなみにサンドペーパーの目は80・120・180・240・320までの5段階があります。

まずは選んだ木片を80の粗目のペーパーでごしごし磨いていきます。塾生たちの磨きのかかった音は教室中にシャカシャカシャカと鳴り響きます。と同時にキナコのような黄色の木紛が机の上に溜まりだしました。はじめは無駄口をたたいていた塾生たちも、だんだん磨きに集中し、シャカシャカ音だけが目立って大きく聞こえます。私はクスノキを最初に磨き始めました。磨いているうちクスノキの香りがだんだんいい匂いになって来るのが分かりました。これは樟脳（しょうのう）の匂いなのだ！虫除けとして古くから使われている原材料はここから取るのです。



動画はこちら↓

沈黙の楽塾

<http://www.youtube.com/watch?v=dLdVDOGfoAs>

ひたすら磨きをかけてまろやかに

塾生のうち、5段階すべてのペーパーを使い切ったM君の作品を見てみると、まだまだ凹凸があり角も磨ききれていません。「もっと磨かなあかん」と塾長。「これでええねん」とM君。ほんま、しょうのないやっちゃんなM君は。「先生、これでどうでっか」とT君。田村先生は一人ひとり磨き具合を見ながら、「あっ、大分ようになってきたな」とか、「もうちょっと磨きをかけようか」とか言いながら机の周りを巡回しています。

磨きがかかると木肌がなまめかしくなり。木目の線がきれいに現れてくるのです。まだ角があつたり、滑らかさに欠けたりする部分が見えてくると、より一層まろやかさを求めて磨きに力が入ってしまいます。

全員が休憩時間も休まず、一心不乱に2時間を使い切ってしまったのです。とくにこの日は大谷さん、山崎君が久しぶりに参加してくれ、塾生たちも喜んでいました。給食時間が迫り、いったんおしまいにしようということになり、机の上をかたづけ、ごみの清掃をしたり、雑巾がけをすることにします。あとは各自家に持ち帰り、磨きなおしをするか、ここで塗料を塗ることにして作業を完了することにしました。



動画はこちら↓

おしゃべり同窓生

<http://www.youtube.com/watch?v=bddAadY8KFI>

腕をシャカシャカ動かし続けたものだからおなかがへっていて、給食はおいしくいただきました。楽塾は給食あとの後片付けがすっかり定着していて、食器洗浄、雑巾がけ、机の片付け、床清掃といつも役割が明確になっていて、誰かが何かをやっているという状態になってきているのです。これまで少人数でやってきた作業が大変楽になってきています。今夜の授業は、ひたすら磨きをかけることでやり終えた作業でした。

田村先生ありがとうございました。

<7月3日(土)の予定>

私たちにとってベルギーという国は今ひとつなじみの薄い国かもしれませんが。しかし首都ブリュッセルには欧州連合の本部が置かれ、連邦立憲君主制国つまり王国でもあります。作家ジョルジュ・シムノンや女優オードリー・ヘプバーンを生み、画家エルジェのキャラクター「タンタン」も世界的に活躍しています。私たちは彼を普段ジェイ君と呼びますが、本名は Geerhardt Kornatowskito といい、頭文字Gが愛称の語源です。多言語の国ベルギー人そのもののジェイ君は、流暢な日本語で、しかも日本語のニュアンスをも把握する驚くべき語学力を持つ異邦人です。これまで様々な調査や研究会でお付き合いの中、楽塾講師で出てもらうことになりました。

☆6月のテーマ：アートをくらしに☆

第13回目の予定

- テーマ：僕のふるさと、ベルギーの炭鉱町—労働者社宅地区の変容について—
- 講師：ヘラルド・コルナトウスキ（ジェイ君）
(大阪市立大学都市研究プラザ/SI協会スタッフ)
- 日時：7月3日(土) 18:30～21:00
- 場所：三星温泉
- 費用：1,000円(給食費500円を含む)

第13回目の授業が終わりました（通算83回）

聖域

エルサレムの「嘆きの壁」とはユダヤ教徒の聖地であり、イスラーム教徒の聖地のひとつでもあります。いずれも一神教の聖域であり、神聖にして犯さざる場所として名高いところです。ここでは揺るぎのない信仰への祈りがすべてを凌駕し、自らの存在証明として、あるいは寄って立つ旗を起立させてきたのでしょう。聖は正にも通じ、それぞれの信仰や教義への迫害や妨害に、過去にはキリスト教が十字軍で虐殺を、イスラエルは今もあくなきパレスチナ攻撃を、イスラームではジハード（聖戦）と呼び武力闘争を続けています。

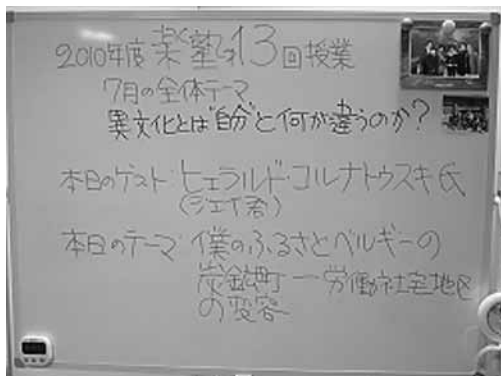
捕鯨に関するルール作りを目指す国際捕鯨委員会の年次総会では捕鯨国と反捕鯨国双方の協議が決裂し、決議が先送りされたそうです。捕鯨と反捕鯨それぞれは自らの聖域を守るべく、とくに日本の調査捕鯨への扱いなどで合意ができず難航しました。ここで正義と称した反捕鯨テロ組織が、日本の捕鯨船に体当たりをしたことはまだ耳新しいことです。また、イルカ漁を弾劾するアメリカのドキュメント作品がアカデミー賞を受賞し、日本でも上映されるはこびで、反日映画だとしてこれまた正義の愛国団体が上映を阻止しようとしています。アメリカのあやしげな正義にはうんざりですが、内容はともかく、せめて上映という表現手段を認めた上で、作品を評価する自由さを持ちたいと思います。正義のぶつかり合いは、自らがかたくなな聖域を保守することに発し、しかし私たちの周りには、正義を盾にする組織や団体があることを発見できます。

7月5日 塾長

☆7月の月間テーマ：異文化とは“自分”と何が違うのか？

7月3日（土）の授業

- テーマ：僕のふるさとベルギーの炭鉱町—労働者社宅地区の変容
- 講師：ヒェラルド・コルナトウスキ（ジェイ）氏
（SI協会スタッフ・大阪市立大学都市研究プラザ）
- 日時：7月3日（土）18：30～22：00
- 場所：三星温泉地階交流室
- 参加者：13名



<前半—私の国>

ベルギーという国のおさらい

「私はベルギーのペリンゲン出身です。お爺さんはウクライナ人でした。Geerhardt Kornatowski（ヒェラルド・コルナトウスキ）の頭文字Gは、ベルギー読みではジェイといい、長い名前なので、昔からジェイと呼ばれています」。ジェイさんは、とくに前半ではベルギーという国の話をしてみたいと話し始めました。

「ベルギーの北はオランダ語圏、東はドイツ語圏、南はフランス語圏の3つの言語体系で成り立っています。ベルギーではベルギー語がなく、なぜ3つの言語があるのか。紀元前1世紀ローマ帝国の属国となり、4世紀後半、ゲル

マン人の移動によりフランク族（*楽塾注）に征服されます。つまりラテン系（フランス）とゲルマン系（ドイツ。オランダ）言語が合流した」結果だといいます。

「人口は1,040万人で東京と同じくらいです。面積の30,519km²は四国地方ぐらいかな。人口密度は339人／1km²。日本（337人）と同じくらいですが、日本のように山や森林が圧倒的に面積を占める国とは違い、ベルギーでは山がほとんどありません。だからベルギーのほうが人口密度的には希薄だといえます。首都はブリュッセルにあり、公用語は3言語。オランダ語が60%、フランス語が39%、ドイツ語が1%の割合で使われています。1830年に独立したベルギーですが、都会が余りありません。ブリュッセルで100万人、アントワープでは60万人の人口です。ベルギー人は戸建の住宅に住むことを好みます。だから多くは戸建て住宅に住みます。ベルギーには移民が多く住み、アントワープではダイヤモンド・カットが世界的に有名で、その多くがユダヤ人たちです。大戦中ドイツの迫害に会い、アメリカへの出航を目指したユダヤ人たちがアントワープに住みビジネスをはじめ、ユダヤ人街区のような地域も残ります」。



ベルギーの著名な物産

「ベルギーで有名なものは何だと思いますか」。ジェイさんは、今度はベルギーの広報マンとなって画像で案内を始めました。「ワッフル！やね」と塾生。「そうですね。日本で、ベルギーワッフルは60年前に出来たマネケンが有名ですが、本場のワッフルはもっとフワフワしていておいしいです」とジェイさん。このほかベルギー発祥のフライドポテト。これは安価でうまい。だからベルギーではマクドナルドがはやりません。そして小便小僧のこと、これは毎月小便小僧の着せ替えが行われるそうです。柔道着やエルビス・プレスリーのコスプレなどで話題になるそう。

ベルギーチョコレートではゴディヴァ。ベルギービールも有名で、500種類以上もあるそうです。なぜそれほど多いのかというと、教会や修道院で個別に作られていた歴史があるらしいのですが、ベルギーの教会ではアルコールはOKだったのでしょうか？日本のビールよりアルコール度が高く6から12度あり、ゆっくり味わって飲むのがベルギー流だそうです。

ジェイさんの家族が料理したムール貝の画像が現れました。パケツに入ったたくさんのワイン蒸しのムール貝はおいしそうに見えました。1kgが一人前といいますからかなりの分量です。



ベルギーの都市の成り立ちとベリンゲン

「かつての都市は城壁で内外が分けられていました。いわば城下町を形成していたわけです。お百姓さんたちは城の外側で生活していたのです。多くの都市にある道路の環状線は城壁の名残です。現在、金持ちは郊外の一戸建てを買って移動し、都市部には移民や低所得の人が住む傾向がありました。しかし、最近では若い人たちが都市にリターンし、都市に集中する現象も起こり、物価がアップし、北部のトルコ系や南部のアフリカ系、西部のモロッコ系住民のくらしが圧迫されるエリアも出てきました」。

ベリンゲンという街はジェイさんの生まれ故郷であり、かつては炭鉱町でした。現在は炭鉱資料館がその名残です。ジェイさんのお爺さんは炭鉱労働者でした。画像を使って炭鉱町の歴史を聞かせてくれました。「炭鉱を持つ炭鉱会社が教会やパブ、住宅など鉱員たちの街を作っていた」といいます。

「炭鉱労働者たちは家族持ちが多かった。仕事のない時はパブなどに飲みに行きます。そこでこたまお金を使い込んでしまい、家に帰れなくなってしまふ。そこで会社は給与を前借りさせ、うまく家族との融和をはからせた」といいます。

*移動してきたゲルマン民族の一部族。現在の仏、ベルギーを占領し5世紀末フランク王国を建国した。800年に西ローマ帝国と称したが、9世紀に独・伊・仏の3国に分割された。過去オーストリアやオランダに併合された歴史を持つが、1830年オランダから独立した。

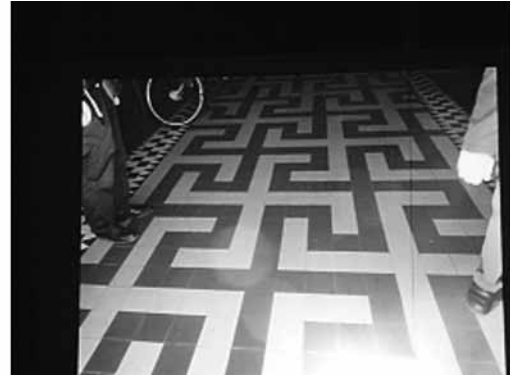
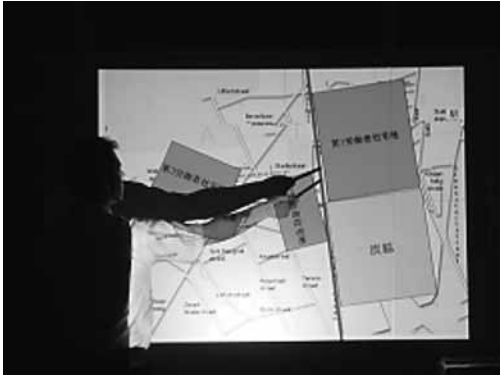


<後半—ベリンゲン市・炭鉱の町>

炭鉱の歴史

「ベリンゲンの人口は35,000人ぐらい。やはり城壁があり周辺は田園地帯。炭鉱によって作られた街の中にカジノとかシアターなどの施設を作り、労働者を寄せ集めたようです。日本でいうJリーグのような、ジュベルリーグというサッカーリーグに、炭鉱労働者でチームを作り、唯一のアマチュアチームでありながらも、カップ戦などで好成績を残していたこともあります。また労働者のミサをするためのカトリック教会を造営し、ドイツ侵攻時にはドイツ技術者も入って、フロアなどにはハーケンクロイツの装飾を施していたようです」と画像でその実証を行いました。

「炭鉱周辺には第一、第二、第三労働者社宅がつくられ、道路による分断など労働者の力を分散し、暴動が起きにくいような工夫をしていました。第2次大戦直後は3Kの仕事でありながらも、各国が不景気でポーランド人、イタリア人、そのほかヨーロッパからも入ってきた」といいます。「60～70年代は、ヨーロッパ各国も好景気になり、モロッコやトルコ人たちが移民として多く流入。しかし89年に炭鉱は閉山しました」。しかし現在も移民労働者のコミュニティは当時のまま残っているようです。ただ彼らの就労が難しく、生活保護を受けるようになっていきます。「旧住宅地(社宅)を移民に安く売ったりしているので、そのまま住宅は残っています。そんな旧住宅の中に『ソーシャル・インテグレーション・センター』が出来、人間のかかわりを結びつける隣保館事業のような試みが始まっている」といいます。就労支援のプログラム作りの実践、そのための相談員の育成、社会的排除の問題にも取り組んでいるようです」。



ジェイさんの来し方

「お爺さんはウクライナ人、お婆さんはドイツ人。ドイツでお婆さんと結婚。第2次大戦後、ベリンゲンというところで炭鉱の仕事があるというので行きますが、元捕虜収容所が住宅でした。ここで僕のお父さんを生みます。現在は普通の住宅地になっています。このあたりは東ヨーロッパ人たちのコミュニティーになっています。お父さんは炭鉱労働者ではなく、炭鉱の学校の先生で国語や宗教を教えていた。移民労働者のために教師をしていたのです」。ジェイさんはお父さんの血を引いていて先生になるのかしら。

ジェイさんは小さいときからカンフームビーが好きで、アジアに興味があったといいます。だから大学も日本学科に進学、日本にも何度か調査研究などで来るうち、日本のホームレス問題を卒論にしたということです。当時、「こんな素晴らしい豊かな国なのに、ホームレスがいたということがショックでした」と印象を話してくれました。



<7月10日(土)の予定>

河村さんは、9年ほど前、突然脳梗塞で倒れました。それまでバンド活動で活躍していた状況が一転し、失語症、感覚障害、聴覚障害、発音が困難な構音障害、右手麻痺などのハンディを背負いました。つまり、話すこと聞くこと、書くこと読むことが困難な障害を負ったのです。しかし困難さを自分の宝として絵を描き始め、そしてすべてに感謝を込めて「ありがとうプロジェクト」を実現させていくのです。塾生であり講師も勤めた近畿大学生の山崎君に河村さんを紹介され、本年春、講師をお願いしに行きました。人は絶望から真の希望を探し出そうとする、と考える私は、筆談しながら河村さんに共感をおぼえたのでした。

☆6月のテーマ：アートをくらしに☆

第14回目の予定

- テーマ：ありがとうプロジェクト
- 講師：河村武明氏（表現画房たけ）
- 日時：7月10日(土) 18:30～21:00
- 場所：三星温泉

表現画房たけ

<http://hyougensya-take.com/>

第14回目の授業が終わりました（通算84回）

未成年

中3の女子中学生らが我家を放火し、母親が焼死、家族2人がやけどを負ったという事件が宝塚市でありました。子供たちの犯罪は年々減少しているという一方で、びっくりするほど大胆で、大人顔負けの残忍さを持つ犯罪が目立っているように思うのです。その分、子どもたちのやりきれない声なき叫びが響いていて、地層で何か不気味なことが起きているのではないかと想像してしまいます。子どもたちがそこにいきつく動機とは何なのか。行動の決意とは何であったのか。そんなことを考えると、絶望の沼から彼らを引っ張り出す大人の力が皆無であったことに気がつくのです。

近年のメディア、マスコミ、ハイテクノロジー情報の多くが、功利主義、興味本位、刹那主義を先鋭化させており、思考させず享楽、快楽の情動を刺激させ、つまるところ儲けだけを最優先させる方向にひた走っています。つまり人を安易な安心状態に押しとどめておくシステムを構築しているわけで、そこには救済という言葉はなく、あるのは経済への啓蒙です。あまねく商品化し人間の知を搾取するのみなのです。

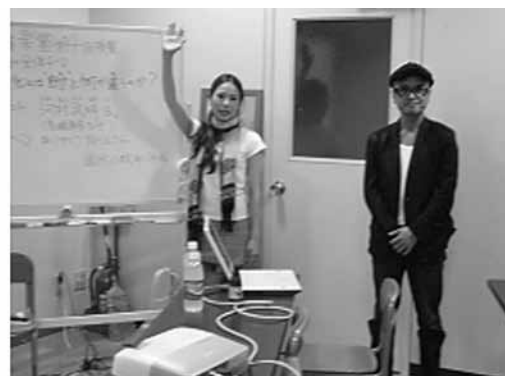
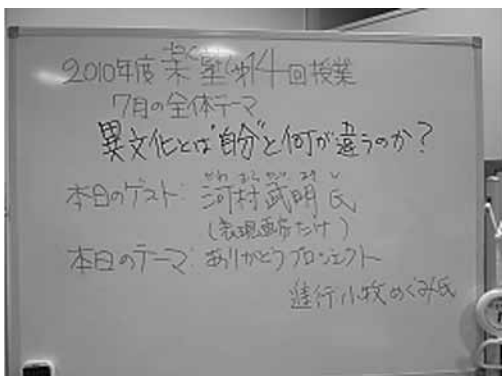
「啓蒙とは未成年の状態から抜け出すこと」とはカントの言葉です。「未成年の状態とは、他人の指示を仰がなければ自分の理性を使うことが出来ない」といいます。そんな役割を持つ私たち大人は、彼らを引き上げることも出来ない、というか私たち自らが未成年のままであったことに気がつくのです。

7月12日 塾長

☆7月の月間テーマ：異文化とは“自分”と何が違うのか？

7月10日（土）の授業

- テーマ：ありがとうプロジェクト
- 講師：河村武明氏（表現画房たけ主宰）
- 進行：小牧めぐみ氏
- 日時：7月10日（土）18：30～21：30
- 場所：三星温泉地階交流室
- 参加者：12名



<ありがとうのパワー>

無口の画家

「自称日本一無口な画家、河村武明です」。進行をつとめる小牧めぐみさんが、河村さんの意思と言葉を河村さんに代わって伝えてくれます。「なぜ無口かという、しゃべることが出来ないからです。だから、僕は使える左手だけで絵を描きます」。

河村さんの略歴から始まりました。「病気をする前は、京都を中心にバンド『たけかめ』で活動をしていました。バンドがうまくいきかけてきた9年前、突然脳梗塞で倒れてしまいました。話すことが出来ない。聞くことも出来ない。

右手も麻痺している。書く読むことも少々難しい。いろいろな障害をいただきました」。

河村さんと対話する手段の多くは筆談です。河村さんと対談者の二人が向き合い、互いに文字を書く液晶の文字盤を仲介にします。私が、河村さんの個展に行き、楽塾の講師をお願いに行った時もこちらの熱意をこの文字盤で伝えたのでした。

「歌うこと、音楽を聴くこと、ギターを弾くこと、僕の得意とするすべてを失ってしまいました。これは絶望以外の何ものでもない。34歳で僕の人生は終わったと思いました」。しかし、河村さんは以前から宇宙学という精神世界の勉強をしていて、その中で「与えられたことに感謝して受け入れる」という言葉に注目しはじめます。「ありがとう」はそれを象徴する言葉でした。そんな中、絵を描き始め、自らの夢が徐々に実現していきます。「ありがとう」という言葉をだんだんと実感していくのです。

河村さんはリハビリ入院中、京都の繁華街に出て自作のポストカードを路上販売し始めたそうです。しゃべれないし耳も聞こえない。言葉も分からない。「われながらいい根性していたと思います。アホでしょ」。でもこの路上すわりが大きなきっかけとなったのです。ストリートに出て5年がたち、マスコミへの出演や出版の話が出始め、「ありがとう」という感謝の言葉がますます大切な言葉になってくるのです。



ピンチはチャンス

プロジェクターに投影された河村さんのメッセージを、小牧さんは解説し続けます。「無口でもありがとうという言葉だけはしゃべることが出来ます」という河村さん。しかし、全音発声が難しく、私たちには「あつがとウ」というようにしか聞こえませんでした。それでも、河村さんは精一杯この言葉を使います

「これまで講演する中で、自分が経験したことから皆さんに質問をさせていただきます」と話し、「ピンチのとき・何か人からもらったとき・つらいとき」に対する言葉の表現を塾生から聞きとります。「困ったなあ・ありがとう・ついてないなあ」などと塾生からは答えが返ってきます。

河村さんは「よく障害を克服した」とか「よくなった」と人からいわれるが、本人は「全然そんなことを感じていなかった。いつもありがとうという感謝の気持ちだけを持っていました」といいます。宇宙学を学ぶなか、初めのうちは、障害を与えられたことに無理やり感謝をしていました。とにかくありがとうとつぶやいていても言葉だけだったと思います」。

河村さんには影響を受けた一本の映画があります。北野武監督作品「HANA - BI」で、半身不随の刑事が絵を描くシーンでした。「それを見て自分にも出来ると思いました。そして何でもやってみることの大切さを学んだ」のです。その後、北野武との二人展を夢想し、それが実現したときの喜びを語ってくれました。ストリートを始めて8年が経過。もうストリートはしなくなったけれど、イメージ通りあるいはそれ以上のことが次々実現していきます。「ピンチはチャンスであり、最大のピンチは最大のチャンスになる」と河村さんはいいます。



<後半—感謝>

言霊（ことだま）

4年間ほど河村さんの部屋にある芽の出ないクワズイモ。「ある日『ありがとう』『ありがとう』といい続け、水をあげようと考えました。しゃべれない僕は、心の中で『ありがとう』『ありがとう』といい続けました。そうするとかわいい芽が3本出てきたのです。鉢を変えようかと思うぐらいに大きく生き活きしてきました。写真を見て下さい」と、以前のクワズイモと比較します。

「『ありがとう』と『バカヤロウ』と描かれた2本のペットボトル。これらを冷凍して双方の結晶を調べてみると、『ありがとう』と書かれたペットには美しい結晶が、『バカヤロウ』と書かれたペットには無残な結晶が見られた」といいます。これらの画像を見せてもらいましたが、確かに結晶の違いが明らかに見えます。

「投げかける言葉によって、植物も水も変わるということを知ってくれましたか」河村さんの宇宙の法則は、正直信じがたい部分もありますが、だからこそ信じたい気持ちにもなります。それは無機質化した社会への疑問であり、自然科学という実証主義への違和感とでもいうものです。

「汚い言霊を使う人はそんな人生を歩むことになる。周囲に毒を出しているし、自分の身体をも痛めているのです。汚れた言葉は自分にとっても損なのです。ブーメランをご存知ですね。遠くに投げても自分の元に返ってくる。自分の言った言葉は結局自分の元に返ってきます。ブーメランのように」。

「身体の悪い個所に手を当て『ありがとう』と感謝してあげよう。ストレスで病んでいる場所は休みもせず、自分のために頑張ってくれている。そんな頑張るところに感謝してやりたいものです」。河村さんは、感謝することで病も消失してしまうと話します。



感謝の先取り

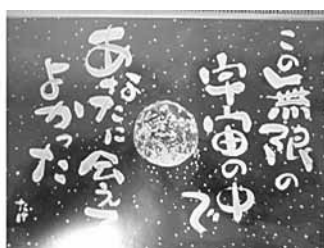
北野武監督との2人展を企画したときも、周囲からは実現しっこないといわれました。「しかし僕は『感謝の先取り』を実践しました。実現することを前提に先にお礼をいうわけですね。その結果2人展が実現しました。どんな時も先にお礼を言うことが大切です。僕は感謝の先取りを実践しています」。

「『山田く〜ん』といえば山田君が来ます。『ありがとう』といえばありがとうがやってくる。『最悪』といえば最悪の事態がやってきます。すべて言葉が先にあります。投げたものは自分に返ってくるものです」。河村さんのメッセ

ージは、スピリチュアルな世界を紹介してくれているようですが、私にもそんな経験があったのでよく分かります。さすが「感謝の先取り」までは頭は回らなかったけれど。

このあと河村さんに塾生たちが質問をしたり、文字盤を使って悩みや感想、対話を楽しんでいました。いつもどおり前半と後半に分けて行われたわけではなく、一気に授業が終わりました。みんなで給食を楽しむということで、ベジタリアンの河村さんにも食べられる食材が手元に届きました。

これまで描いてきたたくさんの絵手紙風作品を2台の机に並べ、気に入った作品を塾生たちが購入していました。これまでの授業とはちょっとばかり異色の授業になりました。



<7月17日(土)の予定>

「ともえちゃん」と塾生たちから親しく呼ばれている川崎那恵さんが、久しぶりにゲストとして登壇します。川崎さんがこれまでの10年間、異文化としての他者との関わりの中で、どんな出会いをし、またどんな交流を体験できたのか。そんな体験・経験を紹介し、その過程で感じた喜怒哀楽や、差別を越えた他者との関係づくりを、川崎さん自身どのように楽しんできたのかを聞かせてくれます。「自分にとって心地よい関係というものがきっとあるはず」という川崎さん。川崎流関係術のコツを伝授してもらいます。

☆6月のテーマ：アートをくらしに☆

第15回目の予定

- テーマ：喜怒哀楽の異文化交流体験記
- 講師：川崎那恵氏（大学職員）
- 日時：7月17日（土） 18：30～21：00
- 場所：三星温泉

<お知らせです>

「楽塾08 授業参観」が印刷できました。これで08年版／09年版の2セットが完成したことになります。楽塾にこられた際、塾生、応援団の皆さんに進呈いたします。ご遠慮なくおっしゃってください。出版にあたり、大阪市立大学都市研究プラザおよび水内俊雄先生には重ね重ね感謝いたします。ありがとうございました。

第15回目の授業が終わりました（通算85回）

暇つぶし

近所のお寿司屋さんが閉店しました。いつもどおり昼の定食を食べに行くとシャッターが閉まっていて、不動産の管理物件になっていたのです。ネタもよく、ボリュームもあって美味しく、しかも5～600円の安価さで、私にとっては経済的な食事処でした。店主は有名な寿司チェーンで永年職人として働き、その後独立し、いろいろな地で寿司店を営み、ここ西成に落ちついたと聞かされたことがあります。長男からは「親父はもういいから隠居しろ」といわれている、と常々親父さんは話していました。

正直、高齢でもあり、そろそろ引退も間近かもと想像していたのですが、きっちり当たってしまいました。ところがそれから1ヵ月後、同じ道筋の50m向こう側に小さなお寿司屋が開店しました。そしてその雰囲気がなんとなくそのお店によく似ていて、おそろおそろ扉を開けてみると、あの親父さんの奥さんが座っていました！

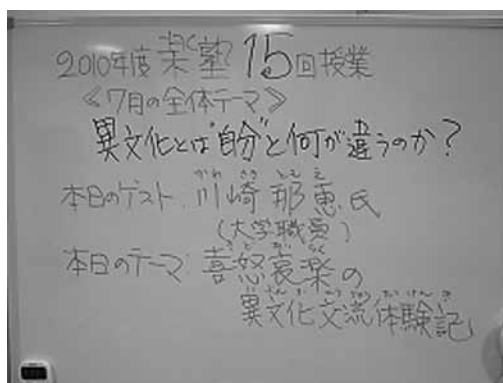
「身体がしんどく辞めたんやけど暇をもて余し、昔みたいなことは出来へんけど、もう一度こじんまりやってみるゆうてますねん。やっぱり仕事をしたいらしいです」。私は快哉を叫びました。自分を引退させず、現役で生きる心意気に共感したのです。これまで2階にも部屋があり予約客も扱っていたし、仕出しの注文もとっていたけれど、この場所は、今度は親父さんの暇つぶしの場所として、うまく機能すればいいなあと密かに応援しています。

7月19日塾長

☆7月の月間テーマ：異文化とは“自分”と何が違うのか？

7月10日（土）の授業

- テーマ：喜怒哀楽の異文化交流体験記
- 講師：川崎那恵氏（大学職員）／進行：佐々木敏明
- 日時：7月17日（土）18：30～22：00
- 場所：三星温泉地階交流室
- 参加者：12名



<前半—異文化とは何だろう>

自分自身の文化

「私は、自分とちがう人はすべて異文化だと思います」。そういって、先ず川崎さんから塾生への質問に移りました。

「異文化とは何でしょう?」。塾生から手が挙がります。●生活環境のちがい●国のちがい●時代のちがい●価値観のちがい（自分にとって何が大切か、あるいは規範）。川崎さんはホワイトボードに塾生たちからの発言を記入していきます。●年代のちがい●言葉のちがい●食生活のちがい●習慣のちがい●男女のちがい●宗教のちがい●医療のあり方へのちがいなどなど、たくさんの意見が出されました。

「私は自分と違うものと出会うのが楽しくて、これまでそこから学んできたと思うのです。大学入学から現在まで10年が経過しました。今日は、私の喜怒哀楽ともいえる異文化体験を聞いてもらいたいと思いました。私は被差別部落に生まれて育ちましたが、大学に入学するまでは、そんな環境とはあまり関係なく、どちらかという自分の出自には無頓着だったと思います。入学以降部落青年たちの太鼓の演奏を見て感動しました」。本島（香川県丸亀市＊参考／09年5月9日川崎氏授業）に行った時、京都の刑場跡、鳥取や泉南市など各地の被差別地域などの取り組みや交流などを、次々プロジェクターから繰り出す画像で説明してくれました。

「現在京都に住んでいますが、文化がちがうなあと思うことがあります」。この時は、川崎さんから京都の文化についてのちがいは触れられなかったので、後ほど聞いてみたいと思い質問を残しておきました。その中で、浅香のフィールドワークを、画像の説明をかねて説明してくれます。「自分が部落差別を学び、地元調査などで現実を知っていく中、これからの自分の将来をイメージしていくようになりました。そんな状況を理解しようとする後輩たちに、自分の育った場所をフィールドワークし紹介しました。この画像はその時のものです」。



被差別の食卓

川崎さんは被差別の食事について画像を見ながら語ってくれます。部落の中で流通してきたさいぼし、あぶらかすなどの食文化を話してくれました。川崎さん自身、食べることが好きでしたが、親からは日常食べているものを人に口外するなどいわれていて、なぜ隠さなければならないのか、たいへん悲しいことだったといいます。これらの食べ物に加え、粉米（ついたときに小さく砕けた米のこと）やホルモンは、食材としても重要な食源であったそうです。

ちがうこと

以下は北米各地を遊学したときの印象記を画像とともにコメントしました。

「人の集まるアジア街などで、英語で声をかけられることがあります。それは、私が近くにすむアジア系の人だという親しみというかそんな認識があるのかもしれない。見た目が同じで声をかけてきても、私は日常とはちがう人間ということを感じました」。

「カストロストリートは、ゲイの集まるまち。だからゲイにとっては安心できるまちなのですが、その他のまちや国にいくと、まったく条件がちがってしまうこともある」。

「ジャパントウンでは、自分たちのルーツを確かめるべく、歴史を学ぶイベントが行われていました。またパークレーでは多種多様な民族がいて、シンボルマークも異文化を表す図柄で私は大好きです」。

日本の現実も目撃します。横浜の画像では、中国残留孤児の現実をアピールする人たち。大阪生野の画像では、南北統一や日本とのつながりを強調する民族祭。大正区サンクス平尾の商店街は、沖縄文化の合流が楽しいまち。北海道ではアイヌ民族の文化を継承していく取り組みが行われています。また薬害H I Vの患者の画像では、ウイルスを持っている人か持っていない人かは見た目では分からない。セックス感染者であるドラッグクイーンのパフォーマンスは、自らを表現者として生きる。同じH I V患者として。

沖縄旅行の印象。「筋ジストロフィーを持つ友人と旅行に行く中で、身体のハンディを持っていても、人として同じ欲求や希望を持っていることを痛感した」といいます。



新潟水俣病の患者さん

新潟では頭痛や神経のバランスを崩す新潟水俣病が発生（注：1965年阿賀野川下流域を中心に起きた日本4大公害病のひとつ）。川崎さんはそこで暮らす一人のおばあさんとは大の仲良し。「国からはいまだに患者認定されていないが、彼女は何でも一人でこなします。野菜を栽培し自分で収穫し自分で食する。その肥料は自分の排泄物を利用する。使えるものは最後まで大切に使う。彼女は海で魚を釣ってきてそれを食していた。しかしある時、水銀中毒を患ってしまった。工場廃水が彼女の身体を蝕んでしまったのです。彼女は相変わらず人に頼らずに暮らしましたが、最近は老人ホームで暮らします。何が豊かで何が貧しいのかを決めるのは一体誰なんだろうと考えてしまう」。

喜怒哀楽

「今、自分が勤めている大学では「楽塾」のように自分たちの話を聞いてもらう環境ではなく、時に怒りに変わることがあります。ここでは私の歴史を語るまでにはいきません。自分に関心のある文化は韓国。韓国の歴史を知ろうとしても、過去秀吉の出兵や、大戦日本の侵略などで、さまざまな文物が失われているのです」。



<後半—みんなで異文化雑感>

“普通”という物差し

「異文化を隠さざるを得ない根本的なことは何なのでしょう。それらを共有していくことは楽しいことだと思う。みんなで異文化について話し合ってみよう」。川崎さんは、私を進行役にしてそれぞれの意見を聞いてみようということになりました。

- A：ギャル文化が分からない。自分たちの思考の中で完結しているように思える。笑にしてもなぜ同じようにしか笑わないのだろう。
- B：西成の地が異文化の地。ホームレス、被差別、多国籍など自分がここに住んでみて、だんだん当たり前になって、多文化を楽しむようになってきた。
- C：僕はちがいを苦にしない。ただ踏み込まない。こちらに来てくれたらどんどん付きあっていく。
- D：お金をなくし、食も出来ず、大阪駅で手配師から仕事をしないかといわれて、その仕事をして金を得た。徐々に金の大切さが分かってきた。これまで親などから「普通に生きろ」といわれてきたが、普通ってどんな状態なのか分からない。普通という言葉で惑わされてきた。

E：普通とは「今、ここ、自分」が自分の立脚点である。他人を意識してはならない。あちらに行こうがどこに行こうがどこにいても一緒。どこの空も青い（禅問答？）

F：西成を悪く言うのは悪い部分が強調されやすいから。それは世間にとって理解しにくいから。逆に西成は人情のあるまちともいわれる。本当にそうか。それは悪いイメージを隠蔽するための便法みたいな物で、いいも悪いも西成だ。



京都のお茶漬け

最後に、佐々木から川崎さんへ気になっていた京都の異文化性を聞いてみました。実は佐々木も往年、「京都のお茶漬け」を何度か経験し、違和感を抱いたことがあったのです。川崎さんは「京都のお茶漬け」にも共感し、「過去に『大阪は怖い』といわれたことがあり、また他郷の人を田舎もの扱いし、馬鹿にした視線を感じたから」と答えてくれました。これに対し、古代王城の地への優越感とか、山に囲まれた閉鎖性に加え公家文化の身近さが権威性を養ったなどの意見が聞かれました。

給食も、塾生たちに親密感ある川崎さんに話が集中し、遅くまで「楽塾」の教室は消灯が出来ませんでした。



<7月24日(土)の授業>

今年の1月、神崎さんとは大阪の研究調査で、水内先生ら市大研究班スタッフらと一緒したのが縁でした。また「楽塾」の取り組みにも興味を持っていただき、何らかの形で授業をお願いしました。しかし3月にはカナダに帰国しなければならず断念。その後、彼女の弟である紀秀君の就労のお世話をすることをきっかけとし、彼のIT力を活用し、スカイプで国際通信への授業をすることになりました。紀秀君のアドバイスで、今週は久しぶりにカナダの神崎さんの顔を拝見できます。神崎さんは、カナダのモントリオール大学人類学部の博士課程で学び、同大学東アジア研究所に在籍しています。またヴィジュアル系音楽についての研究もあり、今回はカナダ文化、ヴィジュアル系とてんこ盛りの授業になる可能性がいっぱいで、どんな異文化発見となるのか楽しみです。

☆6月のテーマ：アートをくらしに☆

第16回目の予定

- テーマ：カナダからスカイプで授業
- 講師：神崎佐智代氏（モントリオール大学東アジア研究所）
- スカイプアドバイザー：神崎紀秀／進行：佐々木敏明
- 日時：7月24日（土）18：30～21：30
- 場所：くらし応援室

第16回目（通算86回）の授業が終わりました

連携のあり方

楽塾授業が修了した翌朝、よりそいネットのスタッフたちと刑務所へ出所者Aさんを出迎えに行きました。予定の時間を少しばかり経過したあと、刑務官と一緒にAさんが現れます。数ヶ月前の服役中の頃より顔色があきらかによく、表情も晴れ晴れしていてAさんの出所への意気込みが伝わりました。Aさんは、何度か刑務所とシャバ（俗世間）を往還しています。いわゆる累犯者といわれる刑余者問題、つまり今年の7月から大阪で「地域生活定着支援センター」という事業がスタートし、Aさんは私が関わった初めてのケースです。先ず私の事務所で、高齢者Aさんのこれからの生活の予定を話し合い、区役所には、翌日生活保護申請をすることになります。しかし、出所後の所持金は刑務所内作業の僅かな賃金のみ。生保申請しても申請許可がおりるのに約2週間。その間どのように生活すればいいのか。しかもすぐに住まいが必要なのに。生保申請する場合、事前に住居設定をしておかなければならないし。多くの出所者は刑務所をあとにして、浮世の風にたたずみ再び遁走する。そのための地域生活定着支援とはいえ、出所前に手続きが完了していたらと思うのです。刑務所、行政の根本的な福祉の連携が見られず、野宿者問題と同じ末端の支援者の工夫と知恵に負うところが大きいのです。

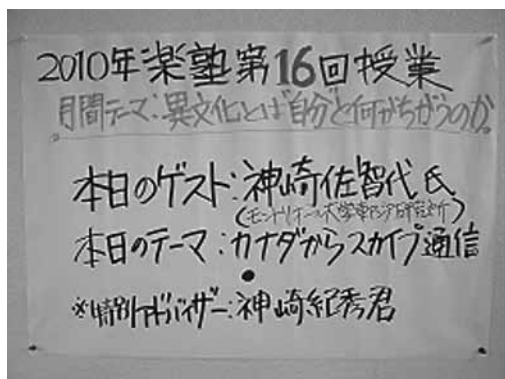
ところでAさんは、いつもお世話になるアパートの尽力があり新しいスタートが切れそうで次は仕事づくりです。

7月26日 塾長

☆7月の月間テーマ：異文化とは“自分”と何が違うのか？

7月24日（土）の授業

- テーマ：カナダからスカイプで授業
- 講師：神崎佐智代氏（モントリオール大学東アジア研究所）
- スカイプアドバイザー：神崎紀秀／進行：佐々木敏明
- 日時：7月24日（土）18：30～22：00
- 場所：くらし応援室
- 参加者：8名



<前半—ケベック⇄西成>

パソコンの整備

本日のゲスト神崎佐智代さんの弟である紀秀君が、17時前からスカイプ通信の整備に汗をかいてくれていました。佐智代さんは現在大学が休暇中で、カナダケベック州東部セント・ローレンス川河口部の都市リムスキーに滞在中のため、ここからわが西成とスカイプ通信を始めることになっています。私たちと佐智代さんとの映像と音声を同時通信するためのパソコンを1台と、佐智代さんが作成したパワーポイント表示用のパソコン1台を用意しました。

パワーポイントは、あらかじめ佐智代さんが紀秀君に送信していたものを、紀秀君がパソコンからプロジェクターで投影し、これをスカイプカメラで写して佐智代さんに送信。これを見て佐智代さんがパワーポイントの順番を確認

し、相互にタイミングをとりあい進めていくのです。準備が着々と進められ、いつもの時間に授業はスタートしました。病欠者などもあり参加者が少ないことは残念でしたが、新しい授業形体として新鮮でした。



ブロードバンドでご挨拶

佐々木：おはようございます。朝早くからごめんなさい

神 崎：おはようございます。お久しぶりです。弟がお世話になりました

佐々木：塾生諸君を紹介します。

塾 生：(全員) こんにちは！

神 崎：こんにちは。神崎です。よろしくお願いします。

佐々木：今何時ですか？眠くないですか。寒いんでしょうね。

神 崎：朝の5時半です。ちょっと眠いですね(笑)。気温は10度です。ちょうど地球の反対側で、位置的には北海道のちょっと北の方ですね。

衛星放送は多くの中継地点があるため、相互の音声が届くのに秒単位の誤差が生じます。スカイプ通信は中継地点が少ないため、相手の音声を待つまでもなくほぼ同時に会話ができるのです。

カナダという国

パワーポイントに従って、お話を進めていきたいと思います。「1. 今日の予定・自己紹介」「2. カナダってどこ、ケベックってどこ。多文化主義ってなに、二言語主義ってなに？」というようなテーマで話していこうと考えています。

「カナダの人口は4000万人。ロシアについて2番目に大きい面積を持ちますが、日本の人口の4分の1で人口密度が低い国です。10の州と3つの準州で成立しています。最近イヌイット(注：極北ツンドラに居住する先住民族。過去エスキモーと呼んだ)の州が加盟しました。同じ国でも時差があります(注：太平洋岸から大西洋岸まではおよそ4時間半の時差がある)。今いるところはリムスキーというところで、普段はモントリオールにいてモントリオール大学で働いています。冬は零下20～30度あり、鼻毛やまつげも凍ってしまいます。除雪車が出るのも日常です」。

神崎さんはセント・ローレンス川が凍った画像を見せて説明してくれました。「そんな寒い国の国技はアイスホッケーで、9月になると寒くなるので、ホッケーを楽しみます」。カナダはホッケーの大好きな国なのですね。



カナダの著名なもの

「カナダはアメリカに近いので、同じように見られているが、マイケル・J・フォックス、キアヌ・リーブス、ジム・キャリーなどの芸能人はカナダ人です。セリーヌ・ディオン、アラニス・モリセットらもカナダ出身の歌手です。スポーツならベン・ジョンソンも。また『赤毛のアン』『熊のプーさん』というお話はカナダの著作。カナダで有名な特産品はメイプルシロップが有名ですが、90%以上がケベック州産のもので、この前日本に滞在中、買おうと思ったら4000円近くもしました。カナダなら750円ぐらいなのに高いですねえ。だから買うのをやめました(笑)」。

「日本とケベック州の関係は割合親密です。1898年にエレーヌ・パラディ修道女が来てハンセン病者の介護に努めました。ケベックは圧倒的にカトリックの信者が多く、ケベック人が日本で設立した私立の教育機関はかなりの数に上ります」。神崎さんの「私立の教育機関」という資料画像では約60もの学校が設立されていました。

カナダの特色

「楽塾では、先にジェイ君がベルギーの話をしていましたが、カナダにも共通点があります。たとえば国籍の出生地主義。これはベルギーと同じです。異国人がカナダで出産した場合、生まれた場所がその子どもの国籍となる」そうです。「1976年、死刑制度が廃止されています。これもベルギーと同じです。カナダ人は日本の死刑制度にかなりの人たちが驚いている」ようです。また「2003年世界で3番目に同性婚を制度化した」といいます。男同士女同士の結婚には寛容な国なのです。

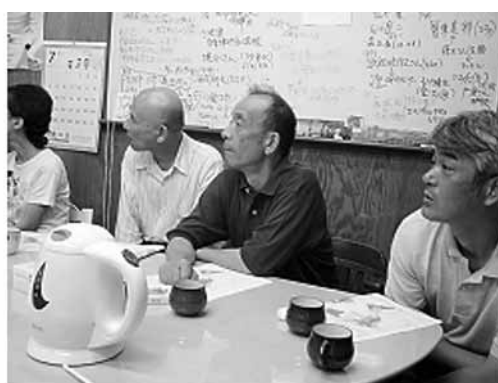
日本の中央集権主義に対しカナダは地域主義が徹底していて、連邦政府(中央)は、各州の取りまとめという役割に徹しているそうです。

カナダの二言語主義(バイリンガリズム)

「日本ではバイリンガルというと、二ヶ国語以上を話せる人々のことを指しますが、カナダでは意味が異なります。カナダ市民はカナダ全土で英語とフランス語によって、連邦政府のサービスを受けることが出来る。このことを二言語主義(バイリンガリズム)といいます。さまざまな看板には必ず二言語(英語・フランス語)で書かれています(大阪でも駅舎や役所、大規模店舗などでは日本語に加えて中国語、韓国語が併記されている)」。

「フランス系住民が多いケベック州ではフランス語が唯一の公用語。タナブイ州(1999年)では、英・仏・イヌクティット語が公用語として表記されている」らしい。

実は前半は、神崎さんの映像は届いておらず(こちらからの映像は神崎さんに届いていたようです)音声のみの参加でした。ちょうど前半の折り返し地点でもあったので10分間の休憩をとり、その間紀秀君に接続の調整をお願いしました。



<後半—カナダの歴史>

歴史の概略

後半はカナダ成立の歴史の話でしたが、紙数が尽きてしまいました。神崎さんの解説を概略的に記述しておきます。「カナダはコロンブスが発見したというのが通説だが、1000年ごろすでにヨーロッパのバイキングが上陸していたのではないかとされている」。

「16世紀カナダはフランスの領有地になった。1776年にアメリカ合衆国が独立したが、18世紀前後にイギリス

との植民地抗争の中フランスは植民地を失った。1837年イギリスの軍事戦略にフランスが反乱。1840年カナダは、セント・ローレンス川をはさんでフランス人居住区の下カナダと、イギリス人が居住区とする上カナダの二つに分けられカナダ連合として合併した。1867年、オンタリオ、ケベック、ノヴァ・スコシア、ニュー・ブランズウィックの4地方が自治領を形成。カナダ連邦が成立し、カナダは東部から西部へと領土を拡大していきます」。しかしこの過程で、インディアン条約が成立し、先住民の人権政策を打ち出すのである。

「1984年までには先住民の文化を認める事情が先住民の州を作っていくことになる。カナダはモザイク社会といわれる。先住民、移民の流入が多文化・多民族化を押し広げていく。カナダには黒人奴隷制度がなかったのがアメリカとはちがう部分である。したがってカナダの国是は多文化主義を標榜している」。

「カナダはさまざまな文化を認めていく背景を持ち、多文化政策を進めていくことは、自由・平等・そして差別から守るというためにどういった法律を作らなくてはならないかという姿勢に貫かれています。年齢差別、女性差別、人種差別にはより厳しく立ち向かう」という姿勢です。

最後にTVで流された数分間の番組を見せてくれました。国際養子が多い国なので、さまざまな移民が混交し、多様な生き方があり、その中で特定の文化国家という結論を導かず、多様な議論を戦わせることが、歴史に誇りを持つことであるという、或る家族の会話でした。



<8月8日(日)の課外授業>

24日、カナダ在住神崎佐智代さんのスカイプ授業を最後に、10年度「楽塾」第2クールが修了しました。「楽塾」は夏休みに入ります。ただ6月に実施した田植え作業後の雑草の草刈作業が待っています。盛夏の一日、秋のよき収穫を期待して草刈に励みたいと思います。熱中症に負けず、楽塾夏期休暇の寂しさ(?)にも負けず、奈良の田園を背景に清々しい酸素をたっぷり獲得しに行きませんか。希望者は「楽塾」事務局までご連絡ください。

課外授業の予定

- テーマ：奈良大柳生で農場の草刈作業
- 講師：南垣内貞史氏(大柳生農場主)
- 日時：8月8日(日) 9:00~15:00
- 場所：大柳生

★楽塾第3クール(9~10月)および第4クール(11~12月)授業スケジュールが決まりました。

2010 年度楽塾第 3 クール・塾生用スケジュール表

楽塾第 3 クール（9 月～ 10 月＝毎週土曜日全 9 講座分）カリキュラム計画表

9 月の月間テーマは「基礎科目のお勉強」を実践し、単科学習を楽しんで見たいと考えています。もう一度算数や国語を学んでみて、昔の自分に帰ってみるのも懐かしいかもしれません。とくに近畿大学学生である山崎、本田両君の実践に期待が集まります。10 月は、6 月に実施したベルト製作に次いで、本格的な皮革製品の製作体験を 4 週連続で行う試みです。靴を作るのかカバンの製作になるのかはまだ決定していませんが、自分だけのオリジナルグッズが楽しみです。

また 10 月 10 日は大柳生へお米の収穫に行く予定もあります。

楽塾授業へのアプローチ

- 場所：三星（みつぼし）温泉 地下交流室
- 会費：1,000 円（授業料 500 円＋給食費 500 円）
- 時間：毎週土曜日 18：30～21：00 ただし第 5 土曜日は休校
授業時間の内訳 18:30～20:30 給食時間:20:30～21:30「予定」

10 年度第 3 クール授業時間表

* 8 月 8 日（日）の第 17 回授業は、奈良市大柳生草刈作業です。

9：00、ビアン前に集合しスタートします。

10 月 10 日は米の収穫です。

| 月間テーマ | 月日（曜） | | ①授業タイトル | 備 考 |
|----------|-------|-------|---------------------------------------|---------|
| | | | ②講師名 | |
| 基礎科目のお勉強 | 9 月 | 4（土） | ①第 18 回授業 算数 ②山崎安敦氏（近畿大学生） | |
| | | 11（土） | ①第 19 回授業 理科 ②本田真大氏（近畿大学生） | |
| | | 18（土） | ①第 20 回授業 国語 ②大谷浩子氏（元ライター） | |
| | | 25（土） | ①第 21 回授業 国語 ②和久貴子氏（NPO ワークレッシュ代表） | |
| 皮革製品の製作 | 10 月 | 2（土） | ①第 22 回授業 ②小林寛明（西成製靴塾） | |
| | | 9（土） | ①第 23 回授業 ②小林寛明（西成製靴塾） | |
| | | 10（日） | ①第 24 回授業 大柳生収穫祭 ②南垣内貞史氏（農場主） | *テーマ外授業 |
| | | 16（土） | ①第 25 回授業 ②小林寛明（西成製靴塾） | |
| | | 23（土） | ①第 26 回授業 ②小林寛明（西成製靴塾） | |

2010.7.20 / 楽塾作成

2010年度楽塾第4クール・塾生用スケジュール表

楽塾第4クール（11月～12月＝毎週土曜日全8講座分）カリキュラム計画表

11月は「生老病死」をテーマとします。人間が避けて通れない生老病死を、日常の健康生活を振り返りながら、食への関心、心のありようなどを4回の授業で遊び、学んでみたいと思います。

12月のテーマは「貧しさと豊かさのあいだ」です。貧しさを積極的に“楽しむ”青年たちによるトーク授業です。とにかく貧乏をネガティブに見ながら、すべての責任を社会のせいにしてしまう風潮に異論を挟んでみようという試みです。自分の命は最低自分で面倒を見るという積極的な暮らしを生きる青年たち。楽塾の根本テーマである価値の転換を実践してみます。

最終土曜日の25日は恒例の謝恩会で2010年の幕を閉じます。

楽塾授業へのアプローチ

- 場所：三星（みつぼし）温泉 地下交流室
- 会費：1,000円（授業料500円＋給食費500円）
- 時間：毎週土曜日 18:30～21:00 ただし第5土曜日は休校
授業時間の内訳 18:30～20:30 給食時間:20:30～21:30「予定」

10年度第4クール授業時間表

| 月間テーマ | 月 日（曜） | | ①授業タイトル | 備 考 |
|-------------|-------------------------|--------------------------------------|-------------------------------|-----|
| | | | ②講師名 | |
| 生老病死 | 11月 | 6（土） | ①第27回授業 メタボ追放5 | |
| | | | ②藤原敦子氏（空手サークル「長橋育友会」代表） | |
| | 13（土） | ①第28回授業 天高く馬肥ゆる | | |
| | | ②みゆきちゃん（調理師） | | |
| | 20（土） | ①第29回授業 身体のメンテナンス | | |
| | | ②岩山春夫氏（大阪市立大学創造都市研究科修士課程） | | |
| 27（土） | ①第30回授業 こころのメンテナンス | 楽塾授業通算 | | |
| | ②弘田洋二氏（大阪市立大学創造都市研究科教授） | 100回記念 | | |
| 貧しさと豊かさのあいだ | 12月 | 4（土） | ①第31回授業 私はこんなふう生きる | |
| | | | ②森口 誠（生活園芸家・社福法人わらしべ会コーディネータ） | |
| | 11（土） | ①第32回授業 私はこんなふう生きる | | |
| | | ②山口明香氏（アーティスト・りぷら）×三島宏之氏（写真家・NCスタッフ） | | |
| | 18（土） | ①第33回授業 私はこんなふう生きる | | |
| | | ②森田智保氏（りぷら店長・Aダッシュワークスタッフ） | | |
| | 25（土） | ①第34回授業 さよなら2010年謝恩会 | | |
| | | 塾生・応援団 | | |

2010.7.25 / 楽塾作成

第 17 回目の授業が終わりました (通算 87 回)

神のすみか

8月の前半、本年2月実施をした「楽塾修了記念旅行」以来の熊野川山間部へ、就労事情の調査をしてきました。市大の水内先生と院生たち約10人の仲間に加えてもらったのフィールドワークでした。数日大雨が続いた中での作業とはいえ、熊野の雄大で神秘的な風景にはいつも圧倒されます。山頂に霧がかかり、徐々に雨雲が張り出してくると、墨絵のように単彩の濃淡をみせて表情を変えてゆく山々には言葉を持ちません。また熊野川やその支流が見せる豊かな蛇行と、流れに残された白砂の中州には神々しさを抱いてしまいます。私の新宮や熊野に心がひかれるわけはただ一点、神がおやすこの風景にあるといえます。

熊野から帰阪後の翌々日、恒例の奈良市大柳生へ田んぼ作業に行ってきました。大柳生の風景は熊野とは違い、清楚でおだやかな田園風景が核となっていて、少し離れた小高い山々がそれを囲むという盆地風景です。比較的奈良市内からは近く、棚田やホテルが出現する柳生の風景は、熊野とはまったく違って、ここは人が暮らすおだやかな安住の場という印象を感じます。年間を通し4、5回を往復する場所で、楽塾の給食に食するお米を生産しに行くのです。今回は課外授業の報告です

8月9日 塾長

8月8日(土)の課外授業

- テーマ：奈良大柳生で農作業
- 講師：南垣内貞史氏(大柳生農場主)
- 日時：8月8日(日) 9:00～17:30
- 場所：大柳生農場および奈良市青少年野外センター
- 参加者：8名



不参加のはずのM君

8時半、すでに炎天下のビアン前に塾生たちが集まっていました。その中に不参加のはずのM君がいました。彼は数日前の深夜、熱中症を起こしたとって電話をかけてきました。異常に血圧が低く、救急を呼んで現在通院している状態です。それだけでなく過去何度も楽塾内で同じような状態になっているので、私からも不参加を勧め、彼も了解していたはずでした。M君の参加したい気持ちは分かりましたが、陰日なたのない農場での作業は危険だし、発作を起こす可能性も充分考えられたので残念ながら帰ってもらいました。

野外センターに馬場が出来ていた

大柳生には比較的早く到着しました。まず野外センターでチェック・インをし、荷物を置いて着替えなどをします。同じ頃、田岡君家族も来ていて田植え以来の平大君にも会えました。両手に大きな軍手をはめ平太君はポーズをとっ

ていました。

南垣内さんがやってきて、まずは野外センター内にあるサツマイモ畑に案内してくれました。私たちが植えたサツマイモも成長していましたが、子どもたちが植えた隣のトウモロコシは人の背丈を上回る高さになっていてびっくりしました。猿がやってきて畑を荒らすそうで、周囲にはネットが張られていますが効果は薄いそうです。この畑の横には馬場が作られて、馬がつながれています。センターでは時折業者より馬を借り、子どもたちに乗馬してもらっています。そこで塾生のAさんが乗馬して一回り。平大と田岡君がやはり一回りしました。



畑に肥料をまく

このあと、センターから2キロほど南にある黒豆畑に行き、ここで肥料である粉末の尿素をまくことになりました。成長した苗と苗との間に穴を掘り、そこに肥料を入れていくのです。穴掘り人と肥料散布人、それに肥料バケツを運ぶ人を一組とする2班編成で畑に入り作業を開始しました。ところが畑の半分くらいのところで肥料がなくなってしまいました。南垣内さんは山林の用事でここにはいず、また連絡も出来なくなってしまったので、穴だけを開けることにしました。作業が終わるとすでに正午を回っていて、肥料入れは午後に行うことにし、昼食をとるために畑を後にしました。



乾杯！

センターの野外炊事場に戻ると、一足先にバーベキューの準備をしていた田岡事務局長が備長炭に火をつけ、網の上に盛った野菜や肉類の食物をひっくり返したり、味付けに忙しく、その周りで平大君がゴソゴソ動き回っています。ビールで乾杯し、出来上がった食べ物をみんなでつつきあって食べ始めました。今日のバーベキュー食材は、牛・豚・ウインナ・アジの開き・たまねぎ・しし唐・なすび・アスパラ・おくらなどで量的には少し余ってしまうほどに多量でした。

センターでは木工室を作る準備で、杉を伐採したり、搬出しているスタッフが忙しそうに働いていました。その中に南垣内さんもいて、不足の肥料については昼食後に届けてもらうことになりました。炎天はおさまらず、暑いとはいえそれでも大阪よりも気温は低いし、風もさわやかに吹いていました。何よりも大柳生の山々と田園景観は独特のもので、視覚的にうっとりさせられます。田岡君たちはここで予定があり、私たちと別行動ということになり、分かれることになります。



作業中断

さて肝心の肥料が届かず、南垣内さんが作業途中で行方不明に。連絡すれどもまったく音信なし。私たちはひとまずセンター内の部屋に戻り休憩することにし、南垣内さんからの連絡を待つことにしました。3時過ぎやっと南垣内さんと連絡が取れたのですが、肥料が不足していて今日は出来ないことがわかりました。また本題の田んぼの草刈も事情で無理だということになり、今日は残念ながらおしまいということになります。

せっかくの草刈でしたが、少しばかり中途半端な大柳生となり、塾生たちは、作業途中の未完成という気持ちになっていました。それでも大汗をかき、自然の恵みを満喫できたのだから満足、満足といって楽しんでくれたのですが。

4時前センターを出発し、忍辱山（にんにくやま）円成寺庭内にある茶店でカキ氷を食べることにしました。大汗をかいた後の内臓に冷たいカキ氷が染み入るように溶けていきました。このお寺の庭園池には蓮の葉がたくさん浮かんでおり、時折薄紅色の花が起立していました。帰阪も予想以上に早く5時すぎには帰ってくる事が出来ました。いいお天気で、往復の交通や作業のトラブルもなく、しかし初めての不完全な援農体験でもありました。10月はいよいよ収穫の時期です。



<9月4日(日)の授業>

楽塾は9月までお休みになります。そして9月最初のゲストは塾生であり、大学生でもある山崎君の授業です。昨年10月、山崎君は本田君と二人で授業のコラボレーションをしてくれ好評でしたが、今回は算数をテーマに授業をプログラムしてくれます。長い間、算数や国語などの授業から遠ざかっている私たち、塾生諸君の頭をやわらかくしてくれるそうで楽しみにしています。苦勞人山崎君の算数哲学ってどんなだろう？

第18回目の予定

☆9月の月間テーマ：基礎科目のお勉強

●テーマ：算数で遊ぶ

●講師：山崎安敦氏（近畿大学学生）

●日時：9月4日（土）18：30～21：00

●場所：三星温泉地下交流室

第18回目の授業が終わりました（通算88回）

新宮と大逆事件

数年前より新宮市にかかわりをもつなかで、大逆事件のことを知るようになりました。大逆事件は高校教科書などで僅かに記載はされていますが、私が驚いたのは、この事件が紀州の幾重にも山を重ね、さらには川をさかのぼり、熊野古道をいただく最南端の地新宮にも及んでいたということでした。明治44年1月18日、幸徳秋水ほか24名の逮捕者に死刑（その翌日、恩赦などで半数が無期懲役などに減刑されている）判決が出されました。そのうち大石誠之助（医師・死刑）、成石平四郎（新聞記者・死刑）ら6名が新宮ゆかりの人たちでした。自由や平等を訴える無政府主義者、社会主義者への弾圧は執拗で、権力を持つものたちの恐怖がえん罪を捏造した時代でした。1960年代以降、無実で死んでいった郷土の偉人を顕彰する取り組みがなされ、2002年には「大逆事件の犠牲者6名の名誉回復を宣言する」とした新宮市長の議案が市議会に提出され、満場一致で可決されます。大逆事件は6月に100年目を迎えたそうです。

被差別部落という問題、非戦平和を訴え、しかし世界的視野で人間の存在を問おうとし、新宮の寺院を中心に談話会を催していたがゆえの事件でした。しかし国家にとってはいかに山峡の地であろうが許容しなかった。後に中上健二は、この事件の本質を検証することが事件の真実につながると言います。私たちは常に歴史によって培養されています。大逆事件を通して自分たちの歴史を探せるかもしれません。

9月7日 塾長

☆9月の全体テーマ：基礎科目のお勉強

9月4日（土）の予定

- テーマ：楽しく遊んで算数塾
- 講師：山崎安敦（近畿大学生）
- 日時：9月4日（日）18：30～21：30
- 場所：三星温泉地下交流室
- 参加者：9名



<前半——算数まんだら>

算数への気持ち

真っ黒に日焼けした山崎君。しかも、いつもの長髪がバツサリ短くなっていて、少しばかりイメチェンの印象です。「海に行ってきたんか」とか「ナンパしてきたんやろ」と聞く塾生たちに、すべてきっちり答える山崎講師。授業前の打合わせで「今日のテーマ」は「楽○○○塾」と虫食いテーマとなりました。授業が始まると、山崎君はこの虫食いの種明かしを塾生たちに披露しました。虫食いの完成品は「楽しく遊んで算数塾」でした。そして、この虫食いテーマはこの日の授業の伏線にもなっていたのです。同じ近大の本田君もフォロワーとして参加。頼もしい授業が始

まります。

「もともと算数が嫌いで、しかし、スイミングプールの指導員をしていると、生徒たちはなぜ泳ぎが不得手なんだろう、どうして泳ぎが出来ないのだろうと考えてしまう。それは、自分も算数が不得手であることとよく似たことではないかと気がついた」という山崎君は、嫌いになってしまう原因。不得手なまま興味を失っていく自分を探りながら嫌いな算数を一定の距離から眺めて、授業にすれば面白いかもと考え、授業づくりに臨んでくれたのでした。

まずは塾生たちに質問です。「算数は好きですか?」。そんな質問に「数学は嫌い」「分数が出来ない」「暗算が出来ない」「数を見るだけでいや」などと答えが返ってきます。「算数は積み上げていかねばならない学問なので、ちょっとつまずいてしまうと余計にやる気がなくなってしまうんですね。算数嫌いな教室でただひとり小さい頃から好きだったといっていたのは事務局の田岡君。結構数字が大好きで算数には素直に入れたと話します。これは理工系と文科系の因縁の宿命かも?



虫食い算

「それではウォーミングアップしてみます」といい、山崎君はプリント用紙を配ります。まずは「①たし算ひき算」からスタートです。簡単なたし算・引き算計算がそれぞれ10題ずつ。時間をかけてやり終えました。続いてオランダ式という虫食い計算。やはりたし算・ひき算ですが、答えの数字は既にかかれていますが一ヶ所穴が開いていて、その虫食いに当てはまる数字を入れなければなりません。例えば $8 + \square = 12$ 、 $20 + \square = 33$ 、 $19 - \square = 15$ などで、たし算の場合は答えの数字から現れている数字をひけば虫食い部分が答えとなり、ひき算も、答えの数字と現れている数字を合算すれば答えが分かるのです。逆算を利用するということです。

ところで1枚目のシートと2枚目のシートの問題は同じでした(一部答えの違う問題はありましたが)。従って、(答えが現れている)2枚目のシートを見れば答え合わせが出来るというものです。塾生たちはその答えあわせに興味を持っていました。赤ペンで正解を確認しています。授業には、今週「理科」の講師をしてくれる本田君が塾生の間に入って、いろいろアドバイスをしてくれていて、なかなかいいムードだったのです。

さて3枚目のシート。いよいよかけ算とわり算のそれぞれ10題ずつ。これも答えはあらかじめ現れている虫食い算です。 $\square \times 8 = 48$ 、 $7 \times \square = 21$ のかけ算ではそれぞれ現れている答えを、現れている数字で割ればよいし、 $\square \div 8 = 7$ や $72 \div \square = 8$ の割り算では、現れている答えの数字に表れている数字を掛けたり、表れた数字に想像する数字を当てはめれば穴が埋まります。

虫食い算では、 $8 + \square + \square = 19$ や $\square - 3 - \square = 6$ とか $\square - \square - \square = 0$ の計算式のように、「自分で数字を変幻自在にあやつり、思考を高めていくことも大切」だと山崎君は話します。虫食い算はここで一端お休みにして後半の授業を待ちます。



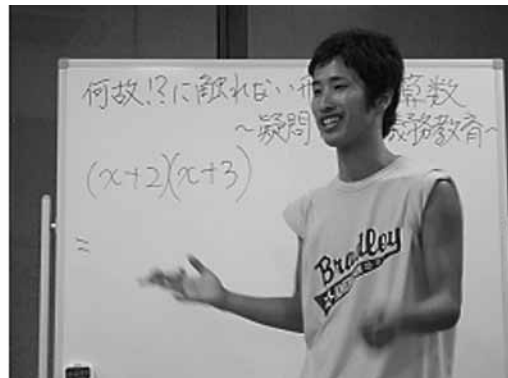
<後半——算数を好きになるために>

何故! ?に触れない形式的算数～疑問だらけの義務教育～

この表題は山崎君の算数・数学という勉強についての疑問で、そこから授業は出発しました。山崎君は、算数のつまづきを現在の技術的・形式的な教育のありかたに求めています。そして算数や数学を勉強して何の役に立つのだろうか、現実生活で算数や数学の必要性があるのだろうか。これは塾生からの意見でもあったところです。

山崎君は、因数分解（二次関数の展開）を例にして話します。 $(x+2)(x+3)$ なら、まず① $x \times x$ ② $x \times 3$ ③ $2 \times x$ ④ 2×3 という順序で計算されていき、 $x^2 + 5x + 6$ が答えなのですが、しかしそれがどうしたのだというのです。因数分解の何に意味があるというのだろうか、と。また山崎君の小学校の頃「分数」でつまづいたといいます。足し算ならともかく掛け算になったときの分数。5分の1 \times 5分の1 = 25分の1は何故こうなるのだろうか、と。

因数分解にしる分数計算にしる、何故そうなるのかの説明を学べてこなかった。公式に当てはめ答えを出すだけの計算から脱することがない。その上、今度は5分の1 \div 5分の1 などという割り算まで現れてきた。そこで、何故そうなるのか、先ず割り算計算について塾生同士で話し合ってみることにしました。問題は $3 \div 1 = 3$ 。何故答えが3になるのだろうか。



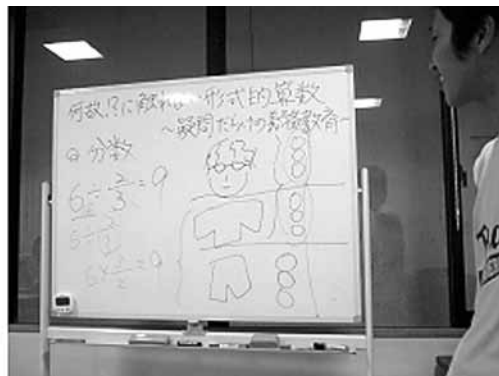
みんなで頭をよせあつて

Aさんが代表して説明します。「3個のものを1人で食べるとします。3個はそのほかの人がいないので、そのまま1人のものとして残っているのです。だから答は3個になるのです」。では問題 $4 \div 2 = 2$ ならばいかがでしょう。「4個のものを2人で食べようという設定です。そこで4個分を2人で仲良く食べるとなると2個ずつを分けて食べるということになります」。つまり、割り算は1人分の食べる量を求めるということなのです。◇がリンゴ。◎が人。 $4 \div 2 = \diamond\diamond\diamond \div \textcircled{\circ} = \diamond\diamond$ (1人あたり)。

山崎君の問題は続きます。それでは $3 \div 2$ 分の1 = 6 という計算ならどう説明できるだろう。「半分の人 (0.5人) はありえないけど、ここでは半分という人を考えます。3個のりんごを半分の人で割ると、1人分は6個になります。だから、答えは6です」。◇◇◇ \div 0.5 ◎ このように数字を具体的なものに置き換えて、身近な算数を考えてみるのが出来ました。時には田岡君の理数的頭脳にもフォローされ、何よりも塾生が一丸で数字に取り組んでいた姿を美し

いと感じました。

算数の苦手意識や不得手さはさまざまな要因にあるのかもしれませんが、しかし、数字を考え計算を立てていくことは、物事を考える時に大きな栄養を与えてくれるきっかけになるはずだと、苦手な数学に憧れ続けている私は思います。苦手な算数を逆手（さかて）にとっとうまく授業を演出してくれた山崎君に感謝します。そして協力者の本田君ありがとうございます。



おなかも虫食い

この後、頭も使ったけれど、同様におなかも随分虫食い状態で、給食への食欲は全員旺盛だったことを付け加えておきます。何せお米もおかずも全部平らげてしまったのですから。



<9月11日（土）の予定>

山崎君の算数授業に続き、今週も近畿大の学生である本田真人君が理科の授業を担当してくれます。これまでも山崎君と本田君のコラボレーション授業が実現し、塾生からは好評でした。本田君は農学部在籍し、理工系のセンスを背景に自然科学としての地学を講義してみたいと話してくれています。世界的にも天変地異が多発する現在、とくに気象や天文についてのお話が楽しみです。

第19回目の予定

☆9月の月間テーマ：基礎科目のお勉強

●テーマ：理科もいろいろ、地学でいかが？

●講師：本田真人氏（近畿大学学生）

●日時：9月11日（土）6：30～21：00

●場所：三星温泉地下交流室

第19回目の授業が終わりました（通算89回）

焚書（ふんしょ）

華氏 451 度というのは紙が燃えはじめる温度で、摂氏なら 233 度だといえます。あらゆる情報を管理する国家が、すべての書籍を有害なものとし、ファイヤーマンに発見された後燃やされ、所持していた者たちは逮捕されるのです。相互監視の恐怖社会を描きます。幻想的な表現で有名な作家レイ・ブラッドベリの著作「華氏 451 度」という小説の大筋です。

もう 20 年前、70 年代の軍事政権下のチリで虐殺された息子の行方を探す父と息子の妻の探索を描いた「ミッシング」という映画がありました。確か記憶では軍隊が権力に都合の悪い書物を焼き続けるシーンがありました。このように学問や思想上の書物を恣意的に焼却し、国家的排除することを焚書といいますが、ナチスドイツの焚書は弾圧の象徴として歴史的に有名です。ナチスはたくさんの近代絵画なども非ドイツ的という理由で燃やしたのです。戦後、私たちの日本でも悪書追放運動と称し、PTAを中心とした焚書運動があったことを覚えています。

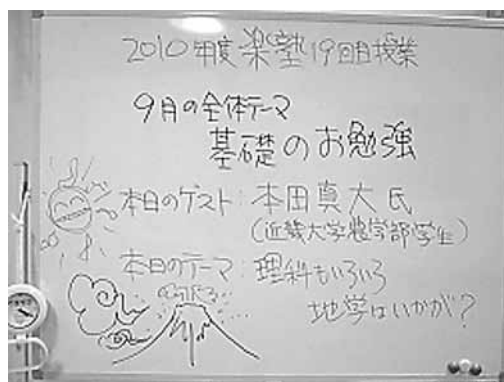
ところが先日、米国キリスト教教師が、イスラムの聖典であるコーラン焼却計画を立て、内外ともに騒然としているという記事を見ました。同時多発テロの現場グランド・ゼロ周辺のモスク建設が直接の原因とされていますが、それにしてもいまだ焚書かと驚き、あまりのアナクロニズムと稚拙さに笑ってしまいました。滑稽ですが宗教の持つストイシズムのあらわれと見えないこともありません。かのブッシュ大統領の正義の戦争を思い出しました。

9月13日 塾長

☆9月の全体テーマ：基礎科目のお勉強

9月11日（土）の授業

- テーマ：理科もいろいろ、地学でいかが
- 講師：本田真大氏（近畿大学生）
- 日時：9月11日（日）18：30～22：00
- 場所：三星温泉地下交流室
- 参加者：10名



<前半——理科まんだら>

理科もいろいろ

本田君は、前回算数の授業のゲスト山崎君と同じ近大の学生です。農学部に通う本田君にT君は「農学部とは農業の勉強をするところ？」と早速質問です。本田君は「農業だけではなく、僕は環境保全やエコロジー、気象などを学んでいます。近大では養殖マグロなどでも有名なのですよ」と答えます。本日の授業は、先週と反対に山崎君が本田君のフォロワーとなり授業が始まりました。

「理科という学問には、生物や化学、物理学、地学などという分野がありますが、塾生の皆さんにとって、理科とはどんなイメージの学びですか？」という質問に、「生物の時間に、めしべやおしべ、昆虫の名前などが分からなかった」

「物理を学んだとき、数式が出て嫌だった」などと意見が返ってきました。

地学への入り口

「地学とは地球科学 (earth science) のことで、高校の授業では、地球や天文に関する学問ですね。身の回りに起こる自然現象に興味を持つこと、それは毎日の生活に直接関係している天気現象に注目することなのです。僕は地学という学びを続け、今後は気象予報士をめざしています」と話し、身近な天気予報の話題に移っていきました。

「天気予報についてのクイズです。天気予報は西暦何年に始まったのでしょうか」ということで3択からの出題。これは1884 (明治17) 年に東京気象庁が開設され、毎日3回、全国の天気予報を発表することになったそうです。



数値予想

「現在の天気予報は数値で決められます。世界中で調べた気象観測データをもとに、計算し予報するので<数値予報>とも言われています。それでは、現在の天気予報は1日に何回予報を発表するでしょう」という質問で、この答えは3回 (毎日5時、11時、17時に発表) でした。現在の天気予報の数値予報精度はかなり高いみたい。

このほか177の気象情報案内のこと (大雨警報、風が強いときは暴風警報や強風注意報、波が高いときは波浪警報、波浪注意報が出される) や、天気予報をつくるきっかけとなった動機は戦争であった (19世紀後半のクリミア戦争時、フランス戦艦が暴風雨で沈没し、災害予防のために天気図を作った) ことなどがクイズで解説されました。

異常気象

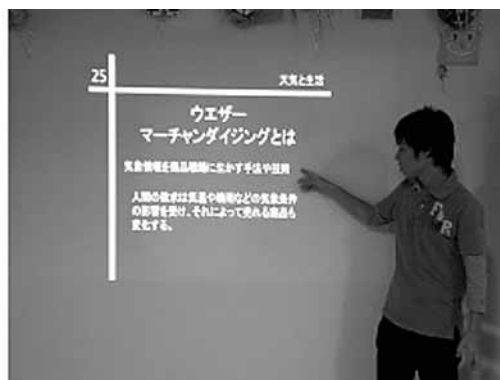
今夏は猛烈な暑さが続き、朝晩は多少の温度差が出てきたものの、まだまだ熱気が収まりそうもありません。このトピックがクイズになりました。「最近京都で39.9度という高温を記録しましたが、1933年7月に、40.8度を観測した地方があります。それはどこでしょう」ということで、沖縄・埼玉など4択でしたがこの答えは山形。東北地方というのが意外でした。「この夏の暑さの異常な理由は、太平洋高気圧の勢力が強かったためだと考えられます。その原因はラニーニャ現象であるといわれています (注 LIVEDOOR 天気情報から「ラニーニャ」の項: 南東貿易風が強まり、西に向かう海流が強まるため、ペルー沖では深海からの冷水が湧き上がり、水温が低くなる現象。エルニーニョ現象と逆であるが、異常気象の一因と考えられている。ラニーニャ現象が起こると、日本付近では東日本、西日本の夏の気温は平年並みから高め、冬の気温は平年並みから低めとなる傾向がある。「ラニーニャ」とは女の子の意味)。ちなみに「エルニーニョ」とは幼子イエスの意だそうです。本田君は「ラニーニャという言葉覚えて」といって、ラニーニャ、ラニーニャと皆で大声を上げて復誦したのでした。

「さてビールは、気温何度以上で売り上げが伸びるといわれているか分かりますか」。これには18度、25度、32度とか選択肢がありましたが、ビール好きの塾生たちの意見が分かれています。私が「温度なんか関係なく、飲むやつはどんな時でも飲むよ」というと皆は大笑いしていました。答えは25度らしいです。

ウエザー・マーチャンダイジング

ウエザー・マーチャンダイジングというのは、気象情報を企業などが商品の企画戦略に活かす手法や技術のこと。人の欲求は気象の影響を受け、それによって売れる商品も変化するのです。たとえば、「猛暑になるほどおでんが売

れる理由とは!？」というクイズでは、「オフィスでは強い冷房で身体が冷やされるため、昼食時に暖かい食べ物を食べたい欲求が起きる」という答え。実はN君がこの答えを言い当てていました。



<後半——天気予報の冒険>

気象測定

後半では「天気予報」を学ぼうという時間です。「皆がイメージする天気イメージって?」という質問には「晴れている」「雨が降っている」「積乱雲」などと意見が返ってきます。「天気予報をどこで見るといいのでしょうか?」という問いには、PC・携帯・TV・ラジオ・新聞などさまざまなメディアが利用されています。本田君が気象予報士になる大きな動機は、TVの天気予報で素敵な予報士が解説していたことだといいます。それがカッコよく、農学部をめざすきっかけだったといいます。

「天気図を作るには観測データを用い、数値予想を活用して、天気予報を作成します。そのなかでも気象情報を測定するカッコいい「気象測器」について解説してみます」。

1. アメダス

「アメダスは自動で観測を行うシステムです。雨量や気温、風向風速、日照時間などを観測します」。全国に1300箇所あるそうです。先日39.9度を記録したのもアメダスでしたが、その後、アメダスに草のツルが巻きついて、その記録は正しいものだったのかどうか問題になっているという記事がありましたね。

2. ウインドプロファイラ

「風向きや風の強さを観測するのがウインドプロファイラ。ウィンド（風）のプロファイル（横顔・輪郭・側面図）を描くものという意味の英語の合成語。ウインドプロファイラは、地上から上空に向けて電波を発射し、大気中の風の乱れなどによって散乱され戻ってくる電波を受信・処理することで、上空の風向風速を測定するそうです」

3. レーダーナウキャスト

全国の気象レーダーの観測値を5分毎に合成したデータと、気象レーダーによる降水強度分布、降水域の移動状況を基に、60分先までの10分間毎の雨量を1km四方の領域毎に予測した降水ナウキャストを連続的に表示します。

4. 気象衛星

36000キロの上空にあり、地球の自転とともに回っています（静止衛星）。天体の観測データのほか、飛行機や船から送られてきたデータなども中継して地上に送ります。さて質問。「1987年までは、気圧の観測は現在のレーダー観測ではなく、どんな風に観測されていたでしょう」。これは米軍の飛行機が直接雲海に入って観測をしていたそうで、塾生の何人かは正解でした。

5. 可視画像と赤外画像

可視画像は太陽光線の反射で撮ったもの。赤外画像は赤外線撮影で夜も撮れる。そのほか水蒸気画像という撮影方法もあるそうです。



みんなで天気予報の発表

あらかじめ、本田講師が作成した9月8日付けのTV天気予報画面6種をプロジェクターで投射し、6種の天気予報それぞれを予報官となって解説するのです。内容は台風予報・洪水予報・今日の天気・週間予報などでした。解説文も当時のキャスターが9月8日に話したものを本田君が採録しコピーしたものです。6人が天気図を見ながら棒読みにならず、中には視聴者に向かって解説する塾生もいて、なかなか臨場感ありでした。

久しぶりにH君も来て給食も弾み、下校は10時を回ってしまいました。



<9月18日(土)の予定>

久方ぶりに大谷さんの授業です。現在ご両親が介護中で、安否確認のため定期的に郷里へ帰られています。仕事と郷里への往復が大変な折に授業をお願いしました。これまで3度の授業も国語的な要素を持つ授業でしたが、18日の授業については、国語の基礎的な学びとして興味があると話してくれています。多忙な折の楽塾へのご協力を感謝いたします。塾生諸君も楽しみにしています。

第20回目の予定

☆9月の月間テーマ：基礎科目のお勉強

- テーマ：日本語の迷路へようこそー怪しい“ことのは”探検②ー
- 講師：大谷浩子氏（ライター）
- 日時：9月18日（土）18：30～21：00
- 場所：三星温泉地下交流室

第 20 回目の授業が終わりました (通算 90 回)

偽薬

ルイ・ヴィトン、グッチ、エルメスなど高級ブランド品のコピーが摘発されることがあります。とくに女性のファッションとして、たとえその商品が偽物であっても、見た目のデザインがブランド商品なら納得して買うという心理を聞いたことがありました。ブランド代用品を大量に販売し、多くの欲求に応じて闇で稼ぎまくる仕事師がいるのですが、それにしても代用品への需要が供給を促しているといえます。

バン・ファン・メーヘレンというオランダの画家がいます。20世紀初頭に生まれた彼は自分の画業を認めない美術界への復讐として、17世紀の作家フェルメールに成りすまし贋作を製作し続け、最後はナチス・ドイツをも騙して逮捕されてしまうのですが、それまで彼が描いたフェルメールの贋作は真作として認められ続けました。メーヘレンは大贋作家として“偉業”を達成するのですが、これなどは自らの画業を逸脱しながら代用品を作り、多くのフェルメールファンを感動させたのです。

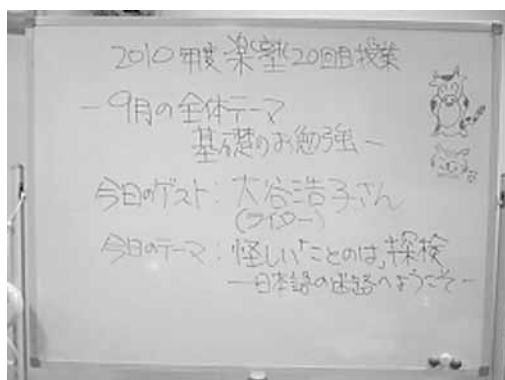
ホメオパシーという言葉が最近よく聞きます。通常の医療とは異なる民間療法で、さまざまな物質をしみこませた砂糖玉(レメディ)を患者に飲ませ、病気を改善させる効果のことをいうのだそうです。日本学術会議は「荒唐無稽」と一蹴し、医療現場から排除すると宣言しました。薬としての代用品が治療効果をあげるということで、たくさんの患者が利用していると聞きます。胡散臭い業者などもありそうですが、代用品を必要とする社会もあるので、偽薬を科学一辺倒で排除する傲慢さを感じます。

9月21日 塾長

☆9月の全体テーマ：基礎科目のお勉強

9月18日(土)の授業

- テーマ：日本語の迷路へようこそー怪しい“ことのは”探検②
- 講師：大谷浩子氏(ライター)
- 日時：9月18日(日) 18:30～21:30
- 場所：三星温泉地下交流室
- 参加者：9名



<前半——単語・会話・言葉>

「国語の好きな人は挙手」。3人ほどが手を上げました。理由は本を読むことが好き、漫画が好きという意見です。大谷さんは「日本語は、いろいろなゴロ合わせ、微妙な言い回し方があって楽しい言葉です。今日は普段使っている言葉を授業で使ってみようと考えました」。

会話

日常さりげなく使っている会話を文字化すると、不思議な音律となっていることが見えてきます。「なになに」会話では、A.「なんかあったの」、B.「なにも」、A.「なんなのよ」、B.「なんでもないって」…というように、具体的な言葉が出ないまま延々会話だけが続いていきます。「っていうか」会話では、A.「ずいぶん駅から遠いよね。B.「っていうか、不便だよね。A.「コンビニでもあったらなあ。B.「っていうか、腹ペコなんだよな…」というように相手の言葉に対する言い換えを表しています。これらの会話を検討しながら、自分ならこんなしゃべり方をするとか、こんな会話をしないと、会話をする2人の関係性や恋愛事情などにも踏み込んでいきました。

色彩の意味

色の単語からスタート。「赤という言葉はどんな風に説明できるでしょう?」。N君は「血の色」といって先頭を切りました。T君は「赤ちゃん」。大谷さんは「“血の色”というのはさすがです。ほかに情熱や革命の赤、赤たん青たん、信号の赤、赤字などにも使われます。それでは青についてはどうですか?」という質問には、「地球」「海の色」「空」などと意見が出されました。それには「直接地球を見た人は少ないですが、青い星とも言われます。そのほか青信号や、俗に馬のことを青毛(あおげ)というそうです。若いとか未熟のことを青くさいなどといいますよね」。

「白はいかがでしょう?」。これには田岡君本人が「田岡は純白だ」などと答えるので「いや田岡は腹黒い」など戯言の応酬でシロの定義が定まりません。白は雪のような白、潔白の白です。「黒」についても「木炭」「犯罪容疑者」「黒字決算」などと説明されました。



様子を表す言葉

「歩き方の表現では、異なる言葉が使われることがあります。たとえばテクテク、スタスタ、トコトコ、バタバタ、ヨチヨチ、フラフラ、ノシノシ、シャナリシャナリなどたくさんありますが、それぞれの言葉によって様子が違います。どんな人がどんな時、こんな表現を使うと思いますか?」。これには塾生たちが反応します。「テクテクという言葉にはひたすら歩いている、距離があることを表している」「スタスタは急ぎ足」「ヨチヨチは幼子のつたない歩き」などなど説明が的確でした。

似ているけれど大違い

よく似た語感、ニュアンスを持つけれど、意味がまったく違う言葉を取り上げます。

●腰が軽い v s 尻が軽い

→「腰が軽い」は動きが軽快である。「尻が軽い」は軽率だという意以外に落ち着きがない、身軽とか浮気な女という意味も。

●腹を抱える v s 頭を抱える

→前者は大笑いをする状態で、後者は悩みを訴えるしぐさ。頭を抱えるなんて、ロダンの考える人みたいなもんですね。「以上の2つは身体の部位が出てくるので身体言葉といえます」と大谷さん。

●いやがおう v s いやがうえ

→「いやがおう」は、好き嫌いかかわらず。「いやがうえ」は益々とかそれ以上にとかの意。

● 玄人はだし v s 素人ばなれ

→「玄人はだし」は玄人がはだして逃げていく様を言い、素人の技術が玄人並みのことを言う。「素人ばなれ」は素人らしくないこと。

このほか、○ああいえばこう言う v s 言を左右する、○お先棒を担ぐ v s 片棒を担ぐ、○おざなり v s なおざりなど多彩な表現を学び、てんでんばらばらな解釈でみんな図に乗っていました。ところで「図に乗る」ってどんな意味？「調子に乗ってつけあがること」がこの場面での最適な解釈です。それでは「とどのつまり」とは？とどとは魚のぼらが成長して最後の名前がとどとなるため、最後のとか、結局という意となります。塾生諸君の間では「とどが出世魚ならくぶりのつまり」と言うてもええやん。しかしくぶりのつまりなら便秘みたいやなあ」とここでも図に乗って大ブレーク（注：ぶりはツバス→ハマチ→メジロ→ブリと段階的に名前が変わる）。



<後半

字の起源>

象形文字

後半は漢字の起源を学びました。古代、女は神であったというのはどの国もそうであるらしく、「女性とシャーマン」という項目では「女」という字の成り立ちを勉強。象形文字でひざまづく女の姿が「女」という文字を表し、「妻と夫」では結婚の晴れやかな二人の風情が描かれ、「冠」は成人の元服のシーンを表しているらしい。そのほか廟で安心を祈る女が表される「安」、魂を身ごもる「身」などなど。

中でも残酷で怖い文字がありました。「幸」の字源は、手かせをされた男の象形から成り立っていて、手かせ程度なら幸福だという刑罰の形式にもなるらしいのです。また「正」「征」「政」などの文字は、敵や悪行などをすべて力で改めるという意味で作られた文字のようで、あまり平和なイメージはありません。これらは、おどろおどろしい象形文字から生まれているようでびっくりです。



名前で遊ぶ

大谷さんは、塾生それぞれの姓名の一字一字にどんな意味があるのかを調べ、各個人にプリントしたものを手渡しました。たとえば私なら、【佐】 1. 脇で支える「佐幕／補佐」 2. 将校の階級の「佐官／大佐」【木】 1. 木立「花木・巨木・古木」など 2. 木材「木見・木刀・土木」など。【敏】 1. 頭の働きがすばやい・さといなどなどです。

— 漢

自分の名前についての印象を語るワークショップとなりました。ここでは簡単に印象記としてレポートしておきます。

A君：自分の名前に負けている

B君：正月に生まれたので今の名前がある

C君：(初めての楽塾参加になったため) ちょうど自己紹介をするきっかけとなりました。私の名前は、親が好きだったミュージシャンの名前からとったようです。

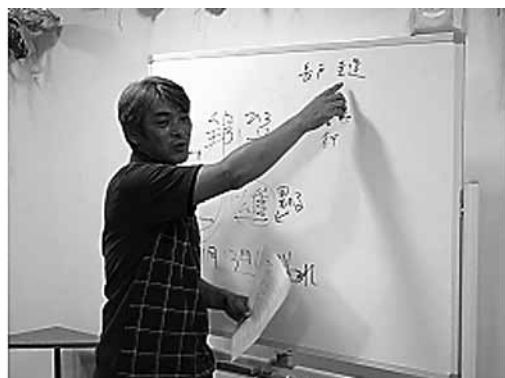
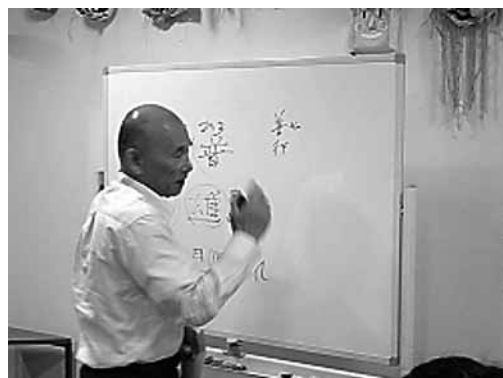
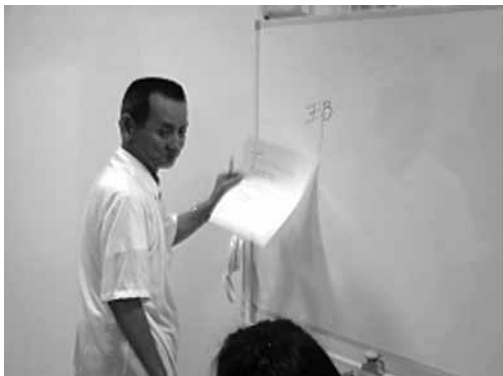
D君：九州地方にある名前で、関西で調べてみると親戚であったことが分かった。

E君：私の名前は、親が関係性の中で生きろという意味の名前で命名したことが分かった。

F君：名前どおりの人間になった。

G君：国のためになるような人間になれといわれた

言葉や会話にかかわる国語の授業でしたが、面白い展開となりました。とくに塾生たちの意見や参加が、授業内容を膨らせることになったのです。T君の博識振りが目立った夜でもありました。大谷さん！ユニークな授業ご苦労様でした。





出張「楽塾」のワークショップを してきました

楽塾授業翌日の9月19日（日）、芦原橋にある「Aワーク創造館」で、恒例の「Aダッシュ祭り」が開催されました。Aダッシュスタッフ青年たちと地域を結ぶ文化祭には、雑貨やパン・フード・野菜などの販売、手作りショップ・紙芝居などに加えPCコーナーやキャラクターイベントなど、盛りだくさんの個人、企業が協力出展しています。ワークショップとして「楽塾」も参加しました。昨年が続いて「仮面づくり」を実施。既製のお面（たとえばピカチュウやおかめ、アンパンマン、キティーちゃんなどのキャラクター）を下塗り塗料で真っ白にし、あらためて参加者の新しいイメージで着色構成して、自分のキャラクターを表現するのです。

昨年同様たくさんの参加者でしたが、今年は親子連れが多かったように思います。子どもたち以上に一心不乱に、しかもこだわりながら着彩している大人たちの姿が興味深かったです。また、塾生のN君が有志でアシストしてくれました。感謝です。





<9月25日(土)の予定>

和久さんの登場は、昨年のテーマ「ALL OF DADDIES」(9/19)からちょうど1年目になります。彼女は進学塾で国語の先生をしていたこともあり、いつか基礎勉強をお願いしたいと希望していたのです。これまでは家族や親子というテーマで授業を楽しんできましたが、国語という私たち日本人の言葉や文化を楽しんでみたいと思います。和久さんの新たな側面を見せてもらえるかもしれません。

第21回目の予定

☆9月の月間テーマ：基礎科目のお勉強

- テーマ：言葉の遊び・オンパレード
- 講師：和久貴子氏(NPOワークレッシュ代表)
- 日時：9月25日(土) 18:30～21:00
- 場所：三星温泉地下交流室

第 21 回目の授業が終わりました（通算 91 回）

あたまの訓練

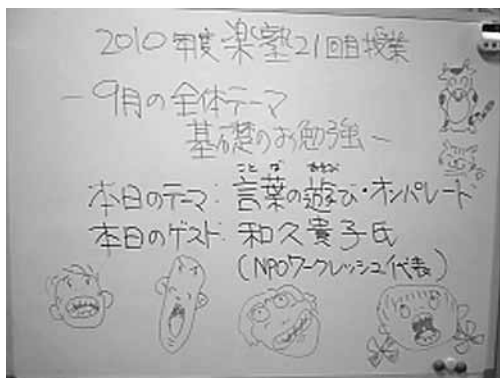
人それぞれが属する共同体が持つ「正義」や「物語」への価値に疑いを呈し、「公共的善」について話してみようとする米哲学者のライブ授業がTVで放映されています。見る時はいつも番組の途中からでTVの正しい見方とはいえないのですが、ジョン・ロールズやアリストテレス、カントなど歴代の哲学者をも引合いに、正義や善、道徳などをテーマにして聴衆を巻き込んで語ります。難しいけれど刺激的でわくわくするエンターテインメントなプログラムだといえます。「ハーバード JUSTICE 白熱授業」と題されハーバードのマイケル・サンデル教授が、大講堂でたくさん生徒たちを相手に授業を行うこの番組は、自身のコミュニタリアズム（共同体主義）に固執せず、行き過ぎた自由主義やリベラリズムを俎上に具体的な問題点をえぐっていくのが魅力です。教授は安易な結果や解答を求めず、様々な異状況や異文化を持って生きる人たち同士が、もう一度言葉を使って訓練しあい、理解しあう努力をはじめ、それが哲学の役割だと、最近東大で行われた出張授業で話していました。「米国は日本に落とした原爆に謝罪すべきか」に意見を表す学生たち、返す刀で「日本の東アジアへの侵略へは謝罪すべきか」と問う教授。また「殺人者を肉親や兄弟に持った君は警察に情報協力するか」とか、「日本の最貧困と他国の最貧困ではどちらを救済するか」など、従来の哲学問答がここでは新しいのです。いまだ右や左だとか、社会が悪いのは誰かのせいなどと対立思考に留まっている人たちには、「JUSTICE 白熱授業」はいい頭の訓練になると思います。

9月27日 塾長

☆9月の全体テーマ：基礎科目のお勉強

9月25日（土）の授業

- テーマ：言葉の遊び・オンパレード
- 講師：和久貴子氏（NPOワークレッシュ）
- 日時：9月25日（日）18：30～22：00
- 場所：三星温泉地下交流室
- 参加者：9名



<前半——ことばで遊ぶ>

リフレッシュの和久さん

和久さんは住みなれた狭山の地を離れ最近移転しました。中高校生向け進学塾の講師をしていた頃、朝は10時から夜は深夜まで働き続けでしたが、塾のマニュアル授業が面白くなく、自身のオリジナルで授業を実践していて上司とぶつかり、やめてしまったと話します。「勉強ばかりやっても人間力は身につかない。その人に対応した授業のやり方をしなければいけないと思った」と話します。その後、現在の仕事を続けながらの10年間、狭山で暮らしてきたけれど、リフレッシュの必要を感じたそうです。

さて、和久さんの授業がスタートします。「小さい時に言葉遊びをしたと思います。皆さんの言葉遊びはどんな遊

びでしたか」。塾生からすかさず「しりとり遊び」「カルタとり」などと返ってきます。「日本語を使う中で苦手なこと何だった?」。それに対しては「話すことが苦手だった」「漢字が苦手」などなどの意見が。

しりとり遊び

「子どもたちはしりとりが大好きです。私たちが今からしりとり遊びを始めましょう」。ということで、くま・ロバ・ありなど動物が出てくる中、ローレンスゴリラという固有名詞も現れます。これって何?という顔の人も。それにしてもなかなか「ん」が出てきません。しりとの「しり」とは何だろう?。「おしまいの意味」「最後のこと」塾生たちが叫びます。それではと和久さん「あたまとり遊びをやります。これは私の考えたオリジナル。たとえばロウソクなら先頭の言葉の口を言葉の最後に持ってくるゲーム。ロウソクのあたま口が続く言葉のおしりにつく★★口となります。ロウソク→クロ→ニシナリクというように。

「このようにしりとり遊びなど言葉遊びでは、同じ言葉を利用する傾向があります。特に大人になるとこの傾向が出やすい。“司会”ということばがすでに出ているのに、今度もシカイが出てくる。これは“視界”だとか“死海”あるいは“歯科医”などとズルをするので困るのですね」。

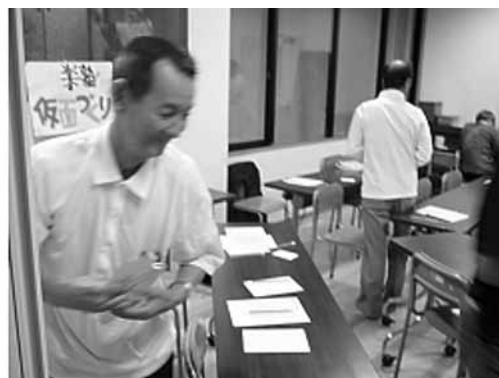


気持ちを表すことばを探そう!

このタイトルの授業では、プリントに升目がしてあり、その中には無数の平仮名が書き込まれています。この中には感情を表す言葉がたくさん書かれており、上から読む言葉があれば下から読む言葉もあり、左右横からや斜めからも読める言葉もあります。たとえば「かわいそう」「なきたい」「まけないきもち」など、文字群からそれらの言葉を探し出す遊びです。和久さんは「普段、気持ちの中にある感情が、そのまま言葉を探す源泉になっています」といいます。つまり自分が何らかの感情を持っていると、これらの言葉を探すと、自分の感情がヒントになるということでしょうか。

野蛮なカルタ

各自が数枚の絵カードをもらいます。このカードには平仮名・カタカナが書かれています。たとえば家の絵に「い・イ」と書かれていたり、朝顔の絵に「あ・ア」と書いてあるのです。それらのカードをそれぞれが室内のどこかここに隠しまわります。和久さんが文字カードを読むと隠されているカードを探して「あった!」と言ってカードを獲得していきます。読まれる言葉の一番頭を探しまわるゲームですね。これは狭い教室を全員が右往左往しゴチャゴチャになりました。神経衰弱ゲームのバリエーションでした。自慢じゃないですが、一番カードを獲得したのはM君と私でした。



日本文字のこと

和久さんは「平仮名よりカタカナが先に開発されたのですが、今の子どもたちは平仮名から習い始めます。これは不合理です。仮名の成り立ちを考えればカタカナから入るべきだと思います」といいます。また「町中の看板などを見ると、大体4文字種が表記されています。平仮名、カタカナ、漢字、アルファベット。これに数字や記号なども加わる場合があります。これだけの表記文字があるのは奇跡です。世界にも類例がないのではないかと日本文字のバラエティーさを解説しました。



<後半——文章を作る>

基本演習

「お父さんが『お茶っ!』て言いますね。これは「私にお茶を入れてください」ということです。意味をちゃんと伝えることが言葉ですが、文章にしたら意味不明になる言葉もたくさんあります」。ということで和久さんのプリントには①私はキツネ（うどん屋にて）②あの人は顔が広い（慣用句）③髪の毛切ってん、など10数点の言葉が表記されています。「①は字義上で言えば、『自分は動物のキツネだ』と解釈してもおかしくはない。括弧の注にうどん屋にてとあるので、かろうじて『私はキツネうどんが食べたい』というのが伝わるのです。②の場合も慣用句と書いていなければ、『あの人の顔はデカイ』というニュアンスになる。③の問題では、自分の髪の毛は自分でなかなか切れない。大体が人に切ってもらいます。ここは『私は髪の毛を人に切ってもらいました』というのが正しい文章だと思います」。このように、日常では意味不明な言葉が結構たくさん見つかることがあらためて認識されました。

いっどこゲーム

簡単な文章を書いて、後半はそれをゲームにします。「まず①いつ②どこで(なぜ)③だれが(なにが)④どうした(なにをする)の4つの状況を言葉にしてください」。和久さんはそれぞれの状況を「①は白の紙②を黄の紙③は青の紙④を赤の紙に分けて書くこと。2種類のちがう文章を作ってみます。」と説明しました。塾生諸君は割合早く書き上げました。中には1種類だけのM君もいましたが。

これらを色別にわけミックスします。もちろん最初の文章とはつながりがなくなるはずですが。紙は色ごとにお皿に分けられ、一人一人がホワイトボードの前で①から④までミックスした紙を選びながら読み上げます。

たとえば「中国が国連を脱退した日 家で 塾生たちが イモ掘った」となりました。また「原爆が落とされた日 ナンバの競馬の券を いとこどうして いい仕事とした」というようなものも読まれました。なんとなく分かるものもあれば意味不明にもなります。これらの遊びは時間がかかるので、残りは給食の時間を利用して再度やってみようということになりました。



現代日本語の表現チェック

このプリントでは日常よく使われるけれど、ちょっとおかしい表現を学びます。たとえば「〇〇御中」というのは個人宛でない郵便物を言います。つまり会社や団体を指して使われるのです。個人には「様」が妥当でしょう。「こんにちわ」は「こんにちは」が正しく、「納豆が食べれる」はらを抜かず「食べられる」とします。普段何気なく使っている言葉も怪しいものが結構あるようです。

給食で「いつどこゲーム」

ゲームでドタバタした分、食事は十分空腹状態になりました。給食をしながら先ほどと同じく、一人一人が文章を読む作業に入りました。すべての傑作を記述しておきます。

「朝、目を覚ますと 楽塾の三星温泉で まくらもとで 休みました。」

「9月25日に 三日町で 仮面をかぶった警官が 昼ねをしていたら、朝になっていた。」(最近の警官は仮面好きやねんね)。

「先週 この場所で ピッチャーが します。」(なにをすんねん)。

「朝ごはん時に こうしえんで お母さん 走っていた。」(おかもも虎ファンやな)。

「おふるあがりに 北朝鮮で ぼくが一人 へをこいた。」(遠いところで尻こかいでも)。

「徹夜あけの夕方 公園で 塾長が 暗殺された。」(怖いがな)。

「10月頃 楽塾で 私が コーヒーを飲んでいた。」(平凡やなア)

「9月25日 部屋で 三日月が 三日間続けてくそをした。」(最近のおっ月さんくそすんねんや)。

「昨日 奈良柳生の里で 全員で 爆発した。」(どないせえゆうネン)



< 10月2日(土)の予定 >

本年6月、皮という素材を使い、「私だけのベルトをつくる」という授業を試みました。長橋小学校2階にある「西成製靴塾」とのコラボレーションで工房を活用し、小林塾長の指導のもとベルト作りに励んだのでした。好評だったので再度挑戦しようと、連続授業で皮革製品を製作するプランが持ち上がり、10月の毎週土曜日は「西成製靴塾」で皮製品を製作します。製品完成上4回連続でご参加ください。

第22回目の予定

☆10月の全体テーマ：皮を使って遊ぼう

●テーマ：マイスリッパをつくる

●講師：小林寛明氏(西成製靴塾塾長)

●日時：10月2・9・16・23日(土) 18:30～21:00

●場所：長橋小学校2F [西成製靴塾]

第22回目の授業が終わりました（通算92回）

ミイラ

今夏、登山者遭難を取材しようとしたヘリコプターが墜落し、その遭難を取材したTV記者たちが遭難してしまうという不幸な三重遭難がありました。マスコミ報道の強引さを非難する声とともにマスコミの取材主義に視点が当たりました。01年9月11日以降、アメリカは大量破壊兵器探索の名目でイラクに先制攻撃を行います。結局大量破壊兵器は発見されず、オバマ大統領が12年までに米戦闘部隊を全面撤退させることになったということです。ベトナム戦争同様深追いのリスクを見事体現した戦争でした。これらの状態を「ミイラ取りがミイラになる」というのでしょうか。解決するつもりが自縛して解決できず自爆してしまうという結末です。

郵政不正事件で被告になってしまった村木厚労省元局長の不当逮捕の顛末は、元係長の供述、検察の裏付け捜査の不透明さ、誘導的尋問の疑いなどからだれしもが無罪判決を予測していたことでしょうか。しかしながら村木元局長を尋問してきた特捜主任検事が逮捕され、あろうことか元特捜部長らまでもが逮捕されるという異常な事態に発展しました。罪もない者を煉獄にほうりこんだ人間が、いつの間にか煉獄の中に入れられてしまうというパラドックス。このミイラ取りたちの所業は、国権を背景としてえん罪を捏造してしまいました。検察の強行姿勢に加え、従来えん罪といわれてきた事件への再検証を行うべきだと思いました。もうミイラ取りのような検察や警察は不要です。

10月4日 塾長

☆ 10月の全体テーマ：皮を使って遊ぼう

10月2日（土）の授業

- テーマ：マイスリッパをつくる 1

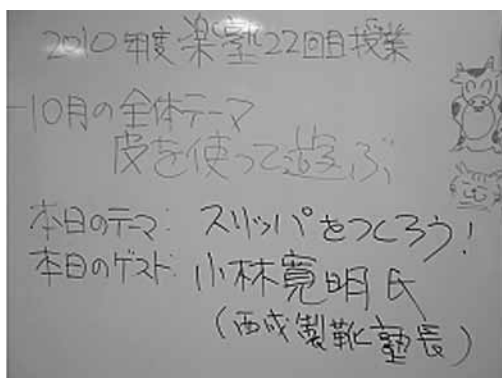
- 講師：小林寛明氏（西成製靴塾）

調整／若松 司氏 アドバイザー／北村貴之氏

- 日時：10月2日（月）18：30～21：30

- 場所：授業／長橋小学校西成製靴塾 給食／三星温泉地下交流室

- 参加者：11名



皮を切る—とにかく皮が厚い！

本年の6月、自分専用の皮革ベルトを「西成製靴塾」で作りました。小林塾長や若松氏のバックアップのおかげですべての作業を完了し、みんなは少しばかり達成感を感じあったことでした。それに味を占めて、今回を含む10月の連続4週の土曜日は、スリッパを作ってみる予定です。時間をかけて室内用あるいは下履き用のマイスリッパ製作に挑戦してみました。製靴塾塾生の北村さんが作業アドバイザーとして参加してくれ、楽塾塾生の作業相談に乗ってくれました。

スリッパの本底の厚みは約1センチ程度あります。まず素材に自分の履くスリッパを乗せて、スリッパの形を記録します。そこから2センチほど外側に外郭線を引き、この外郭線をだまかに切断します。これを包丁で「粗断（あ

らだち)」するといいます。ベルト製作時の皮は比較的薄く包丁（カッターのこと）で切りやすかったのですが、今回はなかなかの曲者で、ちょっとやさっと切り離すことが出来ませんでした。皮の厚さがあり手を切らないようにすることが肝要。塾生たちは必死で包丁を操りながら切り離そうとします。う〜んかなりの難行ではあります。

スリッパですから本底は2つ作らなければなりません。しかし、片一方の本底だけでも切れたら、最初に入れたスリッパ線に足を置き、そのラインを目安に自分の足のウラの大きさはどうか、とくに長さは大きいか小さいか。そこから1~1.5センチ多めに線を入れ、それから切っていきます。2枚目も同じように断裁します。

本底2枚を切ってしまうと、今度はゴワゴワした切断面をきれいに整えなくてはなりません。なまこ（金やすり）を使ってゴシゴシ削り続けるのです。あまりの力仕事に、いったん休憩に入る塾生もいます。切り口がガタガタなのを気にする人、なんのナンノ一生懸命作業を続ける塾生も多いのです。I君などは作業が早く、みんなが切断に四苦八苦している中、その作業を終え、アッパー（足に引かける部分）作業に取りかかっていました。



かなり遅れて塾長も

準備や記録などで作業が出来なかった私も、皆に遅れやっどこさ作業に参加できました。確かに皮は硬いし曲線などの切断は思うようにきれいにいかない。包丁で手を切らないように注意しながら自分の足の大きさをイメージして切り続けます。やはり一番に負担がかかるのは手です。包丁に力がこもる分手が痛くなってきて「ママが出来たよ」と話す塾生もいました。私も赤くなってハレぼたくなっていました。包丁の使い方のコツがわからないため、どうしても力まかせに切ろうとするのでしょう。しかしながら、やっていくうちに切る時間が少しばかり早くなっていくのも分かってきました。

全員が断面をなまこでゴシゴシこすっているうちに予定の時間が来てしまいました。私はといえば、なまこを使って本底を整えるのは来週の作業となってしまいました。本底の裏底に自分の名前を書き、工房に保管してもらうこととなります。こうしてたくさんの皮くずを散らかしたものですから、みんなで掃除をし、教室を整えてからいつもの三星温泉に帰り、給食をいただくことにします。体力を消耗した後のゴハンは本当においしいのです。給食のさなか、Aさんが今日出会った「足フェチ」兄ちゃんの体験記を話してくれました。



足フェチ

「自転車の走行途中、後ろからやってきた兄ちゃんが私を呼び止め、あなたの足を写真に取らせて欲しい」といったそうです。「まあいいでしょう」ということで了解すると、今度は靴下を脱いだ足を写真に撮らせて欲しいと欲求してきたそうです。さすがAさんは「それはいや」と断ったそうです。とくに女性は、おかしな兄ちゃんに十分気をつけてください。それにしても、今回サンダルづくりをした縁があったからこそその話でした。あしからず。

<10月9日(土)の予定>

今週もスリッパの製作をつづけます。けっこう力のはいる仕事なので、体力を養いながら作業に励みたいと思います。今からでも間に合います。希望者をご参加ください。

第23回目の予定

☆10月の全体テーマ：皮を使って遊ぼう

- テーマ：マイスリッパをつくる 2
- 講師：小林寛明氏(西成製靴塾塾長)
- 日時：10月9日(土) 18:30～21:00
- 場所：長橋小学校2F [西成製靴塾]

<大柳生へ収穫に！>

稲穂が実りお米を刈り取る時期になりました。楽塾の給食の主食は、私たち楽塾の一人一人がつくったお米です。またまたおいしいご飯が食べられるように、日曜日の1日田んぼで楽しみませんか。

- 日時：10月10日(日) 9時30分 JR奈良駅前集合
- 費用：5,000円(お昼ごはん付き)
- 雨天実行
- ※参加希望者は楽塾までご連絡ください。

第23回及び24回目（通算93・94回）の授業が終わりました

楽塾応援団の皆さん！お元気ですが、随分しのぎやすくなりました。とくに夜には炎暑から開放された秋の虫たちが鳴き始め、やっと季節の交代を実感できる时候になったようです。それにしても気象の変調が際立った年ではありました。皆さんの大切な身体への変調にも注意して、これからの厳しい季節に備えてください。

今回は土、日曜連続で授業が行われたため、授業参観は2本立てになってしまいました。朝から雨もようの土曜日は、教室を長橋小学校の製靴塾に移し、2回目のスリッパ製作の手作業を実施しました。天候が回復したあくる日の日曜日は、恒例の農作物刈入れの為、奈良市の大柳生に遠征し、実ったサツマイモやお米の稲を手作業で刈ってきました。2日とも手に力が入った授業で、翌日は手の筋肉が少しばかり張って痛かったです。9・10日両日参観の模様をお知らせいたします。

10月12日 塾長

☆ 10月の全体テーマ：皮を使って遊ぼう

10月9日（土）の授業

●テーマ：マイスリッパをつくる 2

●講師：小林寛明氏（西成製靴塾）

調整／若松 司氏 アドバイザー／北村貴之氏

●日時：10月9日（月）18：30～21：30

●場所：授業／長橋小学校西成製靴塾 給食／三星温泉地下交流室

●参加者：11名



だんだんとスリッパに近づいていく

「くらし応援室」に集合した塾生諸君と一緒に長橋小に行くと、もうI君やAさんが到着し準備していました。このスリッパづくりにかける情熱はすごいものがあります。今回も、製靴塾の北村さんがアドバイザー役として、小林塾長ともども塾生たちの製作過程での相談を聞いてもらうことになります。

全体の流れは、先週実施した下底になる皮革を、ヤスリなどで整える作業を続けることでしたが、I君やN君はすでにアップパー（下底に接し、足に引っかけの部分）作業に突入し、アップパー用の皮を裁断して下底に縫いつける工程を始めかけているのです。多くの塾生は、先週下底を裁断し磨きをかけ続けていたのですが、再度自分の足のサイズに合わせて点検してみると、履くにはまだどうしても大きいと思われる人たちがいて、再び包丁を取り出し、皮を切りにかかりました（実は私も少しばかり大きかったのです）。工房は切る人、磨きをかける人たちの作業で一生懸命の雰囲気です。



アッパーづくり

アッパーは、先ずどんな色の皮を素材にするのかを選びます。人から見えやすく、スリッパの一番ポイントになる部分ですからね。それからデザインも大切です。デザインをイメージし、選んだ皮を足の上に乗せ、自分で決めたデザインの型を記していきます。足に履くわけですから左右対称に2枚切り取ります。また皮のウラ地（これも皮）になるものを同じく2部裁断し、合計4枚のアッパーになる皮が準備されるのです。

下底の調整が終わった塾生たちが、徐々にアッパーづくりの工程に入るために、素材の皮革をいじり回しながら素材を選び始めました。ブラウン、黒、チョコレート、グリーン、青、ピンクなど色彩はとりどりで、あれでもないこれでもないと思案しつつアッパーとなる皮探しが続きました。

先週もそうでしたが、だいたい楽塾の授業は、前半後半の2部に別れ、あいだに休憩が入るのですが、この授業ではだれしも休憩を取らずで、塾生たちは黙々と作業に打ち込んでいます。中には無駄口をたたく塾生もいるのですが、ほとんどが作業に熱心で冗談が長続きしません。

スリッパのアッパーは、下底に穴を開け針を通しながら縫い付けていくのです。N君は作業中針が折れてしまい、猪の毛を針代わりに使って作業を続行していました。猪の毛はかなり強く、肌当ててみると針のように痛いのです。



あれ？空手の練習

ちょっと珍しいことがありました。11月前半に実施予定のスポーツ授業は空手ですが、その指導サークルである「長橋育友会」のM先生や藤原さん、部員たちが、2つ向こうの教室で蹴りの練習などをしていました。私たちは挨拶に行きながら、来月の授業をお願いしてきました。「わしは今度の空手は休むわ」とは少し体調の弱ったT君です。これまでも出席はしていましたが、授業は見学で養生していたのです。

給食が待ち遠しい

全体の流れはアッパー製作に近づいていきます。しかし時間も迫ってきたので、目途がつくところで中断することにし、全員で工房内を清掃しました。何せおなか猛烈にすいてきたのですから。いつもどおり三星温泉に戻り給食の準備にかかりました。お米はすでに仕掛けていたのでフカフカに出来上がっていました。それぞれが料理をお皿に盛り、味噌汁を持って席につきました。食事をしながらT君が「(来年の修了)旅行はどこへ行くねん」という話から、そろそろ予定を立てなければとあせり始めています。年内の授業も後10回となりました。そして11月27日には楽塾が開校して通算100回目の授業を迎えます。



10月10日（日）の授業

- テーマ：大柳生大収穫祭
- 講師：南垣内貞史氏（農場主）
- 日時：10月10日（日）8：30～18：30
- 場所：奈良市大柳生内サツマイモ及び稲作農場での作業
- 参加者：14名

おサツの収穫

前日まで雨が降っており、また日曜日の昼までは雨が残るとの気象予想でしたが、起きた時はラッキーと思えました。少し雲は残っていましたが、青空がいっぱいに広がり、明るい日差しがまぶしかったからです。8時20分ごろ、私が運転し塾生4名を乗せた軽自動車で行きました。I君、N君はJR奈良駅まで鉄道で行き、駅前で田岡事務局長と合流後、車に同乗し、昼の食料を購入してもらうことになっています。奈良方面に近づくにつれ上空は真っ黒な雲で不気味でしたが、大柳生に到着した頃には天候も回復し、汗ばむくらいになっていました。

青少年野外活動センターで田岡君ファミリーたちと合流し、参加メンバーは14名と増えました。2ヶ月ぶりに会う南垣内さんはNPOの実践で忙しく、そのあいまをぬって私たちを6月に植えたサツマイモ畑に誘導してくれます。サツマイモのツルを切り取り、雑草を整理した後はマルチシートを剥ぎ取って畝を露出させました。クワやスコップを入れて土を掘り起こしていくと、いつものことながらたくさんの生物たちが驚いて逃げていきます。ミミズ、モグラ、アカ腹（イモリ）などを発見しながら、サツマイモを土の中から掘り起こしていきました。

サツマイモ畑にはスイートコーンなども栽培しているのですが、網などでディフェンスしているにもかかわらず、集団化したサルたちが押しかけて畑に乱入し、コーンを全滅にしたそうです。「これからは架線をせんとね」とは南垣内さん。収穫したサツマイモをいくつかバスケットに分散し、畑から出荷してサツマイモの収穫を終えました。野外センターの馬場には馬が来ていたので、塾生たちと一緒に私も乗馬させてもらいました。馬に乗るのは気持ちがいいですよ。



お米の収穫

サツマイモの収穫が終われば、次はメインイベントであるお米の収穫です。ところが先日、私たちが田植えをした畑に猪が襲来し稲を倒壊させたそうで、南垣内さんらによって事前に刈り取られていました。従って私たちはその下の棚田の稲刈りをするようになりました（面積的には広いので、その一部を分担しました）。全員長靴を履いて田んぼに入り作業を始めました。しかし泥沼化した田んぼに足を取られ、長靴を抜き取ることが出来ず、やむなく裸足で刈り取りをした塾生もいました。刈り取った稲を束にし、茎をそろえて稲田に置いていきます。そして畑から見渡す風景はやはり秋でした。典型的に金色の輝きを誇る稲穂、ひっそり咲く赤色の彼岸花、色が多彩なコスモスたちのゆるる風情、そしてあちこちに枝を伸ばして実る朱色の柿（しぶ柿でしょう）たち。はじけた栗を拾っている塾生の満足そうな顔。まさに里の秋を実感しました。



昼食はBBQで

たくさんの食材を仕入れた田岡君がひとまず先に野外厨房に入り、バーベキューの準備をしてくれます。その後作業を終了した塾生たちが手足を洗い棚田を下って昼食に向かいました。この棚田の周辺の風景が少しばかり変化しました。昨年までサツマイモを栽培していた南垣内さんの畑に、現在完成まじかの木工館が建設中なのです。ここは「間伐材を利用して、子どもたちの木工教室などに使いたい」と南垣内さんが話しているとおおり、すでに大きな機械類が設置され、試験的にスタッフたちが稼働させていました。木の香りが新鮮なログハウスでした。来年はここを利用したいと思いました。

ワラで束ねる

食材のほとんどを平らげた後は、刈り取った一定量の稲をワラ紐で束ねる作業を開始しました。藁塚にするためです。午前中に刈り取った稲を縛っていく作業ですが、この作業に結構時間がかかりました。そして稲の一束の量をもっと増やしたほうが効率的だということで、一束の量を増やしていくと仕事ははかどり仕事が完成しました。いずれにしても、たくさんの人数でやると作業ははかどるのだという、当たり前の原則が納得できました。トンボが飛びはじめ秋空が深くなっていきます。青少年野外活動センターに戻りお風呂を借りて一息するともう5時近くでした。私たちがそろそろ帰宅する用意を始めました。収穫したサツマイモを車に積み込み、南垣内さんたちとは、近日中に収穫のお米を頂きに大柳生に来る約束をして別れました。





第 25 回目の予定

☆ 10 月の全体テーマ：皮を使って遊ぼう

- テーマ：マイスリッパを作る 3
- 講師：小林寛明氏（西成製靴塾塾長）
- 日時：10 月 16・23 日（土）18：30～21：00
- 場所：長橋小学校 2 F [西成製靴塾]

< 10 月 16 日（土）の予定 >

3 回目のスリッパ製作をつづけます。少しばかりスリッパの形が見えてきましたが、まだ作業は残っています。とくに力のいるアッパー取り付けにかかわる縫い付け作業が主なる仕事になりそうです。

第25回目の授業が終わりました（通算95回）

アクシデント

25回の授業も長橋小学校内の西成製靴塾で作業をしました。授業のあとはいつもどおり三星温泉に戻り、みんなで給食をいただく予定でした。しかしこの日は予想もしない事件が勃発します。三星温泉は14時に営業開始です。私は開店直後、準備のために三星に向かいました。とくに製靴塾から帰還後、スムーズに給食が食べられるよう米を洗っておきます。炊飯器の予約スイッチを押して表に出ますと、すごい数の消防車のサイレンが鳴っていました。よく見ると温泉の南裏付近から煙が立ち昇っていて、火事の発生源だとわかりました。

一旦「くらし応援室」に戻った上で、今度は給食の料理を依頼している食堂に立ち寄り、出来上がった料理を自転車に乗せ再び三星温泉に向かいます。ところがいたるところ通路は通行禁止で消防署員が通してくれません。ついにあきらめ料理は「くらし応援室」に持って帰り、鎮火後、再度料理を温泉に配達しようと楽観的に考えていたのです。17時30分ごろ塾生たちが授業のため事務所に集まりだし、18時にTさんが「風呂屋が臨時休業になってるで」と入ってきました。これはたいへん！ まず塾生たちは製靴塾に行ってもらい、私は温泉の状況を見に行きました。通行は解除されていましたが、温泉の前には消防車が止まっておりお店は真っ暗らけ。温泉での給食は無理と分かりました。ただみんなは給食を楽しみにしています。何とかお風呂関係者に連絡を取り、数十分後やっと三星温泉の鍵が開けられ、授業に必要な物品と準備中の炊飯器（間一髪で炊飯は免れました！）、および食器類を持ち出し「くらし応援室」に移動したのです。途中炊飯器から水が漏れるわ、食器を入れた袋は破れるわで散々な逃避行になったのです。準備を整え製靴塾に着いたのは19時30分で、残念ながら25回授業前半部分のレポートは欠落。悪しからずであります。

この日は授業後久しぶりの「くらし応援室」での給食になりました。

10月18日 塾長

☆ 10月の全体テーマ：皮を使って遊ぼう

10月16日（土）の授業

- テーマ：マイスリッパをつくる 2

- 講師：小林寛明氏（西成製靴塾）

調整／若松 司氏 アドバイザー／北村貴之氏

- 日時：10月9日（月）18：30～21：30

- 場所：授業／長橋小学校西成製靴塾 給食／三星温泉地下交流室

- 参加者：11名



完成に向けて

三星温泉周辺での火災で温泉は影響を受け臨時休業しました。楽塾の裏方仕事に多少の雑事が加わりましたが、これが通常の授業なら、楽塾も“臨時休業”しなければならなかったかも。給食がいつもどおり実施できたのでよかったです。翌日、アパートが消失し、隣接する住宅などが類焼している風景を発見しました。人命に大きな影響がなかったのは幸いでした。

製靴塾では、塾生たちが最後の追込みで工房はかなり静か。アップパーを付けるために下底に穴を開ける作業があります。これはアップパーと下底を糸で結ぶためにつける穴なのです。キリ様の道具の頭をトンカチでたたいて穴を開けていく音だけが工房に響きます。それにしても厚さ1センチほどの皮革に穴を開け、その口径を多少大きくしておかなければ糸が通らないので、作業に時間がかかります。私もみんなに遅れて、先ずアップパー素材をノリ付けし、そのあとトントンと穴あけ作業にかかり始めました。I・N両君は一足先に完成し、誇らしげにその作品を見せてくれました。作業のあと、彼らは遅れをとる塾生たちのお手伝いをしてボランティアな風景でした。



小林塾長に聞くと、全体として来週1週では完成が難しいかもしれないとのこと。細かい部分は製靴塾でフォローをしたいと言ってくれています。塾生も何とか時間のある限り完成に向けて作業に磨きをかけていきたいと思います。完成すれば全員がスリッパをはくことは間違いないと思いますが、中には「もったいないから飾っておきたい」という塾生もいました。

授業の後は「くらし応援室」に戻り給食をしました。T君はこの部屋での給食に「懐かしいなあ」と言っていました。ここで授業をし、給食をした頃からもう1年以上を経過したのです。給食後、先週奈良で収穫してきたサツマイモを分け合いました。





< 10月23日（土）の予定 >

いよいよ最終4回目のスリッパの授業となりました。完成した塾生もいますが、全体としての作業はまだ残っています。総仕上げの工程です。何とかやり通していきたいです。時間が足りなくなってきているので、作品完成の塾生たちは手伝ってあげてください。

第26回目の予定

☆ 10月の全体テーマ：皮を使って遊ぼう

● テーマ：マイスリッパを作る 4

● 講師：小林寛明氏（西成製靴塾塾長）

● 日時：10月23日（土）6：30～21：00

● 場所：長橋小学校2F [西成製靴塾]

第26回目の授業が終わりました（通算96回）

なりすまし

子どもの頃、チャンバラが男の子の遊びの主流でした。当時全盛だった東映時代劇の影響が大きく一昭和30年代、東映は歌舞伎俳優を主役としてたくさんの時代劇を製作した—この頃に少年時代をすごした人たちは、大体腰に刀（刀がない場合はハタキや棒切れなど）を差し、めいめいが自分の好きな幕末の志士になりきって名前を名乗り、決闘をした経験を持っていたと思います。

「私は桂小五郎だ」とか「俺は近藤勇である」「いや私は西郷隆盛」などと、時には同じ人物が2人以上いる場合もありました。私はといえば「鞍馬天狗だ」と大仏次郎の創作上の人物になりきっていました。しかし、どういうわけか「わしは坂本龍馬じゃ」という子どもはなかったようです。その当時、幕末をテーマにした東映時代劇の役柄には龍馬の登場頻度が少なく、桂小五郎や西郷隆盛らの名前は露出していたけれど、もともと龍馬という知名度は低かったのです。龍馬にスポットがあたったのは司馬遼太郎の小説以後ではなかったでしょうか。それ以降、何度かの龍馬像が捏造されました。

参院選直前「私は平成の坂本龍馬だ」などとTVの前で叫ぶ議員がいました。あれは、自分の好きなキャラクターの名前を名乗る当時の子どもたちと同じ稚気だと感じました。つまり芸能や小説が作った通俗な虚構をそのまま自分に同化しアピールする胡散臭さ、子どもっぽさです。政治家なら龍馬などになりすまさず、己の潮流をつくり大人の自律を見せてほしいと思います。

10月25日 塾長

☆10月の全体テーマ：皮を使って遊ぼう

10月23日（土）の授業

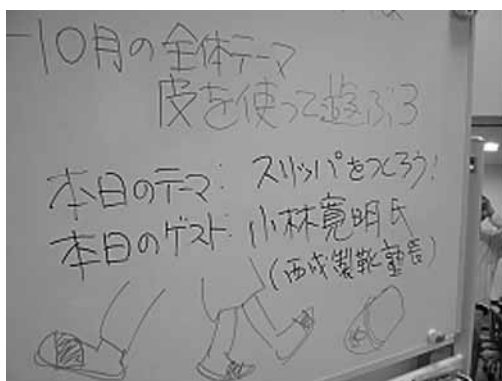
- テーマ：マイスリッパをつくる 4

- 講師：小林寛明氏（西成製靴塾）
調整／若松 司氏

- 日時：10月23日（土）18：30～21：30

- 場所：授業／長橋小学校西成製靴塾 給食／三星温泉地下交流室

- 参加者：10人



<スリッパ最後の授業>

底付け作業

アッパーを取り付けるため、下底に穴をあけ糸で縫いつけていく作業が終わった片足を、今度は最後の底をゴムのりで張り合わせていきます。この作業は下底及び底の両面にゴムのりを薄く均等に塗布します。塗り方は、先ず底の中心から端部分へ放射状に塗ってやると塗りやすいのです。そして端っこに塗り残しなく確実にしておくことが大切。端っこに配慮をします。このようにして15分間ほど乾燥しておきます。貼り付けるのりはシンナー系の匂いがします。長年この仕事をしている従事者は、時に中毒症状を起こすことがあるそうです。自分の貼り付け作業で少し

ばかり匂いをかいただけで変な気持ちになりました。

この間に、もう片方のスリッパのアップー取り付け作業を続けます。糸を下底に通す作業はなかなか辛抱のいる仕事です。糸がなかなか穴に通らなかったり、糸の通し方の順番を間違えたりと厄介な作業です。乾かしたのりは粘着力がなくなるのですが、15分後、今度はドライヤーなどで加熱しますと接着力が強力に増し、両面をきっちり張り合わせるとはがれません。きっちり張り合わせたつもりが、ずれてしまってもう一度張替えをしている塾生もいました。



ほとんど完成だけれど

早い塾生はスリッパの貼り付け作業を終え、最後の仕上げである底の側面部分にロウを塗り付け、そのあとドライヤーで熱を加えて防水加工をしています。ほとんどの塾生は片足の完成後、下底および底のにりを塗布して乾燥させたまま、片方のスリッパの糸通しに専念していました。このようにしてアップー作業が終わった塾生たちが順々に底の張り合わせ作業に移っていきます。こうしてそれぞれのスリッパたちが形を現してきます。もう片方のアップーが完成したら、同じように底どおしのにり付け作業を行い、乾燥したあと張り合わせ作業を行います。

それにしても全体の完成を考えるともう1週あれば万全だったのですが時間が少しばかり不足でした。補習の時間が取ればいいのですが、それもかなわず未完の部分は小林塾長が手を入れてくれるとのことで、完成した人は作品を持って帰り、それ以外の塾生は小林さんに補正してもらうため、工房に置いておくことにしました。小林さんお手間をかけます。





おもしろかった

給食時には、スリッパ制作実習について「大変面白かった」という感想が話されました。しかしこれは「授業というよりは仕事やね」という実感で、時間もなくてそれだけ真剣に、おしゃべりも少なく、「黙々と仕事をした」と語っている塾生もいました。もともとは靴作りを目標にしていたのですが、なかなかどうして、これは大問題だと分かってきました。しかし、何か作ってみたいという関心だけはあって、来期にはマイバッグを作ってみようかという意見もあり、再びの授業を考えてみたいと思いました。



< 11月6日(土)の予定 >

霜月は中冬の季語です。そろそろ11月だというのに日中はまだまだ温暖な日々が続きます。そしてわが楽塾11月の月間テーマは「生老病死」です。人生の途上で必ずやおとずれる4つの宿命が主題。といっても身体で実践し、体感出来る授業を中心に考えてみました。その第1回目はほぼ1年ぶりの空手教室です。“天高く馬肥ゆる秋”などと他人ごとにせず、自らのおなかを引き締める努力をしてみましょう。おなじみ藤原さんです。

※次週は第5週目の土曜日で楽塾はお休みです。次回は11月6日(土)です。

第27回目の予定

☆ 11月の全体テーマ：生老病死

- テーマ：メタボ追放5ーおなかを引き締めよう
- 講師：藤原敦子氏（空手サークル「長橋育友会」代表）
- 日時：11月6日(土) 19:30～21:00
- 場所：長橋小学校2F教室（集合：くらし応援室 19:00）

第27回目の授業が終わりました（通算97回）

新テーマ

11月を迎えて、すでに一週を終えてしまいました。台風が来るといわれた日、奈良大柳生に行ってきました。塾生たちが収穫し、乾燥中のお米を受け取りに雨の中、佐々木と田岡だけで行きました。その日のうちに北開にある有料自動脱穀機に運び、お米を白米にしたうえで三星温泉に搬入。先週まで残っていた市販のお米がほとんどなくなっていたので、今回の授業から新米を食べることができました。お米はやはりうまかったです！

11月から楽塾の月間テーマは「生老病死」に変わりました。選択できない宿命、避けられない命のきまりを負いながら、私たちは人生の断崖絶壁や渦巻く濁流を、かき分け押し分けしながら乗り越えていかなければならないのでしよう。そんな「生老病死」を楽塾授業のテーマとし、自分の命を日常的に可視できる訓練をしてみようと考えます。

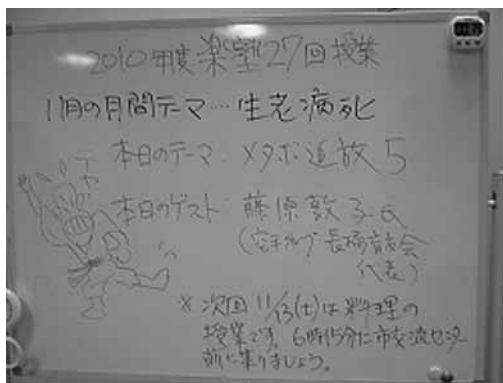
—身体を強くすること、おいしいものを食すること、身体を知ること、心の問題を学ぶこと—など、すべては身体を使った実践授業になる予定です。そして4週のうち3週はいつもと違った場所での授業になります。とくに20日に行われる「身体のメンテナンス」は、釜ヶ崎にある「コミュニティーハウス萩」での出張授業に決まりました。

11月8日 塾長

☆ 11月の全体テーマ：生老病死

11月6日（土）

- テーマ：メタボ追放5
- 講師：藤原敦子氏（空手サークル長橋育友会代表）
- 日時：11月6日（土）19：30～21：30
- 場所：授業／長橋小学校教室 給食／三星温泉地下交流室
- 参加者：7人



攻撃と守備—いろいろなメニュー

ひごろ長橋小学校の空き教室を利用し、空手の練習をしている「長橋育友会」の藤原さんの協力で、この日の授業が行われました。空手の教室は今回通算5回目、楽塾では最多授業の中に入ります。

格闘空手界で活躍する顧問役のT先生は、いつも“高齢者”を中心とした楽塾塾生たちに過度な運動ではなく、一人ひとりを配慮したメニューで指導してくれます。また藤原さんの3人の息子さんたちが、それぞれ空手家として成長しており、練習の見本を見せてくれます。授業のスタートは基本練習からメタボ追放の火の手をあげました。

この日のメニューの特徴は、攻撃と守備を交互に取り入れた練習でした。そのひとつは、攻撃側が相手のみぞおちを狙ってくる左右の中段蹴りに対し、守備者側は左右両腕で攻撃手の足を払いながら自分の身を守るという技です。この練習の特徴は、相手の足を払った際に相手の体勢が背面を向かせるようにすることです。払った体勢が守備者に向くようになると、攻撃側の攻撃がやりやすくなるからです。足からの攻撃に両腕を使って守る練習を二人一

組でやりました。



次のメニューは、攻撃側が左右の上段突きでワン・ツー攻撃をしてきたあと、スリーで顔を側面打ちするスタイルです。これに対して守備者側は左右の手で左右上段突きをかわし、さらに側面打ちからの攻撃を避ける技術を練習します。このメニューも攻守二人一組で練習します。空手など経験したこともない塾生諸君ですが、しかし、相手の足や拳が目前に迫ってくるわけですから、緊張と必死さが伝わってきます。その姿勢が腰砕けていたり腰が引けていたり、ユーモラスでもあるのですが、それは自分自身も笑いの対象になっているということに自覚せねばなりません。

そのほか、相手の頭や毛髪を捕まえながら自分の側に引き込み、引き込んだ相手の顔面を膝打ちするという技術を練習しました。これは突然の災厄に対し、自分の身を守る技としては有効だと思いました。またキックバックを使って、左右の蹴りの練習をしてみました。いつもながら I 君の蹴り音はすさまじく、これぐらいの蹴りを入れられると大概の暴漢なら失神してしまうと思います。なんせ頑丈な体躯をしている I 君ですから。



演武

休憩をはさんで、藤原3兄弟たちの演舞がありました。組手のスタイルで、前半練習をした攻撃および守りの実践を中心に防具をつけて見せてくれました。T先生からは、今後の練習のためにパット（グローブのようなもの）を用意したらどうかという提案を受けました。空手の練習を将来も続けていくなら、必要な道具類を揃えていく必要があると考えます。将来、塾生のそれぞれが相対演武できれば楽しいなと思いました。

最後は腕立て伏せや、二人一組で腹筋を行い約1時間の練習はあっという間に終了しました。この日の翌日はT先生の空手格闘大会で、現在減量中のなかを楽塾のために時間をとってくれたのでした。塾生とともに感謝いたします。練習あとは三星温泉に帰り、空腹を満たす給食をむさぼったのでした。脱穀したばかりの新米だったのでおいしかったです。



< 11月13日(土)の予定 >

立冬です。食欲の秋とはいえ、今年は秋という季節がいきなり飛んでいってしまったというイメージです。そろそろ寒気が覆いかぶさり、馬肥ゆる旬の時間が限られてしまいました。—自分の食べるものを自分でつくる—というシリーズは今回で4回目となります。久しぶりの調理師みゆきちゃんが秋の味覚を教えてくださいます。大柳生で収穫してきたおサツを利用したいと思います。

第27回目の予定

☆ 11月の全体テーマ：生老病死

- テーマ：天高く馬肥ゆる
- 講師：みゆきちゃん（調理師）
- 日時：11月13日（土）18：30～21：00
- 場所：大阪市立市民交流センターにしなり
- 集合：18：30 市民交流センターにしなり前

第28回目の授業が終わりました（通算98回）

死刑という想像力

大島渚が68年に監督した作品に「絞死刑」がありました。A T G系（注）で封切りされたものです。絞首刑が失敗し少年死刑囚が甦ります。しかし少年はそのショックで記憶があいまいになります。拘留所長や刑務に関わる男たちは再執行のために大騒ぎ。その死刑囚と問答を始めるのですが、話がとんでもない方向に発展していきます。そこには在日韓国人、死刑、貧困という、今まさに私たちが抱える問題がリアルにあぶりだされ、実験性の強い映画に仕上がっていました。私にとって死刑を考える契機になった映画でもありました。つまり死刑という問題に啓発された部分にです。その後人権思想の高まり、国際的な潮流の中で死刑は当然廃止すべきものと観念的に考えていました。

その後、残虐な事件、おぞましい事件が相次ぎ、殺された側に対する想像力、殺した側の自己責任性を考えると、一律に死刑廃止という単純な思考に組することを出来なくなっていきます。その時期、自らの身に起きた“不条理”も非死刑廃止の間接的な原因のひとつになっていたのだと思います。何より死刑と対極に論じられる無期懲役という、いわばさらしモノのような刑期にも疑問があったのです。

昨年からはまった裁判員制度では、いつも新鮮な驚きを発見させてくれます。その大きな収穫は、有権者が被害者・被疑者という生身の人間と向き合うことが出来たことです。或る裁判を経験した裁判員は、「死刑があるのは当然と思っていたが、死刑を宣告することの重大さ知った」と話していました。目前の人間を知り、背景を知る時、死刑反対・死刑賛成という皮相な観念論を駆逐できるのだと思いました。

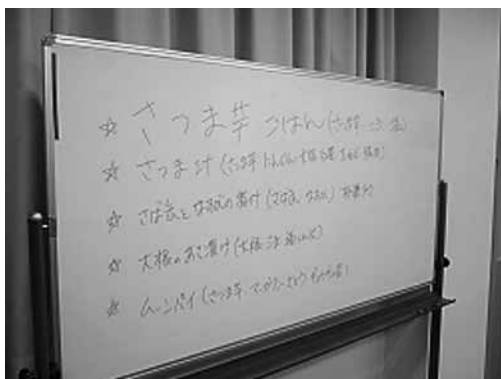
注：A T Gはアートシアターギルドの略称。1961～1980年代にかけて活動した日本の映画運動。1千万円以下で製作し、非商業主義的な芸術作品を輩出した。邦画史上多くの影響を与えた。

11月14日 塾長

☆ 11月の全体テーマ：生老病死

11月13日（土）

- テーマ：天高く馬肥ゆる
- 講師：みゆきちゃん（調理師）
- 日時：11月13日（土）18：30～20：30
- 場所：大阪市立交流センターにしなり
- 参加者：12人



本日のメニューを楽しむ

自分でつくる料理の実践です。調理師みゆきちゃんが、同僚である友人とともにゲストとして塾生を料理指導してくれました。この夜、調理実習を行う場所は「大阪市立交流センターにしなり」の1階厨房室で、設備が整ったきれいな作業場でした

- さつまいご飯（さつまい芋・昆布・塩）
- さつまい汁（さつまい芋・にんじん・大根・白菜・たまねぎ・豚肉）
- 鯖缶となすびの煮物（鯖缶・なすび・砂糖少々）
- 大根の浅漬け（大根・ゴマ・塩昆布）
- ムーンパイ（さつまい芋・マーガリン・砂糖・餃子の皮）。

さつまい芋のオンパレード

以上が今夜のメニューです。ムーンパイのデザートを含め、多くのメニューにさつまい芋が顔をあらわしています。10月、大柳生で収穫してきたさつまい芋を、楽塾の食として利用したのです。もちろんさつまい芋ご飯も大柳生で収穫したお米が主人公。

まずは大根の浅漬けをつくるため、大根を千切りにし、大根の葉っぱ、ゴマ、塩昆布をポリ袋に放り込んでモミモミして仕込んでおきます。同時にさつまい汁の具作りも始まっています。さつまい芋、にんじん、大根、白菜、たまねぎなど野菜類を調理し終わると、大鍋に油を入れ豚を放り込んで炒め、水を入れて沸騰させます。切り刻んだ具を入れたあとはダシのもとで味付けをします。また片方では煮物用の鯖缶を開き、鯖缶となすびを油で熱した鍋に入れコトコト煮込み始めました。

塾生たちの調理への質問には、みゆきちゃんは簡潔に答えてくれながらテキパキ進めていきます。そして、なんだか授業全体が、これまでと比べ早々と進行しているように思われました。実際作業に途切れがなく、みゆきちゃん自身「みんなの作業が手馴れてきたみたい」と評価してくれていました。



ご飯が炊けていないよ！

そんな時、さつまい芋ご飯を炊飯している電気釜に異常が起きました。一向に電気釜が熱くなっていないのです。もちろん蒸気も発生していません。これはおかしいとふたを開けると、入れた時と同じ状態でまったく炊飯されていませんでした。よく調べると一部通電されてはいるのだけれど、釜全体に電気が導かれていなかったようです。これは大変！ おかずがそろそろ出来上がりつつあるというのに、肝心の主食がこんな有様とは。そこで別釜に移し換え、あらためてさつまい芋ご飯を炊き始めたのです。今度は急速炊飯のボタンに設定して。

ムーンパイをつくる

あらかじめみゆきちゃんたちがペースト状に崩し、練ってくれていたさつまい芋を、餃子の皮に大き目スプーンひと盛り程度の分量で乗せます。これを餃子のように包み込みながら、一つひとつ丁寧に作ったムーンパイが約40個完成しました。出来上がったものを、熱せられた油たっぷりの鍋に浮かべて揚げていきます。パリッとキツネ色に仕上がったムーンパイは実においしそうで、すでに試食をしている塾生もいました（いつもながらの風景です）。これらムーンパイを含め、完成した料理類を別室に運びながら、晚餐の準備に移ります。空腹感もあるし、料理への期待感もあるので、何だかみんなの雰囲気ウキウキしていて、すぐにでも食卓に座ってかぶりつきたいというような、ワイルドさを感じてしまいました。



食卓を囲んで

そうこうしているうちにご飯が炊けました。8合のお米を洗い、そこにさつま芋を入れて満杯のご飯が完成です。豪華なメニューが食卓に揃い、ちょっと贅沢を味わいながら、全員が一瞬の幸福感を味わったのです。今夜は塾生のAさんが、同居するお母さんを同伴していました。日ごろ病弱で、ほとんど家に引きこもっているお母さんですが、楽塾という“外社会”に連れ出し、お母さんの興味を引き出したAさんの力はすごいと思いました。お母さんの元気のためにも、また楽塾に参加されることをお勧めします。

たくさんの料理がつくられて、全員が食べても余ってしまいました。それらをタッパーに入れて持ち帰ったり、交流センタースタッフに食べてもらったりして、棄てずに済みました。料理が残らず何らかの活用が出来たということは、とても気持ちのいいものです。



< 11月20日（土）の予定 >

岩山さんは、これまで楽塾授業にはおなじみの顔です。市立大学創造都市研究科の修士課程に在籍し、西成における在日の実態調査などにかかわり、いっぽう整体を生業とし市内で開業されています。私たちにとって、腰痛、肩こりなど肉体の疲労は日常的にケアしておきたい問題です。仕事としての整体を語ってもらい、実践としての整体を伝授してもらえればと考えています。楽塾の出張授業となります。

第29回目の予定

☆ 11月の全体テーマ：生老病死

● テーマ：身体のメンテナンス

● 講師：岩山春夫氏（施術師・市立大学創造都市研究科修士課程）

● 日時：11月20日（土）18：30～20：30

● 場所：コミュニティハウス萩

ご注意!!

20日は、新今宮駅前「コミュニティハウス萩」2階で出張授業が行われます。6時30分に「コミュニティハウス萩」前にお集まりください。都合により、この日は給食はありません。したがって授業料は500円です。ご了解ください。

第29回目の授業が終わりました（通算99回）

出張授業

第29回の楽塾は出張授業でした。場所は新今宮駅南に建つ「コミュニティハウス萩」です。26号線を挟んで斜め前に社会医療センターがあり、いわば釜ヶ崎のはずれとも言えるところ。ここは従来のドヤという宿泊所の概念を変え、広い住居空間と便利な厨房や風呂施設を備えます。可能な限り人的交流と介護対応のできるマンションを作ろうという試みでもありました。昨年暮に完成しちょうど1年目となります。

「コミュニティハウス萩」では全室がほぼ満室状態であり、ここの2階には約130㎡ほどの広くてきれいな交流室があるので、以前から楽塾出張授業を計画していた、今回急遽実現したのでした。このマンションに居住する人々を塾生に迎えたいと思っていましたが告知が遅れ、十分な宣伝が出来ていなかったため、少しばかり危ういのですが、4名の希望者があり（1名が欠席）、加えて従来の塾生諸君たちも参加してくれて、いつもどおりリラックスした授業となりました。

「身体のメンテナンス」というテーマで、施術師としての岩山春夫氏がゲスト。前半を座学、後半が実践授業となりました。塾生の中には子どもづれのお母さんも参加していて、塾生たちとの交わりも楽しかったのです。とくに身体のおちこちに痛みを持つ塾生たちにとって、今回の施術的ワークショップは脱力感のある印象を残して終わりました。しかも教室のムードがリゾート気分でした。

11月22日 塾長

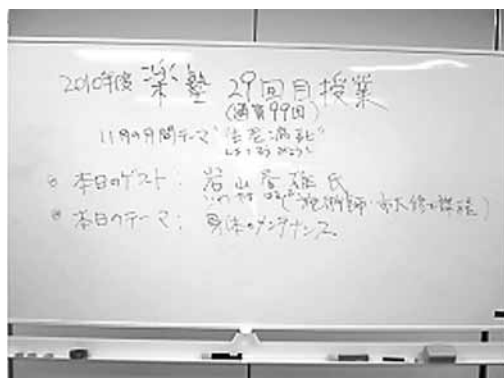
※コミュニティハウス萩の説明は、下記をご覧ください。

<http://www.nice.ne.jp/modules/bulletin/article.php?storyid=102>

☆ 11月の全体テーマ：生老病死

11月20日（土）

- テーマ：身体のメンテナンス
- 講師：岩山春夫氏（施術師・市立大学創造都市研究科修士課程）
- アシスト：柴田剛氏（コミュニティハウス萩住民）
- 日時：11月20日（土）18:30～20:30
- 場所：コミュニティハウス萩
- 参加者：13人



<前半——塾生のなやみ>

岩山氏の経歴

施術師としての岩山さんは、カイロプラテックから按摩、マッサージ師、指圧師など多彩な資格をお持ちです。授業のスタートは自己紹介から始まりました。

「静岡県沼津市の出身です。学生運動の真っ只中に中退し、カマに流れてきて20年間日雇いの鉄筋工をしてきま

した。その頃、山登りなどをしていて凍傷が原因で廃業、武術をやりはじめます」。岩山さんは空手や拳法を習得し、柔道整体師同様の整体治療を学び、すでに機能訓練指導員としての資格もあるので、現在は西成でお年寄りの人たちに施術をしながら、学びなおしとしての大学院で修士課程に在籍しています。

こころとからだ

「こころとからだは一体です。しかし、心体の不調原因を調べて結果を出すのではなく、カウンセリングをしながら、自分のことを信頼してくれる、あるいはこちらも信頼するそんな場所のあることが大切だと思う」と言い、地域での関係性を重要に考えます。岩山さんは東洋と西洋の医療合流を考え、それぞれの利点を探しながら施術に臨んでいると話します。

「健康の三要素は運動、栄養、休養で、身体を考える上で大切なことだ。身体には12器官があり、骨格・筋肉・神経・循環器・呼吸器・消化器などそれぞれが連携しあいながら重要な役割を果たしている」とし、西洋医学が担ってきた価値を話しながら、東洋医学の経絡（楽塾注：人体の血流をめぐる経路。経は動脈、絡は静脈。その経路に650余りのツボがあるという）を人体地図を参考に説明してくれました。身体の痛みは経絡を通して治癒していくのです。

その上で陰陽学説、五行学説の解説となり、漢方の五臓六腑（ごぞうろっぷ）の話題となりました（陰は肝臓・心臓・脾臓・肺臓・腎臓の五つの内臓のことであり、陽は胃・大腸・小腸・膀胱・三焦の六種の総称）。



塾生の“痛み”

授業はじめに岩山さんは簡単なアンケートを塾生にお願いしていました。一つは「これまでかかった病気、あるいはケガは何。二つ目は「現在身体のことでも気になっていること」。これをもとに、それぞれにあった施術方法を考えていきます。一人ひとりが前に出て、岩山さんに詳しい症状を伝えます。そこで本人を椅子に座らせて経絡を押さえながら、各自の治療方法を伝えていくのです。

たとえばAさん。首と肩のコリがひどく膝が悪いといいます。「これは背骨が悪く、背中の筋肉バランスも悪い」と岩山さん。私たちもその悪さを触手しながら実見してみました。たしかにAさんの左背中の筋肉は右の筋肉より遥かに膨らんでおり、素人目にも悪いということが分かりました。B君はアトピーがひどいということで、「頬骨の周囲を指の先端部分で押してやると緩和する」という先生の言葉で、そのケの或る人たちは頬骨をマッサージしました。

塾生・スタッフ全員が、からだやこころに何らかの痛みや悩みを抱えていることが分かります。そして、そんな辛さをみんなの前で堂々“告白”出来る強みが、楽塾には出来上がりつつあるのだと実感しました。



<後半——身体の鍛錬>

立禅

後半は、どんな身体、精神上の悩みにも有効な立禅（りつぜん＝気功）の実践を試みました。椅子に腰を下ろし（しかし背中をもたれずに）、両手を円状に大きなボールを抱えるようにし（しかし脇を少し閉めて）、足首を上向きにして5分間その体勢を維持します。立ち姿勢の場合は少々膝を曲げながら同様の姿勢でやります。このとき呼吸は、鼻から吸って口から吐くようにします。また顎は上がらず、頭頂が引っ張られているイメージがよいということです。

気功は中国発の養生法だそうで、気を養い、気を体内に巡らせることで心身のリラックスを促進する鍛錬のようです。これらは中国の武術や太極拳、少林寺拳法などにも取り入れられて発展してきているようです。



ボールを使った健康法

「コミュニティハウス萩」の交流室には畳が敷かれているので、今回の授業には有効でした。なぜなら、自分だけで畳に寝ながら出来る治療法を岩山さんが教えてくれたからです。岩山さんから一人ひとりにボールがプレゼントされました。畳に仰向けの姿勢になって背中や腰、尻、足などのツボにそのボールを当て、そのままの状態を維持します。なるほど、これならマッサージに通わなくともいつでも自分で実践できます。リラックスできるし、自分が納得できるまでやれます。それに気持ちもいい！

全員が畳の上でゴロゴロ寝ながら自分流の治療を試みました。今夜は給食がなく、その代わりお茶とスナック菓子を買込み、授業後はそれを取り囲んで授業の印象や自分の身体についておしゃべりを続けました。子どもも一緒になって仲間入りしてくれたので、塾生たちも楽しそうでした。



< 11月27日(土)の予定 >

弘田教授は私の先生でした。当時私が提出するレポートや授業の評価などには大変厳しく、結構辛口だったと思います。しかし修士修了後、先生は学会の研究会や市大のワークショップなどで私を講師役に推薦していただき、私の学びに大きな幅が出来たと思っています。今度は、弘田先生に私たちの塾のゲストをお願いしようと思い、今回やっと実現しました。心のケア、精神をメンテナンスする方法について授業をお願いしました。約2ヶ月ぶりに三星温泉での授業となります。

第30回目の予定

☆ 11月の全体テーマ：生老病死

● テーマ：精神のメンテナンス

● 講 師：弘田洋二氏（大阪市立大学創造都市研究科都市共生社会分野教授）

● 日 時：11月27日（土）18：30～20：30

● 場 所：三星温泉地階交流室

第30回目の授業が終わりました（通算100回）

空間の力

10月の1ヶ月間は西成製靴塾を中心にした授業でした。また11月の3週は長橋小学校、社会交流センターになり、コミュニティハウス萩の3ヶ所での授業となりました。つまり2ヶ月のあいだ三星温泉を離れてのプログラムで、給食のみ三星温泉に帰って食事をした日もありましたが、久しぶりにふるさとに帰って授業をした気分です。塾生も「ここでやるの久しぶりやなあ」と友だちに語りかけていました。

さまざまな場所で、それぞれ違った授業をし、時にはいつもと違う塾生と席を並べての交わりは、少しばかりの不安や緊張感に加えて、大いなる新鮮さを味わえるものです。私自身もまさにそんな気持ちで授業に臨んでいました。授業の魅力というものは、先生の個人的魅力や講義内容を調理する魅力、テーマの魅力などと多様ですが、空間の移動は非日常的空間を体験する魅力があります。

そんななか、楽塾で最大の移動の魅力は年に1度の修了記念旅行でしょう。来年2月には3度目の修了記念旅行が実施されます。今では塾生、あるいは応援団の人々までもが待ち望むツアーになりつつあります。行先は広島を計画しています。安芸の宮島及び広島市内の原爆遺跡周辺を訪れます。昨年度および一昨年度の2度実施した“こころの熊野旅行”に変わり“巡礼の旅”がテーマです。これまた新鮮な空間移動になりそうです。

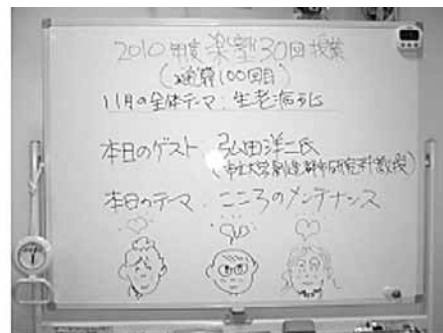
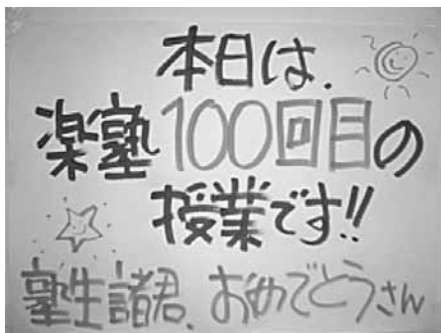
楽塾は通算100回目の授業を迎えちょっとした感慨にひたりました。

11月30日 塾長

☆ 11月の全体テーマ：生老病死

11月27日（土）

- テーマ：こころのメンテナンス
- 講師：弘田 洋二 氏（大阪市立大学創造都市研究科都市共生社会分野教授）
- 日時：11月27日（土）18：30～21：30
- 場所：三星温泉地階交流室
- 参加者：10人



<前半——絵遊び1>

回し絵

今日は、ウイーン大学から大阪市大に留学しているキーナ君が楽塾に留学塾生として参加してくれて、一層華やかな授業となりました。そして今夜の授業は弘田先生です。先生がアメリカで経験した精神医療現場でのデイケアを大変興味深く感じていて、そこで実践されていた絵あそびを塾生たちに紹介し、それをみんなでやってみるようになりました。前半の教材はクレパス、A3サイズのケント紙が3枚です。

先生を除いて9名でしたので、3枚のケント紙を無差別に先ず3名の机上に置かれます。「どんな絵でもいいから順番に、自由に、思い切って描いていってください」と先生のスタート・オンを合図に、最初の描き手たちのクレヨンが、さてなにを描こうかと逡巡しながら、しかし何やら描かれていきます。2人目が次を引き取ります。はじめの絵を見て「う～ん、何描いたらいいやろ」と考え込みながらも、描き終えて3人目に回していくのです。つまりは回し絵なのです。1枚の絵を最後の9人まで回していきながら完成させていくわけです。3枚のケント紙があるので、全員がその回し絵を描くことになり、それぞれ想像力を働かせて3つの絵を完成させたのです。

各塾生が、3枚の回し絵を描いていった順番を参考に記しておきます。

1枚目 Kさん→I(1)さん→I(2)さん→T(1)さん→Aさん→Mさん→T(2)→Sさん…あれ、T(3)さんが描いてなかったの？

2枚目 T(2)さん→Sさん→Mさん→I(2)さん→T(3)さん→Aさん→T(1)さん→I(1)さん→Kさん

3枚目 T(3)さん→Aさん→T(1)さん→I(2)さん→I(1)さん→Kさん→Mさん→T(2)さん→Sさん



全員が3枚の回し絵を完成したあとはホワイトボードに添付し、品評会(?)が行われます。先ずは1枚目の絵からスタート。弘田先生は「描き始めた人から順番に、どの部分の絵を描いたのか、どんなイメージで描いていったのかを解説していただきましょう」と進めていきます。塾生たちは、自分より前に描かれた絵に影響されながら、しかしそこから自分の絵にイメージを膨らませて描いていったことを話します。

1枚目の絵の特色は、最初の描き手の主張が強く(画面いっぱいに描かれている)完成度も高いが次の描き手のスペースが限られていた。2枚目はそれぞれの絵が同じような比率で描かれていてちょっと支離滅裂。3枚目はそれらの中間的な作品でシュールな表現になっていました。

先生の3枚の絵の講評では「ここ(楽塾)では、(描くことが)慣れてるように思いました。私がデイケアをしていた頃は、初対面の人どうしが多く、こじんまりとして描かれる絵は小さく、次の描き手に配慮し気を使って描かれていたように思うのです。ここ(楽塾)では主張があり、一定のコミュニケーションがあるという表れかもしれません」。



この回し絵のポイントは、比較的關係性の薄い人たちどうしが、アイスブレイク（緊張のほぐしあい）をする絵画療法ということです。そこで再度、回し絵をやることになり、さっきと同じようにケント紙3枚が各机に配られ、最初と同じように全員が絵を描き始めました。



<後半——絵遊び2>

切絵

後半の冒頭では、「日本に在留する中国人が、自らの不満や日本に来てからもあまりよいことがなかったという嘆きを常にもらしていた。しかし料理が上手でそのための教えあいをしたとき、先生になってもらったら驚くほど元気に料理を教えてくれたことがあった。楽塾のように、これまで教えること、教えられることに慣れ親しんだ自分を固定的な思考から解放することで、新たに自らの価値を変えられるのではないかと弘田先生は、“楽塾の塾生が先生に、先生が塾生に”移行する授業を、自らの体験からそんな言葉で評価してくれたのでした。

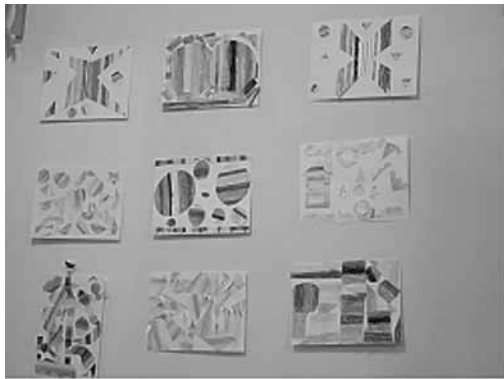
後半の教材もクレパス、A4のケント紙2枚、それにはさみとノリを使いました。

1枚目のケント紙にはいろいろな色を使って、クレパスで線描を描いていきます。細い線もあれば太い線もある。画面全体を線描で彩るわけです。一通り塗り終われば今度はそれらの線描画をはさみで任意に切り取っていきます。四角でも丸でも、三角でもぎざぎざでも、どんな形体でもいいのです。これらの切り取られた図形を別の白ケント紙にノリで貼り付けていくのです。切絵のように。一定の形のあるものに仕上げていく塾生、抽象的な仕上げをする塾生など様々です。この作業は、構成力や色彩感覚を磨き表現力を養ってくれるのに役立ちそうです。



最後はやはり品評会となりました。全員の作品をホワイトボードに並べ、ひとりひとりから作品の制作感想を聞き、そのあと自分の好きな作品を挙手し、ベストを決めたのでした。ちなみに圧倒的に好感をもたれたのは、構成的、色彩的に表現力のあるMさんの作品でした。多くの塾生は作品作りを楽しんでいましたが、それでも或る塾生の感想では「自分はこのような授業はしんどい」と漏らしました。「それは体力的にか？」と重ねて聞くと、「いや興味があまりない」と言う答えが返ってきました。そうですね、全ての人が満足する授業というのはなかなか難しいものです。それでも、今回楽塾は通算100回目を迎え、塾生の参加は続いているのですから、継続の意味はあったのかもしれない。

今夜の授業では、難しい精神医療の座学ではなく、自分たちが表現し、自分たちで他者の作品を評価するという関係性を学んだように思います。いわば心のメンテナンスにピッタリの学びであり遊びの授業を経験したと考えるのです。



給食

給食の前に、100回記念のプレゼントが届きました。小川裕子さんと前山僧侶からそれぞれ「おめでとう！」というメッセージとともにデザートが開封されました。給食は、私たちがよく利用する「すし半」の親父さんが作ってくれた豪勢な寿司膳を食しました。祝特別版として楽塾から少しばかりを負担させていただきました。ごちそうさま。



< 12月4日(土)の予定 >

お金のないとき、好きな花を仕入れて手押し車で売りに出かけて収入をかせいだり、施設などの庭園で花卉(かき)の栽培を行い、園芸活動をしてきた森口さんがゲストです。これまで地域の祭りやイベントなどで協力をい

ただいたこともある森口さんから、お金もさることながら、好きな仕事で収入を得ることの大切さを伝えてもらうことにしました。園芸の楽しさが聞けそうです。

第31回目の予定

☆ 12月の全体テーマ：貧しさと豊かさ

● テーマ：私はこんなふう生きる

● 講師：森口 誠氏（生活園芸家・社会福祉法人わらしべ会）

● 日時：11月27日（土）18：30～20：30

● 場所：三星温泉地階交流室

第31回目の授業が終わりました（通算101回）

ノイズ

大声を張り上げる。非難する。絶叫する。それらは自分の主張を訴えたいがための虚勢でありプロパガンダに思えます。そこには——国難！日本国の将来の展望ありやなしや！自由の獲得！——などと、暴露週刊誌やスポーツ紙に使われる、超太ゴチックのような言質で正義が訴えられます。これは、最近の国会中継でよく見られる民主党無責任体制をあげつらい、ヒステリックに喋りまくる野党議員の風景ではありません。

先日、初めて見た（といっても最終回でしたが）ドラマ「龍馬伝」でのお話です。びっくりしたのは演者たちが終始顔をコワばらせ、「弱いもの世の中にせないかんのじゃ！」「あの男を殺したらイケン！」と空虚な言葉が飛びかい、口角泡を飛ばす激闘のスライドショーを見せられたおもいでした。自分の主張を甲高い声でしゃべりまくるといふ異様なシーンの連続に、演出とは観客への想像力を膨らませてやるのがサービスだよとか、考える余韻を残してやるのも役割だよとか、何より言葉やスローガンに頼った芝居は印象を薄くしてしまうよ、とひとりぶつくさ思っていました。

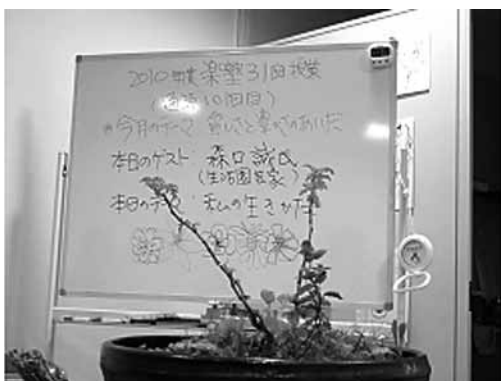
かつては社会が悪い、誰かが悪いと他人のせいにし、言葉で理論武装することで自らの正義を振り回した自分の幼さを思い出しもしました。国会にしる「龍馬伝」にしる、なんだか他者を罵倒しまくることがばかりをアピールし、ちょっと殺伐としています。国会はともかく、このドラマを1年間見続けた人たちもおおぜいいたことだろうし、口角泡を飛ばし、声高に、絶叫非難するほどの問題かといわれそうですが。

12月6日 塾長

☆ 12月の全体テーマ：貧しさと豊かさの距離—

12月4日（土）

- テーマ：私はこんなふう生きる Vol. 1
- 講師：森口 誠氏（生活園芸家・社福法人わらしべ会コーディネーター）
- アシスト：塩谷さん・さえちゃん
- 日時：12月4日（土）18：30～21：30
- 場所：三星温泉地階交流室
- 参加者：10人



<前半—新しい園芸道>

人を結びつけるもの

「よい暮らしより、よい人生を」という、尊敬する先達からの言葉が転機になったという森口さんは現在27歳の青年です。「自分の人生を、お金だけではないよりよい人生にしていける必要を感じた」といいます。今春、田岡君の

紹介が契機となり、楽塾へのゲストをお願いすることが出来ました。アシスト役に塩谷さんとその妹さえちゃんが来てくれました。

比較的若い時から園芸的なものに興味を持っていたという森口さんです。今夜の冒頭は、森口さんが20歳のときにギャラリーで個展をした際のスライドを見ながら、「生活の中にどうしたら植栽を活かせるのだろう」と思ったことが園芸への出発点であったと語り始めました。たとえば、高価な花ではなく、道端で名もなく植わっている雑草を持ち帰り植木鉢に活けてやる。既製の植木鉢を独自の色に着色しなおし、新しい植栽のイメージを創造する。日常の空間を工夫しながら植栽をレイアウトするなどして、従来にない手法を編みだしてきたそうです。森口さんは、このような園芸活動を続けながら多くの人たちと関わってきたのだといいます。

「17歳の頃、リヤカーを引っ張って遠くまで植物を売り歩いてきた経験があり、その関わりでお世話になった人たちはいまだにお付き合いがある。園芸高校に通学したのは自分の興味が大きかったから」だそうです。

森口さんは、自身に3つの約束を言い聞かせているといいます。「ひとつは“人を大切にすること”。ふたつは“人に喜んでもらうこと”。最後は“自分自身の気持ちを知っておくこと”で、これらが大切な信条となっている」のだそうです。様々な局面で人との関係を大切にしたいというのです。



美は雑草にあり

大きく立派な植木鉢を見せてくれました。これはある作家が装飾用の釉薬（ゆうやく＝うわぐすり）に失敗した作品でゆずってもらったもので、この鉢にはうまくレイアウトされた植物が植えられていました。そして、これらの植物は全て自分たちが日常的に町を歩く足元に咲いた雑草ばかりだとか。花屋さんでは棄てられるものばかりだと聞いてびっくりしました。このように植えても美しい物としてみる事が出来るのです。

森口さんは何でも無い小瓶に、先ほどの雑草が植えられた植木鉢からハーブを摘み、何でも無い小瓶にちよこんと差して見せました。「華道などではルールに乗ってやらなければならないが、雑草のようなものでも飾り方によっては、大変味わいのあるものになる」と話します。

そこで植木鉢の雑草をそれぞれが摘んで、森口さんが用意してくれた小さな花瓶たち（たとえばヤクルト飲料の器だとか、薬剤の空びん、食品のポリ容器のような物まで）に移してハーブを飾る作業にかかりました。きれいに植栽された植木鉢の雑草たちが見る見る刈り取られ坊主になっていきました。このように塾生全員が、自分の作品を机に集め始めるとここをお店と仮想し、みんながお客さんとしてそれぞれの作品を観賞することになります。出来れば誉めあってみようということも。単なる雑草ですが、作り手が素材に価値を見つければ、作品として価値あるものに変化することもあるでしょう。

「自営業で仕事を始め、福祉施設で園芸の仕事をしながら、いろいろな人と園芸を核にして関わることが楽しくなってきた。しなければならないことを楽しくやるのが私の生き方だと思う。楽しくやるのが自分の脳を活かせ、よりよい気持ちを持つことが出来るのではないかと考えています」と森口さん。



<後半——コーヒーを点てること>

もてなしワークショップ

花とお茶は共にくつろぎのツールで、ゆったりとした時間を創出できるのではないかと森口さんは考えます。そこで前半に実施した雑草作品の鑑賞と同じくコーヒー店を想定し、それぞれがお茶を点てる側（といっても今回はコーヒー）とお茶をいただく側の両方を体験し、双方の立場を感じてみようという実験です。先ず2人1組になり、1人はお客さんにもう1人はコーヒー店のオーナーになります。80～90℃のお湯をガラス製のポットに入れ替え、コーヒー豆をフィルターに入れその上から湯を注ぎ抽出します。オーナーは、お客にどんな味のコーヒーがいいのか注文を聞きます。たとえば薄い、濃いなどの好みですね。ペアになった私とM君との会話です。

M君「どんな味がええんや」。

私「客に向かってそんな口の聞き方はアカン。もう1回注文をとりなおして」。

M君「どんな味がええですか」。

私「よろしい。食事前だから薄いコーヒーがいいね」。

M君（不承不承）「分かりました」

と、こんな感じです。飲みながら感想を一言二言話します。私がオーナーに交代したらM君に注文をとるのです。





「これは、相互にお茶を点てあい、互いに誉めあったり、希望を聞きあったりして、互いの気持ちを大切にしたい人に喜んでもらうもてなしです」。森口さんはもてなしをもつことがより心の通い合いを大切にすることだと話しました。

「お金はないけれど、こんな豊かな場所で、こんな楽しいことが出来るということは楽しくて嬉しいことです。よりよい人生の実践を今体験できているという気持ちです。貧しくともいいのでよい人生をこれからも続けたいです」。そうやって森口さんの授業は拍手で終わりました。

このあと若干質問がありましたので記録しておきます。

Q1：お花と関わったきっかけは？

A1：おばあさんが作ってくれたけんちん汁がおいしかった。嫌いな野菜が入っていたが、野菜を食べて園芸高校にまでつながった。

Q2：農業は好きか？ 楽塾ではお米を自分たちで育てて、給食に使っています。

A2：ぐうたら農法といって、雑草の中に野菜を蒔いて栽培しています。

Q3：農業をしていた頃、肥溜から排泄物をためてそれを畑にまいたことがある。今も同じかな？

A3：そこまではしてません。

給食はさえちゃんを中心に

アシスタントをしてくれた塩谷さんの妹のさえちゃんは、もうおなかが減って大変だったので、給食の時は大張り切り。そして結婚したいと言って田岡君を指名していました。田岡君は「僕には奥さんがいるんだけどなあ」といって困惑していました。デザートは、先週の100回記念にプレゼントされたお菓子がたくさんあったので、それをつまんでわいわいと話が尽きませんでした。



第 32 回目の予定

☆ 12 月の全体テーマ：貧しさと豊かさ

- テーマ：私はこんなふう生きる Vol. 2
- 講 師：山口明香氏（アーティスト）三島宏之氏（写真家）
- 日 時：12 月 11 日（土）18：30～20：30
- 場 所：三星温泉地階交流室
- 受講料：1,000 円

< 12 月 11 日（土）の予定 >

中古衣料店りぶらのスタッフとして働く一方で、台所に立つのが楽しくなるデザイン割ぼう着を制作し、画廊などで発表を続ける山口さんのシンプルスタイルが魅力です。またパートナーである三島さんは、日ごろ公園管理作業をしながら写真家として作品を発表しています。ともに物的豊かさから距離を置き、他人の価値観に左右されない生き方に私たちは共感を覚えます。二人の生活からなにが見えるのか聞いてみたいと考えました。

第32回目の授業が終わりました（通算102回）

声

1ヶ月ほど前からお付き合いのある中年男性が、先日緊急入院しました。脳梗塞のため手が動かず言語が不明瞭になったのです。タイミングよく発見できたことと、直近で医療機関との連携ができていたこともあり大事には至らなかったのです。寡黙な男性ですが「もうどうでもいい人生だし」というのが日ごろからの口癖になっていて、自分を投げ出す姿に少しばかり苛立たしい思いがありました。病院での面会では振り絞るようにして言葉を発しようとするのですが、思うように言葉が出てきません。「どうして…言葉が…」とこれまで発していた音さえ出せず、自らを非力な存在と断定してしまう姿がとても悲しく見えました。そして最後に押し出すように聞こえてきた言葉が「もう…どうでも…いい…」という言葉でした。

彼は、本当に人生をあきらめているのか否かは分からない。どこまで手助けが必要なのかも分からない。ただ喋ることさえ困難な状況の中で、人に気を使いながら最後に発した言葉がこの言葉だったのです。私には、60を越えたこの男性の歴史に、何が刻印されているのかは想像できないけれど、豊かさの実感なく、貧しささえほとんど皮膚に同化した甲冑のように張り付かせていて、自らを激しく鞭打つ姿だけを想像してしまいます。

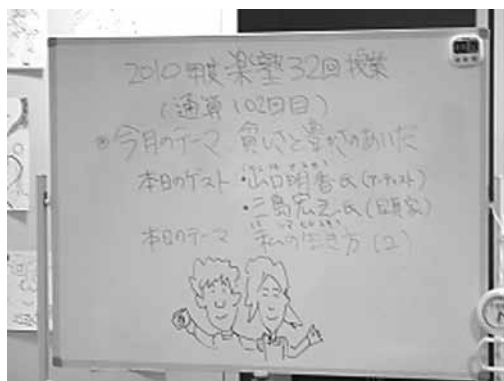
楽塾の12月の全体テーマは貧しさと豊かさの距離ですが、苦勞してきた塾生たちがこのテーマで声を張り上げていました。きっとどんなことから回復は可能だと考えたいし、自らを解放していくべきだと思います。

12月13日 塾長

☆ 12月の全体テーマ：貧しさと豊かさの距離—

12月11日（土）

- テーマ：私はこんなふう生きる Vol. 2
- 講師：三島宏之氏（写真家）+山口明香氏（アーティスト）
- 日 時：12月11日（土）18：30～22：00
- 場 所：三星温泉地階交流室
- 参加者：11人



<前半—貧しさと豊かさの双曲線>

自らの貧富の歴史を知る

パートナーである三島さんと山口さんの愛称は、「ミシマッチョとヤマグチボイン」だと今回初めて聞かされました。三島さんは、公園管理を仕事としながら、写真家としてギャラリーなどで作品を発表して来ました。山口さんも「中古衣料店りぷら」に勤めるかわら、古着を利用してオリジナルな割烹衣を制作し、それらの作品をギャラリーなどで発表し続けています。いわばアートファミリーです。そして、本日は久しぶりに川浪、前山両僧正に加え、ドーナツ店の久保さんが塾生で参加、みんなから歓迎されていました。

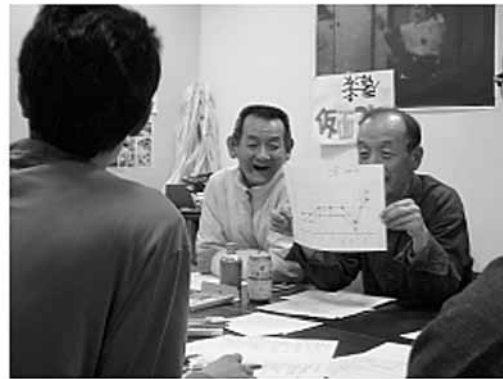
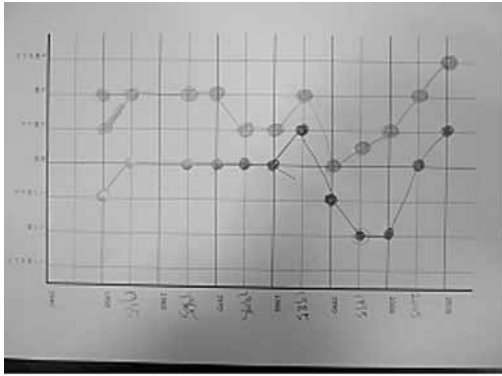
授業は三島さんのリードで始まります。「今夜は貧しさや豊かさをテーマとした授業ということです。個人の視点で、心が豊かだった時のこと、経済が貧しかった時のことを年代的に思い出し、用意したチャートにチェックしていこうと思います」。グラフ用紙のX座標には「とても豊か・豊か・やや豊か・普通・やや貧しい・貧しい・とても貧しい」と書かれ、Y座標には1940年から2010年まで5年刻みの年代が書かれています。これらXY軸が交差するところに、経済の貧富を黒丸で記入します。また、その時代の心の豊かさや貧しさを表す気持ちをカラーで記入します。たとえば2010年が経済的に「とても豊か」と考えるならその交差上に黒丸を記し、同じく心が「とても豊か」と思えるならその交差上にカラーで丸印をつけます。黒丸とカラーが同上有るということもあります。



貧富の個人史

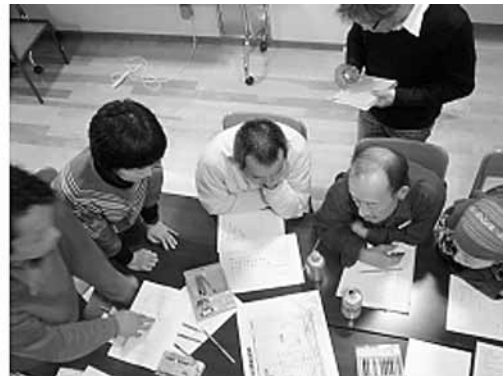
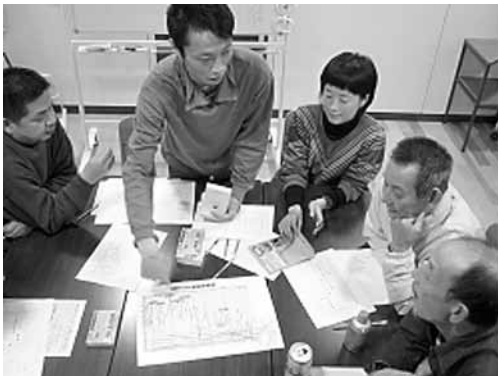
さて、全員がグラフを書き終え、一人ひとりの記録を見ながら、順番に本人の感想も聞いていきました。

- K1：1950年代の少年の頃、小さくともとても豊かな思い出があり気持ちも豊かだったが経済は悪かった。学校が面白くない時はかなり心理的に貧しかった。（*精神的豊かさや経済の貧しさは一致せず）。
- M1：かなり分裂的。こころとからだの金銭的落差が大きい。（*全体として経済、精神性の上げ下げが両極端だ）。
- T1：経済的には貧しかったが、心は豊かだった。50歳代の頃から日雇いをし、経済はともかく心はあまり豊かではなかった。今はおなかが満たされているので幸福なのかな。（*「いまは幸福そうだ」とみんなから言われ照れくさそうにしていた）。
- A：物が無い時は心も貧しかった。今は仕事もあり、楽塾にも参加できてとても豊かな状態。それまでは家に引きこもり、両親まで見とってしんどかった。（*貧富の双曲線が割合一致していた。つまり経済が貧しければ心も貧しいという状況。現在、経済はやや貧しいが、精神的にはとても豊かな状態に近いようだ）。
- T2：3ポイントがあって経済・精神のほかに心理がある。（*「精神と心理は一緒違うかいな？」と聞かれると）複雑系で、心理的に落ち着いていても精神的に悩みがあった時はギャップがある（とのこと。ようわからんが奥が深い。経済的貧しさがやや勝っていて、いわゆる精神がそれに付随し、心理がそれらに準じている。（「2000年以降、心理が上昇し続けていますが？」という三島氏の問いに）くらし応援室や楽塾があるから豊かな気分（と私たちの活動を大いに誉めてくれました。正直に嬉しかったです）。
- M2：（*T2氏同様3点主義。）子どもの時は恵まれていた（と言うとおり、経済性と精神性の豊かさが一致している。青年期から壮年期にかけてはともに下降線を描いている）。急激に落ちたのは刑務所生活、もう一つ落ちたのは路上の暮しだった。
- K2：経済的に貧乏時代ではあっても優等生だったので心は豊かだった。時代を反映し経済・精神共に上昇していった。しかし生活環境が悪くなるに連れ引きこもり、心も貧しくなっていった。引きこもりから脱出し、出家をした頃から精神性の豊かさが上昇。しかし失業、妻の死で最貧に。現在は新しい事業を進めながらとても豊かな精神状態だ。社会や環境の影響を受けやすい（笑い）。（*経済性は悪くとも、自らの仕事への自信、豊かさを回復しているように見えた）。
- S：幼少期もそれ以後も貧しい暮らしだったが、精神的には豊かな気持ちで過ごしてきたと思う。とくに僕らの時代は全体が貧しかった。経済や家族が離散しても友人たちの支えが最悪を乗り越えた。（*気持ちを切り替えることも大切な要素だという）。



山口さんは「戦後の日本の実質経済成長率」という公開されたグラフ上に、塾生たちが作成したグラフを書き足していきます。このグラフを見ると全員が景気のよさなどとは無縁に生きてきたというのが分かります。しかし現在に限って言うと、貧しくとも心の安定感は、全員が上昇気流に乗りつつあるというのも分かりました。これは大発見で、しかも楽塾が幾分役割を果たしているということも見えました（これは自慢話だけではなく、楽塾の果たす役割として書き加えておきたいと思いました）。

この授業では、社会の平均値を見るより、自分の足跡を見ることで幸福度をはかれるというのが分かったような気がします。三島さんは「他人の幸福や価値観に左右されない自由さが、貧しさと豊かさをはかる鍵だと考えました」と話していました。



<後半——貧しさと豊かさを語る>

不安を駆り立てる社会

後半は、久保さんのお土産であるドーナツをいただきながら、三島さんからの提案を聞きます。「先ほど、他人の価値観ではなく自分の生活を考えることが大切という話になりましたが、それでは皆さんは仕事をどんな風にとらえているのだろうか、自分にとっての仕事について考えてみたいと思います」。ここからは討論形式に入りました。

T 2：8時間仕事をして8時間睡眠、あと8時間を趣味にしたい。

三島：8時間働くとしても、もっと働くと金が稼げると考えもっと働いてしまう。それは欲だろう。8時間だけで働

くのをやめれば心も豊かになるはずなのに、それ以上に仕事をやらなければならないのは何故だろう？

T 2：家族という存在も重要。

三島：競争を強いられることや、そんな教育のやり方が影響している。

K 1：平均的所得なんていうことでごまかされているのではないか。1万円でも気にならない人もおれば、1億円でも不安を感じている人もいる。

三島：不安を友にしながら、楽しい時間を持つことで余計な不安に付き合う必要がなくなる。世の中は便利、合理的なほうがいいという方向だが、その分人間のつながりや幸福度を薄くしているのではないか。

山口：芸大にいたので就職などまったく考えていなかった。だから正社員になった時、想像以上の給料をもらい、仕事も面白かった。ただ誰のために仕事をしているのかに悩み、自分の価値とは違うのでやめてしまった。その根源は消費すること、企業のあり方だった。自分が本当にやりたい仕事は、古来人間同士がつながって生活するイメージであり、自然に活かされた本来の仕事をしたかった。単にこれが私のやりたい仕事ということではなく、「人が私になにを求めているのか」ということを重要考えるようになった。これなら仕事と生活に隔たりが少ない。現在は依頼されることも多くなってきた。一つ一つ違ったもの、時間をかけてつくったものは人に訴えるものだ。

A：男は結婚したら家族を養わねばならないという理由もあり、仕事を選んでいる場合ではないということではないか。

K 2：「不安に立つ」こと「浄土往生」をあきらめることが大切。今のままでは経済が悪い、不安が大きいとどんどん社会を不安に駆り立てている。

M：一人ひとり、メディアが流す情報に注意しないといけない。

三島：手前味噌ということで、自分たちのお味噌汁を作ります。みんなで顔が見える食材ということで食べてもらおうと思います。



三島さんは、討論の最後に給食が近くなったことで、「自分たちが作る味噌汁を塾生に食べてもらいたい」と話し、自家製の味噌を持参しながら、2人で味噌汁を作りはじめました。ここからはドドッと給食モードに突入します。塾生たちの「もう腹がへった！」の連呼ですからやむを得ません。

今日の給食は、授業の続きのようで、口からご飯粒を飛ばす勢いで話しが途切れずに盛り上がりました。まだまだ語りえなかった問題も多いと思います。今後も同じテーマで論議を続けていきたいと考えました。



< 12月18日（土）の予定 >

地域の人たちが気軽に立ち寄り、寄合いの場所にもなっている「中古衣料店りぷら」の店長を勤め、A ークワーク創造館のスタッフとして、同世代青年たちの地域就労を応援する森田さんがゲストです。これまでも何度かのユニークな授業をしていただいています。今回は、自らの仕事から得た経験体験から、貧しさや豊かさを考えてみようという試みです。

第33回目の予定

☆ 12月の全体テーマ：貧しさと豊かさ

- テーマ：私はこんなふう生きる VOL. 3
- 講師：森田智保氏（りぷら店長）
- 日時：12月18日（土）18：30～20：30
- 場所：三星温泉地階交流室
- 受講料：1,000円

第33回目の授業が終わりました（通算103回）

2010年への感謝

「楽塾」に三たびの年の瀬が巡ってきました。今年度は際立った話題がいくつかありました。新年度の4月には大阪市立大学都市プラザの強力なバックアップのおかげもあり、「楽塾」アーカイブともいべき08年および09年度版記録誌2冊が出版されました。これは、私たちの達成感に加え、記録し続けてきた時間の重さを思いました。7月には「楽塾」の3年目がスタートし、11月は100回目の授業を達成しました。これらはただただよく続けてこられたという実感だけが残りました。また、「楽塾」に興味を持つ学生や一般参加者たちの来塾が講師につながったり、ユニークな外国とのスカイプ授業の実施も実現できました。

このことは、毎週欠かさず授業に参加してくれる塾生たちの賜物だと考えます。何よりも、この1年間を健康に過ごせた塾生たちへの感謝と無事を喜びあいたいと思いました。そして、毎週無償でゲスト役を引き受けてくれる私たち友人諸氏の熱意にありがとうを伝えたいと思うのです。ゲストの数がいつの間にか70名を越え、2ヶ月先のスケジュールが満杯になっているという嬉しい現状です。たくさんの応援団が必要に応じて協力してくれる、そんなかわりが頼もしいのです。

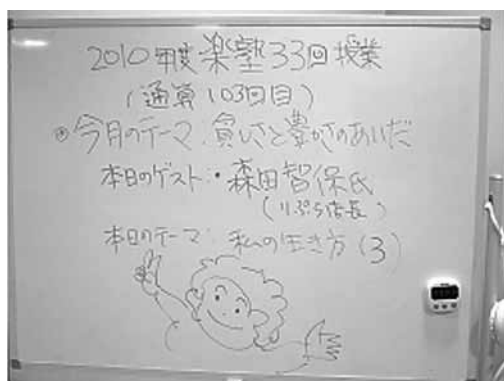
そして、非営利部門「くらし応援室／楽塾」の自由を支えてくれる㈱ナイスの厚情に感謝します。公的支援や大規模寄付などを当てにせず、あくまで小さく、自力でやり続ける喜びは言葉に言いあらわせないものです。

12月21日 塾長

☆12月の全体テーマ：貧しさと豊かさの距離—

12月18日（土）

- テーマ：私はこんなふう生きる3
- 講師：森田智保氏（りぷら店長）
- 日時：12月18日（土）18：30～22：10
- 場所：三星温泉地階交流室
- 参加者：9人



<前半—貧しさ豊かさ>

森田さんの語り

「和歌山に暮らし、和歌山から通勤している森田です。12月の『貧しさと豊かさ』というテーマは私にとって得意分野です」と森田さんは胸を張って話しはじめます。

「親父さんは、私の記憶の中では、常に紙吹雪が舞い散る場所（競輪場）とか、なにやら怪しげな賭博場に連れて行ってもらった記憶が残っていて、父はいつも母親に怒られていました。貧しかったが両親は『人は人、うちはうち』と平然としていました。貧しさという部分では、貧しい長屋生活が深く肌身に刻み付けられていたのです。」

「親はだまされて財産をとられたことがあります。だから私には『財産は“頭”に残さない』といわれた。つまり、知識や情報を身につけることが大切だということだったと思います。私自身は貧しさを実感しているわけではないが、(自分の生き方は)これまでの家庭環境や暮らしがベースとなっていたのです」。

森田さんは小学生時代いじめに会っていて「社会に関する視線を養うことが出来たと思います」と話します。だから「西成でりぷらを開いた時に、これまでの生きてきたプロセスが、このまちとピッタリ合った。私以上に山あり谷ありの人々がたくさんいて、このまちで仕事するのに大きな励みになっている」そうです。社会的な正義や正当ではなく「それ分かる！分かる！」という意識があって、使命感などとはちょっと違う。お金はないが貧しいけれどもすさんだことはない。後にキャリアコンサルタントの資格を取り、今回はそんな経路を活かしてワークショップをしてみたい」と話し、いよいよワークショップが始まりました。

悲しさ楽しさのグラフづくり

「グラフをつくり、年代によって貧富の記憶のトピックを思い出し、グラフに記入してもらいます。それを書き上げた一人ひとりその思い出を語ってもらいましょう。まずはその時期(年齢)・出来事・楽しかったこと・辛かったこと(悲しかったこと)・影響を受けた人や書籍・音楽などを記入します」といって、森田さんはグラフの形式をホワイトボードに記します。塾生たちは黙々記憶をたどりながら書き上げていきました。



<後半——みんなの語り>

ワークショップ

「自分の思い出を事実として書き記すことが大切だと思います。せっかくの経験や体験を、次の時代に生かすようにすることが大切。グラフを参考にして、自らの辛さ楽しさの時代を聞かせてください」。

- A：音楽は欠かせない。コミュニケーションが苦手な時代があった。酒を覚えた。うつ病を経て楽塾に来る楽しみを感じた。10数年介護を続けた父親の人生とは何であったのかを考えている。
- B：人生で一番のひもじい時代は戦争の頃。芋のつる(それもたねいも)ばかり食うとった。他人の弁当を盗んで食べた。ひもじさが極まった。今は一人だが元気で自由だ。
- C：大学受験失敗。親以外との人間関係は皆無。その後大阪に来て入社。現在最悪。
- D：20才代まで普通。その後就職で待遇はよかった。40才半ばまで取り立てて何もない。バブルのとき月収が減って悲しかった。50才の時、ホームレスの全国調査を経験して面白かった。野宿者にはどうしようもないのがいた。バレーの猫田の素晴らしさに感動する。収入が20才の頃と同じ位なので、将来競馬を当ててええ目をしたい。
- E：小学校の頃、楽しかったのは日の丸弁当を持っていったこと。悲しかったことは小便を漏らしたこと。中学校の頃は暴力事件を起こし少年院へ。25才の頃、家の田畑(財産)を売り払って楽をした。30才代に刑務所に入った。獄中時、娘を勝手に養女にされ、昨年何十年ぶりかで娘に会いに行ったが亡くなっていた。
- F：昔の頃の幸せ感などは覚えていない。おっさんに同性愛的な痴漢をされて恐怖した。だから女性の痴漢に怒りを覚える。周辺には在日や台湾人がいたが、そのお陰でいろいろな問題に興味がわくようになった。不幸は宝になるし、人生は成り行きでええ。

G：重体となった交通事故が最大の不幸だった。自分で仕事を果たことが楽しかったこと。死にかけたこともあったが、生きていけるということが幸せに思うことです。

H：子供のころ旅行が大好きだった。若い頃は楽しい思い出は少ない。結婚出産を経験したが、若すぎて人間関係の難しさを感じ失敗もした。専業主婦から社会復帰、しかしウツを病み体調不慮が辛かった。そして離婚。海外旅行が楽しかった。しかし離婚後は人間関係の広がりが出て来た。産業カウンセラーの資格を取ったことも大きい。



しゃべりあうこと

最近、自らの痛みや秘密を告白する勇気を、比較的おおらかにしゃべりあうことが多くなった気がします。全てを開けっぴろげにしてしまうということもなかなか大変なことですが、楽塾ではそれが自然になりつつあります。そして、森田さんのお友だちであるYさんの差し入れであるデザートを食べ、話が弾んで給食が終わったのは22時を回っていました。



< 12月25日(土)の予定 >

最終授業となりました。授業というより飲み会・宴会なのですが、塾生やスタッフたちが、これまでの授業でお世話になったゲストや講師の人たちへの感謝をあらわす日になります。10年度のゲストの方々には既にご連絡をしています。詳細がまだ未報のゲストの方には申しわけありませんが、早急にご連絡くださるようお願いいたします。

第34回目の予定

さようなら 2011 年楽塾謝恩会

●日 時：12月25日(土) 18:30～21:00

●場 所：美庵

●費 用：ゲストについてはご招待

第34回目の授業が終わりました（通算104回）

楽塾謝恩会

本年最後の楽塾授業が無事終了しました。1年間を通して42回（09年度1～2月授業及び10年度4月～12月まで）の授業が行われ、参加塾生の累計は399名、出張楽塾を入れると425名の参加者がありました。楽塾授業の応援団であるゲスト講師は36名でした。今回の最終授業は「さようなら2010年＜楽塾謝恩会＞」と称し、塾生と楽塾スタッフが、2010年内に行われた授業に協力していただいたゲストへの親愛と感謝を込めて企画されたものです。今回は残念ながら、すべてのゲストが出席というわけにはいかなかったのですが、再び、来年度からの授業応援もお願いしたいと考えています。そして、楽塾から全ての応援団の方々にお礼を申し上げます。無償にもかかわらず、今年も楽しい授業をプレゼントしていただきありがとうございました。

楽塾はゲスト講師が塾生になり、塾生がゲスト講師にもなるというフラットでハードルのない“学校”です。様々なつらさや困難を抱えてきた人たち、人とのかかわりや社会での息苦しさを経験してきた人たちにとって、ここはきっと雨宿りの場所になると思います。年齢、階層に関係なく、塾生あるいは講師としてご参加ください。

12月26日 塾長

☆ 12月の全体テーマ：貧しさとお金の距離 —

12月25日（土）の授業

- テーマ：—さようなら2010年楽塾謝恩会—
- 日 時：12月25日（土）18：30～22：00
- 場 所：美庵
- お料理：ホッキ貝・おでん・スモークチキンとローストチキン・ノドグロのグリルなど6品目
- 参加者：29人



謝恩会開会

予定参加者は全員が出席し、数分遅れで総合司会の田岡事務局長から「さようなら2010年＜謝恩会＞」の開会が告げられました。塾生代表のAさんが「1年間の楽しかった楽塾と講師の方々に感謝し、謝恩会の開会を宣言します」と宣言を行います。

塾長の挨拶では、本年楽塾の際立った話題として①08・09年度版楽塾記録2誌が大阪市大都市研究プラザの協力で発刊されたこと。②楽塾開校3年目をスタートさせたこと。③11月には通算100回目の授業を終了させたことを伝え、楽塾はたくさんの応援と協力で成立していると話しました。

塾生のB君が、愛想のない、けれど大きな声で「乾杯！」の音頭を取り、全員がビールやソフトドリンクで喉を潤します。「謝恩の宴」の前半が始まりました。



謝恩の宴1

各授業風景を撮りだめしてストックしていますが、それらの写真から選抜した（といっても数百枚ほどにもなる）映像をプロジェクターでスライドショーに設定し、それを背景に、本年1月から12月まで、計42回の授業を担当した講師より時系列で自己紹介していただきました。というのもゲスト同士がこの場で初めてという場合も珍しくなく、これからの交流のためにも自己紹介しあいました。

まずは09年度36回授業テーマ「支援・被支援とは？」ではよりそいネットから北場好信・益子千枝さんチームの自己紹介がありました。10年度8回授業テーマ「旅—究極のエンターテインメント」では、講師歴3回の市大都市プラザ研究員稲田七海さんが。そして第11回授業テーマ「私だけのベルトをつくる」では、西成製靴塾長小林寛明さんが製靴塾と楽塾のコラボレーションを話し、12回授業テーマ「作家のスピリッツをもらおう」では、塾長の中学生時代の同窓生である工芸家の田村博文さんが続きました。このあと13回授業で「僕のふるさとベルギーの炭鉱町」をテーマに語ったヒュラルド・コルナトスキー（通称ジェイ）さん、15回授業テーマ「喜怒哀楽の異文化交流体験」を講話した大学職員の川崎那恵さんが続き、前半の紹介を終わりました。





謝恩の宴2

食事と歓談をはさみながらの30分あと、ゲストの自己紹介が再開されました。18回授業は基礎勉強ということで「楽しく遊んで算数塾」を企画した近畿大学生の山崎安敦さん、続いて19回授業「理科もいろいろ、地学でいかが」の同大学山崎真大さん。そして21回授業「言葉の遊び・オンパレード」は、NPOワークレッシュ代表の和久貴子さんでした。29回授業は出張楽塾を「コミュニティハウス萩」で開催し、施術師の岩山春夫さんが「からだのメンテナンス」を実践。31回授業以降は「私はこんなふう生きる」という連続テーマで、生活園芸家の森口誠さん&塩谷さん、32回授業はアーティストである山口明香&三島宏之さん、33回授業はりぷら店長の森田智保さんら若い人たちがそれぞれの生き方、貧乏と豊かさの距離などをワークショップしたエピソードを、自己紹介を兼ねて語ってくれました。



感謝状の授与

このあとは、著しい楽塾への貢献をいただいたゲストに、塾生であるC君が感謝状と記念品の贈呈を行いました。以下は各受賞者たちで、それぞれの感想をいただきました。

□楽塾大賞：大阪市立大学都市プラザ代表 水内俊雄教授

□楽塾最年賞：山崎安敦君、本田真大君

□楽塾救援物資賞：前山村雄氏

□楽塾一連択賞：川浪剛氏



楽塾とは

水内教授から「楽塾」が果たしている意味を話し、何よりも教授自ら「派遣先」のボスと称し、研究生を楽塾に送り込んでいる楽しさ、塾生と講師の位置が入れ替わるユニークさを賞賛してくれました。このあとの宴は塾生の自己紹介で、サボり癖のあることを暴露したM君や達観した最年長塾生T氏の語り一同盛り上がり、もうハチャメチャ状態で、最後には塾生の歌なども飛び出しました。

閉会

D君の閉会宣言があり、田岡事務局長がこれからの予定や2月に実施される広島への修了旅行について説明をしたあと一本締めが行われました。Aさんからは「広島旅行に千羽鶴を折ろう」という提案があり採択されました。こうしてゆったりと宴が終わっていきました。



< 2011年1月8日（土）の予定 >

新年の2月12・13両日は、10年度授業の修了記念として広島旅行をします。楽塾が始まって以来3回目の旅行となりました。そこで10年度最後の第5クール（1月／2月）の月間テーマを「旅へのイメージ」として、旅への空想をかき立てるためのトレーニングをしてみます。広島という場所、歴史、文化などを毎週多面的に取り上げます。第1回目は映像を見ながら、原爆と広島を考える授業を佐々木が担当します。

第35回の予定

☆1・2月の全体テーマ：旅へのイメージ

- テーマ：広島と映画
- 講師：佐々木敏明（楽塾 塾長）
- 日時：1月8日（土）18：30～22：10
- 場所：三星温泉地階交流室
- 受講料：1,000円

第35回目の授業が終わりました（通算105回）

今年も楽塾への応援をお願いします！！

塾生諸君、そして楽塾応援団のみなさん！新年あけましておめでとうございます。

たくさんの参加と応援、そして愛が2010から11年にかけての峠を越えさせてくれる力となりました。感謝いたします。本年も昨年同様楽塾応援をお願いいたします。

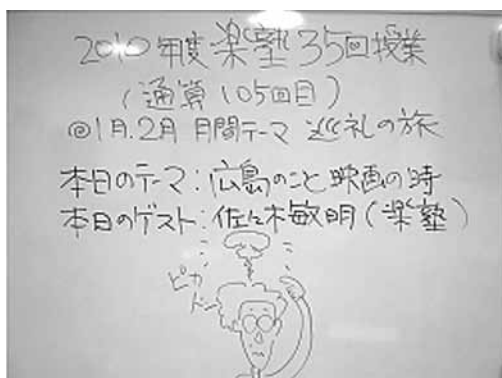
10年度授業も第5クールに入り、2ヶ月間を残すばかりとなりました。とくに2月には第3回目となる広島修了記念旅行が決定し、世界最初の被爆地を訪れます。本年7月には楽塾開校4年目を迎え、ときの過ぎ行く流れがますます早足になっているように感じます。内外ともに楽塾への新しい動きが胎動しており、これまでにはない新しい1年の始まりを予感します。みなさんのよきご助言が必要です。よろしくをお願いいたします。

2011年1月10日 新春のくらし応援室より 塾長

☆1・2月の全体テーマ：旅へのイメージー

1月8日（土）

- テーマ：広島と映画
- 講師：佐々木敏明（楽塾）
- 日時：1月8日（土）18：30～22：00
- 場所：三星温泉地階交流室
- 参加者：10人



<記憶しておくこと>

個人的体験から

1945年7月26日午前8時過ぎ、大阪市東住吉区田辺本町の田辺小学校付近に原子爆弾の模擬弾が投下された。その数日後、広島上空に空爆機「エノラ・ゲイ」が現れ、広島市内を一瞬で灰燼にさせる。私は1944年の生まれで、その頃米軍の大坂空襲で阿倍野の家が焼かれ、母の背に負われて堺に疎開していた。再び大阪市内に戻ったのは私が小学校1年生の頃。模擬弾が投下されて数年後だが、田辺本町の田辺小学校前で長い間暮らした。もし1945年7月の頃、この模擬弾が本物であったなら大阪市内と堺市は全滅していたそうで、私は大阪・堺そのいずれにいたとしても存在していなかった。こんな偶然を同時代に遭遇したことをいつも不思議に思っている。

あの頃、日本に何があったのか。いまだ捨石にされ続ける沖縄や被爆者問題を考えるきっかけにしたいと思ったのがこの授業だ。前半30分を8月6日午前8時15分の広島のこと。後半はドキュメント「ヒロシマナガサキ」を上映する。

今回の授業の経過は、私のレジュメを脚色し転載した。



<前半——被爆都市へのあらすじ>

広島市のこと

1945年当時、広島市は軍都であった。日清戦争時代には大本営（*）がおかれ、臨時帝国議会も開かれ、東京より広島に首都機能が移されていた。だから陸軍施設が多数置かれていた。呉には軍港もあり、軍艦などを建造する造船所や軍需産業が盛んであった。

*大本営：天皇に直属する最高の統帥機関。1893（明治26）年制定。大戦後廃止

1945年8月6日月曜日午前8時15分

B 29 米空軍爆撃機「エノラ・ゲイ」など3機（*）が広島上空に侵入。「エノラ・ゲイ」から投下された原子爆弾は世界最初の核兵器であり、この兵器により当時の広島市人口35万人のうち、14万人が死亡した。世界大戦終結を目的に、米国トルーマン大統領の指示で、「マンハッタン計画」と称するプロジェクトが生まれた。核弾頭の愛称は「リトルボーイ」。

*3機：B 29のエノラ・ゲイ 科学観測機 写真撮影機の爆撃機

子どもたちまでが動員された

日本の戦時中は、挙国一致体制（*）で、市内では徴用工（*）・女子挺身隊及び勤労働員された中学上級生（3～5年生）たちは、三菱重工や東洋工業など数十の軍需工場に向き作業をさせられた。中学下級生（1～2年生）たちは建物疎開に参加した。尋常小学校上級生たちは集団疎開をし、下級生たちや未就学児童たちは市内に留まった。

*挙国一致体制：国民全てが戦時体制を守る全体的恐怖政治

*徴用工：国家が国民を強制的に一定の業務を強制させること。とくに韓国人への徴用は厳しかった



ピカドンの脅威

爆心地の直後の表面温度は 9,000 度で人間は蒸発した。地表温度は 3～4,000 度。爆心地から 1 キロ離れても 1,800 度の高熱で、ここでも被爆した人たちは全員死亡。

広島第二中学校一年生の全滅

広島市内には空襲がない(*)ということで、広島第二中学校には東京や大阪など他地域からの転校生が多かった。当時の中学校は入学試験があり、この中学校は 4 倍という難関校であったという。当日、4 人の先生と 321 人の第二中学校一年生たちは、広島市の中心にある中島新町（現在は中島町）の太田川本流の本川土手に集まった（現在の平和公園北西付近。広島公会堂前）。

広島はそれまで 1 度の空襲しかなく、今後他地域のように爆撃されるという予測のもと、空爆の類焼を防ぐため、あるいは人が逃げやすくする道路や空地をつくるため、大人たちが家を解体し、バラされた家屋の残骸を整理する作業を少年らが受け持った。当時、この作業には男女中学生 3 万人、地方義勇隊 7 万人、そのほか軍隊をあわせて 30 万人が動員されることになっていた。これを建物疎開という。現在の西平和大橋付近でもこのほか、高等女学校生や工業学校学生たちの多くが作業のために集結していた。

作業が始まる頃、彼らの真正面にエノラ・ゲイの機影が認められた。飛行機からは数個の物体が落とされた。40 数秒後に爆発、その瞬間、9,000 度もある太陽のような火球、オレンジ色の閃光と熱線、そしてものすごい爆風が発生し、わずか 500 メートルの間近にいた広島二中の一年生たちは、閃光に目を焼かれ、服は燃え出し、その小さな身体を数十メートルも飛ばされ、地面にたたきつけられた。彼らは致命的な大やけどや大怪我をし、わかっているだけで 226 名がその日、あるいは翌日に亡くなり、95 名が今も生死不明のままだという。こうして中学校の子どもたちと 4 人の先生は一瞬のうちに命を失ってしまった。

*空襲がない：広島に空襲がないのは、明治以降、多くの広島県人がハワイやアメリカに移民していたからだと思われていた

二重被爆

長崎に住み、三菱造船の技師として勤めていた山口彊（つとむ）氏は、設計応援のため 3 ヶ月の予定で同僚 2 人と共に広島出張を命じられた。穏やかな広島風の風土の中で、しかし戦時のひもじさと激務に耐えながら 3 ヶ月の仕事を終え、8 月 6 日朝広島市内を発とうとしたその時、白い光線と大火球を見た。すごい爆風に飛ばされ意識を失ったあと、やけどでひどい身体を一昼夜汽車にゆられ長崎まで帰還した。8 月 8 日長崎に到着し久方ぶりに家族たちと会うも、翌日 9 日の朝再び爆風に吹き飛ばされ、2 度目の災厄を被ることとなった。このような 2 度被爆をした人たちは日本に 165 名ほどいるという。

アメリカの報道

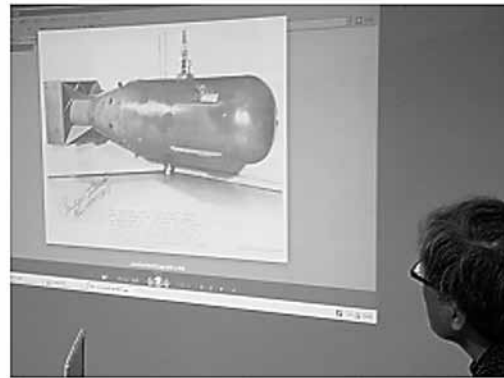
原爆投下後、連合国側の記者たちは原子爆弾の戦果を知るため、個人的興味から、あるいは軍の特派員として広島・長崎に集結した。しかし、現地での凄惨な状況を見た彼らの第一報は、正確に伝えられず阻まれた。とくに原爆症や残留放射能、そして人的被害についての記述はカットされた。全米の異なるまちの異なる新聞でありながら、内容が修正される場所は一言一句同じであった。記者の原稿が補修整、加筆され検閲されていたのだ。米国への国際的世論の悪印象や、国家としての武器機密を隠蔽しておきたかったことがその主要因だ。また軍関係（陸海空軍）の手柄や権威などの思惑があったり、機密保持のための検閲をしなければならず、記事の抹殺や捏造が行われたといわれる。

1945 年 8 月 6 日の記録

当日の状況をカメラに収めていた日本の報道カメラマンがいた。僅かな写真しか残していないが、被爆して幽鬼と化した人々を撮影することに大きな罪悪感と後ろめたさを感じながらもファインダーを覗いた。ファインダーは涙で曇っていたという。これらの写真は爆撃直後の貴重な写真であり、戦争の生々しさを伝えている。

<後半——「ヒロシマナガサキ」の上映>

2007年に製作されたS・オカザキ監督のドキュメントを上映した。上映時間は86分で、感情やイデオロギーを排しながら、あの一瞬を生きた人たちの言葉が生きていた。妹が自殺した或る女性は「生きる勇気と死ぬ勇気があるとしたら、私は生きる勇気ももらった。あのことを後世に伝えるために」という言葉が印象的であった。



余韻

給食時はしばらく重苦しい空気に満ちていて、T君は「こんな気持ちで飯食われへんなあ」と言いながら、しかし「しんどいことも覚えておかんとね」と言ってくれた。給食が終わったあとも、全員が教室で話を続け散会したのは2時を過ぎていた。用事のある前山氏が授業前に寄り、以前ゲストの久保さんや三島さんも塾生として参加。議論に加わった。

- 参考文献＝二重被爆（山口彊著・朝日文庫）／原爆と検閲（繁沢敦子著・中央新書）／いしぶみ（広島テレビ放送編・ポプラ社）／父と暮せば（井上ひさし著・新潮文庫）／ヒロシマナガサキ（スティーヴン・オカザキ監督・㈱マクザム＝DVC）／なみだのファインダー（松重美人・ぎょうせい）



< 2011年1月15日（土）の予定 >

昨年、腕および内臓疾患の手術を連続で経験したおなじみ僧侶前山さんの登場です。リハビリや養生が大切なときにも楽塾を覗きにきてくれる前山さんが、広島を巡礼の地として、あるいは安芸の宮島の歴史、平家ゆかりの地として話してくれる予定です。広島旅行はあと1ヶ月に迫りました。

第36回の予定

☆1・2月の全体テーマ：旅へのイメージ

- テーマ：巡礼の都市広島
- 講師：前山村雄氏（僧侶）
- 日時：1月15日（土）18：30～21：00
- 場所：三星温泉地階交流室
- 受講料：1,000

第36回目（通算106回）の授業が終わりました

夜明け前

その朝、私は布団の中でもう起きていてその揺れを感じていました。ベランダ側にあるガラス戸に鍵をかけていなかったため、2枚のガラス戸が右に左に開閉するのが見えました。空はまだ暗く、地震とは思いましたがその動きを眺め続けていると、開かれたベランダ越しの夜空に真っ青なスパークが光り、数秒間断続的に昼のような明るさを見せました。その直後、遠くの方から地鳴りのような音がし、その音を増しながら、そしてうねるようなスピードで私に向かってきたのです。瞬間ドドンという大きな音がして上下を大きく揺さぶられ、本箱から書籍がすべり出し、布団の中の私に降ってきました。壁に亀裂が入り、それでも大きな揺れは止まりません。私は最初の姿勢のまま、布団の中でその様子を逃げもせずに見ていたことになります。

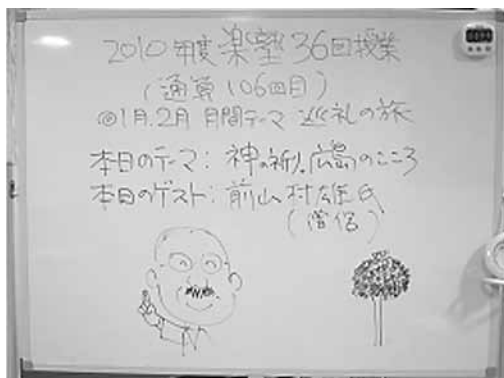
阪神大震災からもう16年になるそうです。たくさんの命が消え、建物が倒壊して火災が発生し水も止まりました。家や職場をなくし、家族を失った人も見ました。大阪で暮らす自分にはあまり関わりがないと思っていたその現実が、自分にも起きているということをしばらくして理解しました。2次の被災とでもいうのか、神戸にある企業が罹災しリストラを始めます。仕事を請けていた私はたちまちにして失職状態に陥り、家族どころか自ら養うことも不可能になっていたのです。その後、僅かながらの被災者応援をしながら、自分と同じ、あるいはより苦しい状態に置かれる人間の状況を知り、人は助けることも助けられることも出来るということを知らされていきます。

2011年1月17日 塾長

☆1・2月の全体テーマ：旅へのイメージ—

1月15日（土）

- テーマ：神の祈り、広島のことろ
- 講師：前山村雄氏（僧侶）
- 日時：1月15日（土）18：30～22：00
- 場所：三星温泉地階交流室
- 参加者：10人



<前半—神様って?>

アニミズムから神話へ

「太古、人々は自然現象や樹木、岩石などは霊を持つものとして恐れと敬いを持ち、神が宿るものとしてあがめていました。今では夜でさえ煌々として明るい町並みが常態ですが、その当時、闇夜の恐ろしさを救うものとしては火の役割が重要でしたから、それら月光や雷光など自然現象が祈りの対象になったのでしょう」。前山さんは私たちの原始信仰はアニミズム*から出発したと話しました。

*原初的な信仰のかたち。自然に霊が宿る意思を持つとする超自然観

そして「古代人は、現代人よりも感覚が研ぎ澄まされていたようで、たとえば現代人の視力は1.5が普通ですが、

アフリカでより自然に近い生活を送る部族などは4.0と言う驚異的な視力を持って暮らしているようです。目や耳が利くことで獲物の移動や、他部族との戦争など、情報を的確にするための視力や聴力が必要だったのです。

「稲作の伝来と共に自然神から部族の祖先神を登場させはじめます。日本での記紀（古事記や日本書紀）などの神話の世界が代表的なものです。神的合一によって部族間の統率を計り、武力支配を強めていくのです」と話し、記紀を語り始めました。



天津神と国津神

「天津神はイザナミ・イザナギに始まり、アマテラス大神やスサノオに連なりながら、海の向こうからやってきた天孫一族だと言われています。日本に上陸したあと、多くの部族集団である国津神を支配していきました。大国主命（オオクニヌシノミコト）や、今回訪れる安芸宮島にある厳島神社の祭神田心姫神（タキリヒメ）、端津姫神（タツヒメ）などは国津神なのです」と言います。多くの神々が現れる日本神話は、従来からの部族集団を制圧してきた支配集団が、自らの神々と他部族の神々との調和を図っていく過程が語られたもので、国の創世記の秘密を表しているといえるのではないのでしょうか。

神様の種類

「神様という判疇にはたくさんの神々がいます。ギリシャ神話に出てくる人間的な神々は星座の話としてもよく知られています。キリスト教は信者にとって絶対神です。それでは日本の神々とは？」と言うことで、前山さんのレジュメでは多くの神々が現れてきます。

- 自然神＝大神神社（三輪山）・玉置神社（置石）・那智神社（滝）・神倉神社（ごとびき磐） 注（ ）内は祭神
- 神話の神様＝出雲神社・鹿島神宮など
- 怨霊の神々＝天満宮（菅原道真のたたり）・神田明神（平将門の怨霊）
- 人間の神様＝豊国神社（秀吉）・東照宮（家康）・乃木神社（乃木希典）。これは「だれだって神様になれるという例です」という話でした。

それではクイズ。ある企業が以下の神社を持っているそうです。さてどこの企業名？

例＝鉄道神社（JR東日本）

以下の企業名も当ててください。

三囲神社（ ）、穴守神社（ ）タワー大神宮（ ）成功稲荷（ ）毎日神社（ ）豊興神社（ ）
和江神社（ ）竹千代稲荷（ ）

企業が神社を作る理由は、会社の繁栄を希求することと、宗教法人は減免対策になるという理由もあるのです。つまりは欲得づくのはなし。



鳥居

神社には何故鳥居があるのか？ 前山さんは「神話では天照大神を天岩戸から引っ張り出すために、長鳴鳥に鳴かせたという説があります。また民俗学的には東南アジアで村の入り口にある精霊の門の上に、木彫りの鳥を飾る風習があります」と言います。

このほか、聖と俗界とを隔てる結界として用いた注連縄の話や、拍手（柏手の誤字ではないかといわれている）は、古代神や貴人に対して拍手を打っていたが、その後神だけにするようになった、拍手では4回打つのが正式な儀礼などの話が続きました。

<後半——厳島神社>

女神

「厳島の祭神は女神です。神名のイチキシマは齋き島のことで、イチキシマヒメとは神に齋(いつ)く島の女性(女神)という意味」だそうで、厳島神社の祭神ともなっていてイツクシマという社名もイチキシマが転じたものではないかとされています。古くから海の神様として信仰を集めてきました。航海安全の守護神としてあがめられてきた」との伝承らしいのです。

『神も仏もない』しかし『イワシの頭も信心から』というが、神仏とはそんなもんやとわしは思う」というのはある高齢者塾生の意見です。”信心高じて狂信に走り信心薄くて頼りなし”となる庶民のほどほど信仰の表れでしょうか。神や仏に安易な期待をするなという経験的戒めであり、やはり自省、自戒、経験、想像からしか人は学べないのではないかと思います。そして何よりも人を信じること。塾生の呟きをリアルに感じた一夜です。

給食

給食時間は宗教論議に発展しました。そして給食後は小川さん差し入れのデザートをいただき、また広島旅行にも興味が広がりました。今夜は「くらし応援室」研修生のK君が楽塾を手伝ってくれました。ちょっと風邪気味のようで辛かったかもしれません。さて、彼は初めての楽塾をどんな風に見たでしょう。10年度楽塾修了記念旅行への参加希望者は現在25名になり締め切らせていただきました。



< 2011年1月22日（土）の予定 >

グアテマラは紀元前15世紀頃マヤ文明の中心地であったといわれ、北海道と青森および岩手県を合わせたほどの面積を持つ国で、メキシコ南東に接しています。現在は福祉行政の仕事にかかわる横山佳代子さんとは、十数年前豊中市の映画祭事業以来のご縁で、昨年楽塾にも参加されました。中央アメリカのグアテマラ共和国で長期滞在した経験を活かし、グアテマラの文化、風土、暮らしなどを聞きたいと思います。

第37回の予定

☆1・2月の全体テーマ：旅へのイメージ

- テーマ：グアテマラ紀行
- 講師：横山佳代子氏（宝塚市立子ども館館長）
- 日時：1月22日（土）18：30～21：00
- 場所：三星温泉地階交流室

第37回目（通算107回）の授業が終わりました

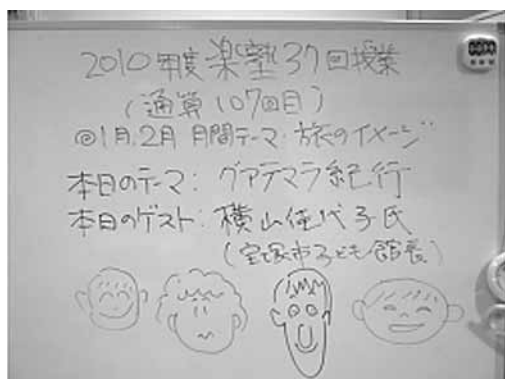
楽塾レポートの提出が遅くなりました。お詫びいたします。第37回の横山佳代子さんの授業記録をお楽しみください。グアテマラという異国・異文化の雰囲気を感じ持ちよく堪能しました。

2011年1月27日 塾長

☆1・2月の全体テーマ：旅へのイメージ

1月22日（土）

- テーマ：グアテマラ紀行
- 講師：横山佳代子氏（宝塚市立子ども館館長）
- 日時：1月22日（土）18：30～22：00
- 場所：三星温泉地階交流室
- 参加者：10人



<前半——グアテマラという国>

コーヒーの主要原産地

前知識を一言。グアテマラの正式名称はグアテマラ共和国。わが国の九州と四国を合わせたほどの面積を持つ小国で、人口は約1千100万人。首都はグアテマラ市にあり、国の北西部をメキシコ、西側をベリーズ及びホンジュラス、南東部をエルサルバドルに接しています。この国で数年間生活を体験してきた横山佳代子さんから、中米の地での珍しい話を聞きました。

「グアテマラという国名からイメージするものはなんでしょうか?」。横山さんの質問に、塾生からすかさず「コーヒー」と声が上がります。横山さんは、資料として持参した市販の缶コーヒー（ボスマウンテンレインボー）を見せながら、「そうですね。コーヒーの生産が盛んな国です。このコーヒーの原産地はグアテマラと表示されています。グアテマラコーヒーはアラビカ種でレインボーコーヒーと呼ばれ、国内に8ヶ所の原産地があります(*)」と語ります。

*コーヒー豆の等級は、産地の標高で7等級に分類されていて、最高級の豆は標高1350m以上と決められているようです。

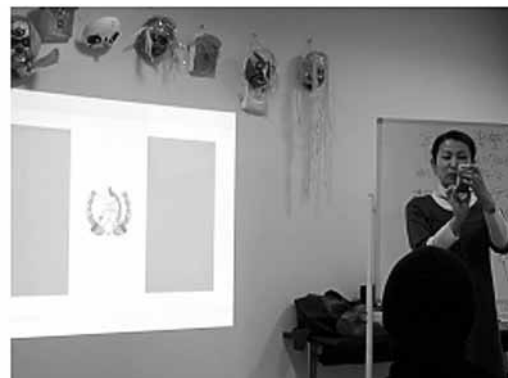
グアテマラ国旗の画像を見ながら、「国旗の中心にケツアルが描かれています。ケツアルとは鳥の名前で、鳥の胸に描かれた赤は血をあらわしていて、独立と自由のシンボルを表現しているそうです」。ケツアルは通貨にも描かれているそうです。

「多くがマヤ原住民で約20の部族に分かれ、それぞれの地域における文化の違いがあります。日本と共通する自然現象があります。なんだと思いますか?」という問いには「地震」という塾生の答え。「そうですね。シエラ・マドレ山脈に続く火山帯が、アグア火山やアチトラン湖など火口湖を作り、溶岩帯をトレッキングするレクリエーショ

ンも盛ん」なようで「ちょっと危険ですけど」と横山さん。

太平洋側とカリブ海では砂浜の色に違いがあり、太平洋岸には偏西風の影響で火山灰が降り注いで海岸線は黒く、カリブ海側では白いのだそうです。

「コーヒーは白い花を咲かせ、朝のみに香りがあります。手間のかかる作業の結果、11月から3月の頃に収穫をします。コーヒー農園を持っている人たちはとても金持ち。その労働に従事する人たちの子どもたちが多いので学校が出来ます。コーヒーの国だが、上等でおいしい製品は100%輸出され、国内では薄くてまずいコーヒーが流通している」のだそうです。「日本が輸入する製品では、商品の完成度が100%でないと取引されないようで、条件が厳しいといわれています」。つまりコーヒー豆の一粒一粒が完璧な製品でないと駄目なんだそうですね。



民族衣装

民族衣装に利用される織物が盛んな国ですが、日常品として使われる織物は産業としては成立していないようです。それは全て居座機（いざりぎ）という腰幅の寸法で限定された手織り機で行われ、1枚1枚を織り上げるのに時間がかかるためなのでしょう。横山さんが持参した巻頭衣やスカート、子ども服などそれぞれが色彩豊かで美しいものです。繊維を染め上げる染料には、紫色なら貝から、ピンクならサボテンに寄生する虫（コチュール）などを色彩の染料としているのだそうです。

いわゆるスカートのような腰巻着（コルテ）は、地域ごとではき方があって、あるデザインがお尻の真ん中に位置するはき方ならA地域、身体の前面に位置してはいているならB地域などと、着用している人の生活地域がわかるのだそうです。

「私が気にいって制約なく自己流ではいていると、変人に見られるのです」と笑う横山さん。「男性はロリディエラという腰布を着用しています。湖などで漁をするとき腰が濡れたり冷えにも平気で、またズボンなども汚れないように工夫されたもの」だそうです。いずれにしても自給自足のスタイルが習慣としてあり、自分たちで作るのが基本。



マヤ文明

貧しい国なので義務教育途中で中退したり卒業が難しく、教材や教科書なども買えないことが多いという話、国の花は平和と美のシンボルであるモンハブランというラン科の花のことで、国民的楽器マリンバなどの話しに続いて、

グアテマラの核であるマヤ文明の話題に移っていきました。

「紀元前各都市には、巨大な階段式のピラミッド（王の墓）神殿が築られました。第一神殿といわれる 51 メートルのピラミッドは、9つの単位を持つ階段式で9とは地下の世界を表しています。階段の色は今影もないけれど、もともと赤色で彩色されていたようです」。死者を東に寝かせ、西に向かせる習慣は日本の風習と同じらしい。この国では太古の時代から金属を持たない石器文明が中心で、様々な外敵からの侵略・侵入を体験し、ついには16世紀スペイン領として併合されてしまいます。また「グアテマラでは、バリゴンという石造彫像がよく見られます。これは土偶によく似ていて、儀式などに使われていたと想像されるもの」。「また石造で、最大7メートルの高さを持つ石柱には、当時の王さまの顔が彫られており、当時の記録が暦として残されている」ということで、これは王の権威をアピールしているのでしょうか」というお話です。

「ところで、グアテマラでは日本人に対し、同じモンゴロイドだということで、親しみを持ってきているようです」と横山さんは話してくれました。

<後半——食卓>

エスニック

画像にはおいしそうなお料理が並んでいて、すでに7時30分を回った授業では、塾生の胃袋は空腹のきわみに達していたでしょう。

「グアテマラの朝食はフリフォーレス（黒豆をこしたものを塩辛い）を中心として、バナナ・チーズ・サワークリーム・卵を配した食卓から始まります」。どちらかといえばグアテマラの食事は塩気のあるものが多く砂糖類を使うのは少ないといいます。

日常的な食として、トオモロコシで出来たトルティーヤはインド料理などで食べるナンのような食材で、「この国ではどこの家も作っていた食べ物だが、最近では手間がかかるということもあり、作られなくなってきている」と話します。また「チリコンカン」というリズムミク的な語感を持つ料理は、同じフリフォーレスでも赤色をしていて、これは赤色のマメを使うのでしょうか。

誕生日やパーティー、来客への特別食としては「ポボン」という料理を作ります。グググツと煮込んだ青トマトをベースに鶏肉や野菜を入れていただきます。また「ペピアン」は煮込み料理で、骨付きの鶏肉が入りアボガドやジャガイモと一緒に食べます。

このほか、死者の日（11月1～2日）は日本ではお盆のような精霊祭。「ピアンヴェ」という酢漬けの料理を家内で作って慰霊するといいます。

古都アンティグア

「アンティグアはスペイン人が侵攻してきた最初のまちです。コーヒーの生産地でもあり、グアテマラ富士といわれるアクア火山がひときわ裾野を広げ、日本の富士山と姿がよく似ています」。写真で見ると限り富士の容姿にそっくりさんです。

おやつ

「日本ではおやつといえば午後3時。グアテマラでは午前10時なのです。朝は4時過ぎから活動開始のお国柄なので、学校も仕事場も朝が早いために10時になるとおやつの時間となる」のだそう。その代わり夜は早いらしいです。

治安

「バスの中での犯罪が多く治安が悪い（強盗）」そうです。金を渡せば平和だけれど、抵抗すると殺されることも。だからわずかのお金で抵抗せず渡すことが大切。



お風呂

風呂はシャワーのみ。「シャワーは水道を電熱器で暖めたようなものなので、強めに出すとお湯にならず、従ってゆっくり出すことで暖かいお湯が出てくるが、余り用を足さないみたい。日本からグアテマラに来た私の母親から、『よくこんなお風呂に入ってるね』っていわれました」。

びくびくピリー

最後に横山さんは絵本を読んでくれました。題して「びくびくピリー」。

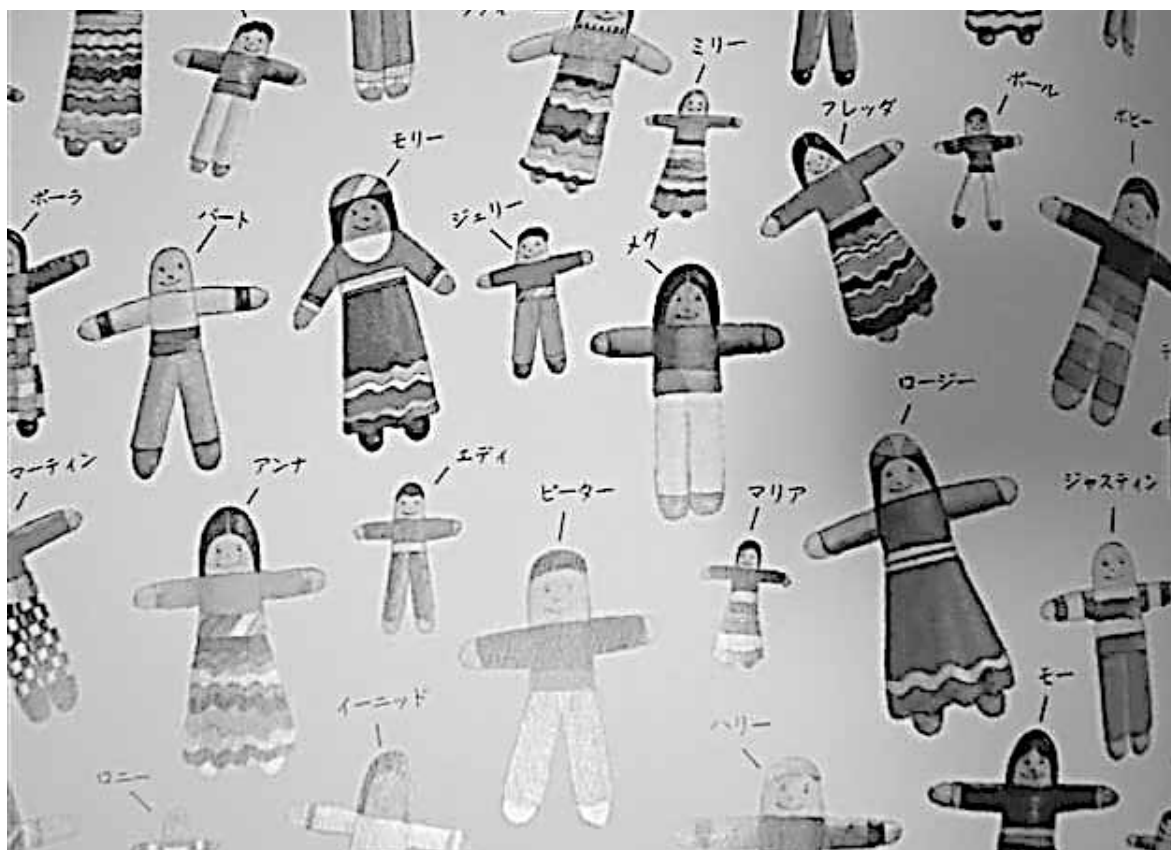
「少年ピリーは心配性の子どもです。そこで心配を引き受けてくれる“心配引受人形”に自分の心配を託すことにしました。人形たちのおかげで心配性のなくなったピリーでしたが、今度はその“心配引受人形”たちの心配を、だれが引受けてくれるのか、大変心配するようになってしまいます。そこでピリーが考えついたのは、引受人形の心配を引き受けてくれる人形たちを作ることでした」。

この絵本はヨーロッパの作家の作品ですが、“心配引受人形”というのは、実はグアテマラの伝統的なおもちゃだそうです。ちっちゃな人形たちが絵本の中に散らばって描かれていますが、横山さんは、グアテマラで売られているお土産“心配引受人形”を塾生全員にプレゼントしてくれました。小袋の中に6体のカラフルな人形が入っていて、心配のある時、その中の1体をまくらの下に入れて願いをかけて寝ると、心配がなくなるのだそうです。これは本当に可愛い人形たちです。



給食

横山さんの柔らかで優しい口調に塾生はホッコリしてしまい、食事もホッコリいただくことが出来ました。塾生たちもリラックスの3時間半で、瞬く間に過ぎてしまいました。珍しく、そしてエキゾチックな時間をみんなで過ごせてよかったです。



第 38 回の予定

☆1・2月の全体テーマ：旅へのイメージ

- テーマ：安芸の宮島とまちなみ
- 講師：平川隆啓氏（大阪市立大学都市研究プラザ）
- 日時：1月29日（土）18：30～21：00
- 場所：三星温泉地階交流室

< 2011年1月29日（土）の予定 >

広島出身であり安芸の宮島で生活経験ある平川さんが今週のゲストです。来週のゲスト水内先生のお弟子さんでもあります。宮島といえば世界遺産で有名な厳島神社ですが、平川さんは建築を通して宮島のまちづくり、町並みや町家（まちや）の研究を続けています。偶然、今回の楽塾修了記念旅行が広島となり、平川さんに旅行計画のアドバイスをいただきました。宮島への旅のイメージを膨らます授業になりそうです。

第38回目の授業が終わりました（通算108回）

楽塾自慢

楽塾の修了記念旅行が近づきました。昨年、一昨年と続いた熊野・新宮旅行では市大調査に参加し幾度と無く往還してきた場所で、またご縁のある人たちが周縁にいたこともあって、比較的親しみのある遠隔地だったのですが、今回広島に決定した時点では、それらの情報が皆無な上、宿泊地もなかなか決定しにくい状態でした。しかし、広島旅行を発表のあと、応援団やその周辺からは意外なことに様々な提案が寄せられ、また広島ゆかりの人材が浮かび上がってきたのです。それらは立案の際の安心材料となっていくのですが、たとえば今回のゲストである平川さんは広島県出身者だったし、以前の授業のゲストである織田さんも尾道に詳しく、また水内先生が持つ広島電鉄という頼もしいってちゃん情報も、今回の旅行行程のエンターテインメントにつながりました。安芸の宮島の雅楽祭事は古来四天王寺の奏者たちで構成されていて、前山僧侶はそのゆかりだったということも今回わかりました。

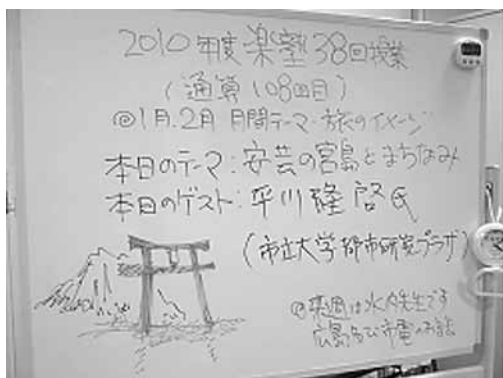
自分たちが欲しいと思う情報や知識は、たくさんのツテを探っていけば必ず何かにつながり、何かにカタチとなって現れるように思います。楽塾の授業の続いている理由は常にこのツテが強い力になっていると認識できるようになりました。それを今では「楽塾」の自慢にしたいと思っています。一人では何一つ出来ないことでも、友人たちが何らかの形で助けてくれるということをもっと感じています。私自身もツテの一員として、今後も助っ人になりお返ししていきたいと思っています。

2011年1月31日 塾長

☆1・2月の全体テーマ：旅へのイメージ—

1月29日（土）

- テーマ：安芸の宮島と尾道のまちなみ
- 講師：平川隆啓氏（大阪市立大学都市研究プラザ）
- 日時：1月29日（土）18：30～21：30
- 場所：三星温泉地階交流室
- 参加者：10人



<前半——宮島というまち>

宮島の町家（まちや）

現在、市立大学大学院で研究する平川さんは広島市の出身です。「広島工業大学を卒業しましたが、8年間大学にいて、その時何をしていたかという、町家や町並みを尋ねながらフィールドワークを楽しみ、とくに宮島の民家に住んで生活をしていました」と言い、「その頃に取材した宮島の写真などを利用して話してみたいと思います」と、町家の風情や、町並みのたたずまいなどの画像をスクリーンに写し始めました。

「安芸の宮島と言うと厳島神社というメインが語られやすいのですが、一方裏道などを見ていくと見所がいろいろ

あります、建築的立場から宮島のまちづくりや町並みを見ていきます」。昭和10年に建造され町家の代表的なもので、中庭を持ち4畳半、3畳、8畳の居間で構成されている町家の画像などがあられました。

「住民と一緒にまちのフィールドワークをしながら作った冊子が『宮島アルキメデス』です」と言いながら、平川さんは、塾生にB5版16ページで2色刷りのタウン誌を配りはじめました。「アルキメデスいうたらなんか有名な学者の名前やね」とすかさず塾生のT君。「歩くという言葉とかけてんねんな」とはさすが！

「宮島というところは本土との橋もなくフェリーで渡ります。フェリーは5分間隔で出航していて、10分間で宮島棧橋に到着する」のだそうです。平川さんの話では暮らしが実感できる町らしいのです。平川さんからのクイズです。「宮島の人口は何人だと思いますか？ ①500人 ②1000人 ③3000人（答えは最後に）」と塾生に質問します。

「宮島も高齢化していて、高いはお土産屋さんや旅館ですが、宿泊料金は比較的割高です」。実は私も今回の旅行の宿泊地を宮島にしようと当たってみました。かなり低額で団体もOKだった旅館は予約済みで満杯でした。そのほかは全て予算外（つまり高い）ということであきらめた経緯があります。



ネコの島

「宮島の町家通りは観光客も少なく、路地や井戸などが点在し、島民の息づかいを感じる事が出来ます。ぼくが島で暮らしていた頃、子どもたちと遊んでいると、子どもたちの面倒見のお礼にと言ってお惣菜などを頂くこともありました」「島には動物がたくさん生息していて、一番に多いのが鹿、そして猿、つづいてタヌキ、4番目に多いのが猫でそのあとは犬」と言います。「とにかく猫が多い。町中に猫がいて人と共存している」といいます。画像では猫の写真がひっきりなしに出てきました。これは平川さんの好みなのか？

夏の宮島は地蔵盆が多い。まちそのものは京風なつくりが目立つそうです。島の祭りなどに参加したり、宮島こもん（広島工業大学地域環境宮島学習センター＝地域住民・大学生・まちづくり関係者たちが集うまちづくり拠点）に集い、町家のネットワークづくりを築いていったそうです。

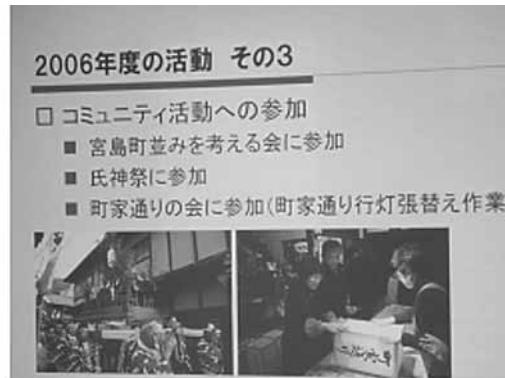
江戸時代の宮島

「芸州巖島図会（げいしゅういつくしまずえ）」の画像を見ながら、江戸時代の街並みや風俗を想像します。宮島歌舞伎などは盛んで、遊郭なども繁盛していたそうです。宮島の代表的な工芸品は？という質問にT2さんが「しゃもじ！」と元気に答えました。「もちろんしゃもじですが、ようじやお箸などの工芸品」が古くから作られていたようです。

「再びここでクイズです。宮島だけに無いものとはなんでしょう？ ①タクシー ②信号機 ③お墓」。この答えは③のお墓です。聖なる島といわれ墓は一切無し。弥山（みせん）はその象徴的な山。巖島や鳥居も陸上でなく海上にあります。

幸（さいわい）神社は昔ながらの石畳や階段が残っているという話のほか、巖島神社の雅楽祭事の画像のところでは僧侶が同席していて、神仏習合の慣わしや、雅楽の奏者たちは大阪の四天王寺からやってきていることなどを前山僧侶が引き取って解説してくれました。また新町と言う遊郭での賑わいには僧侶たちも多く集まってきて、日ごろのタブーを解禁したようです。今回の旅行では島から眺めた本土の風景や、商店街の様子、お地蔵さんなどを探索し

てみたいです。宮島のまちは島の面積としてはほんの一部。ほとんどは人の住まない森林山で、弥山はパワースポットになっている」ようです。



<後半——広島・尾道>

愛友市場

「広島市内は川のたくさんあるところですよ。紙屋町は大阪で言えば心斎橋のようなさかり場。流川町や薬研堀などは映画『仁義なき戦い』でも有名になった、広島やくざの抗争地帯です」。平和通は 100 m もある通りで、今回はこのあたりを歩き市電も利用したいと考えています。「幟（のぼり）町の教会は原爆投下後に建てられた祈りのための教会であり、特定の宗教施設ではない」そうです。JR 広島駅前松原町の「愛友市場は、大阪でいえば鶴橋を小規模にしたようなメージの商店街」で、戦後すぐから続く闇市の名残を秘めた場所です。「おいしい海産物を売る店、土産物屋さんや中華、お好み焼き、焼鳥屋さんなどの店舗が並んでいるそうですが年々整備されていき、いずれは消えていく風景ではないかと言われています」。ここは塾生たちと是非行ってみたいと思いました。

平和記念公園

「もともと原爆投下以前はまちとして存在していたところですが、戦後平和記念公園として整備されました。ここには『原爆死没者慰霊碑』や『平和祈念館』『資料館』などあり、以前佐々木さんの授業でも紹介されていた『教師と子どもの碑』なども太田川沿いにあります」。ただ当時の歴史を伝える被爆建造物などは老朽化や、維持困難なために段々失われていきつつあるようです。

建築学的ウンチク

「平和記念資料館の位置は、遠景に慰霊碑や原爆ドームが見えるように工夫されています。広島再建の際、原爆慰霊碑はイサム・ノグチのデザインで依頼したが、外国人の作品を嫌った委員会は、彼の原案を修正した丹下健三のデザインで完成している」と話します。



尾道坂道崖っぶち

「尾道は漁師のまちとして栄えたところですよ。鞆の浦（ともうら＝福山市）はご存知ですか？ アニメで有名な『ポニョ』に登場したまちです」。瀬戸内海のちょうど中心に位置する地で、このあたりは瀬戸内海の海流が二分され、東西への航行が便利であったといわれています。尾道市は背景を山に囲まれ、前面は瀬戸の島々を従わせ、まるで川

のような海域となっています。古い家々が斜面に建てられていて、最近では若いアーティストたちが町家に暮らし、芸術活動の基点にしたりしているようです。崖っぷちに建つ民家などにも学生たちが住み始めています」。ここでみんなと1日目を過ごしてみたいと思っています。しかしこの斜面、全員に登りきれんのだろうか？

旅館情報も一口

5分ほど塾長に時間を頂き、湯来の旅館「みどり荘」のホームページから引っ張ってきた画像を見ながら説明をしておきました。露天風呂あり、会席料理10品あり、コミックで有名な『スラムダンク』登場の旅館である話題性ありと、ひとくち話をして終わりました。スラムダンクではさすが若い人たちが色々情報を話してくれました。漫画を持ってくると言う塾生もいたのです。この話題は給食にも持ち込まれます。

そして給食

この日の給食は旅行の話題で一杯になりました。旅行が近くなっている興奮が少し感じられました。当日の天候とみんなの健康状態がいい状態で続けばいいなあと考えています。



< 2011年2月5日(土)の予定 >

市大名物教授の登場です。楽塾には1年以上のお久しぶりになります。先生は、来週に迫った楽塾修了旅行にも3年連続の参加になります。その代わり(何の代わりや)、旅行直前に“てっちゃん”として本領を發揮してもらおうべく、広島市電の話題を語っていただこうと考えています。着々とその構想を計画中と聞いていますので、塾生は楽しみにして待っています。広島市の珍しい話も聞けそうですよ。

第39回の予定

☆1・2月の全体テーマ：旅へのイメージ

●テーマ：広島と市電

●講師：水内俊雄教授(大阪市立大学都市研究プラザ)

●日時：2月5日(土) 18:30～21:00

●場所：三星温泉地階交流室

※宮島こもん↓

<http://www.it-hiroshima.ac.jp/news/2010/11/11116.html>

答え②と③の間。2,000人

第39回目の授業が終わりました（通算109回）

熱狂

70年6月。日米安全保障条約が自動延長されました。沖縄から発進する米ファントム機は北爆を繰り返し、コザ暴動が勃発。国内ではスモン・水俣など公害病が知られ始め、新国際空港建設計画の名のもと、三里塚での強制執行は急ピッチでした。国家や企業の横暴や独善が明らかにされ、自らの意思を表明し街頭に出た人たちも多かったと思います。私は、よど号をハイジャックした赤軍派の「我々はあしたのジョーである」とか、三派らのいう「神田をカルチェ・ラタンに」などと漫画的で臭いフレーズをつかう集団や組織には感性的になじめず、興味を示すことはありませんでした。

しかしその後の72年。浅間山荘事件が起ります。連合赤軍の山岳アジトにおける同士への残虐な仕打ちは時を経て、書籍や先年の若松孝二監督などいくつかの映画でもつまびらかになっていきますが、大変おぞましいものでした。当時、自分と同世代の青年たちが、本気で銃を持って国家警察に立ち向かったのだと私は想像し、だから仕事もほったらかしで、壁紙のように警官たちが居並ぶTV画面裏の青年たちに、熱狂の声援を送りつつ、“正悪”の戦いを無心に見守り続けたのでした。昨夜、永田洋子が亡くなった報を聞き、自分自身の過去の熱狂を思ったのでした。

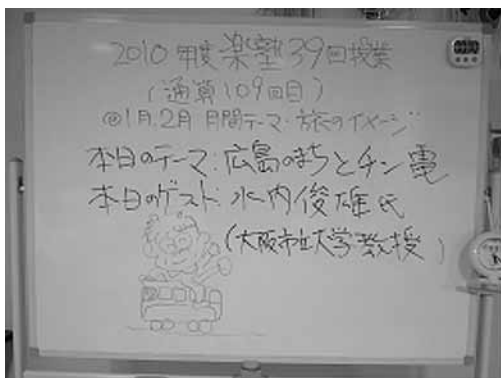
鬼畜といわれた彼女と私たちとの違いとは何か。運動を牽引するものと牽引されるものにある深い非対称は、牽引する側だけの責任ではなく私も共犯と知るべきと自覚されるのです。それは同夜、愛知・名古屋の同時選挙速報での漫画的熱狂を見ても同じだと思ったからです。衆愚政治への心配のタネが萌えかけています大阪も。

2011年2月7日 塾長

☆1・2月の全体テーマ：旅へのイメージ—

<2月5日（土）の授業>

- テーマ：広島町、広島チン電
- 講師：水内俊雄教授（大阪市立大学都市研究プラザ）
- 日時：2月5日（土）18：30～21：30
- 場所：三星温泉地階交流室
- 参加者：13人



<前半——戦争と都市>

千羽鶴

10年度の授業も今回で第39回目を終了しました。おなじみ水内先生がひさしぶりのゲストでした。戦争と都市、広島という歴史的軍都の話題、そしててっちゃんのおハコである鉄道のおきき、古地図絵

地図、当時の写真画像などをふんだんに駆使しながら、修了記念旅行へのイメージを膨らませることができました。

昨年の秋頃から塾生の間では、旅行の話題は常に語られていたのですが、計画はカンタン、しかし経費はカンタンとはいえず、旅費設定はいつも悩ましい問題でした。それでも「使ってしまうから預かって」といって、分割した旅費を預けにくる塾生も多く、旅行への夢が大きく広がっているという気持ちが私には伝わってきたのです。

本当に早いもので、その旅行がとうとう今週に迫ってしまいました。この旅が今年度 40 回目の授業となり、通算 110 回目ともなるのです。長崎同様、世界で初めての原爆投下という屈辱を経験させられた地へ行き、Aさんが折る千羽鶴を広島に解き放してこようと思っています。

資料だけでもゴツつい！

水内先生の資料は全 45 頁。しかも A3 判！そのうちカラー 15 頁という分量は、これまでの楽塾授業最長の頁数でした。15 人分の原稿を必死でコピーした事務局の田岡君が、残り最後のコピーを教室に運んでくれたのは、授業前半が始まって半ばの時間が過ぎた頃でした。

「都市は戦争によって整備され変化していきます。とくに防空空地としての建物疎開（1月5日楽塾授業参照）などによって、道路や公園のスペースが確保されていくのです」と言い、昭和 16 年の大阪緑化計画書地図を見ながら、大阪府内の公園や緑地の成り立ちの説明を受けました。また、鉄道駅周辺の疎開状況（鶴橋駅・初芝駅・桃谷駅・京都ウトロ・桃谷疎開地・疎開道路）などいくつかの地図画像を見ながら、当時の住宅建設事情を見ていくことになりました。

戦時下の「米軍戦略爆撃対象都市計画地図」では、京浜圏・名古屋圏・阪神圏を始め、わが国大都市への爆撃計画地が記されています。「米軍は昭和 18 年、日本上陸をせず、空爆で壊滅計画を立て、空路サイパンから日本までの往還 4000km が可能な B 29 型空爆機を量産開発していきます。真昼の空襲計画から夜間低空での焼夷弾空襲に変わり、昭和 20 年 3 月の東京大空襲に至ります」。その後大阪、名古屋など大都市襲撃に連鎖していくのです。又広島・長崎の原爆投下前後、富山や大阪など各都市に落とされた原爆模擬弾（1月5日楽塾授業参照）の話題にも及びました。



軍都広島

先生は「日清日露戦争時代から広島は軍事戦略の発信基地となっていて、司令部ほか陸軍基地や軍事施設がたくさんありました。それは広島の市電の延伸にも役だったのです」と話します。「又多くの軍需工場もあり、東洋工業や三菱重工業はその代表的なもの」だといい、このあと原爆投下の画像や写真などを見ながら投下時の広島を考えます。

大阪の爆撃

大阪は計 8 回の空襲があり、市内の 4 割が壊滅状態になったといえます。都市は 4 割が破壊されると機能しないそうです。そして復興地の堺、姫路、和歌山などの画像を見ながら戦後の道路計画などの説明を受

けました。このほか大阪市内の盛土によるかさ上げ作業や、バラックが建てられた市内地域、大正区のスラム、公営住宅の先進地としての西成出城住宅、大阪城周辺に出没したアパッチ族の部落、城東線（現JR環状線）、谷町筋の整備の話題などが続きました。とくに大阪をよく知る塾生たちは、逐一その話題に反応していました。この話題を引き取って広島のスラムの話題につながります。投下後まもなく天皇がやってきたので、平和記念公園前のスラムを隠すために紅白幕を吊るしたといい、その写真などを見せられました。又、今回行く広島駅前の闇市写真などが懐かしく、まちがどんな変わりようを見せているのか、これらの図像を参考にしながら、当日は持参することになりました。



<後半——市電と地図>

DNAとしての市電

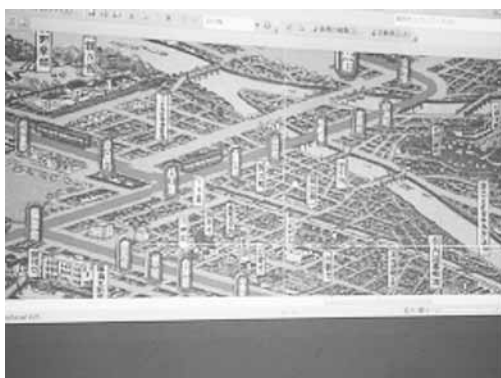
後半の授業は、市電の路線を中心とした各都市の現在地図と、戦前に作られた同じ古地図を併記し、まちの景観と市電の変遷をたどりました。富山、熊本、長崎、松山、広島、岡山、豊橋などの地図を見せられ、各都市の説明がありました。「大概の都市の市電は城郭中心として中心駅と結びながら巡っていますが、長崎市のように開港都市の構造をうまく使っているような例もある」らしく「堺市はヨーロッパスタイル。都市の軸線になっていて、重要な交通施設です」。

先生のレジュメの中で、市電へのコメントがあり一部を抜粋しておきます。

市内電車というライトレイルは、日本において歴史的コアである城下町（ある種テーマパーク、だから小京都なども生まれる）などの空間構成を見事に使っている。都市の一番の歴史的系譜のDNAを引き継ぎ、都市のプライドを体現しているといっても過言ではない。

城下町

「広島は城下は一の丸から三の丸まで神社仏閣など宗教施設がまったくないのが特徴。大阪は町家がほとんどで武家屋敷が少なく経済機能が優先されていた。京都は公家地が中心であったが、公家が江戸に出払ったあとは公家地が御所となった」などなど、各地の城下町の特徴が話されました。



市電

「市電は都市の歴史を理解する上で一番参考になります。主要鉄道の駅がどこにあるかということがポイントになり、商店が生まれ行政区を整備していく中で、路線化していくのです。広島市電は、あちこちの都市の市電を集めてリサイクルのように使われています。大阪、神戸、北九州などから寄せられた市電が広島市電として走っているのです」。そして「とくに神戸や大阪では巨大な市電を作っていて、車幅などは2.4メートルもあった」といいます。私も大阪の市電は子どもの頃よく乗っていたので、見分けが付きまます。そして広島電鉄の利用率は高く、現在は5連接で動いているのだそうです。これらの市電たちを画像で見ながら、幼い頃に乘った市電への郷愁が帰ってくるのでした。

広島のみち歩き

水内先生は「今日参考に使った絵地図などを旅行に持参してください。それらの地図を見ながら、現場は現在どう違うのか、どんな場所に行ってみたいかを考える資料にしてください」と締めくくりました。先生は当日とくに市電を利用してみたい気持ちがあふれていました。やっぱりてっちゃんです！



< 2011年2月12日(土)～13日(日)の予定 >

今週末はいよいよ修了記念旅行です。塾生諸君、応援団の皆さん！インフルエンザや不意の事故などにはくれぐれも気をつけて、当日朝、2ヶ所の合流地点でお会いしましょう。楽しみにしています。

第40回の予定

☆1・2月の全体テーマ：旅へのイメージ

●テーマ：楽塾修了記念旅行

●日 時：2月12日(土)・13日(日)

●場 所：広島県尾道市・宮島・広島市

第40回目の授業が終わりました（通算110回）

修了記念旅行のしあわせ

楽塾の年に1度の大きなお祭りは修了記念旅行です。T君は「僕は、今回楽塾で3回目の修了旅行に参加することになりました。」といみじくもバス車中で自己紹介をし、「何回修了するんや」と大爆笑になりましたが、楽塾は何回も修了することが出来るし、卒業はいつでもよいのです。修了旅行だけの参加でもまったく問題はありません。

今回は2人のチビっ子も含めて25名の参加者でした。直前6名の塾生たちが病や仕事などで、残念ながら旅行を断念せざるを得なかったのですが、みんな本当に行きたかったと思います。予定通りの人員なら30名を越す大所帯ではあったのですが、参加出来なかった人たちとは、来期にまた一緒にしたいと思います。

今回の旅行は、遠方にもかかわらず、少しばかり欲張ったプランを立てたものですから、後半は無理も出てきて、一部取りやめた個所もありました。しかし自分たちの旅なので予定を変更できるし、無理をして予定の場所に行く事も必要ではないのです。むしろ、その場その場の楽しさを満喫することが最大の楽しみであり贅沢です。日常のありふれた生活から、現実にはそんなに多くないハレの時を異界や異郷の地に求め、新たな刺激を仕入れ、再びありふれた日常に回帰するのが私たちの生活だと思います。

とくにこの旅は、「巡礼の旅」と銘をうち、広島市の原爆投下地周辺を巡ることをテーマとしていたので、飽田さんが中心となって折られた千羽鶴を、「原爆の子の像」の折鶴置き場に収めることが出来て個人的にも本当に幸福でした。

2011年2月15日 塾長

☆第1章

<第1日目—2月12日（土）の旅>

- テーマ：巡礼の旅／広島——10年度楽塾授業修了記念旅行
- 日時：2月12日（土）
- 行先：尾道市から湯来温泉へ。
- 参加者：25人



<1日目—尾道市を経て湯来温泉へ—>

尾道へ

午前7時にバスは第一集合場所である美庵前に到着して、まずは6名が、そして第二集合場所である新今宮前で18名が合流。ほぼ時間通りに大阪をスタートしました。前日には大阪に雪が積もり、山陽道も通行規制が敷かれ少しばかり悲観的な情報も流れていましたが、とにもかくにも参加者は揃いました。あとは川崎さんと尾道で合流するのみです。それにしてもこれまで3回実施した修了旅行は、常に天候的に異変がありました。初夏のように暑かったり、雪に見舞われたりと（今年も大雪ですが）、季節の変化を実感させてくれます。

バスは中国道から山陽道を一路尾道に驀進します。いつもながら水内先生が、車窓を通して道中の景観や地理をガイダンスし、資料を眺めながら平川君と次の到着地である尾道の説明なども共同で話しはじめました。尾道出身の織田さんが尾道の町のこと、おいしいラーメン店の紹介などグルメ解説をしだすと、もう食欲が増進してきてバスの車中はその話題でいっぱい。水内さんはその合間も、連れてきた友人の子息たくみ君（小2）とパソコンをにらみながら鉄道論議をして急がしそうです。

相生を過ぎた頃、楽塾には初めての人たちも多いので、車中で自己紹介などを兼ねながら、しばし車の振動に身をゆだねました。赤穂周辺を通過中に雪が降ってきてバスのガラスに舞い散ります。広島からの情報ではもう3cmほどの雪が積もっていて通行規制が始まっているということでした。山陽道瀬戸につく頃、雪は水っぽいポタ雪に変わり、この頃西条市に来ている川崎さんと連絡を取り合います。そして13時30分に尾道市長江口のバス駐車場で合流することになりました。私たちの観光バスは、予定より早く11時20分長江口へ到着。おいしいといわれる尾道ラーメンを昼食目的に探し始めますがどのお店も長蛇の列です。そんなわけで私たち楽塾集団はバラバラになってしまいました。こんなこともあるので、食後はバス駐車場前に集まろうと決めていたのです。



内海と坂と寺院のあるまち

尾道から瀬戸内海を望むと対岸には向島が立ちはだかり、その回りにはたくさんの島々が背景を構成します。瀬戸のうちうみとはいえ、このエリアは目の前に大きな川が横たわっているように見えるのです。わずかに造船所の重機類や、フェリー乗り場から島々に向かう渡船が港の景観をかもし出し、何よりも潮の匂いが海を強く訴えてきます。

古く懐かしい町家が残る細い路地を歩きながら、本通り商店街へと移動し散策しました。きれいに整った商店街は、確かにシャッターの閉まったお店もあるけれど、観光地でもあり、どのお店も入ってみたい衝動にかられるのです。鶴見橋商店街が活気を取りもどすようになるかな。などつまらぬことを考えながら、13時30分全員が合流。ここで川崎さんとも久ぶりで会うことができました。

このあと千光寺から尾道のまちを眼下に望むため、千光寺山ロープウェイで山頂に登りパノラマを楽しみましたが、氷雨が降りだしガスのかかった瀬戸内海を展望しました。途中から青空が見え出し東の眼下にはしまなみ海道の鉄橋や島々がポッカリ浮き出て見えました。もうこの頃、楽塾メンバーは、いつもどおりバラバラ状態になっていて、おもいおもいの場所を尋ねて巡回していました。千光寺境内には鏡岩、三重岩など巨岩石が並び、それらを私のグループ（中山先生や塾生たち全員4名）は眺めながら市外に降りて行きます。個人的には映画資料館を覗いてみたかったのですが、時間的に無理でした。映画「東京物語」では、序章と終章に出てくるシーンが尾道でした。渡し舟乗り場や向島の景観、蒸気機関車が走るシーンなど昔を重ね合わせて興味深かったのですが、寺院のある山の中腹から撮影された場所がどこだったのか、今回は解明されませんでした。



湯来温泉へ

ロープウェイ前にあるワッフル店「こもん」でコーヒーセットを注文し、休憩をしていると、楽塾各グループがお店に入ってきました。14時30分バスは湯来に向かってスタートします。幸いなことに16時には広島以西通行止めだった規制も解除され、車はスムーズに走ることが出来ました。しかし湯来温泉到着10kmほど手前から雪が激しく、山間はモノクロームに染め、益々白と墨を塗り重ねていきます。農家など

の屋根には約 20cmの雪が積もり、居並ぶ木々には雪の塊が白い花のように見えて咲いているようです。湯来温泉のしばらく手前からは水内（みずち）川が流れ、水内橋を眺めながらバスは進みましたが、ここで水内先生はミズッチというあだ名をつけられてしまいます。18 時少し前、雪がふぶき大雪にたたずむ素朴な温泉旅館「みどり荘」に到着すると、その景観に車中の全員から予期せぬ拍手が起りました。素晴らしい風景に感動した自然の反応だったと思います。旅館のスタッフたちにも歓迎され、私たちは銀世界に堪能しながら入館し「みどり荘」の客人となりました。フロアで各自宿泊する部屋割りを確認しあいながら、今夜はここで 1 泊することになります。



露天風呂と夕月

19 時に食事ということで、それまでの間露天風呂を楽しもうと、全員が入浴の準備を始めだしました。風呂場はそれほど大きくはなく、10 人も入れば一杯なのですが、岩で囲まれ、水車が飾られた露天風呂が本当にいいのです。お湯の加減はもちろん、湯来山頂から降る雪が入浴中の私たちに心地よく舞い降ります。お湯に降り立つ雪は瞬間に溶けて、少しはかない風情がなんともいえない叙情を味わわせてくれました。天頂にいただく夕月も湯煙の間に見えます。感性の皆無な田岡事務局長は、岩のそこそこに滞留した新雪をかき集め、雪玉にして私たちに投げてくるのです。逃げ惑う感性派、投げはしゃぐ鈍感派。まあ子どもにかえるということにしておきましょう。

大騒動の大広間

さて食事は大広間。10 品ほどの会席料理でボリュームがあります。25 名の楽塾塾生・応援団・スタッフたちといっしょに、古風だけれど本格的旅館の大広間でこんなにゆったりと食事をしたのは初めてです。仲居さんたちがご飯やお茶をつぎ、話しかけてくれてゆっくりと時間は過ぎていきました。後半は平川子息のかんちゃん（2つ）が大活躍のパフォーマンスで観客を沸かせました。かんちゃんは可愛いく、みんなのアイドルになり始めたものですから段々ボルテージがあがり、どんどん行動が大胆になっていきます。とうとうズボンを脱いでオシメカバーの状態で走り回るといった奇態を演じはじめたのです。しかも、ここには脱がせ役の演出者がいてそれが田岡君でした。納得！

2 1 時以降は、私や水内先生たちが宿泊する部屋でミーティングをしました。明日の予定を話しながら、ここで飽田さんが作業途中の千羽鶴の作成作業をみんなで手伝い始めます。まだ千羽に満たないことと、50 羽を 1 単位として紐に通す作業が残っているのです。2 2 時にお開きにして就寝することにしましたが、5 人ほどの志願者が別室に集まり、最後の仕上げをして作業を片付けました。終了は午前 2 時を過ぎていました。

旅館は静かです。外には雪がしんしん降っていました。



☆第2章

<第2日目—2月13日(日)の旅>

- テーマ：巡礼の旅／広島——10年度楽塾授業修了記念旅行
- 日時：2月13日(日)
- 行先：湯来温泉から宮島を経て広島市内へ
- 参加者：25人



<2日目—安芸の宮島から市電で広島市内へ>

宮島へ

6時30分には朝風呂に入る人たちが起床して、次々と風呂場に駆けつけます。やはり露天風呂は最高で、朝から贅沢感で一杯になりました。7時30分には大広間で朝食が始まります。男連中が食事を始めていて、長風呂を体現する女性たちはすこし遅れてぞろぞろ入室してきます。ゆっくりと朝ごはんをおなか一杯に詰め込みながら、今日一日の計画などを想像していました。8時30分にロビーに集まり宿代などを清算しながら（ばっちり予測計算に近い金額でした!）、大雪の「みどり荘」前でいくつか記念撮影をしました。朝の湯来温泉の雪景色は陽光に映え、一段と際立って見えるのです。

雪合戦をする塾生たちもいて、もう少しここでゆっくりしたい気持ちになりました。車は一路安芸の宮島へと進みます。水内さんは、昨日通った水内橋で記念写真を撮るためにいったん停車。その後、車中では先生や平川君の宮島への解説が始まり、しばらくのあと、これまでの旅の印象を一人ひとりに語ってもらい、バスに揺られながら50分ほどの行程を経て宮島に到着しました。川崎さんは用事があるためにここでお別れです。短い時間でしたが又楽塾に来てもらうことを約束しました。



表参道から千畳閣、そして厳島神社

宮島口棧橋ではフェリーに乗船する観光客で賑わっていました。私たちは団体客チケットで乗船し、厳島神社を遠くに眺望しながらたった10分間ほどの短い航海を終えて宮島棧橋に降り立ちました。棧橋周辺はこの日「カキ祭り」とかで、カキ販売の露店が数多く立ち並び、たくさんの観光客が露天に並びます。私たちは多くの鹿が遊ぶ棧橋公園から表参道に入り、お土産店を眺めてわき道に入り、平川君の案内で宮島の町家探索に入りました。独特な格子造りの町家、格子窓、比較的名家の軒先にみられる「持ち送り」という装飾木彫の優雅さ、細い路地裏の突き当たりにある怪しげなトンネルなどなどが新鮮な感動でした。誰かがある家の表札を見て「佐々木俊雄や!」と叫びました。水内俊雄と佐々木敏明が合体したというのです。すかさずここで合体人間2人が表札の前で記念撮影。宮島には佐々木姓が多いことに気づいた日です。中世に建てられた五重塔や、秀吉ゆかりの古色蒼然としたしかもスケール感のある豊国神社（千畳閣）を見学しました。そして、その先には6世紀の頃の建築物とされる厳島神社があります、ちょうど干潮時で、大鳥居間際まで近づくことが出来ます。

このあたりから私たち楽塾グループはバラバラになり、私は5～6人のグループを組んで町家探索をする平川班と行動を共にしていました。平川君が宮島に滞在していた頃にまちづくりにかかわったギャラリーや貸町家をおとずれ、それぞれのオーナーたちを紹介してもらいました。また、この宮島でいくつかの動物たちに会いました。鹿は奈良公園ほどもないですが、いたるところに小集団が群れていて、路地奥の片隅にいたり、坂や川のほとりを歩いていたりしていました。そのほか猫にも出会いましたが、可愛い小狸のいたのが珍しかったです。



就職試験を終えた山崎君

「今どこにいるんですか？」と山崎君から携帯に電話が入りました。「宮島にいるよ」と私。「実は僕も今、宮島に寄ったんです」と山崎君。就職試験で九州にきていた山崎君が帰阪の途上、ひょっとしたら、時間的に楽塾メンバーが宮島にいるかもと思って連絡してきたというのです。私は「それはすごい。11時30分に集合するから栈橋で会おうよ」といって約束しました。集合時間ピッタリに山崎君に会い、塾生たちも山崎君と異郷の地の出会いを喜びあいました。結局宮島には2時間ほどの寄港で、山崎君とも別れてフェリーに乗り込みます。宮島口に到着したあと、ここから発着している広島電鉄に乗り換え、市電で広島駅前に向かうことになります。そして、徒歩で広島の町家を見学しながら、平和記念公園まで行くことになっていたのです。乗ってきたバスの車掌さんには、あらかじめ平和記念公園前に駐車してもらおうようお願いしていました。



広島市内へ

3車両が連結した市電に乗り、広島郊外から広島の都心に向かって電車は走ります。ただバスとは違って各駅停車なので、スケジュールがうまくいくのか少々不安ではあったのです。ちょうど1時間ほどで広島駅前に到着し、まずは終戦直後の疎開色漂う愛友市場あたりで食事をしようということになったのですが、

ここでは食するところがなく、結局広島駅食堂街で広島焼きを食べることになりました。ここでも、1ヶ所のお店で楽塾グループを養うスペースを持たないため、全員がテンデンバラバラで食事をするようになってしまいました。14時30分に駅前集合はよかったのですが、ここから徒歩で平和記念公園までは時間的にちょっと辛いということが分かってきて、急遽バスを広島駅付近に来てもらい、そこから平和公園へ移動することになってしまいました。平和記念公園に到着後は、「安らかに眠ってください。過ちは繰り返させぬから」という有名な一節の碑文がある「原爆死没者慰霊碑」に向かい、ここで黙祷をささげます。私は、こみ上げてくる感慨に抗うことが出来ませんでした。



楽塾千羽鶴を奉納

この慰霊碑から正面を見ると原爆ドームがすっぽりと収まって見えます。ここからは「原爆の子の像」の慰霊碑に向かいます。原爆のために亡くなった子どもたちのために作られた慰霊碑の折鶴置き場には、全国からカラフルで多くの千羽鶴が収められていました。みんなが昨夜まで一生懸命折った千羽鶴を飽田さんは大切に持ち歩いてきて、やっとここ慰霊碑で捧げることが出来るのです。今では全世界を含めて1千万羽といわれる鶴が祈念に捧げられているそうです。楽塾の鶴たちもその仲間に入りました。私が代表して千羽鶴を折鶴置き場に奉納し、これで僅かばかり巡礼の旅が出来たと思いました。小2のたくみ君は、慰霊碑の下にある鐘をカランカランと鳴らし続けていました。このあとは原爆ドームに移動しましたが、8・6の無念が迫ってきて涙を落としてしまいました。昔、鬼畜米英などといって戦意を高揚したそうですが、広島・長崎に関してはまさに鬼畜の仕業としかいえず、むろん日本軍部も同類のそしりを免れることはできません。

平和記念公園内にはたくさんの慰霊碑や供養塔などがありますが、時間的に「平和記念資料館」に入場することが出来なくなってきていました。実はここを重点的に見たかったという人が何人かいて、私も今回のメインと考えていましたが、泣く泣く次回の機会に再度訪れたいと考えました。だから最後に西平和大橋のたもとにある「教師と子どもの碑」だけを見て旅を終了することにします。この碑については、1月の私の授業で少しお話をしました。原爆投下の朝、建物疎開のために動員されていた広島第2中学校2年生の226名が虐殺され、95名がいまだに生死不明のままだったということでした。彼らが作業を開始し始めようとした場所がまさにこの場所だったのです。



大阪へ

平川君の奥さんとかんちゃんは広島に残り、私たち楽塾メンバーとはお別れになります。握手をし、手を振り合って旅の最期の地平和記念公園をバスは出発しました。17時になる直前だったと思います。帰りは高速道路の道のりとなり、めいめいがマイクを取って喋りあいました。とくに前山和尚が出す恒例クイズには景品がつくので、その景品に興味をひきつけられるのです。なぜなら昨年のクイズ景品はトンデモなグロ商品だったものでしたから。しかしご安心を！今回の景品は安心商品であったということをお知らせしておきます。又和尚の今回の食料調達にはピザで、メンバー全員に当たりました。おなかが大きくなって和尚に感謝しました。

天王寺、新今宮で降り、そして西成ブランコート前で最後の数名が降りて旅は終わりました。運転手さん長旅に加え、私たちの好き勝手な計画に付き合ってくださいありがとうございました。



< 2011年2月19日(土)の予定 >

楽塾の実質的な授業は今週でおしまいになります。地下鉄業務にたずさわる前山さんに、大阪の地下鉄事情についてお話しをしてもらいます。前山さんは、おなじみ前山僧侶の娘婿さんですが、僧侶と違って(!)大変シャイな青年でして、なんと水内先生のお弟子さんであり、しかも強烈なてっちゃんでもあるということが最近判明しました。旅のテーマの最後は、わが地下鉄のとおきをおきをおき聞かせてもらい、旅の最後にしたと思います。そしてこの日、高知女子大の学生たちが多数見学にこられます。

第41回の予定

☆1・2月の全体テーマ：旅へのイメージ

- テーマ：地下鉄に乗って一旅の終わりに
- 講師：前山広万氏（鉄道員）
- 日時：2月19(土)
- 場所：三星温泉地下交流室

第 41 回目の授業が終わりました (通算 111 回)

新参

今回の授業では、参加者が 20 名を越え教室が熱気を含んでいました。日ごろ「くらし応援室」に相談に来るだけの T さん (72 才) が、突然三星温泉にやって来て「参加しにきた。これから来たい」といい私は大歓迎とこたえました。みんなに「新生だから仲良くね」といいますと、古株の T T 君は早速フレンドリーに話しかけていました。来年度からも新しい人が入塾を希望しており、より賑やかさが増すかも知れません。

この夜の授業は、大阪の地下鉄がテーマになっていましたが、ゲストである前山氏の資料など見てみると、幼い頃に見た大阪の風景が戻ってくる気持ちがありました。淀屋橋駅や梅田駅のシャンデリア、本町のユニークな天井など、大阪のモダニズムの粋が子ども心にかっこいいと思って見ていた時代のことです。そして天王寺から梅田までの地下鉄全区間 (といっても当時は御堂筋線だけだった) が 20 円だったこともいまだに懐かしく、ふざけて心齋橋駅の階段の木柵に首を突っ込み抜けなくなり、オヤジに思い切り頭をどやされて、スポンと抜けたことも地下鉄の記憶です。

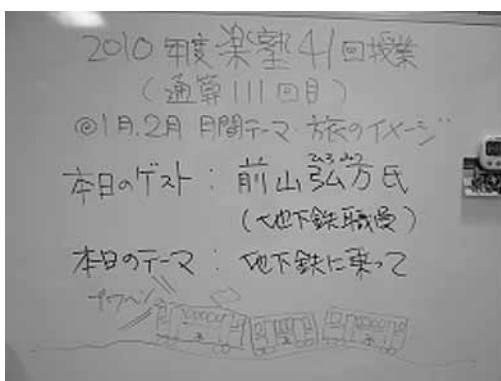
天王寺駅前には市電やトロリーバスがたくさん滞留し、木炭バスが煙を吐いて走っていました。消えていく風景が、写真や映像で再び記憶をあらたにできることはありがたいことです。それは懐旧趣味というより、自分を養ってきた美や価値の文化的原点を確認できることだからです。

2011 年 2 月 21 日 塾長

☆ 1・2月の全体テーマ：旅へのイメージ

<第 1 日目—2月 12 日 (土) の旅>

- テーマ：地下鉄に乗って
- 講師：前山弘萬 (ひろみつ) 氏 (大阪市営地下鉄職員)
- 日時：2月 19 日 (土)
- 場所：三星温泉地下交流室
- 参加者：20 人



<前半—大阪の地下鉄>

メトロの語源

「ちょっと緊張気味」という前山さんは、パワーポイントで 1938 (昭和 13) 年の天王寺駅に設置されていたモダンな照明器具の映像を説明し始めます。「そもそも地下鉄は 1853 年に世界で初めての地下鉄イギリスのメトロポリタン鉄道*が開通しましたが、地下鉄をメトロとよぶ語源はここにあります」。

*メトロポリタン線は 1853 年にメトロポリタン鉄道の前身であるノース・メトロポリタン鉄道と、メ

トロポリタン・ディストリクト鉄道が、インナー・サークルと呼ばれる環状線を完成させるために共同開発したといわれている。メトロポリタン線はロンドン地下鉄の中では最高速度が最も早い路線であるといわれる。「地下鉄なのに 1960 年代まで蒸気機関車で牽引していた」というから驚きです。

大阪の地下鉄

ここから一気に大阪の地下鉄及び交通の話題になだれ込んでいきます。「大阪の地下鉄は 1933（昭和 8）年、日本国内で第 2 番目の地下鉄として開業されました。現在の走行距離は 129km の路線です。東京メトロといわれる旧称営団地下鉄は民間地下鉄で走行距離は大阪より長いですが、駅数では大阪とは変わらない」といいます。「大阪地下鉄は大阪高速鉄道というのが正式名称です」と、前山さんは自らの所属に誇らしげです。

大阪地下鉄のシンボルマーク（○にコが重なったもの）は何を表しているのか、分からなかったのですが、前山さんの解説でみんなは「なあ～んや」と納得しました。○は Osaka のイニシャル“O”、コは高速のイニシャル“コ”なのでした。「大阪市営地下鉄とはいえ市内だけにはとどまらず、門真、八尾南、中百舌鳥、千里中央（御堂筋線と北大阪急行電鉄の相互乗り入れ）で、同じく堺筋線が京都や北千里まで（阪急電車との相互乗り入れ淡路駅経由）広範囲な地域に足を伸ばしています」。その上大阪の地下鉄は、各私鉄や JR とのターミナルなどでの連携によって、便利な交通ネットワークを育んでいるのです。



地下鉄クイズ

市営地下鉄では、1975 年に案内しやすいように、それぞれ路線が色で分けられました。たとえば御堂筋線は赤色、谷町線は紫色、堺筋線は茶色などなど。これらの色には特別な意味があるようで、前山さんは指定された色の実際の意味を塾生たちにクイズで出題します。ここでは答えのみを記しておきますが、塾生たちの回答率がすごく高かったことをお伝えしておきます（○）は正解を示したものです。

- 御堂筋線（赤色）＝大阪の大動脈、従って血の色（○）。
- 谷町線（紫色）＝谷町筋には寺院が多いことから坊さんの最高位の袈裟の紫色が選ばれた（○）。
- 長堀鶴見緑地線（薄緑色）＝鶴見緑地での花博を記念した色（○）。
- 四つ橋線（青色）＝血管である静脈の色（○）。
- 千日前線（ピンク色）＝ピンクはネオン街の象徴から（○）。
- 堺筋線（茶色）＝相互乗り入れした阪急電鉄の車両色を取り入れた。
- 中央線（緑色）＝大阪城公園の緑をイメージしたもの。
- 今里筋線（オレンジ）＝高齢者が多く住む地域であり、ぬくもりのあるホットな路線を目指してオレンジ色を指定された。
- 南港ポートタウン線（ライトブルー色）＝海岸沿いを走るため。



複合駅

駅名称が複合したもので、地下鉄駅の設営時、複数の地域住民たちが自分たちの土地名称を駅名に名付けるために欲求運動を起こした結果、2つの名前がつけられた駅名のこと。いわば折衷案なのですが、西中島南方・喜連瓜破・四天王寺前夕陽丘・ドーム前千代崎・今福鶴見などなど結構あります。初めは長ったらしい名前だと思っていたても、時間がたつとなんか落ち着いてくるもんなんですね。

駅を彩る壁画

御堂筋線の動物園前駅の壁画には、動物たちのキャラクターたちがたくさん描かれています。猿・キリン・ひょう・カバ・トラ・象・らくだ・ワニ・鹿・ペンギンなどなど。現在のイラストは20cmほどのタイルがキャラクターイラストの一単位になっていますが、昔はもっと細かなモザイクが使われ描かれていたそうです。

このほか地下鉄はどんなふうにして走るのかという電気方式の説明があったり、車両番号などの少し専門的な話もありました。

豚まん和地下鉄

地下鉄の一区間料金は200円です。決して安い料金ではありません。「551 蓬莱の豚まん」1個の料金設定は160円にしてあるそうです、これは「地下鉄一駅を乗るなら、豚まん1個を買って隣の駅まで食べながら歩いてください」という意味が込められているらしいのです。

大阪地下鉄交通の前身

「大阪の交通は築港が原点です。江戸時代の大阪は港が整備されておらず、しかし船舶がメインでした。淀川は氾濫を繰り返し、治水工事を大急ぎでしなければならなかった。道路整備も同様でした。明治維新以降、川口の外国人居留地を表玄関として、貿易拠点になっていたのですが、ここが不便であったため外国人たちは神戸に移動していきます。近代国家をめざし、大阪城周辺に軍需工場を造営、大正区に紡績工場や北区に造幣局を建てて富国強兵をはかります。これらが近代大阪への発展につながっていくのです。そして第5回勧業博覧会を主催し英米仏独が博覧会に初参加します。博覧会は現在の浪速区新世界で開催されました。この博覧会への輸送をどうするのかという課題の中、で市電が登場してきます。当時の運輸手段といえばポンポン船や馬、人力車が中心だったのです。道路が整備拡張され、そして市電が交通の中心になっていきます。当時の20～30倍の市予算を使って設営された」といいますから大阪復興には力が入っていたのでしょう。私が10代の頃は、谷町筋は3mほどの道幅しかなく、雨が降るとドロドロの地道でした。



<後半一>

大都市大阪の建設

御堂筋の拡幅工事や市立大学創設、大阪城の建設を行った当時の大阪市長関一は、市営地下鉄建設を推進した人としても知られます。関は1923年に大阪市長になりました。「1929(昭和4)年、地下鉄工事の建設が始まります。高架計画もありましたが、関東大震災などの天災が勃発し、危険だということで、地下を掘削して地下鉄道としました。この建設費は受益者負担でした。御堂筋線の沿線住民から税をとり、地下鉄の建設が始まり、1933年御堂筋線が完成します。戦時下の地下鉄は、大阪大空襲などを経験し、市民が地下鉄で安心して移動できるよう避難目的も兼ね終夜運転などの手段を講じた」といいます。「敗戦後の市電などは車両部品がなく、板張りなどしてつぎはぎだらけのまままで運行していました」。1950年代、昭和町駅や西田辺駅への延伸写真が映し出されましたが、この写真は、地下鉄には違いないのですが、トンネルが埋められずに上蓋のないまま電車が走っている状態でした。まさにこの近所で生活をしていた私は、この風景を日常的に見て過ごしていましたから、大変懐かしかったです。

このあと日本の高度成長期に突入していくわけですが、オリンピック、日本万国博や花と緑の博覧会など、それぞれの折りに地下鉄の車両型式や、路線の延伸などが課題となっていきました。



満員の楽塾

今夜は新しい塾生の入塾もありました。また、高知女子大学の先生や学生たちが授業に参加して、一緒に給食を食べ、そのあとは楽塾の取り組みについて少しばかり質問を受け、塾生にも楽塾の話をしてもらいました。又水内先生が、旅行でも一緒だったたくみ君を連れてきて、二人で“てっちゃんの時間”を真剣に聞いていました。たくみ君のお母さんが手づくりクッキーを持ってきていただき感謝です。初めての楽塾への参加者の皆さんには、窮屈な目にあわせてすみませんでした。



< 2011年2月26日（土）の予定 >

10年度楽塾第42回目の授業は修了式です。ゲストや応援団の皆様には、この1年間大変お世話になりました。そして塾生の諸君が、ほとんど皆勤賞ものの出席率で凄かったです。たくさんの遊びや学びができて、豊かな収穫が楽塾にはありました。2011年度も「あそびを学び、まなびを遊ぶ」スタイルでゆったりとやっていきましょう！おおぜいの応援団の人たちが修了式に参加していただければ嬉しいです。

第42回の予定

☆1・2月の全体テーマ：旅へのイメージ

- テーマ：旅の終わり 2010年度修了式
- 日時：2月26日（土）
- 場所：三星温泉地下交流室

第42回目の授業が終わりました（通算112回）

楽塾の10年度授業が修了

2010年度楽塾の授業が終わりました。塾生諸君、1年間の授業参加を本当にご苦労様でした。そして応援団の皆様、この1年間の応援を心から感謝いたします。楽塾は、塾生がゲストスピーカーになり、ゲストが塾生にもなる双方向で相互の水平交流を楽しむ場としています。新年度初めのカリキュラムにも、わが塾生がゲストとして講師をつとめる授業が用意されています。3月からの1ヶ月間は春休みに入り、楽塾の新しい方向性を見つけていきたいと考えています。

授業直前、ちょっとしたトラブルがあり帰ってしまったM君や、予定していた塾生が体調を崩したりして数名が不参加になり、少し寂しい修了式になりました。

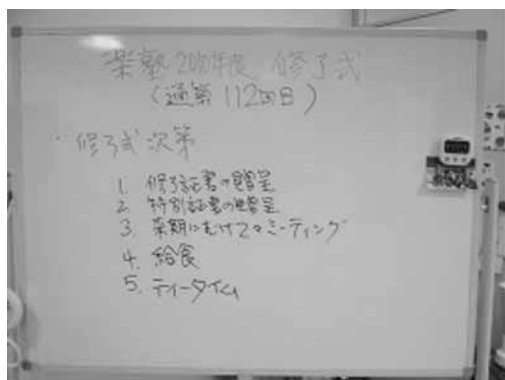
しかし、修了式でのにぎやかなミーティングの中で、塾生からはいろいろなアイデアを提案してくれました。それらを来期のプログラムに活かしていきたいと考えています。新学期からの楽塾にご参加とご協力、そして応援をお願いいたします。

2011年2月28日 塾長

☆1・2月の全体テーマ：旅へのイメージー

<2010年度楽塾修了式>

- 日 時：2月26日（土）18：30～21：00
- 場 所：三星温泉地下交流室
- 参加者：10人



修了式次第

1. 修了証書授与および記念品の贈呈
2. 特別感謝状授与および記念品の贈呈
3. 入塾証書授与
4. 新学期に向けてのミーティング
5. 食事会
6. ティータイム

修了証書授与者は9名、新規入塾証書授与者は1名、特別感謝状授与者は4名の証書が発行されました。2010年度内に塾生として参加されてはいるけれど、修了式を目処として連絡のない方たちには修了証書が渡されませんでした。連絡いただければ証書をお渡しいたしますので、楽塾事務局までご連絡ください。

前山僧侶には、塾生への授与を司っていただきました。特別感謝状の中には、前山僧侶や、田岡事務局長の奥さんや子息である平大君への授与がありました。それは大柳生での農作業時の参加や塾生への癒しに、大いなる役立ちになったことへの証しでした。

この授与式が終わったあと、私たち黒子役にとって感動的だったのは、塾生のAさんが「塾長および事務局長への感謝状」という寄せ書きを作り、私と田岡君あてに贈呈してくれたことでした。お互いの感謝のやり取りができて、本当にありがたい修了式が営まれたと思いました。





ミーティング

授与式が終わったあとは来期への予定表を参考に、楽塾のプログラム作成について意見のやり取りが行われました。Y君から楽塾新聞の発行というアイデアや、各自の生誕地の地図を作り、その地の独特な場の案内をするツアーコンダクター役をシミュレーションする授業などのアイデアを提案してくれました。私は、堺市内にある前山僧侶のお寺に行き、お寺やお墓の清掃、寺小屋説法などの催しをしてみたいと提案しました。

そのほか、土曜日だけでなく、祝日や日曜日などの授業利用法なども検討されましたが、日曜や祝日が作業日になっている人たちもいて、一律に決めることが出来ないこともあらためてわかりました。その都度、それぞれの都合に合わせ、その時々で計画を立てていかなければならないことだと思います。



食事会とデザート

いつもの授業日と比べ、30分ほど早く給食時間を繰り上げ予定してみました。最後の晩餐には楽塾からみかんのデザートと、コーヒーマーカーを用意しての、コーヒープレゼントを用意しました。又前山僧侶からは、おいしいケーキのデザートをプレゼントされ、修了式にふさわしい、贅沢な時間を過ごすことが出来たのでした。Tさんからはお菓子類のカンパがありましたがおなかがいっぱいで、次回まで置いておくことになりました。

こうして新学期に、又ここで再開することを約束し、三々五々塾生たちは教室から帰っていきます。この日の天候はなまあたたかく、湿度も高かったようです。明日は雨が降るのではないかと予想していましたが、翌日の夜から小雨になり、夜半からは雨が降り出しました。このレポートを作成中の現在（月曜日の午前中）外は大雨です。



< 2011年4月5日（土）の予定 >

新年度は4月5日から始まります。第1から3回目までは“かわいい”がテーマです。10～20代女性の“かわいい文化”が話題になるなか、女の子たちが生み出すかわいいファッション、コスプレ、かわいい雑貨、かわいい動物、キティーやセーラームーンなどなどさまざまなキャラクターを狙上（そじょう）に、なぜ女の子中心のかわいいトレンド”が脚光を浴びるまでになったのかを考えてみたいと思います。また、アニメ、コミック、ゲームなどにおける、おたく文化の象徴としての“萌え”言葉にもつながればと考えています。詳細は「2011年楽塾第1クールのカリキュラム計画表」をご参照ください。ただし、このプランは現在調整中ですので、ゲストや日程およびテーマが変更になる可能性があります。変更次第ブログ紙上でご案内させていただきます。

☆4月の月間テーマ：かわいって？

第1回の予定

- テーマ：萌えのお話
- 講師：Y子さん（楽塾）と塾長
- 日時：4月5日（土）
- 場所：三星温泉地下交流室

油木塾

あそびを学び
まなびを遊ぶ
新しい学校の冒険

